

総合検査案内 2018

2018

総合検査案内

General Test Guidance



登録衛生検査所

株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL04(2964)2621(代) FAX04(2964)6659
URL <http://www.e-musashi.co.jp>

株式会社 武蔵臨床検査所



株式会社 武蔵臨床検査所

目次

ご
利
用
の
手
引
き

ご利用の手引き・索引

ご利用の手引き ……② 索引 ……1

生化学検査

蛋白 ……A-1 脂質 ……A-3 電解質・微量金属 ……A-10
膠質反応 ……A-1 糖質 ……A-6 機能検査 ……A-12
色素 ……A-1 低分子窒素化合物 ……A-6 産業衛生関連 ……A-13
酵素 ……A-1 性腺・胎盤 ……A-9 その他 ……A-14
アインザイム関連 ……A-3 ホルフィン関連 ……A-10

生化学 A

内分泌学検査

下垂体 ……B-1 副腎髄質・交感神経・中枢神経 ……B-5
甲状腺 ……B-2 腺・消化管 ……B-6
副甲状腺 ……B-2 性腺・胎盤 ……B-6
副甲状腺(骨代謝関連) ……B-3 その他 ……B-8
腎・副腎皮質 ……B-3

内分泌学 B

腫瘍関連検査

胎児性蛋白 ……C-1
糖鎖抗原 ……C-1
腫瘍関連抗原 ……C-2
腫瘍関連ホルモンレセプター ……C-2

腫瘍関連 C

薬物検査

抗てんかん剤 ……D-1 抗生物質製剤 ……D-2 刺激療法剤 ……D-3
精神神経用剤 ……D-1 鎮咳去痰剤 ……D-3 その他 ……D-3
鎮痙剤 ……D-2 免疫抑制剤 ……D-3
シキタリス製剤 ……D-2 解熱鎮痛消炎剤 ……D-3
不整脈用剤 ……D-2 抗悪性腫瘍剤 ……D-3

薬物 D

ウイルス学検査

肝炎ウイルス関連検査 ……E-1 ウイルス抗体の検出(HI) ……E-8
レトロウイルス ……E-2 ウイルス抗体の検出(FA-EIA) ……E-9
ウイルス抗原の検出 ……E-3
ウイルス抗体の検出(NT) ……E-4
ウイルス抗体の検出(CF) ……E-7

ウイルス学 E

免疫血清学検査

感染症血清反応 ……F-1 免疫成分判定検査 ……F-10
蛋白 ……F-4 免疫グロブリン ……F-10
補体 ……F-5 競阻アプソン(アレルギー) ……F-11
自己免疫関連 ……F-6
血液型検査 ……F-9

免疫血清学 F

細胞性免疫検査

細胞性免疫検査 ……G-1

細胞性免疫 G

染色体検査・遺伝子関連検査

先天異常染色体 ……H-1 癌関連遺伝子 ……H-3
先天異常染色体 [FISH] ……H-1 HLA検査・移植関連検査 ……H-4
血液疾患染色体 ……H-1
血液疾患染色体 [FISH] ……H-2
免疫関連遺伝子 ……H-2

染色体・遺伝子関連検査 H

血液学検査

血液算定・機能 ……I-1 凝固因子 ……I-5
血液形態 ……I-2
血液特殊染色 ……I-2
血液寄生虫 ……I-2
出血凝固線溶 ……I-3

血液学 I

微生物学検査

一般細菌検査 ……J-1
真菌検査 ……J-1
特殊目的菌・原虫類 ……J-2
抗酸菌検査 ……J-3
その他 ……J-4

微生物学 J

一般臨床検査

尿検査 ……K-1
糞便検査 ……K-2
髄液検査 ……K-2
穿刺液検査 ……K-3
精液検査 ……K-3

一般臨床 K

病理学検査

病理組織検査 ……L-1
細胞診検査 ……L-1
その他 ……L-1

病理学 L

その他

骨塩定量 ……M-1
ホルター心電図 ……M-2
新規項目 ……M-3
検査方法の概略 ……M-4
検体の安定性 他 ……M-7

その他 M

容器一覧

容器一覧 ……N-1
採取方法 ……N-6

容器一覧 N

主要参考文献

生化学検査 ……O-1 免疫血清学検査 ……O-5 一般臨床検査 ……O-9
内分泌学検査 ……O-2 細胞性免疫検査 ……O-7 病理学検査 ……O-9
腫瘍関連検査 ……O-3 染色体検査・遺伝子関連検査 ……O-7 その他検査 ……O-9
薬物検査 ……O-4 血液学検査 ……O-8
ウイルス学検査 ……O-4 微生物学検査 ……O-8

主要参考文献 O

□取引のお申込み

ご利用に際し、ご連絡頂ければ担当者がお伺いしご説明、ご相談申し上げます。
(ご連絡の際は、⑧頁をご参照下さい。)

□検査のご依頼

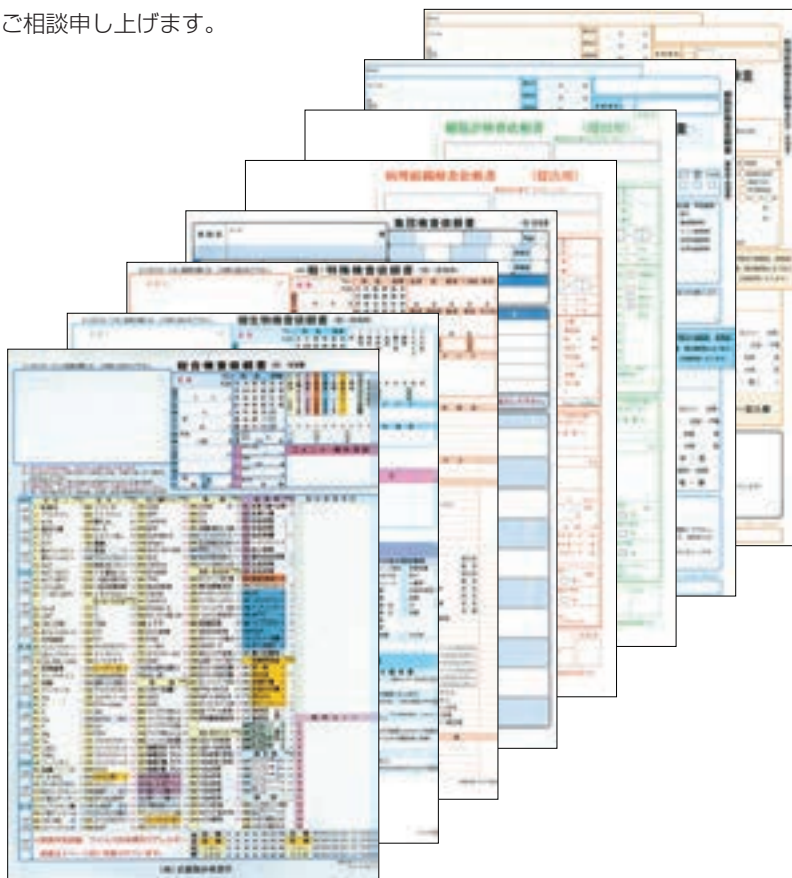
[検査依頼書]

検査依頼書は検査の種類により分類されておりますので
目的に応じたそれぞれの依頼書をご利用下さい。

詳細につきましては担当者までお問い合わせ下さい。

1. 総合検査依頼書
2. 微生物検査依頼書
3. 一般・特殊検査依頼書
4. 集団検査依頼書
5. 病理組織検査OCR依頼書
6. 細胞診検査OCR依頼書

- 患者名・担当医名はカタカナでわかりやすくご記入下さい。
- 性別・年齢・入院・外来・カルテNo.・生年月日・科名・保険等もご記入下さい。
- 依頼月日・採取月日は必ずご記入下さい。また時系列検査の場合は採取時刻もご記入下さい。
- 必要に応じて妊娠週・蓄尿量・身長・体重もご記入下さい。
- 検査依頼項目は依頼項目のコードNo.を○印で囲んで下さい。また取消しの際は×印で抹消して下さい。
- 記載されていない項目をご依頼の際はコメント・欄外項目(欄)にご記入下さい。
- 受付処理をコンピュータで行いますので折れ曲がったり、破れたりしないようお願い致します。
- 至急検査の場合は、ご報告方法(TEL・FAX)のご指示を所定の欄にご記入下さい。
- 依頼書は数枚の複写式になっておりますのでボールペンで強くお書き下さい。なお、一部を貴院様控とし、併せて検体受領書とさせていただきます。



[検体ラベル]

- 検体ラベルに貴院名・患者名・採取日・採取時刻・材料・検査項目等をご記入の上、採取容器にお貼り下さい。また総合検査依頼書、微生物検査依頼書及び、一般・特殊検査依頼書をご利用の際は必ず添付されている検体ラベルをご使用下さい。



[採取容器及び採取]

- 本案内書の下欄及び巻末の「容器一覧」(N-1～N-5頁)をご参照の上、所定の容器に必要量を採取して下さい。
- 本案内書には、およその採取量を記載してあります。検体量不足にならないように十分に採取して下さい。(本案内書には再検査分を考慮して設定してあります)
- 培養を伴う検査の場合は、所定の容器に無菌的に採取して下さい。

[検体の提出条件]

- 血清分離の要否等、適正な検査・測定を行うために必要な事項です。本書の「採取量・検体量」、「採取容器」、「備考」の各欄を併せてご参照下さい。

[検体の保存]

- 検査精度を維持するために、検体採取後、指定の保存条件を遵守して下さい。
- 本案内書をご参照の上、凍結検体の場合は-10℃以下になるよう冷凍庫内、又はドライアイス中での保存を、また冷蔵検体の場合は4～15℃での保存を、常温検体は16～28℃での保存をお願い致します。

なお、必要な検査依頼書・検体ラベル・容器等のご連絡により担当者がお届け致します。

□検体の受領・輸送

- ご依頼の検体は貴院指定の場所（ ）に当社営業員がご指定の日時にお伺いします。貴院より検体を受領してから当社までの平均搬送時間は約（ ）時間（ ）分を要します。一部の検査につきましては、当社責任管理の下に他施設に再委託致します。

(主要参考文献欄中に下記の記号で明示してあります。)

NO.	外部委託施設名	外部委託先への平均搬送時間
※1	LSIメディエンス	約2時間
※2	エス・アール・エル	約2時間
※3	ファルコバイオシステムズ	約3時間
※5	ビー・エム・エル	約0.5時間
※6	東京セントラルパソロジー	約1時間
	千葉細胞病理診断センター	約2時間

(記号※0は、武蔵臨床検査所にて実施しております。)

□所用日数

- 検体をお預かりした翌日を起算日とし、検査結果をお手元にお届けするまでの日数です。
- 再検査の場合は更に若干の日数を要する事があります。予めご了承下さい。

□再検査

- 当社再検査基準に基づき、再検査を致します。
- 最少必要検体量にてご依頼の場合、量不足のため再検査に応じられないことがあります。

□検査結果のご報告

- 検査結果は当社指定の報告書にてお届け致します。
- 至急報告を希望されるときには検査依頼時に予めご指示下さい。検査結果が判明次第、電話又は、FAXにてご連絡させて頂きます。
- 下記検査項目で緊急報告値を示した場合は、速やかにご報告させて頂きます。



検査項目	緊急報告範囲	検査項目	緊急報告範囲
白血球数	1000/μL以下、25000/μL以上	血液型	表裏不一致
血色素	5.0g/dL以下*1	直接クームス	陽性*6
血小板数	3万以下、100万/μL以上*1	プロトロンビン時間	INR3.0以上
白血球像	芽球様細胞出現*2	細菌塗抹・培養	血液、髄液からの菌の検出
総ビリルビン	12.0mg/dL以上*3	細菌培養	1、2、3類感染症原因菌の検出
AST (GOT)	500U/L以上	フェニバルピタール	60μg/mL以上
ALT (GPT)	500U/L以上	フェニトイン	30μg/mL以上
LD (LDH)	1000U/L以上	ブリミドン	15μg/mL以上
CK (CPK)	1000U/L以上	カルバマゼピン	12μg/mL以上
尿素窒素	80mg/dL以上*1	バルプロ酸ナトリウム	150μg/mL以上
アミラーゼ(血清)	1000U/L以上	エトサクシミド	120μg/mL以上
アミラーゼ(尿)	3000U/L以上	炭酸リチウム	2.0mEq/L以上
血糖(空腹時)	50以下、500mg/dL以上*4	テオフィリン	25μg/mL以上
ナトリウム(Na)	110以下、170mEq/L以上	リドカイン	6.0μg/mL以上
カリウム(K)	2.5以下、6.5mEq/L以上*1	プロカインアミド	12μg/mL以上
カルシウム(Ca)	6.0以下、14.0mg/dL以上	サリチル酸	400μg/mL以上
血中アンモニア	400μg/dL以上*5	ジゴキシン	2.5ng/mL以上

- ※1 透析患者検体を除く
- ※2 初診時のみ
- ※3 新生児を除く
- ※4 血糖の低値はNaF入り専用採血管使用検体のみ
- ※5 除蛋白不良が考えられる場合は除く
- ※6 新生児のみ

□検体の保管

- 検査実施後の検体は当社規定により一定期間保管させて頂きます。(保管日数はお預かりした検体の種類により異なります。)

□検査についてのお問い合わせ

- 検査案内等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘につきましては、当社営業担当者にお申し付け下さい。

□料金の請求とお支払い方法

- 請求書は1ヶ月分まとめてご請求申し上げますので、ご契約に従ってお支払い下さい。
- お支払いは原則として銀行振込又は自動引き落としをお願い致します。(振込先は請求書にて指定させて頂いております。)



ご利用の手引き

□本文の記載内容について

大分類

生化学検査

A-1

[検査項目一覧表]

コード No	検査項目	検査項目名	略称・別称	小分類	採取容器	採取量 (mL)	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
蛋 白												
0001	総蛋白 (TP)	総蛋白	(TP)	A	血液	2.0	血清	0.5	ビュレット法	g/dL 11 生化 I	**1) 溶血血清では高値を示す場合があります。	1 2
0002	アルブミン (ALB)	アルブミン	(ALB)	A	血液	2.0	血清	0.5	BCG法	g/dL 11 生化 I	**1)	1 2
0003	アルブミン/グロブリン比 (A/G)	アルブミン/グロブリン比	(A/G)	A	血液	2.0	血清	0.5	ビュレット・BCG法	1.3~2.0		1 2
				A	血液	2.0	血清	0.5	下表参照	% 18 生化 I	**1)	1

当社項目コードNo.

採取容器記号および検体提出条件

参考基準値

保険点数・判断料区分

●「採取容器」および「採取量⇔検体量」欄に関して

検査材料は保存条件別に色分けしてあります。検査精度に影響を与えることもありますので所定の保存条件を遵守して下さい。

- 1) 水色……………冷蔵保存 (4~15℃)
- 2) 青色……………凍結保存 (-10℃以下)
- 3) 緑色……………常温保存 (16~28℃)

A	血液 2.0 → 血清 0.5	A：汎用試験管 (分離剤入り) に血液2.0mL採取し、常温で保存。遠心分離後、血清0.5mLを容器に分注し、冷蔵で保存。
I	血液 6.0 → ヘパリン血漿 2.0	I：ヘパリン試験管に血液6.0mL採取し、常温で保存。遠心分離後、ヘパリン血漿2.0mLを容器に分注し、凍結で保存。
A	血液 2.0 → 血清 0.5	A：汎用試験管 (分離剤入り) に血液2.0mL採取し、常温で保存。遠心分離後、血清0.5mLを容器に分注し、常温で保存。
G	血液 1.8 → クエン酸血漿 0.5	G：血液凝固試験管に血液1.8mL採取し、冷蔵で保存。遠心分離後、クエン酸血漿0.5mLを容器に分注し、凍結で保存。
E	EDTA加血液 2.0	E：血液学試験管に血液2.0mL採取し、冷蔵で保存。
e	尿 5.0	e：滅菌スピッツ管に尿5.0mL採取し、凍結で保存。

●「備考」欄に関して

- 📅：予約検査項目…ご提出前に必ず採血日等を当社にご連絡下さい。
- 📅：曜日指定項目…受付可能曜日を必ず確認の上、ご提出下さい。
- ❄️：絶対凍結項目…必ず凍結保存して下さい。温度指定のある項目は、その旨記載致します。
- ☀️：遮光保存項目…直射日光または蛍光灯・紫外線を避けて保存して下さい。

[検体採取容器欄]



□「検査方法」欄の略号

略号	名称		略号	名称	
	英名	邦名		英名	邦名
CF	Complement Fixation	補体結合反応	IR	Infrared Absorption Spectrometry	赤外吸収スペクトロメトリー
CLEIA	Chemiluminescent Enzyme Immuno Assay	化学発光酵素免疫測定法	IRMA	Immuno Radio Metric Assay	免疫放射定量法
CLIA	Chemiluminescent Immuno Assay	化学発光免疫測定法	KIMS	Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution	
ECLIA	Electro Chemiluminescence Immunoassay	電気化学発光免疫測定法	LA	Latex Agglutination	ラテックス凝集法
EIA	Enzyme Immuno Assay	酵素免疫測定法	LPPIA	Latex Photometric Immuno Assay	ラテックス近赤外比濁法
ELISA	Enzyme-Linked Immuno Sorbent Assay	酵素免疫測定法	MPHA	Mixed Passive Hemagglutination Test	混合受身赤血球凝集試験
EMIT	Enzyme Multiplied Immunoassay Technique	酵素免疫測定法	NT	Neutralization Test	中和試験
FA	Fluorescent Antibody Method	蛍光抗体法	PA	Particle Agglutination Test	粒子凝集試験
FAT	Fluorescent Antibody Test	蛍光抗体法	PCR	Polymerase Chain Reaction	ポリメラーゼチェーンリアクション
FEIA	Fluoroenzyme Immuno Assay	蛍光酵素免疫測定法	PHA	Passive Hemagglutination	受身赤血球凝集反応
FISH	Fluorescence in situ Hybridization	蛍光 in situ ハイブリダイゼーション	RA	Radio Assay	ラジオアッセイ
FPIA	Fluorescence Polarization Immuno Assay	蛍光偏光免疫測定法	REA	Radio Enzymatic Assay	酵素アイントープ法
GC	Gas Chromatography	ガスクロマトグラフィー	RIA	Radio Immuno Assay	放射性免疫測定法
GC-MS	Gas Chromatography-Mass Spectrometry	ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー	RRA	Radio Receptor Assay	ラジオレセプターアッセイ
HA	Hemagglutination	赤血球凝集反応	RT-PCR	Reverse Transcriptase-Polymerase Chain Reaction	逆転写酵素を用いたポリメラーゼチェーンリアクション(nested法)
HI	Hemagglutination Inhibition Test	赤血球凝集抑制試験	SRID	Single Radial Immuno Diffusion Method	一元放射状免疫拡散法
HPLC	High Performance Liquid Chromatography	高性能液体クロマトグラフィー	TIA	Turbidimetric Immuno Assay	免疫比濁法
ICA	Immuno Chromatography Assay	イムノクロマトグラフィー アッセイ	TMA	Transcription Mediated Amplification	TMA法
IFA	Indirect Fluorescent Antibody Method	間接蛍光抗体法	UV	Ultraviolet Spectrophotometry	紫外外部吸光度分析

□単位記号

L	liter(=1,000mL)	U	Unit	mEq	milli Equivalent
dL	deciliter(=100mL)	U _A	Allergen Unit	Meq	mega Equivalent
mL	milliliter	mU	milli Unit(0.001 U)	FE	Fibrinogen Equivalent
μL	microliter	mIU	milli International Unit	mOsm	milli Osmole
mm ²	square millimeter	μU	micro Unit(0.001 mU)	sec	second
mm ³	cubicmillimeter	IU	International Unit	min	minute
fL	femtoliter	ISU	International Standard Unit	h	hour
μ ³	cubicmicron	AU	Arbitrary Unit	%	percent
kg	Kirogram	CU	Casein Unit	‰	permill
g	gram	mmol	millimole(=0.001 mol)	SI	Stimulation Index
mg	milligram(=0.001g)	μmol	micromole(0.001mmol)	cpm	count per minute
μg	microgram(=0.001mg)	nmol	nanomole(=0.001 μmol)	RBC	Red Blood Cell
ng	nanogram(=0.001 μg)	pmol	picomole(=0.001 nmol)	d	day
pg	picogram(=0.001 ng)	fmol	femtomole(=0.001 pmol)	w	week
ppm	part per million(=μg/mL)				

□検体検査料

●検体検査判断料

検体検査料は検体検査実施料と検体検査判断料に区分されております。

検体検査判断料は各項目ごとに実施料の下に尿・便から病理の略号で表記しております。

検体検査判断料	本文中略号
1. 尿・糞便等検査判断料 34点	尿・便
2. 血液学的検査判断料 125点	血液
3. 生化学的検査(Ⅰ)判断料 144点	生化Ⅰ
4. 生化学的検査(Ⅱ)判断料 144点	生化Ⅱ
5. 免疫学的検査判断料 144点	免疫
6. 微生物学的検査判断料 150点	微生物
NOO7 病理判断料 150点	病理

★保険点数は平成26年4月1日改定によるものです。

検体検査管理に関する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において検体検査を行った場合には、当該基準に係る区分に従い、患者(検体検査管理加算(Ⅱ)、検体検査管理加算(Ⅲ)及び検体検査管理加算(Ⅳ)については入院中の患者に限る。)1人につき月1回に限り、次に掲げる点数を所定点数に加算する。ただし、いずれかの検体検査管理加算を算定した場合には、同一月において他の検体検査管理加算は、算定しない。

イ 検体検査管理加算(Ⅰ)	40点
ロ 検体検査管理加算(Ⅱ)	100点
ハ 検体検査管理加算(Ⅲ)	300点
ニ 検体検査管理加算(Ⅳ)	500点

ご利用の手引き

□検体検査料

●包括項目

患者から1回に採取した血液等を用いて下記に掲げる検査を複数項目行った場合は、所定点数にかかわらず、項目数に応じて点数を算定する。

■生化学的検査 I (血液化学検査)

項目数	実施料	項目数	実施料	項目数	実施料
5項目以上7項目以下	93	8項目又は9項目	99	10項目以上	112

(注) 入院中の患者について算定した場合は、初回に限り20点を加算する。

・総ビリルビン、直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン、総蛋白、アルブミン、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、アルカリホスファターゼ (ALP)、コリンエステラーゼ (ChE)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (γ -GT)、中性脂肪、ナトリウム及びクロール、カリウム、カルシウム、マグネシウム、クレアチン、グルコース、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ、ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)、クレアチンキナーゼ (CK)、アルドラーゼ、遊離コレステロール、鉄 (Fe)、不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)、総鉄結合能 (TIBC) (比色法)、血中ケトン体・糖・クロール検査 (試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極によるもの)	11点
・リン脂質	15点
・HDL-コレステロール、無機リン及びリン酸、総コレステロール、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)	17点
・LDL-コレステロール、蛋白分画	18点
・銅 (Cu)	23点
・リパーゼ	24点
・イオン化カルシウム	26点
・マンガン (Mn)	27点

■腫瘍マーカー

項目数	実施料	項目数	実施料	項目数	実施料
2項目	230	3項目	290	4項目以上	420

・癌胎児性抗原 (CEA)	105点
・ α -フェトプロテイン (AFP)	107点
・組織ポリペプチド抗原 (TPA)、扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)	110点
・DUPAN-2、NCC-ST-439、CA15-3	121点
・前立腺酸ホスファターゼ抗原 (PAP)	124点
・エラスターゼ1	129点
・前立腺特異抗原 (PSA)、CA19-9	130点
・PIVKA-II半定量、PIVKA-II定量	143点
・CA72-4、SPan-1、シアリルTn抗原 (STN)、神経特異エノラーゼ (NSE)	146点
・CA125	148点
・塩基性フェトプロテイン (BFP)	150点
・核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定性 (尿)、核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定量 (尿)	151点
・シアリルLe ^x 抗原 (SLX)	152点
・遊離型PSA比 (PSA F/T比)	158点
・サイトケラチン8・18 (尿)	160点
・抗p53抗体	163点
・BCA225	165点
・サイトケラチン19フラグメント (シフラ)	167点
・シアリルLe ^x 抗原 (CSLEX)	169点
・I型コラーゲン-C-テロペプチド (ICTP)	170点
・ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)	175点
・癌関連ガラクトース転移酵素 (GAT)、CA54/61	184点
・CA602、 α -フェトプロテインレクチン分画 (AFP-L3%)	190点
・ γ -セミノプロテイン (γ -Sm)	194点
・ヒト精巢上体蛋白4 (HE4)	200点
・可溶性メソテリン関連ペプチド	220点
・癌胎児性抗原 (CEA) 定性 (乳頭分泌液)、癌胎児性抗原 (CEA) 半定量 (乳頭分泌液)	314点
・HER2蛋白	320点
・可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	438点

■内分泌検査

項目数	実施料	項目数	実施料	項目数	実施料
3項目以上5項目以下	410	6項目又は7項目	623	8項目以上	900

・成長ホルモン (GH)、卵胞刺激ホルモン (FSH)、C-ペプチド (CPR)、黄体形成ホルモン (LH)	114点
・アルドステロン、テストステロン	128点
・遊離サイロキシン (FT ₄)、遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)、コルチゾール、サイロキシン結合グロブリン (TBG)	130点
・抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体)	134点
・脳性Na利尿ペプチド (BNP)	136点
・サイログロブリン	137点
・サイロキシン結合能 (TBC)、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)、ヒト胎盤性ラクトゲン (HPL)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン- β サブユニット (HCG- β)	140点
・カルシトニン	141点
・ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 半定量、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量	142点
・グルカゴン	150点
・プロゲステロン	155点
・I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)、酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ (TRACP-5b)	156点
・骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)	161点

・低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)	162点
・オステオカルシン (OC)	165点
・遊離テストステロン	166点
・インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact PINP)	168点
・I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体 (β-CTX) (尿)	169点
・I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (PINP)、セクレチン、低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 半定量、I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体 (β-CTX)	170点
・サイクリックAMP (cAMP)、副甲状腺ホルモン (PTH)、カテコールアミン分画	175点
・デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体 (DHEA-S)	176点
・エストリオール (E ₃)、エストロゲン半定量、エストロゲン定量、副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント (C-PTHrP)	180点
・エストラジオール (E ₂)	182点
・デオキシピリジノリン (DPD) (尿)	191点
・副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	194点
・17-ケートジェニックスステロイド (17-KGS)、副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)、カテコールアミン	200点
・エリスロポエチン	209点
・17-ケートステロイド分画 (17-KS分画)、17α-ヒドロキシprogesterone (17α-OHP)、抗IA-2抗体、プレグナンジオール	213点
・17-ケートジェニックスステロイド分画 (17-KGS分画)	220点
・メタネフリン	223点
・ソマトメジンC	224点
・心房性Na利尿ペプチド (ANP)、メタネフリン・ノルメタネフリン分画	227点
・抗利尿ホルモン (ADH)	235点
・プレグナントリオール	240点
・ノルメタネフリン	250点
・インスリン様成長因子結合蛋白3型 (IGFBP-3)	280点

■ 肝炎ウイルス関連検査

項目数	実施料	項目数	実施料	項目数	実施料
3項目	290	4項目	360	5項目以上	447
・HBs抗原、HBs抗体	88点				
・HBe抗原、HBe抗体	107点				
・HCV抗体定性・定量、HCVコア蛋白	111点				
・HBc抗体半定量・定量	141点				
・HCVコア抗体	143点				
・HA-IgM抗体、HA抗体、HBc-IgM抗体	146点				
・HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性、HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量	160点				
・HE-IgA抗体定性	210点				
・HCV血清群別判定	233点				
・HBVコア関連抗原 (HBcrAg)	274点				
・デルタ肝炎ウイルス抗体	330点				
・HCV特異抗体価、HBVジェノタイプ判定	340点				

■ 自己抗体検査

項目数	実施料	項目数	実施料
2項目	320	3項目以上	490
・抗サイログロブリン抗体、抗RNP抗体定性、抗RNP抗体半定量、抗RNP抗体定量、抗Jo-1抗体定性、抗Jo-1抗体半定量、抗Jo-1抗体定量	144点		
・抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	146点		
・抗Sm抗体定性、抗Sm抗体半定量、抗Sm抗体定量	155点		
・抗SS-B/La抗体定性、抗SS-B/La抗体半定量、抗SS-B/La抗体定量、C1q結合免疫複合体	161点		
・抗Scl-70抗体定性、抗Scl-70抗体半定量、抗Scl-70抗体定量	162点		
・抗SS-A/Ro抗体定性、抗SS-A/Ro抗体半定量、抗SS-A/Ro抗体定量	163点		
・抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	170点		
・抗ARS抗体	190点		
・抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体、抗Mi-2抗体	270点		

■ 出血・凝固検査

項目数	実施料	項目数	実施料
3項目又は4項目	530	5項目以上	722
・Dダイマー定性	128点		
・プラスミンインヒビター (アンチプラスミン)、Dダイマー半定量	131点		
・von Willebrand因子 (VWF) 活性	136点		
・Dダイマー	137点		
・α ₂ -マクログロブリン	138点		
・PIVKA-II	143点		
・凝固因子インヒビター	152点		
・von Willebrand因子 (VWF) 抗原	155点		
・プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 (PIC)、プロテインS抗原	162点		
・プロテインS活性	170点		
・β-トロンボグロブリン (β-TG)	177点		
・血小板第4因子 (PF4)	178点		
・トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)	186点		
・プロトロンビンフラグメントF1+2	193点		
・トロンボモジュリン	205点		
・凝固因子 (第III因子、第V因子、第VII因子、第VIII因子、第IX因子、第X因子、第XI因子、第XII因子、第XIII因子)	229点		
・フィブリンモノマー複合体	233点		
・プロテインC抗原	246点		
・tPA・PAI-1複合体	247点		
・プロテインC活性	248点		



ISO 認証登録証
登録証付属書



プライバシーマーク
登録証



医療関連サービスマーク
(財)医療関連サービス振興会 認定

埼玉県登録衛生検査所57号

登録業務

生化学的検査 血清学的検査 血液学的検査

寄生虫学的検査 微生物学的検査

株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8

TEL 04(2964)2621

FAX 04(2964)6659

URL <http://www.e-musashi.co.jp>

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
ア 0573 2908	亜鉛 (Zn) 〈血清〉〈尿〉	A-11	144	D007-39	生化 I		亜鉛 (Zn)
5236	アクチノミセス (放線菌) (培養・目的菌)	J-2	—				
0764	アスコルビン酸 (ビタミンC)	A-9	314	D007-60	生化 I		ビタミンC
5244	アスペルギルス (培養・目的菌)	J-2	—				
4173	アスペルギルス抗原	F-2	164	D012-27	免疫		アスペルギルス抗原
1237	アスペルギルス抗体	F-2	—				
2633	アセトアミノフェン	D-3	190	D007-47	生化 I		アセトアミノフェン
2923 1431	アセトン 〈血清〉〈尿〉	A-14	—				
4001	アデノウイルス《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
4002 4014	アデノウイルス《NT》	E-5	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
4156	アデノウイルス抗原定性	E-3	60	D012-7	免疫		アデノウイルス抗原定性 (糞便)
0676 1414	アデノシンデアミナーゼ (ADA) 〈血清〉〈胸水〉	A-2	32	D007-12	生化 I		アデノシンデアミナーゼ (ADA)
3595	アトピー鑑別試験 (ファディアトープ)	F-11	194	D015-21	免疫		アトピー鑑別試験定性
1871	アニサキス抗体IgG & IgA	F-3	210	D012-36	免疫		アニサキスIgG・IgA抗体
2628	アプリンジン	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
2666	アヘン系麻薬検査	D-3	—				
1096	アポ蛋白 A-I	A-4	1項目	D007-11	生化 I		アポリポ蛋白
1097	アポ蛋白 A-II	A-4	31	D007-11	生化 I		アポリポ蛋白
1098	アポ蛋白 B	A-4	2項目	D007-11	生化 I		アポリポ蛋白
1099	アポ蛋白 C-II	A-4	62	D007-11	生化 I		アポリポ蛋白
1100	アポ蛋白 C-III	A-4	3項目以上	D007-11	生化 I		アポリポ蛋白
1101	アポ蛋白 E	A-4	94	D007-11	生化 I		アポリポ蛋白
2869	アミオダロン	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
2648	アミカシン	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
0598 2828	アミノ酸11分画 〈血漿〉〈濾紙〉	A-7	1212	D010-5	生化 II		アミノ酸 □ 5種類以上
1044 1045	アミノ酸分画 〈血漿〉〈尿〉	A-7	1212	D010-5	生化 II		アミノ酸 □ 5種類以上
0042 0074 0096	アミラーゼ (Amy) 〈血清〉〈尿〉〈蓄尿〉	A-2	11	D007-1	生化 I	□	アミラーゼ
0757 1460	アミラーゼアイソザイム (Amyアイソザイム) 〈血清〉〈尿〉	A-3	48	D007-15	生化 I		アミラーゼアイソザイム
2573	アメーバ検査	K-2	61	D017-3	微生物		排泄物, 渗出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査 その他のもの
0016	アルカリフォスファターゼ (ALP)	A-1	11	D007-1	生化 I	□	アルカリホスファターゼ (ALP)
0726 0727	アルドステロン 〈血清〉〈尿〉	B-4	128	D008-13	生化 II	■	アルドステロン
0027	アルドラーゼ (ALD)	A-2	11	D007-1	生化 I	□	アルドラーゼ
0002	アルブミン (Alb)	A-1	11	D007-1	生化 I	□	アルブミン
0003	アルブミン/グロブリン比 (A/G)	A-1	—				
2650	アルベカシン	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
1065	アルミニウム (Al)	A-11	118	D007-31	生化 I		アルミニウム (Al)
0723	アンジオテンシン I	B-3	—				
0725	アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)	B-3	148	D007-40	生化 I		アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)
0724	アンジオテンシン II	B-3	—				
1162	アンチトロンビン (AT) 《活性》	I-4	70	D006-10	血液		アンチトロンビン活性
0345	アンチトロンビン (AT) 《定量》	I-4	70	D006-10	血液		アンチトロンビン抗原
0350	アンチプラスミン (α ₂ PI) (α ₂ プラスミンインヒビター) 《活性》	I-4	131	D006-15	血液	▽	プラスミンインヒビター (アンチプラスミン)
3928	アンドロステロン	B-4	—				
1245	アンドロステンジオン	B-4	—				
0043	アンモニア (NH ₃)	A-7	50	D007-17	生化 I		アンモニア
イ 1181	イオン化カルシウム (Ca ²⁺)	A-10	26	D007-7	生化 I	□	イオン化カルシウム
2939 2940	イヌリン 〈血清〉〈尿〉	A-14	120	D007-32	生化 I		イヌリン

	コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称	
イ	0829	イムノコンプレックス（免疫複合体C1q）	F-7	161	D014-12	免疫	▲	C1q結合免疫複合体	
	0150	インスリン（IRI）	B-6	109	D008-10	生化Ⅱ		インスリン（IRI）	
	0891	インスリン抗体	B-6	110	D014-6	免疫		抗インスリン抗体	
	0014	インドサイアニングリニン（ICG）	A-12	(100)	D289	—		その他の機能テスト 2.肝機能テスト	
	0824	インフルエンザA型《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	
	0825	インフルエンザB型《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	
	4013	インフルエンザ《HI》	E-8	79+79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	
ウ	5240	ウレアプラスマ（培養・目的菌）	J-2	—					
	2851	ウロポルフィリン〈血液〉	A-10	—					
	1051	ウロポルフィリン〈尿〉	A-10	108	D001-10	尿・便		ウロポルフィリン（尿）	
エ	0551他	エコーウイルス《HI》	E-8	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	
	1105他	エコーウイルス《NT》	E-4	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	
	0469	エステラーゼ染色〈血液〉	I-2	27	D005-6(注)	血液		末梢血液像（鏡検法）（注）特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	
	0464	エステラーゼ染色〈骨髓液〉	I-2	40	D005-14(注)	血液		骨髓像（注）特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	
	0736	エストラジオール（E ₂ ）	B-6	182	D008-34	生化Ⅱ	■	エストラジオール（E ₂ ）	
	1197	エストロジェンレセプター	L-1	720	N002-1	病理		エストロジェンレセプター	
	0734	エストロゲン・非妊婦	B-6	—					
	0778	エタノール	A-14	113	D007-29	生化Ⅰ		エタノール	
	0663	エトスクシミド	D-1	④	B001-2			特定薬剤治療管理料	
	0773	エラスターゼ1	C-2	129	D009-7	生化Ⅱ	◇	エラスターゼ1	
	0876	エリスロポエチン（EPO）	B-8	209	D008-38	生化Ⅱ	■	エリスロポエチン	
	1078	塩基性フェトプロテイン（BFP）	C-1	150	D009-12	生化Ⅱ	◇	塩基性フェトプロテイン（BFP）	
	1106 1062	エンテロウイルス《NT》	E-6	—					
	2949	エンドトキシン定量《ES法》	F-2	250	D012-43	免疫		エンドトキシン	
	オ	0702	黄体形成ホルモン（LH）	B-1	114	D008-12	生化Ⅱ	■	黄体形成ホルモン（LH）
		0809	オーム病抗体	F-3	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
2510		オステオカルシン（BGP）	B-3	165	D008-26	生化Ⅱ	■	オステオカルシン（OC）	
1702		オリゴクローナルバンド	F-10	538	D004-10	尿・便		オリゴクローナルバンド	
カ	2670	覚せい剤検査	D-3	—					
	0362	喀痰中好酸球	I-1	15	D005-3	血液		好酸球（鼻汁・喀痰）	
	4245	下垂体抗体-1	F-8	—					
	0746	ガストリン	B-6	107	D008-9	生化Ⅱ		ガストリン	
	1768	ガストリン放出ペプチド前駆体（Pro-GRP）	C-2	175	D009-22	生化Ⅱ	◇	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	
	0340	活性化部分トロンボプラスチン（APTT）	I-3	29	D006-7	血液		活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	
	0717 4382	カテコールアミン3分画〈血漿〉〈尿〉〈蓄尿〉	B-5	175	D008-31	生化Ⅱ	■	カテコールアミン分画	
	2915 2916	カドミウム（Cd）〈血液〉〈尿〉	A-11	—					
	2660	ガバベンチン	D-1	④	B001-2			特定薬剤治療管理料	
	1798	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	G-2	438	D009-30	生化Ⅱ	◇	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	
	0046 0176	カリウム（K）〈血清〉〈蓄尿〉	A-10	11	D007-1	生化Ⅰ	□	カリウム	
	0048 0125	カルシウム（Ca）〈血清〉〈蓄尿〉	A-10	11	D007-1	生化Ⅰ	□	カルシウム	
	0892	カルシトニン（CT）	B-3	141	D008-19	生化Ⅱ	■	カルシトニン	
	2857	カルニチン（ビタミンBt）	A-9	95+95	D007-24	生化Ⅰ		総カルニチン、遊離カルニチン	
	0785	カルバマゼピン	D-1	④	B001-2			特定薬剤治療管理料	
	1372	肝細胞増殖因子（HGF）	B-8	227	D007-53	生化Ⅰ		肝細胞増殖因子（HGF）	

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
カ	1152 カンジダ抗原	F-2	138	D012-20	免疫		カンジダ抗原半定量
	5251 カンジダ（培養・目的菌）	J-2	—				
	0541 感受性試験・1菌種（一般細菌）	J-1	170	D019-1	微生物		細菌薬剤感受性検査 1菌種
	0542 感受性試験・2菌種（一般細菌）	J-1	220	D019-2	微生物		細菌薬剤感受性検査 2菌種
	0543 感受性試験・3菌種以上（一般細菌）	J-1	280	D019-3	微生物		細菌薬剤感受性検査 3菌種以上
	0549 感受性試験・4薬剤以上（抗酸菌）	J-3	380	D022	微生物		抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）
	7001 感受性試験（酵母様真菌）	J-1	150	D019-2	微生物		酵母様真菌薬剤感受性検査
	0232 間接クームス試験	F-9	47	D011-2	免疫		Coombs試験 口 間接
	0168 癌胎児性抗原（CEA）	C-1	105	D009-2	生化Ⅱ	◇	癌胎児性抗原（CEA）
	2858 癌胎児性フィブロネクチン	B-7	204	D015-23	免疫		癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管腔分泌液）
	5230 カンピロバクター（培養・目的菌）	J-2	—				
	0208 寒冷凝集反応	F-1	11	D014-1	免疫		寒冷凝集反応
	キ	2627 キニジン	D-2	④	B001-2		
2690 凝固抑制因子検査第Ⅷ因子		I-5	152	D006-20	血液	▽	凝固因子インヒビター
2691 凝固抑制因子検査第Ⅸ因子		I-5	152	D006-20	血液	▽	凝固因子インヒビター
0417 蟻虫卵《セロファンテープ法》		K-2	20	D003-2	尿・便		糞便塗抹顕微鏡検査（虫卵、脂肪及び消化状況観察を含む。）
1035 2658 金（金コロイド）〈血清〉〈尿〉		D-3	—				
ク	1040 グアナーゼ	A-2	35	D007-13	生化Ⅰ		グアナーゼ
	2821 2822 クエン酸〈血清〉〈尿〉	A-6	—				
	1195 クラミジア・トラコマチス抗体IgA & IgG	F-2	206	D012-35	免疫		グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体
	1321 1326 クラミジア・トラコマチスリアルタイムPCR〈子宮頸部検体物〉〈尿〉〈うがい液〉	F-2	204	D023-2	微生物		クラミジア・トラコマチス核酸検出
	1821 クラミジア・ニューモニエ抗体IgA	F-2	75	D012-10	免疫		クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体
	1822 クラミジア・ニューモニエ抗体IgG	F-2	70	D012-9	免疫		クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体
	1841 クラミジア・ニューモニエ抗体IgM	F-2	160	D012-26	免疫		クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体
	0587 2829 グラムキソン（パラコート）〈血清〉〈尿〉	D-4	—				
	0583 クリオグロブリン	F-4	42	D015-5	免疫		クリオグロブリン定性
	1278 グリコアルブミン（GA）	A-6	55	D007-18	生化Ⅰ		グリコアルブミン
	0749 グリココール酸（CG）	A-4	80	D007-22	生化Ⅰ		グリココール酸
	5237 クリプトコッカス（培養・目的菌）	J-2	—				
	4189 クリプトコッカスネオフォルマンズ抗原	F-3	179	D012-31	免疫		クリプトコッカス抗原定性
	0055 グルコース（血糖）（GLU）	A-6	11	D007-1	生化Ⅰ	□	グルコース
	0039 0064 クレアチニン（Cre）〈血清〉〈蓄尿〉	A-6	11	D007-1	生化Ⅰ	□	クレアチニン
	0070 クレアチニンクリアランス	A-12	—				
	0071 クレアチニンクリアランス（24時間）	A-12	—				
	0040 0073 クレアチン（Cret）〈血清〉〈蓄尿〉	A-6	11	D007-1	生化Ⅰ	□	クレアチン
	0024 クレアチンキナーゼ（CK）	A-2	11	D007-1	生化Ⅰ	□	クレアチンキナーゼ（CK）
	0047 0177 クロール（Cl）〈血清〉〈蓄尿〉	A-10	11	D007-1	生化Ⅰ	□	ナトリウム及びクロール
	0424 クロール（Cl）〈髄液〉	K-2	11	D007-1	生化Ⅰ	□	ナトリウム及びクロール
	5246 クロストリジウム・ディフィシル（C・ディフィシル）（培養・目的菌）	J-2	—				
	5302 クロストリジウム・ディフィシル毒素（C・ディフィシル毒素）	J-4	80	D012-12	免疫		クロストリジウム・ディフィシル抗原定性
	0244他 クロスマッチ（交差適合試験）	F-9	—				
	0882 クロナゼパム	D-1	④	B001-2			特定薬剤治療管理料
	0855 クロバザム	D-1	④	B001-2			特定薬剤治療管理料
	2313 2314 クロム（Cr）〈血液〉〈血清〉〈尿〉	A-11	—				
	2613 クロルプロマジン	D-1	—				

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
ケ 2946	結核菌 IFN- γ 《ELISPOT法》	J-3	630	D015-28	免疫		結核菌特異的インターフェロン- γ 産生能
5906	結核菌群核酸同定／リアルタイムPCR	J-3	410	D023-9	微生物		結核菌群核酸検出
5908	結核菌群・MAC核酸同定セット／リアルタイムPCR	J-3	—				
5902	結核菌群同定	J-3	410	D023-9	微生物		結核菌群核酸検出
0303	血色素量 (Hb)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査
0308	血小板数 (PLT)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査
0346	血小板第4因子 (PF-4)	I-4	178	D006-25	血液	▽	血小板第4因子 (PF4)
1134	血小板表面IgG (PA-IgG)	F-7	204	D011-6	免疫		血小板関連IgG (PA-IgG)
0722	血漿レニン活性 (PRA)	B-3	100	D008-7	生化II		レニン活性
1809	血清アミロイドA蛋白 (SAAP)	F-4	47	D015-6	免疫		血清アミロイドA蛋白 (SAA)
0803	血清補体価 (CH ₅₀)	F-5	38	D015-4	免疫		血清補体価 (CH ₅₀)
0775	結石鑑別《定量》	A-14	120	D010-2	生化II		結石分析
0355	血沈 (赤沈・ESR)	I-1	—				
0055	血糖 (GLU) (グルコース)	A-6	11	D007-1	生化I	□	グルコース
0568 3706	ケトン体分画〈静脈血〉〈動脈血〉	A-14	59	D007-20	生化I		ケトン体分画
2669	幻覚剤検査	D-3	—				
0503	嫌気性菌培養・同定	J-1	115	D018(注)	微生物		細菌培養同定検査 (注)嫌気性培養加算
2646	ゲンタマイシン	D-2	⑦	B001-2			特定薬剤治療管理料
コ 1913	抗BP180抗体	F-8	270	D014-29	免疫		抗BP180-NC16a抗体
1907	抗CCP抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	F-6	210	D014-23	免疫		抗シトルリン化ペプチド抗体定量
1257	抗CL- β_2 GPI 複合体抗体 (抗カルジオリピン- β_2 GPI 複合体抗体)	F-7	223	D014-25	免疫		抗カルジオリピン β_2 グリコプロテインI 複合体抗体
0807	抗DNA抗体	F-7	172	D014-16	免疫		抗DNA抗体定量
1226	抗ds-DNA抗体IgG	F-7	172	D014-16	免疫		抗DNA抗体定量
4217	抗ds-DNA抗体IgM	F-7	—				
1767	抗GAD抗体	B-6	134	D008-15	生化II	■	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体)
1906	抗IA-2抗体	B-6	213	D008-39	生化II	■	抗IA-2抗体
1160	抗Jo-1抗体	F-7	144	D014-9	免疫	▲	抗Jo-1抗体半定量
1159	抗Jo-1抗体《定量》	F-7	144	D014-9	免疫	▲	抗Jo-1抗体定量
1908	抗LKM-1抗体	F-6	221	D014-24	免疫		抗LKM-1抗体
1902	抗p53抗体	C-2	163	D009-17	生化II	◇	抗p53抗体
0576	抗RNP抗体	F-6	144	D014-9	免疫	▲	抗RNP抗体半定量
0588	抗RNP抗体《定量》	F-6	144	D014-9	免疫	▲	抗RNP抗体定量
2976	抗Scl-70抗体	F-7	162	D014-13	免疫	▲	抗Scl-70抗体半定量
1025	抗Scl-70抗体《定量》	F-7	162	D014-13	免疫	▲	抗Scl-70抗体定量
0577	抗Sm抗体	F-6	155	D014-11	免疫	▲	抗Sm抗体半定量
1918	抗Sm抗体《定量》	F-6	155	D014-11	免疫	▲	抗Sm抗体定量
0679	抗SS-A抗体	F-6	163	D014-14	免疫	▲	抗SS-A/Ro抗体半定量
2900	抗SS-A抗体《定量》	F-6	163	D014-14	免疫	▲	抗SS-A/Ro抗体定量
0680	抗SS-B抗体	F-6	161	D014-12	免疫	▲	抗SS-B/La抗体半定量
2903	抗SS-B抗体《定量》	F-6	161	D014-12	免疫	▲	抗SS-B/La抗体定量
1227	抗ss-DNA抗体IgG	F-7	172	D014-16	免疫		抗DNA抗体定量
4219	抗ss-DNA抗体IgM	F-7	—				
1107	抗アセチルコリンレセプター結合抗体	F-8	847	D014-41	免疫		抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗AChR抗体)
0649	抗胃壁細胞抗体 (抗パリエタル細胞抗体)	F-8	—				
4252	抗インスリンレセプター抗体	F-8	—				
0313	好塩基性斑点赤血球	I-2	—				
0581	抗横紋筋抗体	F-8	—				

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称
0806	抗核抗体 (ANA)	F-6	105	D014-5	免疫		抗核抗体 (蛍光抗体法) 半定量
1890	抗ガラクトース欠損IgG (CARF)	F-6	117	D014-8	免疫		抗ガラクトース欠損IgG抗体定量
1257	抗カルジオリピン・β ₂ GP I 複合体抗体(抗CL-β ₂ GP I 複合体抗体)	F-7	223	D014-25	免疫		抗カルジオリピンβ ₂ グリコプロテインI 複合体抗体
1894	抗カルジオリピン抗体IgG	F-7	239	D014-27	免疫		抗カルジオリピン抗体
1214	抗カルジオリピン抗体IgM	F-7	—				
4237	抗肝細胞膜抗体 (LMAb)	F-8	—				
0586	高感度PSA	C-2	130	D009-8	生化II	◇	前立腺特異抗原 (PSA)
1060	高感度PTH (HS-PTH)	B-2	175	D008-31	生化II	■	副甲状腺ホルモン (PTH)
1232	高感度心筋トロポニンT	F-5	120	D007-32	生化I		心筋トロポニンT (TnT) 定性・定量
0507	好気性菌培養・同定 (血液又は穿刺液)	J-1	210	D018-3	微生物		細菌培養同定検査 血液又は穿刺液
0504	好気性菌培養・同定(口腔、気道又は呼吸器からの検体)	J-1	160	D018-1	微生物		細菌培養同定検査 口腔、気道又は呼吸器からの検体
0521	好気性菌培養・同定 (消化管からの検体)	J-1	180	D018-2	微生物		細菌培養同定検査 消化管からの検体
0508	好気性菌培養・同定(その他の部位からの検体)	J-1	160	D018-5	微生物		細菌培養同定検査 その他の部位からの検体
0506	好気性菌培養・同定(泌尿器又は生殖器からの検体)	J-1	170	D018-4	微生物		細菌培養同定検査 泌尿器又は生殖器からの検体
0641	抗血小板抗体	F-7	262	D011-8	免疫		抗血小板抗体
1258	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (TPO-Ab)	B-2	146	D014-10	免疫	▲	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
1788	抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA)(C-ANCA)	F-8	275	D014-32	免疫		抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体 (PR3-ANCA)
1804	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)(P-ANCA)	F-8	273	D014-31	免疫		抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)
1031	抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	B-2	144	D014-9	免疫	▲	抗サイログロブリン抗体
0244他	交差適合試験 (クロスマッチ)	F-9	—				
0317	好酸球数	I-1	17	D005-4	血液		好酸球数
5904	抗酸菌種同定 (18菌種)	J-3	410	D023-9	微生物		抗酸菌核酸同定
5901	抗酸菌分離培養 (MGIT法)	J-3	280	D020-1	微生物		抗酸菌分離培養 (液体培地法)
0512	抗酸菌分離培養 (小川培地法)	J-3	204	D020-2	微生物		抗酸菌分離培養 (それ以外のもの)
4240	抗糸球体基底膜抗体	F-8	277	D014-33	免疫		抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)
1907	抗シトルリン化ペプチド抗体 (抗CCP抗体)	F-6	210	D014-23	免疫		抗シトルリン化ペプチド抗体定量
1792	甲状腺刺激抗体(TSH刺激性レセプター抗体)(TSAb)	B-2	340	D014-37	免疫		甲状腺刺激抗体 (TSAb)
0173	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	B-1	107	D008-9	生化II		甲状腺刺激ホルモン (TSH)
2551	抗心筋抗体	F-8	—				
0204	抗ストレプトキナーゼ (ASK)	F-1	29	D012-3	免疫		抗ストレプトキナーゼ (ASK) 半定量
1056	抗精子抗体	F-8	—				
1024	抗セントロメア抗体	F-7	184	D014-17	免疫		抗セントロメア抗体定量
1179	好中球殺菌能	G-1	—				
1194	好中球貪食能	G-1	—				
1904	抗デスマグレイン1抗体	F-8	300	D014-36	免疫		抗デスマグレイン1抗体
1905	抗デスマグレイン3抗体	F-8	270	D014-29	免疫		抗デスマグレイン3抗体
0649	抗バリエタル細胞抗体 (抗胃壁細胞抗体)	F-8	—				
0558	抗皮膚抗体 (ASA)	F-8	—				
2600	抗副腎皮質抗体	F-8	—				
0669	抗平滑筋抗体	F-8	—				
7001	酵母様真菌感受性試験	J-1	150	D019-2	微生物		酵母様真菌薬剤感受性検査
4230	抗ミトコンドリアM2抗体	F-7	200	D014-21	免疫		抗ミトコンドリア抗体定量
0887	抗ミトコンドリア抗体	F-7	191	D014-19	免疫		抗ミトコンドリア抗体半定量
4424	抗ミューラー管ホルモン (AMH)	B-6	—				
0709	抗利尿ホルモン (バゾプレシン) (AVP)	B-1	235	D008-44	生化II	■	抗利尿ホルモン (ADH)
2667	コカイン系麻薬検査	D-3	—				
0834他	コクサッキーウイルスA群・B群《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
4052他	コクサッキーウイルスA群・B群《NT》	E-5 E-6	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称
コ	4544 骨塩定量《DIP法》	M-1	140	D217-2	—	—	骨塩定量検査 MD法、SEXA法等
	1892 骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)	A-1	161	D008-24	生化Ⅱ	■	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)
	0361 骨髄像 (マルク)	I-2	837	D005-14	血液	—	骨髄像
	0407 コプロポルフィリン《定性》	A-10	—	—	—	—	—
	0776 コプロポルフィリン〈血液〉	A-10	210	D007-51	生化Ⅰ	—	赤血球コプロポルフィリン
	0777 コプロポルフィリン〈尿〉	A-10	139	D001-14	尿・便	—	コプロポルフィリン (尿)
	0022 コリンエステラーゼ (Ch-E)	A-2	11	D007-1	生化Ⅰ	□	コリンエステラーゼ (ChE)
	0574 コルチコステロン	B-4	—	—	—	—	—
	0728 コルチゾール	B-4	130	D008-14	生化Ⅱ	■	コルチゾール
	0580 コルチゾン	B-4	—	—	—	—	—
サ	0761 サイアミン (ビタミンB ₁)	A-9	253	D007-55	生化Ⅰ	—	ビタミンB ₁
	1193 3971 サイクリックAMP (c-AMP)〈血漿〉〈尿〉	B-8	175	D008-31	生化Ⅱ	■	サイクリックAMP (cAMP)
	1268 サイトケラチン19フラグメント(シフラ)(CYFRA21-1)	C-2	167	D009-19	生化Ⅱ	◇	サイトケラチン19フラグメント (シフラ)
	0653 サイトメガロウイルス (CMV)《CF》	E-7	79	D012-11	免疫	—	ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	0683 サイトメガロウイルス (CMV) IgG《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫	—	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	0684 サイトメガロウイルス (CMV) IgM《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫	—	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	4144 サイトメガロウイルスpp65抗原 (C7-HRP)	E-3	387	D012-48	免疫	—	サイトメガロウイルスpp65抗原定性
	4094 サイトメガロウイルス抗原アンチジェネミア	E-3	387	D012-48	免疫	—	サイトメガロウイルスpp65抗原定性
	9821他 細胞診検査・呼吸器・蓄痰・体腔液・穿刺液	L-1	190	N004-2	病理	—	細胞診(1部位につき)・穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの
	9801他 細胞診検査・婦人科	L-1	150	N004-1	病理	—	細胞診(1部位につき)・婦人科材料等によるもの
	0235 サイロイドテスト	B-2	37	D014-3	免疫	—	抗サイログロブリン抗体半定量
	0712 サイロキシン結合グロブリン (TBG)	B-2	130	D008-14	生化Ⅱ	■	サイロキシン結合グロブリン (TBG)
	0639 サイログロブリン (Tg)	B-2	137	D008-17	生化Ⅱ	■	サイログロブリン
	1220 サリチル酸	D-3	特	B001-2	—	—	特定薬剤治療管理料
シ	1084 ジアゼパム	D-1	特	B001-2	—	—	特定薬剤治療管理料
	0763 シアノコバラミン (ビタミンB ₁₂)	A-9	148	D007-40	生化Ⅰ	—	ビタミンB ₁₂
	1041 シアリルLe ^x -i抗原 (SLX)	C-1	152	D009-14	生化Ⅱ	◇	シアリルLe ^x -i抗原 (SLX)
	1213 シアリルTn-i抗原 (STN)	C-1	146	D009-10	生化Ⅱ	◇	シアリルTn抗原 (STN)
	1835 子宮頸管粘液中顆粒球エラストラーゼ	B-7	125	D004-7	尿・便	—	顆粒球エラストラーゼ (子宮頸管粘液)
	1280 シクロスポリン	D-3	特	B001-2	—	—	特定薬剤治療管理料
	0788 ジゴキシン	D-2	特	B001-2	—	—	特定薬剤治療管理料
	4526 シスタチンC	A-7	121	D007-33	生化Ⅰ	—	シスタチンC
	1017 ジソピラミド	D-2	特	B001-2	—	—	特定薬剤治療管理料
	5206 ジフテリア菌 (培養・目的菌)	J-2	—	—	—	—	—
	1268 シフラ(サイトケラチン19フラグメント)(CYFRA21-1)	C-2	167	D009-19	生化Ⅱ	◇	サイトケラチン19フラグメント (シフラ)
	2618 シベンゾリン	D-2	特	B001-2	—	—	特定薬剤治療管理料
	4406 脂肪酸分画 (4成分)	A-4	429	D010-7	生化Ⅱ	—	脂肪酸分画
	2996 酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ5b (TRACP-5b)	B-3	156	D008-23	生化Ⅱ	■	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ (TRACP-5b)
	5005 真菌塗抹鏡検	J-1	61	D017-3	微生物	—	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査 その他のもの
	5006 真菌培養・同定	J-1	—	—	—	—	—
	0674 神経特異エノラーゼ (NSE)	C-2	146	D009-10	生化Ⅱ	◇	神経特異エノラーゼ (NSE)
	1138 心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	F-5	184	D007-44	生化Ⅰ	—	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ
	0451 浸透圧〈血清〉	A-12	15	D005-3	血液	—	血液浸透圧
	0452 浸透圧〈尿〉	A-12	16	D001-3	尿・便	—	尿浸透圧
	0453 浸透圧〈透析液〉	A-12	—	—	—	—	—

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称
ス	1233 腓PLA ₂ (腓ホスホリパーゼA ₂)	A-2	204	D007-50	生化 I		ホスフォリパーゼA ₂ (PLA ₂)
	0421 髄液一般検査	K-2	62	D004-3	尿・便		髄液一般検査
	0183 0184 腓型アミラーゼ(P型アミラーゼ)〈血清〉〈尿〉	A-3	48	D007-15	生化 I		アミラーゼアイソザイム
	0780 1427 水銀 (Hg) 〈血液〉〈尿〉	A-11	—				
	2864 推算糸球体濾過量 (eGFR)	A-6	—				
	0822 水痘・帯状ヘルペスウイルス(VZV)《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	1019 水痘・帯状ヘルペスウイルスIgG(VZV)《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	1020 水痘・帯状ヘルペスウイルスIgM(VZV)《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	4152 水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原〈水疱内容〉	E-3	—				
	5212 髄膜炎菌 (培養・目的菌)	J-2	—				
	1233 腓ホスホリパーゼA ₂ (腓PLA ₂)	A-2	204	D007-50	生化 I		ホスフォリパーゼA ₂ (PLA ₂)
セ	0431 精液一般検査	K-3	70	D004-4	尿・便		精液一般検査
	3733 脆弱X染色体	H-1	2631+397	D006-50注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む) 十分染法加算
	0701 成長ホルモン (GH)	B-1	114	D008-12	生化 II	■	成長ホルモン (GH)
	0355 赤沈 (血沈・ESR)	I-1	—				
	0302 赤血球数 (RBC)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査
	0330 赤血球像 (R-Hg)	I-2	—				
	1083 赤血球プロトポルフィリン	A-10	272	D007-57	生化 I		赤血球プロトポルフィリン
	0626 セルロプラスミン (Cp)	F-4	90	D015-9	免疫		セルロプラスミン
	2910 2909 セレン (Se) 〈血液〉〈血清〉	A-11	144	D007-39	生化 I		セレン
	0888 3949 セロトニン 〈血液〉〈血漿〉	B-5	—				
	0428 穿刺液一般検査	K-3	—				
	2503 全脂質構成脂肪酸分画	A-4	429	D010-7	生化 II		脂肪酸分画
	0815他 染色体検査〈先天異常〉	H-1	2631+397	D006-50注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む) 十分染法加算
	0816 染色体検査〈血液疾患〉	H-1	2631+397	D006-50注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む) 十分染法加算
	0569 前立腺特異抗原 (PSA)	C-2	130	D009-8	生化 II	◇	前立腺特異抗原 (PSA)
	ソ	3721 造血器腫瘍細胞抗原検査 (白血病・リンパ腫解析検査 (LLA))	G-1	2000	D005-15	血液	
0028 総コレステロール (T-Cho)		A-4	17	D007-3	生化 I	□	総コレステロール
0172 総サイロキシン (T ₄)		B-2	111	D008-11	生化 II		サイロキシン (T ₄)
0581 2889 総三塩化物		A-13	—				
0191 総胆汁酸 (TBA)		A-4	47	D007-14	生化 I		胆汁酸
0001 総蛋白 (TP)		A-1	11	D007-1	生化 I	□	総蛋白
0053 総鉄結合能 (TIBC)		A-10	11	D007-1	生化 I	□	総鉄結合能 (TIBC) (比色法)
0008 総ビリルビン (T-Bil)		A-1	11	D007-1	生化 I	□	総ビリルビン
1832 総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (BTR)		A-7	288	D010-4	生化 II		総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (BTR)
0646 組織ポリペプチド抗原 (TPA)		C-2	110	D009-4	生化 II	◇	組織ポリペプチド抗原 (TPA)
1064 ゴニサミド		D-1	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
1069 ソマトメジン-C		B-1	224	D008-42	生化 II	■	ソマトメジンC
タ		2684 第Ⅱ因子活性	I-5	229	D006-29	血液	▽
	2685 第Ⅴ因子活性	I-5	229	D006-29	血液	▽	凝固因子 (第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子)
	2686 第Ⅶ因子活性	I-5	229	D006-29	血液	▽	凝固因子 (第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子)
	0566 第Ⅷ因子活性	I-5	229	D006-29	血液	▽	凝固因子 (第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子)
	0348 第Ⅸ因子様抗原 (フォン・ウィルブランド因子定量)	I-5	155	D006-21	血液	▽	von Willebrand因子 (VWF) 抗原
	0567 第Ⅹ因子活性	I-5	229	D006-29	血液	▽	凝固因子 (第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子)
	0351 第Ⅹ因子活性	I-5	229	D006-29	血液	▽	凝固因子 (第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子)

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称	
タ	2688 第Ⅺ因子活性	I-5	229	D006-29	血液	▽	凝固因子(第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅷ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子)	
	2689 第Ⅻ因子活性	I-5	229	D006-29	血液	▽	凝固因子(第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅷ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子)	
	1052 第Ⅻ因子定量	I-5	229	D006-29	血液	▽	凝固因子(第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅷ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子、第Ⅻ因子)	
	5225 大腸菌血清型別(病原性大腸菌O群血清型)(培養・目的菌)	J-2	180	D012-32	免疫		大腸菌血清型別	
	5306 大腸菌ペロトキシン	J-2	194	D023-2-3	微生物		大腸菌ペロトキシン定性	
	2668 大麻・マリファナ検査	D-3	—					
	1864 タクロリムス	D-3	④	B001-2			特定薬剤治療管理料	
	0821 単純ヘルペスウイルス(HSV)《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	
	1028 1029 単純ヘルペスウイルス(HSV)1型・2型《NT》	E-4	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)	
	1172 単純ヘルペスウイルスIgG(HSV)《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	
	1173 単純ヘルペスウイルスIgM(HSV)《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	
	1104 単純ヘルペスウイルス特異抗原(塗抹標本)	E-3	180	D012-32	免疫		単純ヘルペスウイルス抗原定性	
	4150 4151 単純ヘルペスウイルス抗原(ぬぐい液)〈水疱内容〉	E-3	—					
	0422 蛋白定量〈髄液〉	K-2	11	D007-1	生化Ⅰ	□	総蛋白	
	0429 蛋白定量〈穿刺液〉	K-3	11	D007-1	生化Ⅰ	□	総蛋白	
	0069 蛋白分画(PR-F)	A-1	18	D007-4	生化Ⅰ	□	蛋白分画	
	チ	1793 チミジンキナーゼ活性(TK)	A-2	233	D005-12	血液		デオキシチミジンキナーゼ(TK)活性
		0004 チモール混濁反応(TTT)	A-1	—				
0032 中性脂肪(TG)		A-3	11	D007-1	生化Ⅰ	□	中性脂肪	
0489 虫体鑑別		K-2	23	D003-3	尿・便		虫体検出(糞便)	
0416 虫卵《集卵法》		K-2	15	D003-1	尿・便		虫卵検出(集卵法)(糞便)	
0415 虫卵《塗抹法》		K-2	20	D003-2	尿・便		糞便塗抹顕微鏡検査(虫卵、脂肪及び消化状況観察を含む。)	
0231 直接クームス試験		F-9	34	D011-2	免疫		Coombs試験 イ 直接	
0009 直接ビリルビン(D-Bil)		A-1	11	D007-1	生化Ⅰ	□	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	
0430 沈渣〈穿刺液〉		K-3	—					
0409 沈渣〈尿〉		K-1	—					
0690 沈渣・尿酸結晶〈穿刺液〉		K-3	—					
1169 沈渣・ピロリン酸Ca〈穿刺液〉		K-3	—					
ツ	4174 ツツガ虫《Gilliam》IgG	F-3	213	D012-37	免疫		ツツガムシ抗体半定量	
	4175 ツツガ虫《Gilliam》IgM	F-3	213	D012-37	免疫		ツツガムシ抗体半定量	
	4178 ツツガ虫《Karp》IgG	F-3	213	D012-37	免疫		ツツガムシ抗体半定量	
	4179 ツツガ虫《Karp》IgM	F-3	213	D012-37	免疫		ツツガムシ抗体半定量	
	4176 ツツガ虫《kato》IgG	F-3	213	D012-37	免疫		ツツガムシ抗体半定量	
	4177 ツツガ虫《kato》IgM	F-3	213	D012-37	免疫		ツツガムシ抗体半定量	
テ	1659 テイコプラニン	D-2	④	B001-2			特定薬剤治療管理料	
	4254 定量クームス試験	F-9	47	D011-2	免疫		Coombs試験 口 間接	
	1895 デオキシピリジノリン(DPD)	B-3	191	D008-35	生化Ⅱ	■	デオキシピリジノリン(DPD)(尿)	
	0633 テオフィリン	D-3	④	B001-2			特定薬剤治療管理料	
	0733 テストステロン	B-7	128	D008-13	生化Ⅱ	■	テストステロン	
	0052 鉄(Fe)	A-10	11	D007-1	生化Ⅰ	□	鉄(Fe)	
	0470 鉄染色〈血液〉	I-2	27	D005-6(注)	血液		末梢血液像(鏡検法)(注)特殊染色を併せて行った場合の加算(特殊染色ごとに)	
	0465 鉄染色〈骨髄液〉	I-2	40	D005-14(注)	血液		骨髄像(注)特殊染色を併せて行った場合の加算(特殊染色ごとに)	
	1635 デハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	B-4	176	D008-32	生化Ⅱ	■	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)	
	ト	0951 1951 銅(Cu)〈血清〉〈尿〉	A-11	23	D007-5	生化Ⅰ	□	銅(Cu)

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
ト	4411 透析液/R2A	J-4	—				
	0423 糖定量〈髄液〉	K-2	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/> グルコース	
	3956 ドーパミン・総	B-6	—				
	4430 トキソプラズマ抗体IgG	F-1	93	D012-14	免疫		トキソプラズマ抗体
	4431 トキソプラズマ抗体IgM	F-1	95	D012-15	免疫		トキソプラズマIgM抗体
	3001他 特異的IgE (シングルアレルゲン)	F-11	110	D015-12	免疫		特異的IgE半定量・定量
	3577他 特異的IgE (マルチアレルゲン)	F-11	110	D015-12	免疫		特異的IgE半定量・定量
	2505 トコフェロール (ビタミンE)	A-9	—				
	2647 トブラマイシン	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	0501 塗抹鏡検 (一般細菌)	J-1	61	D017-3	微生物		排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査 その他のもの
	0509 塗抹鏡検 (抗酸菌・蛍光法)	J-3	50	D017-1	微生物		排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査 蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、暗視野装置等を使用するもの
	0511 塗抹鏡検 (抗酸菌・チールネルゼン法)	J-3	61	D017-3	微生物		排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査 その他のもの
	5005 塗抹鏡検 (真菌)	J-1	61	D017-3	微生物		排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査 その他のもの
	0766 トランスフェリン (Tf)〈血清〉	F-4	60	D015-7	免疫		トランスフェリン (Tf)
	1242 トランスフェリン (Tf)〈尿〉	F-4	107	D001-9	尿・便		トランスフェリン (尿)
	¹⁰⁶⁷ / ₂₈₇₅ トリクロル酢酸	A-13	—				
	5281 トリコモナス (培養・目的菌)	J-2	—				
	0592 トリプシン	A-2	189	D007-46	生化 I		トリプシン
	0171 トリヨードサイロニン (T ₃)	B-2	105	D008-8	生化 II		トリヨードサイロニン (T ₃)
	1055 トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	I-4	186	D006-26	血液	<input type="checkbox"/>	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)
	0337 トロンボテスト (TT)	I-3	18	D006-2	血液		トロンボテスト
	²⁵⁵⁹ / ₂₅₆₀ トロンボモジュリン (TM)〈血清〉〈血漿〉	I-4	205	D006-28	血液	<input type="checkbox"/>	トロンボモジュリン
ナ	⁰⁰⁴⁵ / ₀₁₇₅ ナトリウム (Na)〈血清〉〈蓄尿〉	A-10	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	ナトリウム及びクロール
	0781 鉛 (Pb)	A-11	—				
ニ	2926 ニコチン	A-14	—				
	2921 ニッケル (Ni)	A-11	—				
	0695 ニトラゼパム	D-1	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	0831 日本脳炎《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	4091 日本脳炎《HI》	E-8	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	0858 乳酸	A-6	47	D007-14	生化 I		有機モノカルボン酸
	0019 乳酸脱水素酵素 (LD)	A-1	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)
	0118 尿NAG (N-アセチルβ-D-グルコサミニダーゼ)	A-2	41	D001-5	尿・便		N-アセチルグルコサミニダーゼ (NAG) (尿)
	⁰⁰⁴¹ / ₀₀₆₅ 尿酸 (UA)〈血清〉〈蓄尿〉	A-6	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	尿酸
	¹⁸⁹⁸ / ₃₈₉₈ 尿素呼気試験 (ユービット) (ピロニック)	F-3	70	D023-2-2	微生物		尿素呼気試験 (UBT)
	2865 尿素クリアランス	A-12	—				
	⁰⁰³⁷ / ₀₀₆₃ 尿素窒素 (BUN)〈血清〉〈蓄尿〉	A-6	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	尿素窒素
	1887 尿中Ⅳ型コラーゲン	F-5	194	D001-16	尿・便		Ⅳ型コラーゲン (尿)
	1888 尿中NMP22	C-2	151	D009-13	生化 II	<input type="checkbox"/>	核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定量 (尿)
	⁰¹⁸² / ₀₁₈₁ 尿中アルブミン	F-4	105	D001-8	尿・便		アルブミン定量 (尿)
	0401 尿中一般物質定性半定量検査	K-1	—				
	0498 尿蛋白定量	K-1	7	D001-1	尿・便		尿蛋白
	0402 尿糖定量	K-1	9	D001-2	尿・便		尿グルコース
ノ	1765 脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)	B-8	140	D008-18	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)
	1764 脳性Na利尿ペプチド (BNP)	B-8	136	D008-16	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	脳性Na利尿ペプチド (BNP)
	²⁵⁷⁸ / ₂₅₇₉ 農業スクリーニング〈血液〉〈尿〉	D-4	—				

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
ノ	1901 ノロウイルス-RNAマルチ	E-3	—				
	1915 ノロウイルス抗原《EIA》	E-3	—				
ハ	1886 肺サーファクタントプロテインA (SP-A)	F-5	130	D007-35	生化I		肺サーファクタント蛋白-A (SP-A)
	1889 肺サーファクタントプロテインD (SP-D)	F-5	136	D007-36	生化I		肺サーファクタント蛋白-D (SP-D)
	0268 梅毒定性 (TPLA定性)	F-1	32	D012-4	免疫		梅毒トレポネーマ抗体定性
	0267 梅毒定性 (RPR定性)	F-1	15	D012-1	免疫		梅毒血清反応 (STS) 定性
	0270 梅毒定量 (TPLA定量)	F-1	53	D012-6	免疫		梅毒トレポネーマ抗体定量
	0269 梅毒定量 (RPR定量)	F-1	34	D012-5	免疫		梅毒血清反応 (STS) 定量
	0301 白血球数 (WBC)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査
	0318 白血球像 (W-Hg)	I-2	15	D005-3	血液		末梢血液像 (自動機械法)
	3721 白血病・リンパ腫解析検査(LLA)(造血器腫瘍細胞抗原検査)	G-1	2000	D005-15	血液		造血器腫瘍細胞抗原検査 (一連につき)
	0709 バゾプレシリン (AVP) (抗利尿ホルモン)	B-1	235	D008-44	生化II	■	抗利尿ホルモン (ADH)
	0595 馬尿酸	A-13	—				
	3993 0720 0649 バニリルマンデル酸 (VMA)	B-5	90	D008-4	生化II		バニールマンデル酸 (VMA)
	0710 ハプトグロビン (Hp)	F-5	140	D015-14	免疫		ハプトグロビン (型補正を含む。)
	0871 パラインフルエンザ1型 (HA-2) 《HI》	E-8	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	0872 パラインフルエンザ2型 (CA) 《HI》	E-8	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	0873 パラインフルエンザ3型 (HA-1) 《HI》	E-8	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	0587 2829 パラコート (グラムキソン) 〈血清〉〈尿〉	D-4	—				
	0787 バルプロ酸ナトリウム	D-1	Ⓣ	B001-2			特定薬剤治療管理料
	1254 パルボウイルスB19DNA	E-3	—				
	4073 パルボウイルスB19抗体IgG《EIA》	E-9	—				
	4070 パルボウイルスB19抗体IgM《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	1037 ハロペリドール	D-1	Ⓣ	B001-2			特定薬剤治療管理料
	1658 バンコマイシン	D-2	Ⓣ	B001-2			特定薬剤治療管理料
ヒ	1012 ヒアルロン酸	A-6	184	D007-44	生化I		ヒアルロン酸
	0359 鼻汁中好酸球	I-1	15	D005-3	血液		好酸球 (鼻汁・喀痰)
	0643 ヒスタミン	B-8	—				
	1144 ビタミンA (レチノール)	A-9	—				
	0761 ビタミンB ₁ (サイアミン)	A-9	253	D007-55	生化I		ビタミンB ₁
	0763 ビタミンB ₁₂ (シアノコバラミン)	A-9	148	D007-40	生化I		ビタミンB ₁₂
	0762 ビタミンB ₂ (リボフラビン)	A-9	256	D007-56	生化I		ビタミンB ₂
	1137 ビタミンB ₆	A-9	—				
	2857 ビタミンBt (カルニチン)	A-9	95+95	D007-24	生化I		総カルニチン、遊離カルニチン
	0764 ビタミンC (アスコルビン酸)	A-9	314	D007-60	生化I		ビタミンC
	1189 ビタミンD分画 (25-OHビタミンD分画)	A-9	—				
	2505 ビタミンE (トコフェロール)	A-9	—				
	0765 ビタミンM (葉酸)	A-9	158	D007-42	生化I		葉酸
	0795 非特異的IgE (IgE)	F-11	100	D015-10	免疫		非特異的IgE定量
	4531 ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	F-5	143	D007-38	生化I		心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP) 定量
	1108 ヒト心房性Na利尿ポリペプチド (hANP)	B-8	227	D008-43	生化II	■	心房性Na利尿ペプチド (ANP)
	3964 3965 ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)〈血清〉〈尿〉	B-6	142	D008-20	生化II	■	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量
	0742 ヒト胎盤性ラクトジェン (HPL)	B-6	140	D008-18	生化II	■	ヒト胎盤性ラクトゲン (HPL)
	1714 非抱合型コルチゾール (遊離コルチゾール)	B-4	130	D008-14	生化II	■	コルチゾール
	4181 百日咳菌核酸検出	F-3	360	D023-8	微生物		百日咳菌核酸検出
	4182 百日咳菌抗体-IgA	F-3	80	D012-12	免疫		百日咳菌抗体定性

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
ヒ	4183 百日咳菌抗体-IgM	F-3	80	D012-12	免疫		百日咳菌抗体定性
	4180 百日咳菌抗体《EIA》	F-3	272	D012-44	免疫		百日咳菌抗体
	5234 百日咳菌 (培養・目的菌)	J-2	—				
	5225 病原性大腸菌O群血清型(大腸菌血清型別)(培養・目的菌)	J-2	180	D012-32	免疫		大腸菌血清型別
	9901他 病理組織検査	L-1	860	N000	病理		病理組織標本作製 (1臓器につき)
	2629 ピルシカイニド	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	1093 ピルビン酸	A-6	47	D007-14	生化I		有機モノカルボン酸
	2652 ピルメノール	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
フ	3595 ファディアトープ(アトピー鑑別試験)	F-11	194	D015-21	免疫		アトピー鑑別試験定性
	0405 フィッシュバグ濃縮試験	A-12	(100)	D289-2	—		その他の機能テスト 肝機能テスト
	0338 フィブリノーゲン (FIB)	I-3	23	D006-4	血液		フィブリノーゲン定量
	4405 フィブリンモノマー複合体定量	I-3	233	D006-30	血液	▽	フィブリンモノマー複合体
	0236 風疹《HI》	E-8	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	0556 風疹IgG《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	0557 風疹IgM《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	0784 フェニトイン	D-1	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	0783 フェノバルビタール	D-1	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	0149 フェリチン	F-4	111	D007-28	生化I		フェリチン定量
	2565 フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	I-5	136	D006-16	血液	▽	von Willebrand因子 (VWF) 活性
	0348 フォン・ウィルブランド因子定量(第Ⅷ因子様抗原)	I-5	155	D006-21	血液	▽	von Willebrand因子 (VWF) 抗原
	0579 不規則性抗体	F-9	159	D011-4	免疫		不規則抗体
	1253 副甲状腺ホルモン関連蛋白-intact(PTHrP-intact)	B-2	194	D008-36	生化II	■	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)
	1787 副甲状腺ホルモン-intact (PTH-intact)	B-2	175	D008-31	生化II	■	副甲状腺ホルモン (PTH)
	0715 副甲状腺ホルモンwhole (whole PTH)	B-2	175	D008-31	生化II	■	副甲状腺ホルモン (PTH)
	0704 副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	B-1	200	D008-37	生化II	■	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)
	0054 不飽和鉄結合能 (UIBC)	A-11	11	D007-1	生化I	□	不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)
	0349 プラスミノゲン (PLG) 《活性》	I-4	100	D006-13	血液		プラスミノゲン活性
	2674 プラスミノゲン (PLG) 《抗原量》	I-4	100	D006-13	血液		プラスミノゲン抗原
	0786 プリミドン	D-1	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	1705 プレアルブミン	F-4	107	D015-11	免疫		トランスサイレチン (プレアルブミン)
	1633 フレカイニド	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	2682 プレカリクレイン	I-4	—				
	3969 プレグナンジオール (P ₂)	B-6	213	D008-39	生化II	■	プレグナンジオール
	3970 プレグナントリオール (P ₃)	B-6	240	D008-45	生化II	■	プレグナントリオール
	1789 プロカインアミド	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	0893 プロカルシトニン (PCT)	F-2	301	D007-58	生化I		プロカルシトニン (PCT) 定量
	1196 プロジェステロンレセプター	L-1	690	N002-2	病理		プロジェステロンレセプター
	1039 プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	F-5	140	D007-37	生化I		プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P)
	0735 プロゲステロン	B-7	155	D008-22	生化II	■	プロゲステロン
	1221 プロテインC《活性》	I-4	248	D006-33	血液	▽	プロテインC活性
	2679 プロテインC《定量》	I-4	246	D006-31	血液	▽	プロテインC抗原
	2555 プロテインS《活性》	I-4	170	D006-23	血液	▽	プロテインS活性
	2681 2680 プロテインS《定量》《遊離型》	I-4	162	D006-22	血液	▽	プロテインS抗原
	0336 プロトロンビン時間 (PT)	I-3	18	D006-2	血液		プロトロンビン時間 (PT)
	2678 プロトロンビンフラグメントF1+2 (F1+2)	I-4	193	D006-27	血液	▽	プロトロンビンフラグメントF1+2
	2631 プロパフェノン	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	1763 ブロムペリドール	D-1	特	B001-2			特定薬剤治療管理料

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
0706	プロラクチン (PRL)	B-1	98	D008-6	生化Ⅱ		プロラクチン (PRL)
0307	平均赤血球色素濃度 (MCHC)	I-1	—				
0306	平均赤血球色素量 (MCH)	I-1	—				
0305	平均赤血球容積 (MCV)	I-1	—				
2507	ヘパリン	I-3	108	D007-27	生化Ⅰ		ヘパリン
2635	ベプリジル	D-2	⑦	B001-2			特定薬剤治療管理料
4457	ペプシノゲン (PG)	A-14	—				
0304	ヘマトクリット値 (Ht)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査
0189	ヘモグロビンA1c (HbA1c)	A-6	49	D005-9	血液		ヘモグロビンA1c (HbA1c)
1151	ヘリコバクター・ピロリ抗体《定性》	F-3	70	D012-9	免疫		ヘリコバクター・ピロリ抗体定性・半定量
4458	ヘリコバクター・ピロリ抗体《定量》	F-3	80	D012-12	免疫		ヘリコバクター・ピロリ抗体
5233	ヘリコバクター・ピロリ/培養	J-4	180	D018-2	微生物		細菌培養同定検査 消化管からの検体
5991	ヘリコバクター・ピロリ/感受性試験	J-4	—				
0468	ペルオキシダーゼ染色〈血液〉	I-2	27	D005-6(注)	血液		末梢血液像(鏡検法) (注) 特殊染色を併せて行った場合の加算(特殊染色ごとに)
0463	ペルオキシダーゼ染色〈骨髄液〉	I-2	40	D005-14(注)	血液		骨髄像 (注) 特殊染色を併せて行った場合の加算(特殊染色ごとに)
0406	ベンス・ジョーンズ蛋白定性 (BJP定性)	K-1	9	D001-2	尿・便		Bence Jones蛋白定性 (尿)
0790	ベンス・ジョーンズ蛋白同定 (BJP同定)	F-10	203	D015-22	免疫		Bence Jones蛋白同定 (尿)
0486 0490 0491	便中ヘモグロビン (便中Hb)	K-2	37	D003-5	尿・便		糞便中ヘモグロビン定性
1900	便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	F-3	146	D012-24	免疫		ヘリコバクター・ピロリ抗原定性
5992	便培養(2菌種)(シゲラ・サルモネラ)	J-4	—				
5993	便培養(3菌種)(シゲラ・サルモネラ・O-157)	J-4	—				
5994	便培養(4菌種)(シゲラ・サルモネラ・O-157・ビブリオコレラ・腸炎ビブリオ)	J-4	—				
0666	扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)	C-2	110	D009-4	生化Ⅱ	◇	扁平上皮癌関連抗原 (SCC)
ホ	5236 放線菌 (アクチノミセス) (培養・目的菌)	J-2	—				
2968	ホモシステイン	A-7	295	D010-5	生化Ⅱ		アミノ酸 イ 1種類につき
3948 2511 4532	ホモバニリン酸 (HVA)	B-5	69	D008-3	生化Ⅱ		ホモバニリン酸 (HVA)
4101	ポリオ1型《NT》	E-6	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
4102	ポリオ2型《NT》	E-6	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
4103	ポリオ3型《NT》	E-6	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
0604	ホルター心電図 (長時間心電図)	M-2	1750	D210-2	—		ホルター型心電図検査 8時間を越えた場合
1050	ポルフォビリノーゲン	A-10	191	D001-15	尿・便		ポルフォビリノーゲン (尿)
マ	0234 マイクロゾームテスト	B-2	37	D014-3	免疫		抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量
5907	マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー(MAC)核酸同定/リアルタイムPCR	J-3	421	D023-10	微生物		マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー (MAC) 核酸検出
5903	マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー(MAC)核酸同定	J-3	421	D023-10	微生物		マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー (MAC) 核酸検出
0863	マイコプラズマ抗体《CF》	F-1	32	D012-4	免疫		マイコプラズマ抗体半定量
0213	マイコプラズマ抗体《PA》	F-1	32	D012-4	免疫		マイコプラズマ抗体半定量
2731	マイコプラズマニューモニエDNA同定	F-1	300	D023-6	微生物		マイコプラズマ核酸検出
5232	マイコプラズマ (培養・目的菌)	J-2	—				
0950 0127	マグネシウム (Mg) 〈血清〉〈蓄尿〉	A-10	11	D007-1	生化Ⅰ	□	マグネシウム
0237	麻疹ウイルス《HI》	E-8	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
4111	麻疹ウイルス《NT》	E-4	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
4112	麻疹ウイルスIgG《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
4113	麻疹ウイルスIgM《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
0366	マラリア原虫	I-2	40	D005-7	血液		血中微生物検査
0361	マルク (骨髄像)	I-2	837	D005-14	血液		骨髄像
2817 2818 2819	マンガン (Mn) 〈血液〉〈血清〉〈尿〉	A-11	27	D007-8	生化Ⅰ	□	マンガン (Mn)

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
マ	1080 マンデル酸	A-13	—				
ミ	1704 ミエリン塩基性蛋白 (MBP)	F-10	593	D004-11	尿・便		ミエリン塩基性蛋白 (MBP) (髄液)
	0589 1473 ミオグロビン (血清) (尿)	F-4	143	D007-38	生化 I		ミオグロビン定量
	0187 ミトコンドリアーAST (m-AST)	A-3	49	D007-16	生化 I		ASTアイソザイム
ム	0049 0126 無機リン (P) (血清) (蓄尿)	A-10	17	D007-3	生化 I	<input type="checkbox"/>	無機リン及びリン酸
	0642 2741 ムラミダーゼ (リゾチーム) (血清) (尿)	A-2	—				
	1030 ムンプスウイルス (CF)	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	0238 ムンプスウイルス (HI)	E-8	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	1036 ムンプスウイルス (NT)	E-4	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	1167 ムンプスウイルスIgG (EIA)	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	1110 ムンプスウイルスIgM (EIA)	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
メ	1215 メキシレチン	D-2	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	1216 4381 メタネフリン2分画 (尿) (蓄尿)	B-5	227	D008-43	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	メタネフリン・ノルメタネフリン分画
	0779 メタノール	A-14	—				
	1079 メチル馬尿酸	A-13	—				
	2655 メトトレキサート	D-3	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	3756 免疫グロブリンH鎖C μ 再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成
	3755 免疫グロブリンH鎖JH再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成
	3758 免疫グロブリンL鎖C κ 再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成
	3759 免疫グロブリンL鎖C λ 再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成
	3757 免疫グロブリンL鎖J κ 再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成
	4257 免疫グロブリン遊離L鎖 κ/λ 比	F-10	400	D015-27	免疫		免疫グロブリン遊離L鎖 κ/λ 比
	0801 免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による同定)	F-10	170	D015-17	免疫		免疫電気泳動法 (同一検体に対して一連につき)
	0802 免疫電気泳動 (特異抗血清による同定)	F-10	230	D015-24	免疫		免疫電気泳動法 (同一検体に対して一連につき)
	0829 免疫複合体・C1q (イムノコンプレックス)	F-7	161	D014-12	免疫	<input checked="" type="checkbox"/>	C1q結合免疫複合体
モ	0381 網状赤血球数 (Ret)	I-1	12	D005-2	血液		網状赤血球数
	4801他 モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	G-1	—				
ヤ	4991他 薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST)	G-1	345	D016-7	免疫		リンパ球刺激試験 (LST) イ1薬剤
ユ	3944 4383 遊離カテコールアミン3分画 (尿) (蓄尿)	B-5	175	D008-31	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	カテコールアミン分画
	1714 遊離コルチゾール (非抱合型コルチゾール)	B-4	130	D008-14	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	コルチゾール
	0029 遊離コレステロール (F-Cho)	A-4	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	遊離コレステロール
	0242 遊離サイロキシシン (FT ₄)	B-2	130	D008-14	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	遊離サイロキシシン (FT ₄)
	2534 遊離テストステロン	B-7	166	D008-27	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	遊離テストステロン
	0563 遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)	B-2	130	D008-14	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)
ヨ	0765 葉酸 (ビタミンM)	A-9	158	D007-42	生化 I		葉酸
ラ	2661 ラモトリギン	D-1	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	0703 卵胞刺激ホルモン (FSH)	B-1	114	D008-12	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	卵胞刺激ホルモン (FSH)
	2665 乱用薬物スクリーニング	D-3	—				
	0203 リウマトイド因子 (RF) (定性)	F-6	—				
	0263 リウマトイド因子 (RF) (定量)	F-6	30	D014-2	免疫		リウマトイド因子 (RF) 定量

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称
リ 2565	リストセチンコファクター(フォン・ウィルブランド因子活性)	I-5	136	D006-16	血液	▽	von Willebrand因子 (VWF) 活性
0642 2741	リゾチーム (ムラミダーゼ)〈血清〉〈尿〉	A-2	—				
0859	リチウム (Li)	D-1	Ⓢ	B001-2			特定薬剤治療管理料
1252	リドカイン	D-2	Ⓢ	B001-2			特定薬剤治療管理料
0808	リパーゼ	A-2	24	D007-6	生化I	□	リパーゼ
1238	リポ蛋白 (a) (Lp (a))	A-4	107	D007-26	生化I		リポ蛋白 (a)
0750	リポ蛋白分画	A-4	49	D007-16	生化I		リポ蛋白分画
2753	リポ蛋白分画《PAG》	A-4	80	D007-22	生化I		リポ蛋白分画 (PAGディスク電気泳動法)
0762	リボフラビン (ビタミンB ₂)	A-9	256	D007-56	生化I		ビタミンB ₂
0005	硫酸亜鉛混濁反応 (ZTT)	A-1	—				
1922 1925 1927	淋菌/リアルタイムPCR(子宮頸部擦過物)〈尿〉〈うがい液〉	F-2	204	D023-2	微生物		淋菌核酸検出
1916 1917	淋菌及びクラミジア・トラコマチスrRNA同時測定(ぬぐい液)〈尿〉	F-2	286	D023-4	微生物		淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出
5211	淋菌 (培養・目的菌)	J-2	—				
0033	リン脂質 (PL)	A-3	15	D007-2	生化I	□	リン脂質
3826	リンパ球混合培養 (MLC)	H-4	—				
ル 1893	ループスアンチコアグラント	I-3	281	D014-34	免疫		ループスアンチコアグラント定量
レ 5231	レジオネラ (培養・目的菌)	J-2	—				
1144	レチノール (ビタミンA)	A-9	—				
1270	レチノール結合蛋白 (RBP)	A-9	136	D015-13	免疫		レチノール結合蛋白 (RBP)
2601	レニン濃度 (PRC)	B-3	111	D008-11	生化II		レニン定量
5247	レプトスピラ (培養・目的菌)	J-2	—				
2634	レベチラセタム	D-1		D001-2			特定薬剤治療管理料
1230	レムナント様リポ蛋白-コレステロール(RLP-コレステロール)	A-4	189	D007-46	生化I		レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C)
ロ 0023	ロイシニアミノペプチダーゼ (LAP)	A-2	11	D007-1	生化I	□	ロイシニアミノペプチダーゼ (LAP)
4093	ロタウイルス《CF》	E-7	—				
2972	ロタウイルス抗原	E-3	65	D012-8	免疫		ロタウイルス抗原定性 (糞便)
A 0003	A/G (アルブミン/グロブリン比)	A-1	—				
4459	ABC検診	A-14	—				
4460	ABCD検診	A-14	—				
0225	ABO式血液型	F-9	24	D011-1	免疫		ABO血液型
0725	ACE (アンジオテンシン I 転換酵素)	B-3	148	D007-40	生化I		アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)
0704	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	B-1	200	D008-37	生化II	■	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)
0676 1414	ADA(アデノシンデアミナーゼ)〈血清〉〈胸水〉	A-2	32	D007-12	生化I		アデノシンデアミナーゼ (ADA)
0169	AFP (α-フェトプロテイン)	C-1	107	D009-3	生化II	◇	α-フェトプロテイン (AFP)
1810	AFPレクチン分画/LBA	C-1	190	D009-24	生化II	◇	α-フェトプロテインレクチン分画 (AFP-L3%)
1065	Al (アルミニウム)	A-11	118	D007-31	生化I		アルミニウム (Al)
0002	Alb (アルブミン)	A-1	11	D007-1	生化I	□	アルブミン
0027	ALD (アルドラーゼ)	A-2	11	D007-1	生化I	□	アルドラーゼ
0016	ALP (アルカリフォスファターゼ)	A-1	11	D007-1	生化I	□	アルカリホスファターゼ (ALP)
0756	ALPアイソザイム	A-3	48	D007-15	生化I		ALPアイソザイム
0471	ALP染色〈血液〉	I-2	27	D005-6(注)	血液		末梢血液像 (鏡検法) (注) 特殊染色を併せて行った場合の加算 (特殊染色ごとに)
0466	ALP染色〈骨髓液〉	I-2	40	D005-14(注)	血液		骨髓像 (注) 特殊染色を併せて行った場合の加算 (特殊染色ごとに)
0018	ALT (GPT)	A-1	17	D007-3	生化I	□	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)
1171 4198	AMG(α ₁ マイクログロブリン)(α ₁ -MG)〈血清〉〈尿〉	F-4	140	D015-14	免疫		α ₁ -マイクログロブリン

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称	
A	4424 AMH (抗ミュラー管ホルモン)	B-6	—					
	8834 0090 Amy (アミラーゼ)〈血清〉〈尿〉〈蓄尿〉	A-2	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	アミラーゼ	
	0757 1460 Amyアミラーゼ(アミラーゼアミラーゼ)〈血清〉〈尿〉	A-3	48	D007-15	生化 I		アミラーゼアミラーゼ	
	0806 ANA (抗核抗体)	F-6	105	D014-5	免疫		抗核抗体 (蛍光抗体法) 半定量	
	4202 APRスコア	F-5	191	D015-20	免疫		APRスコア定性	
	0340 APTT (活性化部分トロンボプラスチン)	I-3	29	D006-7	血液		活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	
	0558 ASA (抗皮膚抗体)	F-8	—					
	0204 ASK (抗ストレプトキナーゼ)	F-1	29	D012-3	免疫		抗ストレプトキナーゼ (ASK) 半定量	
	0281 ASO (ASLO)	F-1	15	D012-1	免疫		抗ストレプトリジンO (ASO) 定量	
	0017 AST (GOT)	A-1	17	D007-3	生化 I	<input type="checkbox"/>	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)	
	1162 AT (アンチトロンビン)《活性》	I-4	70	D006-10	血液		アンチトロンビン活性	
	0345 AT (アンチトロンビン)《定量》	I-4	70	D006-10	血液		アンチトロンビン抗原	
	0578 ATLA (HTLV-I 抗体)《CLEIA》	E-2	173	D012-30	免疫		HTLV-I 抗体	
	2687 ATLA (HTLV-I 抗体)《PA》	E-2	85	D012-13	免疫		HTLV-I 抗体半定量	
	2527 ATLA (HTLV-I 抗体)《確認試験》	E-2	425	D012-49	免疫		HTLV-I 抗体 (ウエスタンブロット法及びラインブロット法)	
	0709 AVP (バゾプレシン) (抗利尿ホルモン)	B-1	235	D008-44	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	抗利尿ホルモン (ADH)	
	B	1892 BAP (骨型アルカリフォスファターゼ)	A-1	161	D008-24	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)
		1130 BCA225	C-1	165	D009-18	生化 II	<input type="checkbox"/>	BCA225
4983 bcr-abl t (9;22) 転座		H-2	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む) 十分染法加算	
3835 bcr-abl t (9;22) 転座 (末梢血好中球)		H-2	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む) 十分染法加算	
1078 BFP (塩基性フェトプロテイン)		C-1	150	D009-12	生化 II	<input type="checkbox"/>	塩基性フェトプロテイン (BFP)	
2510 BGP (オステオカルシン)		B-3	165	D008-26	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	オステオカルシン (OC)	
0406 BJP定性 (ベンス・ジョーンズ蛋白定性)		K-1	9	D001-2	尿・便		Bence Jones蛋白定性 (尿)	
0790 BJP同定 (ベンス・ジョーンズ蛋白同定)		F-10	203	D015-22	免疫		Bence Jones蛋白同定 (尿)	
0771 0772 BMG(β_2 ミクログロブリン)(β_2 -MG)〈血清〉〈尿〉		F-4	107	D015-11	免疫		β_2 -ミクログロブリン	
1764 BNP (脳性Na利尿ペプチド)		B-8	136	D008-16	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	脳性Na利尿ペプチド (BNP)	
1832 BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比)		A-7	288	D010-4	生化 II		総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (BTR)	
0037 0063 BUN (尿素窒素)〈血清〉〈蓄尿〉		A-6	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	尿素窒素	
1200 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgA		G-1	161	D016-1	免疫		B細胞表面免疫グロブリン	
1202 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgD		G-1	161	D016-1	免疫		B細胞表面免疫グロブリン	
1199 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgG		G-1	161	D016-1	免疫		B細胞表面免疫グロブリン	
1201 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgM		G-1	161	D016-1	免疫		B細胞表面免疫グロブリン	
1203 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) κ 鎖		G-1	161	D016-1	免疫		B細胞表面免疫グロブリン	
1204 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) λ 鎖		G-1	161	D016-1	免疫		B細胞表面免疫グロブリン	
C	1513 C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター)	F-5	276	D015-25	免疫		C1インアクチベーター	
	0804 C3 (β_1C/β_1A グロブリン)	F-5	70	D015-8	免疫		C3	
	0852 C4 (β_1E グロブリン)	F-5	70	D015-8	免疫		C4	
	4144 C7-HRP (サイトメガロウイルスpp65抗原)	E-3	387	D012-48	免疫		サイトメガロウイルスpp65抗原定性	
	0048 0125 Ca (カルシウム)〈血清〉〈蓄尿〉	A-10	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	カルシウム	
	0753 CA125	C-1	148	D009-11	生化 II	<input type="checkbox"/>	CA125	
	0610 CA15-3	C-1	121	D009-5	生化 II	<input type="checkbox"/>	CA15-3	
	0170 CA19-9	C-1	130	D009-8	生化 II	<input type="checkbox"/>	CA19-9	
	1181 Ca ²⁺ (イオン化カルシウム)	A-10	26	D007-7	生化 I	<input type="checkbox"/>	イオン化カルシウム	
	1235 CA54/61 (CA546)	C-1	184	D009-23	生化 II	<input type="checkbox"/>	CA54/61	
	1229 CA602	C-1	190	D009-24	生化 II	<input type="checkbox"/>	CA602	
	1070 CA72-4	C-1	146	D009-10	生化 II	<input type="checkbox"/>	CA72-4	

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称
C 1193 3971	c-AMP (サイクリックAMP) 〈血漿〉〈尿〉	B-8	175	D008-31	生化Ⅱ	■	サイクリックAMP (cAMP)
1788	C-ANCA(抗好中球細胞質抗体・PR3-ANCA)	F-8	275	D014-32	免疫		抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体 (PR3-ANCA)
1890	CARF (抗ガラクトース欠損IgG)	F-6	117	D014-8	免疫		抗ガラクトース欠損IgG抗体定量
2915 2916	Cd (カドミウム) 〈血液〉〈尿〉	A-11	—				
0168	CEA (癌胎児性抗原)	C-1	105	D009-2	生化Ⅱ	◇	癌胎児性抗原 (CEA)
0749	CG (グリココール酸)	A-4	80	D007-22	生化Ⅰ		グリココール酸
0803	CH ₅₀ (血清補体価)	F-5	38	D015-4	免疫		血清補体価 (CH ₅₀)
0022	Ch-E (コリンエステラーゼ)	A-2	11	D007-1	生化Ⅰ	□	コリンエステラーゼ (ChE)
0024	CK (クレアチンキナーゼ)	A-2	11	D007-1	生化Ⅰ	□	クレアチンキナーゼ (CK)
3815	c-kit遺伝子変異解析 (GIST)	H-3	2500	D004-2-1	尿・便		悪性腫瘍組織検査へc-kit遺伝子検査
0682	CK-MB	A-3	90	D007-23	生化Ⅰ		CK-MB
0759	CKアイソザイム	A-3	55	D007-18	生化Ⅰ		CKアイソザイム
0047 0177	Cl (クロール) 〈血清〉〈蓄尿〉	A-10	11	D007-1	生化Ⅰ	□	ナトリウム及びクロール
0424	Cl (クロール) 〈髄液〉	K-2	11	D007-1	生化Ⅰ	□	ナトリウム及びクロール
0653	CMV (サイトメガロウイルス) 《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
0683	CMV (サイトメガロウイルス) IgG 《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
0684	CMV (サイトメガロウイルス) IgM 《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
0819	Con-Aによるリンパ球幼若化検査	G-1	345	D016-7	免疫		リンパ球刺激試験 (LST) イ1薬剤
0626	Cp (セルロプラスミン)	F-4	90	D015-9	免疫		セルロプラスミン
0745 0654	CPR (C-ペプチド) 〈血清〉〈尿〉	B-6	114	D008-12	生化Ⅱ	■	C-ペプチド (CPR)
2912 2914	Cr (クロム) 〈血液〉〈血清〉〈尿〉	A-11	—				
0039 0064	Cre (クレアチニン) 〈血清〉〈蓄尿〉	A-6	11	D007-1	生化Ⅰ	□	クレアチニン
0040 0073	Cret (クレアチン) 〈血清〉〈蓄尿〉	A-6	11	D007-1	生化Ⅰ	□	クレアチン
0202	CRP 《定性》	F-4	16	D015-1	免疫		C反応性蛋白 (CRP) 定性
0262	CRP 《定量》	F-4	16	D015-1	免疫		C反応性蛋白 (CRP)
0892	CT (カルシトニン)	B-3	141	D008-19	生化Ⅱ	■	カルシトニン
0051 1951	Cu (銅) 〈血清〉〈尿〉	A-11	23	D007-5	生化Ⅰ	□	銅 (Cu)
1268	CYFRA21-1(シフラ)(サイトケラチン19フラグメント)	C-2	167	D009-19	生化Ⅱ	◇	サイトケラチン19フラグメント (シフラ)
5246	C・ディフィシル(クロストリジウム・ディフィシル)(培養・目的菌)	J-2	—				
5302	C・ディフィシル毒素(クロストリジウム・ディフィシル毒素)	J-4	80	D012-12	免疫		クロストリジウム・ディフィシル抗原定性
0745 0654	C-ペプチド (CPR) 〈血清〉〈尿〉	B-6	114	D008-12	生化Ⅱ	■	C-ペプチド (CPR)
D 0009	D-Bil (直接ビリルビン)	A-1	11	D007-1	生化Ⅰ	□	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン
1635	DHEA-S(デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)	B-4	176	D008-32	生化Ⅱ	■	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体 (DHEA-S)
3968	DHT (5 α -ジヒドロテストステロン)	B-7	—				
4991他	DLST (薬剤によるリンパ球刺激試験)	G-1	345	D016-7	免疫		リンパ球刺激試験 (LST) イ1薬剤
2513	DOC (11-デオキシコルチコステロン)	B-4	—				
1034	DUPAN-2	C-1	121	D009-5	生化Ⅱ	◇	DUPAN-2
1895	DPD (デオキシピリジノリン)	B-3	191	D008-35	生化Ⅱ	■	デオキシピリジノリン (DPD) (尿)
1136	D-ダイマー 《定量》	I-3	137	D006-17	血液	▽	Dダイマー
E 0736	E ₂ (エストラジオール)	B-6	182	D008-34	生化Ⅱ	■	エストラジオール (E ₂)
0637	EBV-DNA定量	E-3	—				
0675	EBV-EADR-IgA 《FA》	E-9	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
0635	EBV-EADR-IgG 《FA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
0655	EBV-EADR-IgM 《FA》	E-9	—				
0636	EBV-EBNA 《FA》	E-9	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
0697	EBV-VCA-IgA 《FA》	E-9	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称	
E	0698 EBV-VCA-IgG《FA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	
	0696 EBV-VCA-IgM《FA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)	
	2864 eGFR(推算糸球体濾過量)	A-6	—					
	0876 EPO(エリスロポエチン)	B-8	209	D008-38	生化II	■	エリスロポエチン	
	0355 ESR(血沈・赤沈)	I-1	—					
F	2678 F1+2(プロトロンビンフラグメントF1+2)	I-4	193	D006-27	血液	▽	プロトロンビンフラグメントF1+2	
	0029 F-Cho(遊離コレステロール)	A-4	11	D007-1	生化I	□	遊離コレステロール	
	0353 FDP(血漿)	I-3	80	D006-11	血液		フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)定量	
	0354 FDP(尿)	I-3	72	D001-7	尿・便		フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)(尿)	
	0052 Fe(鉄)	A-10	11	D007-1	生化I	□	鉄(Fe)	
	0338 FIB(フィブリノーゲン)	I-3	23	D006-4	血液		フィブリノゲン定量	
	0703 FSH(卵巣刺激ホルモン)	B-1	114	D008-12	生化II	■	卵巣刺激ホルモン(FSH)	
	0563 FT ₃ (遊離トリヨードサイロニン)	B-2	130	D008-14	生化II	■	遊離トリヨードサイロニン(FT ₃)	
	0242 FT ₄ (遊離サイロキシン)	B-2	130	D008-14	生化II	■	遊離サイロキシン(FT ₄)	
	0224 FTA-ABS《定性》	F-1	142	D012-22	免疫		梅毒トレポネーマ抗体(FTA-ABS試験)定性	
	4162 FTA-ABS《定量》	F-1	142	D012-22	免疫		梅毒トレポネーマ抗体(FTA-ABS試験)半定量	
	0692 FTA-ABS-IgM《定性》	F-1	142	D012-22	免疫		梅毒トレポネーマ抗体(FTA-ABS試験)定性	
	4164 FTA-ABS-IgM《定量》	F-1	142	D012-22	免疫		梅毒トレポネーマ抗体(FTA-ABS試験)半定量	
	G	1278 GA(グリコアルブミン)	A-6	55	D007-18	生化I		グリコアルブミン
		0701 GH(成長ホルモン)	B-1	114	D008-12	生化II	■	成長ホルモン(GH)
0055 GLU(血糖)(グルコース)		A-6	11	D007-1	生化I	□	グルコース	
0017 GOT(AST)		A-1	17	D007-3	生化I	□	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)	
0018 GPT(ALT)		A-1	17	D007-3	生化I	□	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	
H	1108 hANP(ヒト心房性Na利尿ポリペプチド)	B-8	227	D008-43	生化II	■	心房性Na利尿ペプチド(ANP)	
	0303 Hb(血色素量)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査	
	0189 HbA1c(ヘモグロビンA1c)	A-6	49	D005-9	血液		ヘモグロビンA1c(HbA1c)	
	3985 0847 HBc抗体《PHA》《CLIA》	E-1	141	D013-6	免疫	△	HBc抗体半定量・定量	
	0845 HBe抗原	E-1	107	D013-4	免疫	△	HBe抗原	
	0846 HBe抗体	E-1	107	D013-4	免疫	△	HBe抗体	
	0843 HBs抗原	E-1	88	D013-3	免疫	△	HBs抗原	
	0844 HBs抗体	E-1	88	D013-3	免疫	△	HBs抗体	
	0209 HBs抗原《定性》	E-1	29	D013-1	免疫		HBs抗原定性・半定量	
	0210 HBs抗体《定性》	E-1	32	D013-2	免疫		HBs抗体定性	
	3987 HBVゲノタイプ《EIA》	E-2	340	D013-14	免疫	△	HBVジェノタイプ判定	
	2698 HBVプレコア変異及びコアプロモーター変異	E-1	450	D023-12	微生物		HBV核酸プレコア変異及びコアプロモーター変異検出	
	1813 HBV-DNA定量/リアルタイムPCR(IU)	E-2	279	D023-3	微生物		HBV核酸定量	
	3964 3965 HCG(ヒト絨毛性ゴナドトロピン)〈血清〉〈尿〉	B-6	142	D008-20	生化II	■	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量	
	0672 3963 HCG-βサブユニット〈血清〉〈尿〉	B-6	140	D008-18	生化II	■	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)	
	1805 HCV-RNA定量/リアルタイムPCR	E-2	437	D023-11	微生物		HCV核酸定量	
	1811 HCVコア蛋白-HS	E-2	111	D013-5	免疫	△	HCVコア蛋白	
	1281 HCV抗体	E-2	111	D013-5	免疫	△	HCV抗体定性・定量	
	1247 HCVサブタイプ解析(HCV-RNAジェノタイプ)	E-2	—					
	1374 HCV群別(グループ分類)	E-2	233	D013-11	免疫	△	HCV血清群別判定	
	0036 HDLコレステロール(HDL-Cho)	A-4	17	D007-3	生化I	□	HDL-コレステロール	
9992 HER2蛋白定量〈血清〉	C-2	320	D009-29	生化II	◇	HER2蛋白		

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称
H	9991 HER2蛋白定量〈組織〉	L-1	690	N002-3	病理		免疫染色(免疫抗体法) 病理組織標本作製 HER2タンパク
	4531 H-FABP(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	F-5	143	D007-38	生化I		心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP) 定量
	0780 1427 Hg(水銀)〈血液〉〈尿〉	A-11	—				
	1372 HGF(肝細胞増殖因子)	B-8	227	D007-53	生化I		肝細胞増殖因子(HGF)
	0560 HIV-抗原・抗体	E-2	118	D012-17	免疫		HIV-1, 2抗原・抗体同時測定定性
	0561 HIV-1抗体《確認試験》	E-2	280	D012-45	免疫		HIV-1抗体(ウエスタンブロット法)
	0562 HIV-2抗体《確認試験》	E-2	380	D012-47	免疫		HIV-2抗体(ウエスタンブロット法)
	1806 HIV-1RNA定量/リアルタイムPCR	E-2	520	D023-13	微生物		HIV-1核酸定量
	2959 HLA-A, B(血清対応型タイピング)	H-4	—				
	2960 HLA-DR(血清対応型タイピング)	H-4	—				
	0710 Hp(ハプトグロビン)	F-5	140	D015-14	免疫		ハプトグロビン(型補正を含む。)
	0742 HPL(ヒト胎盤性ラクトジェン)	B-6	140	D008-18	生化II	■	ヒト胎盤性ラクトージェン(HPL)
	1250 HPV-DNA同定《中〜高リスク型》	E-3	360	D023-8	微生物		HPV核酸検出
	4159 HPV-DNA同定《低リスク型》	E-3	—				
	1060 HS-PTH(高感度PTH)	B-2	175	D008-31	生化II	■	副甲状腺ホルモン(PTH)
	0821 HSV(単純ヘルペス)《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)
	1028 1029 HSV(単純ヘルペス)1型・2型《NT》	E-4	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(1項目当たり)
	1172 HSV(単純ヘルペス)IgG《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)
	1173 HSV(単純ヘルペス)IgM《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1項目当たり)
	0304 Ht(ヘマトクリット値)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査
	0578 HTLV-I抗体(ATLA)《CLIA》	E-2	173	D012-30	免疫		HTLV-I抗体
	2687 HTLV-I抗体(ATLA)《PA》	E-2	85	D012-13	免疫		HTLV-I抗体半定量
	2527 HTLV-I抗体(ATLA)《確認試験》	E-2	425	D012-49	免疫		HTLV-I抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)
	3348 3311 4532 HVA(ホモバニリン酸)	B-5	69	D008-3	生化II		ホモバニリン酸(HVA)
I	0014 ICG(インドサイアニンググリーン)	A-12	(100)	D289-2	—		その他の機能テスト 肝機能テスト
	0792 IgA	F-10	38	D015-4	免疫		免疫グロブリン
	0794 IgD	F-10	38	D015-4	免疫		免疫グロブリン
	3001他 IgE(特異的IgE/シングルアレルゲン)	F-11	110	D015-12	免疫		特異的IgE半定量・定量
	3577他 IgE(特異的IgE/マルチアレルゲン)	F-11	110	D015-12	免疫		特異的IgE半定量・定量
	0795 IgE(非特異的IgE)	F-11	100	D015-10	免疫		非特異的IgE定量
	0791 IgG	F-10	38	D015-4	免疫		免疫グロブリン
	4701 IgG-FcR+・T細胞百分率	G-1	204	D016-4	免疫		T細胞・B細胞百分率
	1709 IgG型リウマチ因子(IgG-RF)	F-6	203	D014-22	免疫		IgG型リウマトイド因子
	1912 IgG4	F-10	377	D014-38	免疫		IgG4
	0793 IgM	F-10	38	D015-4	免疫		免疫グロブリン
	0842 IgG・HA抗体	E-1	146	D013-8	免疫	△	HA抗体
	0841 IgM・HA抗体	E-1	146	D013-8	免疫	△	HA-IgM抗体
	0656 IgM・HBc抗体	E-1	146	D013-8	免疫	△	HBc-IgM抗体
	0150 IRI(インスリン)	B-6	109	D008-10	生化II		インスリン(IRI)
K	0046 0176 K(カリウム)〈血清〉〈蓄尿〉	A-10	11	D007-1	生化I	□	カリウム
	2811 KL-6	A-6	117	D007-30	生化I		KL-6
L	0023 LAP(ロイシンアミノペプチダーゼ)	A-2	11	D007-1	生化I	□	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)
	0089 LD〈穿刺液〉	K-3	11	D007-1	生化I	□	乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)
	0019 LD(乳酸脱水素酵素)	A-1	11	D007-1	生化I	□	乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)
	0755 LDアイソザイム	A-3	48	D007-15	生化I		LDアイソザイム

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
L	1166 LDL/HDL比	A-4	—				
	1161 LDLコレステロール (LDL-Cho)	A-4	18	D007-4	生化 I	<input type="checkbox"/>	LDL-コレステロール
	0702 LH (黄体形成ホルモン)	B-1	114	D008-12	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	黄体形成ホルモン (LH)
	0859 Li (リチウム)	D-1	特	B001-2			特定薬剤治療管理料
	4237 LMAb (抗肝細胞膜抗体)	F-8	—				
	1238 Lp (a) (リポ蛋白 (a))	A-4	107	D007-26	生化 I		リポ蛋白 (a)
	2506 L-ドーパ	D-2	—				
M	5907 MAC/リアルタイムPCR	J-3	421	D023-10	微生物		マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセラー (MAC) 核酸検出
	5903 MAC同定	J-3	421	D023-9	微生物		マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセラー (MAC) 核酸検出
	4986 Major BCR-ABL1 mRNA (IS)	H-2	2520	D006-3	血液		Major BCR-ABL1
	3933 MAST 36	F-11	1430	D015-11	免疫		特異的IgE半定量・定量
	1704 MBP (ミエリン塩基性蛋白)	F-10	593	D004-11	尿・便		ミエリン塩基性蛋白 (MBP) (髄液)
	0306 MCH (平均赤血球血色素量)	I-1	—				
	0307 MCHC (平均赤血球血色素濃度)	I-1	—				
	0305 MCV (平均赤血球容積)	I-1	—				
	0050 0127 Mg (マグネシウム) (血清) (蓄尿)	A-10	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>	マグネシウム
	0187 m-AST (ミトコンドリアーAST)	A-3	49	D007-16	生化 I		ASTアイソザイム
	3826 MLC (リンパ球混合培養)	H-4	—				
	2953 MMP-3	F-6	116	D014-7	免疫		マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)
	0017 0318 Mn (マンガン) (血液) (血清) (尿)	A-11	27	D007-8	生化 I	<input type="checkbox"/>	マンガン (Mn)
	1804 MPO-ANCA (P-ANCA、抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	F-8	273	D014-31	免疫		抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)
	5304 MRSAスクリーニング	J-4	—				
	0531 MRSA (培養・目的菌)	J-2	—				
	N	0045 0175 Na (ナトリウム) (血清) (蓄尿)	A-10	11	D007-1	生化 I	<input type="checkbox"/>
1048 NCC-ST-439		C-1	121	D009-5	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	NCC-ST-439
0043 NH ₃ (アンモニア)		A-7	50	D007-17	生化 I		アンモニア
2921 Ni (ニッケル)		A-11	—				
2589 NK細胞活性		G-1	—				
0674 NSE (神経特異エノラーゼ)		C-2	146	D009-10	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	神経特異エノラーゼ (NSE)
1765 NT-proBNP (脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)		B-8	140	D008-18	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)
3997 1891 NTx (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) (血清) (尿)		B-3	156	D008-23	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)
0118 N-アセチルβ-D-グルコサミニダーゼ (尿NAG)		A-2	41	D001-5	尿・便		N-アセチルグルコサミニダーゼ (NAG) (尿)
1081 N-メチルホルムアミド		A-13	—				
P		0049 0126 P (無機リン) (血清) (蓄尿)	A-10	17	D007-3	生化 I	<input type="checkbox"/>
	3969 P ₂ (プレグナンジオール)	B-6	213	D008-39	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	プレグナンジオール
	3970 P ₃ (プレグナントリオール)	B-6	240	D008-45	生化 II	<input checked="" type="checkbox"/>	プレグナントリオール
	1039 P-III-P (プロコラーゲンIIIペプチド)	F-5	140	D007-37	生化 I		プロコラーゲン-III-ペプチド (P-III-P)
	0878 PABA排泄率 (PFDテスト)	A-12	(100)	D289-1	—		その他の機能テスト 膵機能テスト
	1134 PA-IgG (血小板表面IgG)	F-7	204	D011-6	免疫		血小板関連IgG (PA-IgG)
	1804 P-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体、MPO-ANCA)	F-8	273	D014-31	免疫		抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)
	0472 PAS染色 (血液)	I-2	27	D005-6(注)	血液		末梢血液像 (鏡検法) (注) 特殊染色を併せて行った場合の加算 (特殊染色ごとに)
	0467 PAS染色 (骨髄液)	I-2	40	D005-14(注)	血液		骨髄像 (注) 特殊染色を併せて行った場合の加算 (特殊染色ごとに)
	0781 Pb (鉛)	A-11	—				
	0893 PCT (プロカルシトニン)	F-2	301	D007-58	生化 I		プロカルシトニン (PCT) 定量
	0346 PF-4 (血小板第4因子)	I-4	178	D006-25	血液	<input checked="" type="checkbox"/>	血小板第4因子 (PF4)

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称	
P	0878 PFDテスト (PABA排泄率)	A-12	(100)	D289-1	—		その他の機能テスト 脾機能テスト	
	4457 PG (ペプシノゲン)	A-14	—					
	0818 PHAによるリンパ球幼若化検査	G-1	345	D016-7	免疫		リンパ球刺激試験 (LST) イ1薬剤	
	1139 PIC(α_2 プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	I-4	162	D006-22	血液	▽	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 (PIC)	
	1279 PIVKA-II《CLEIA》	I-3	143	D006-19	血液	▽	PIVKA-II	
	1043 PIVKA-II《CLIA》	C-2	143	D009-9	生化II	◇	PIVKA-II定量	
	0033 PL (リン脂質)	A-3	15	D007-2	生化I	□	リン脂質	
	0349 PLG (プラスミノゲン)《活性》	I-4	100	D006-13	血液		プラスミノゲン活性	
	2674 PLG (プラスミノゲン)《抗原量》	I-4	100	D006-13	血液		プラスミノゲン抗原	
	0308 PLT (血小板数)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査	
	1788 PR3-ANCA(C-ANCA、抗好中球細胞質抗体)	F-8	275	D014-32	免疫		抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体 (PR3-ANCA)	
	0722 PRA (血漿レニン活性)	B-3	100	D008-7	生化II		レニン活性	
	2601 PRC (レニン濃度)	B-3	111	D008-11	生化II		レニン定量	
	0069 PR-F (蛋白分画)	A-1	18	D007-4	生化I	□	蛋白分画	
	0706 PRL (プロラクチン)	B-1	98	D008-6	生化II		プロラクチン (PRL)	
	1768 Pro-GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	C-2	175	D009-22	生化II	◇	ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)	
	0569 PSA (前立腺特異抗原)	C-2	130	D009-8	生化II	◇	前立腺特異抗原 (PSA)	
	2723 PSA-ACT	C-2	130	D009-8	生化II	◇	前立腺特異抗原 (PSA)	
	4520 PSAフリー／トータル比	C-2	158	D009-15	生化II	◇	遊離型PSA比 (PSA F/T比)	
	0585 PSAタンデム	C-2	130	D009-8	生化II	◇	前立腺特異抗原 (PSA)	
	0336 PT (プロトロンビン時間)	I-3	18	D006-2	血液		プロトロンビン時間 (PT)	
	1787 PTH-intact (副甲状腺ホルモン-intact)	B-2	175	D008-31	生化II	■	副甲状腺ホルモン (PTH)	
	1253 PTHrP-intact (副甲状腺ホルモン関連蛋白-intact)	B-2	194	D008-36	生化II	■	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	
	0183 0184 P型アミラーゼ(膵型アミラーゼ)〈血清〉〈尿〉	A-3	48	D007-15	生化I		アミラーゼアインザイム	
	R	3821 RAS 遺伝子変異解析	H-3	2500	D004-2	尿・便		悪性腫瘍組織検査 イ RAS遺伝子
		0203 RF (リウマトイド因子) 定性	F-6	—				
		0263 RF (リウマトイド因子) 定量	F-6	30	D014-2	免疫		リウマトイド因子 (RF) 定量
		0302 RBC (赤血球数)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査
		1270 RBP (レチノール結合蛋白)	A-9	136	D015-13	免疫		レチノール結合蛋白 (RBP)
		0381 Ret (網状赤血球数)	I-1	12	D005-2	血液		網赤血球数
0226 Rh- (D) 因子		F-9	24	D011-1	免疫		Rh (D) 血液型	
0330 R-Hg (赤血球像)		I-2	—					
0257 Rh-Hr式血液型		F-9	156	D011-3	免疫		Rh (その他の因子) 血液型	
1230 RLP-コレステロール(レムナント様リポ蛋白-コレステロール)		A-4	189	D007-46	生化I		レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C)	
0267 RPR定性 (梅毒定性)		F-1	15	D012-1	免疫		梅毒血清反応 (STS) 定性	
0269 RPR定量 (梅毒定量)		F-1	34	D012-5	免疫		梅毒血清反応 (STS) 定量	
0895 RSウイルス《CF》		E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)	
1058 RSウイルス《NT》		E-4	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)	
S		1809 SAAP (血清アミロイドA蛋白)	F-4	47	D015-6	免疫		血清アミロイドA蛋白 (SAA)
		0666 SCC抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	C-2	110	D009-4	生化II	◇	扁平上皮癌関連抗原 (SCC)
		2910 2909 Se (セレン)〈血液〉〈血清〉	A-11	144	D007-39	生化I		セレン
	1798 sIL-2R (可溶性インターロイキン-2レセプター)	G-2	438	D009-30	生化II	◇	可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	
	1041 SLX (シアリルLe ^x -i抗原)	C-1	152	D009-14	生化II	◇	シアリルLe ^x -i抗原 (SLX)	
	1200他 Sm-Ig (B細胞表面グロブリン)	G-1	161	D016-1	免疫		B細胞表面免疫グロブリン	
	1886 SP-A (肺サーファクタント蛋白A)	F-5	130	D007-35	生化I		肺サーファクタント蛋白-A (SP-A)	
	1889 SP-D (肺サーファクタント蛋白D)	F-5	136	D007-36	生化I		肺サーファクタント蛋白-D (SP-D)	

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料区分	包括	保険収載名称
S	1158 SPan1	C-1	146	D009-10	生化Ⅱ	◇	SPan-1
	1213 STN (シアリルTn-抗原)	C-1	146	D009-10	生化Ⅱ	◇	シアリルTn抗原 (STN)
T	0171 T ₃ (トリヨードサイロニン)	B-2	105	D008-8	生化Ⅱ		トリヨードサイロニン (T ₃)
	0172 T ₄ (総サイロキシシン)	B-2	111	D008-11	生化Ⅱ		サイロキシシン (T ₄)
	3000 TAP-18	F-11	1430	D015-12	免疫		特異的IgE半定量・定量
	2995 TARC	F-11	189	D015-19	免疫		TARC
	1055 TAT(トロンビン・アンチトロンビン複合体)	I-4	186	D006-26	血液	▽	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)
	0191 TBA (総胆汁酸)	A-4	47	D007-14	生化Ⅰ		胆汁酸
	0712 TBG (サイロキシシン結合グロブリン)	B-2	130	D008-14	生化Ⅱ	■	サイロキシシン結合グロブリン (TBG)
	0008 T-Bil (総ビリルビン)	A-1	11	D007-1	生化Ⅰ	□	総ビリルビン
	0028 T-Cho (総コレステロール)	A-4	17	D007-3	生化Ⅰ	□	総コレステロール
	0766 Tf (トランスフェリン)〈血清〉	F-4	60	D015-7	免疫		トランスフェリン (Tf)
	1242 Tf (トランスフェリン)〈尿〉	F-4	107	D001-9	尿・便		トランスフェリン (尿)
	0639 Tg (サイログロブリン)	B-2	137	D008-17	生化Ⅱ	■	サイログロブリン
	0032 TG (中性脂肪)	A-3	11	D007-1	生化Ⅰ	□	中性脂肪
	1031 Tg-Ab (抗サイログロブリン抗体)	B-2	144	D014-9	免疫	▲	抗サイログロブリン抗体
	0053 TIBC (総鉄結合能)	A-10	11	D007-1	生化Ⅰ	□	総鉄結合能 (TIBC) (比色法)
	1793 TK (チミジンキナーゼ活性)	A-2	233	D005-12	血液		デオキシチミジンキナーゼ(TK)活性
	2559 2560 TM(トロンボモジュリン)〈血清〉〈血漿〉	I-4	205	D006-28	血液	▽	トロンボモジュリン
	4463 total P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	B-3	170	D008-30	生化Ⅱ		I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (P1NP)
	0001 TP (総蛋白)	A-1	11	D007-1	生化Ⅰ	□	総蛋白
	0646 TPA (組織ポリペプチド抗原)	C-2	110	D009-4	生化Ⅱ	◇	組織ポリペプチド抗原 (TPA)
	0268 TPLA定性 (梅毒定性)	F-1	32	D012-4	免疫		梅毒トレポネーマ抗体 定性
	0270 TPLA定量 (梅毒定量)	F-1	53	D012-6	免疫		梅毒トレポネーマ抗体 定量
	1258 TPO-Ab (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	B-2	146	D014-10	免疫	▲	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
	1021 TRAb (TSHレセプター抗体) (第3世代)	B-2	232	D014-26	免疫		抗TSHレセプター抗体 (TRAb)
	1016 TRAb (TSHレセプター抗体)	B-2	232	D014-26	免疫		抗TSHレセプター抗体 (TRAb)
	2996 TRACP-5b (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ5b)	B-3	156	D008-23	生化Ⅱ	■	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ (TRACP-5b)
	1792 TAb(甲状腺刺激抗体)(TSH刺激性レセプター抗体)	B-2	340	D014-37	免疫		甲状腺刺激抗体 (TAb)
	0173 TSH (甲状腺刺激ホルモン)	B-1	107	D008-9	生化Ⅱ		甲状腺刺激ホルモン (TSH)
	1021 TSHレセプター抗体 (TRAb) (第3世代)	B-2	232	D014-26	免疫		抗TSHレセプター抗体 (TRAb)
	1016 TSHレセプター抗体 (TRAb)	B-2	232	D014-26	免疫		抗TSHレセプター抗体 (TRAb)
	0337 TT (トロンボテスト)	I-3	18	D006-2	血液		トロンボテスト
	0004 TTT (チモール混濁反応)	A-1	—				
	4841他 Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	G-1	—				
	0813 T細胞・B細胞百分率	G-1	204	D016-4	免疫		T細胞・B細胞百分率
	3760 T細胞レセプターβ鎖Cβ1再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成
	3761 T細胞レセプターβ鎖Jβ1再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成
	3762 T細胞レセプターβ鎖Jβ2再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成
3763 T細胞レセプターγ鎖Jγ再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成	
3764 T細胞レセプターδ鎖Jδ1再構成	H-2	2504	D006-6	血液		免疫関連遺伝子再構成	
U	0041 0065 UA (尿酸) 〈血清〉〈蓄尿〉	A-6	11	D007-1	生化Ⅰ	□	尿酸
	0054 UIBC (不飽和鉄結合能)	A-11	11	D007-1	生化Ⅰ	□	不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)
V	3941 View アレルギ-39	F-11	1430	D015-12	免疫		特異的IgE半定量・定量
	3923 3928 0849 VMA (バニルマンデル酸)	B-5	90	D008-4	生化Ⅱ		バニルマンデル酸 (VMA)

	コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
V	0822	VZV (水痘・帯状ヘルペスウイルス)《CF》	E-7	79	D012-11	免疫		ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり)
	1019	VZV(水痘・帯状ヘルペスウイルス)IgG《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
	1020	VZV(水痘・帯状ヘルペスウイルス)IgM《EIA》	E-9	218	D012-38	免疫		グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)
W	0301	WBC (白血球数)	I-1	21	D005-5	血液		末梢血液一般検査
	0318	W-Hg (白血球像)	I-2	15	D005-3	血液		末梢血液像 (自動機械法)
	0715	whole PTH (副甲状腺ホルモンwhole)	B-2	175	D008-31	生化II	■	副甲状腺ホルモン (PTH)
X	3737	X染色体 (先天異常)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	3752	X染色体 (血液疾患)	H-2	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
Y	4951	Y染色体 (先天異常)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	3753	Y染色体 (血液疾患)	H-2	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
Z	0573 2908	Zn (亜鉛) (血清) (尿)	A-11	144	D007-39	生化I		亜鉛 (Zn)
	0005	ZTT (硫酸亜鉛混濁反応)	A-1	—				
α	2548	α ₁ -アシドグリコプロテイン (α ₁ -AG)	F-4	—				
	1790	α ₁ アンチトリプシン (α ₁ AT)	F-4	80	D006-11	血液		α ₁ -アンチトリプシン
	1171 4198	α ₁ マイクログロブリン (α ₁ -MG) (AMG) (血清) (尿)	F-4	140	D015-14	免疫		α ₁ -マイクログロブリン
	0350	α ₂ PI (α ₂ プラスミンインヒビター) (アンチプラスミン) (活性)	I-4	131	D006-15	血液	▽	プラスミンインヒビター (アンチプラスミン)
	1139	α ₂ プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC)	I-4	162	D006-22	血液	▽	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 (PIC)
	2549	α ₂ マクログロブリン	F-4	138	D006-18	血液	▽	α ₂ -マクログロブリン
	0169	α-フェトプロテイン (AFP)	C-1	107	D009-3	生化II	◇	α-フェトプロテイン (AFP)
β	0804	β ₁ C / β ₁ A グロブリン (C3)	F-5	70	D015-8	免疫		C3
	0852	β ₁ E グロブリン (C4)	F-5	70	D015-8	免疫		C4
	0771 0772	β ₂ マイクログロブリン (β ₂ -MG) (BMG) (血清) (尿)	F-4	107	D015-11	免疫		β ₂ -マイクログロブリン
	2504	β-カロチン	A-9	—				
	1236	β-トロンボグロブリン (β-TG)	I-4	177	D006-24	血液	▽	β-トロンボグロブリン (β-TG)
γ	0020	γ-GT (γ-グルタミルトランスペプチダーゼ)	A-1	11	D007-1	生化I	□	γ-グルタミルトランスフェラーゼ (γ-GT)
	0597	γ-Sm (γ-セミノプロテイン)	C-2	194	D009-25	生化II	◇	γ-セミノプロテイン (γ-Sm)
δ	0708	δ-ALA (δ-アミノレブリン酸)	A-10	112	D001-11	尿・便		δアミノレブリン酸 (δ-ALA) (尿)
1	1846	I型コラーゲンCテロペプチド (ICTP)	C-2	170	D009-21	生化II	◇	I型コラーゲン-C-テロペプチド (ICTP)
	3997 1891	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) (血清) (尿)	B-3	156	D008-23	生化II	■	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)
	4463	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (total P1NP)	B-3	170	D008-30	生化II		I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (P1NP)
	1033	1,25-(OH) ₂ ビタミンD	A-9	388	D007-61	生化I		1,25-ジヒドロキシビタミンD ₃
	2700	(1→3)-β-D-グルカン	F-2	213	D012-37	免疫		(1→3)-β-D-グルカン
	1146	1,5-AG (1,5-アンヒドログルシトール)	A-6	80	D007-22	生化I		1, 5-アンヒドロ-D-グルシトール (1, 5AG)
	2513	11-デオキシコルチコステロン (DOC)	B-4	—				
	3751	12染色体 (血液疾患)	H-2	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	3734	13染色体 (先天異常)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	3741	15染色体 (アンジェルマン症候群)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	3740	15染色体 (プラダー-ウイリ症候群)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	0731	17-ケトジェニックスステロイド・総 (17-KGS)	B-4	200	D008-37	生化II	■	17-ケトジェニックスステロイド (17-KGS)

コードNo.	検査項目名	頁数	実施料	区分番号	判断料 区分	包括	保険収載名称
1	2514 17-ケトジェニックスステロイド分画(17-KGS分画)	B-4	220	D008-40	生化Ⅱ	■	17-ケトジェニックスステロイド分画(17-KGS分画)
	1914 17-ケトステロイド分画(17-KS分画) 3分画	B-4	213	D008-39	生化Ⅱ	■	17-ケトステロイド分画(17-KS分画)
	2517 17-ケトステロイド分画(17-KS分画) 7分画	B-4	213	D008-39	生化Ⅱ	■	17-ケトステロイド分画(17-KS分画)
	3742 17染色体 (ミラーディカー症候群)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	3735 18染色体 (先天異常)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
2	1082 2,5-ヘキサシジオン	A-13	—				
	3736 21染色体 (先天異常)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	3743 22染色体 (22q11欠失)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
	1188 25-OHビタミンD (Total)	A-9	400	D007-62	生化Ⅰ		25-ヒドロキシビタミンD
	1189 25-OHビタミンD分画 (ビタミンD分画)	A-9	—				
4	4199 IV型コラーゲン	F-5	143	D007-38	生化Ⅰ		IV型コラーゲン
5	2657 5-FU (5-フルオロウラシル)	D-3	—				
	0721 5-HIAA(5-ヒドロキシインドール酢酸)〈蓄尿〉	B-5	95	D008-5	生化Ⅱ		5-ヒドロキシインドール酢酸(5-HIAA)
	3968 5 α -ジヒドロテストステロン (DHT)	B-7	—				
	2657 5-フルオロウラシル (5-FU)	D-3	—				
7	3739 7染色体 (ウイリアムズ症候群)	H-1	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算
8	3750 8染色体 (血液疾患)	H-2	2631+397	D006-5+注	血液		染色体検査 (すべての費用を含む。) 十分染法加算

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
蛋 白									
0001	総蛋白 (TP)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	ビュレット法	6.7~8.3 g/dL	11 生化 I	※1 溶血血清では高値を示す 場合があります。	1 2
0002	アルブミン (Alb)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	BCP改良法	3.8~5.3 g/dL	11 生化 I	※1	1 2
0003	アルブミン/グロブリン比 (A/G)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	ビュレット・ BCP改良法	1.3~2.0			1 2
0069	蛋白分画 (PR-F)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	電気泳動法	下表参照	% 18 生化 I	※1	1 2

膠 質 反 応

0004	チモール混濁反応 (TTT)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	日本消化器病学会 肝機能研究班推奨法	0.0~5.0 U		溶血、乳ビ血清では高値を 示す場合があります。	1 2
0005	硫酸亜鉛混濁反応 (ZTT)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	日本消化器病学会 肝機能研究班推奨法	2.5~12.0 U		溶血、乳ビ血清では高値を 示す場合があります。	1 2

色 素

0008	総ビリルビン (T-Bil)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	パナジン酸化法	0.2~1.0 mg/dL	11 生化 I	溶血、乳ビ血清は検査不可に なる場合があります。	1 2
0009	直接ビリルビン (D-Bil)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	パナジン酸化法	0.0~0.4 mg/dL	11 生化 I	溶血、乳ビ血清は検査不可に なる場合があります。	1 2

酵 素

0016	アルカリフォスファターゼ (ALP)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	JSCC標準化対応法	104~338 U/L	11 生化 I		1 2
1892	骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	CLEIA	μg/L F (閉経前) 3.7~20.9 (閉経後) 3.8~22.6	161 生化 II	※2	4 7
0017	AST (GOT)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	JSCC標準化対応法	8~38 U/L	17 生化 I	溶血血清では高値を示す 場合があります。	1 2
0018	ALT (GPT)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	JSCC標準化対応法	4~43 U/L	17 生化 I		1 2
0019	乳酸脱水素酵素 (LD)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	JSCC標準化対応法	106~245 U/L	11 生化 I	溶血血清では高値を示す 場合があります。	1 2
0020	γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γ-GT)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	JSCC標準化対応法	M 79以下 F 48以下 U/L	11 生化 I		1 2

※1 蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

※2 骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)、インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact PINP)、I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (PINP) 及びALPアイソザイム (PAG電気泳動法) のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

蛋白分画 (%)

ALB	α1	α2	β	γ	A/G
60.2~71.4	1.9~3.3	5.7~9.7	6.9~10.7	10.5~20.3	1.51~2.50

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
酵 素								
0022	コリンエステラーゼ (Ch-E)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	JSCC標準化対応法	M 235~494 F 196~452	U/L 11 生化 I		1 2
0023	ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	L-ロイシン-P-ニトロアリニド基質法	30~70	U/L 11 生化 I		1 2
0024	クレアチンキナーゼ (CK)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	JSCC標準化対応法	M 56~244 F 43~165	U/L 11 生化 I		1 2
0042	アミラーゼ (Amy)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	JSCC標準化対応法	37~125	U/L 11 生化 I		1 2
0074		〈尿〉	e 尿 0.5	JSCC標準化対応法	50~500	U/L 11 生化 I	蓄尿：コード0090 基準値 4.4~34.0 U/h	1 2
0808	リパーゼ	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	比色法	13~49	U/L 24 生化 I		5 7
1233	腓ホスホリパーゼA ₂ (腓PLA ₂)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (固相法)	130~400	ng/dL 204 生化 I		3 6
0592	トリプシン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ELISA	100~550	ng/mL 189 ※1 生化 I		3 6
0027	アルドラーゼ (ALD)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	UV法	2.7~5.9	U/L 11 生化 I	溶血血清では高値を示す場合があります。	4 5
0118	尿NAG (N-アセチルβ-D-グルコサミニダーゼ)	e	尿 0.5	比色法 (合成基質法)	11.3以下	U/L 41 尿・便		1 2
0642	リゾチーム (ムラミダーゼ)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	比濁法	4.2~11.5	μg/mL		4 7
2741		〈尿〉	e 尿 1.0		1.0未満 (検出限界値)	μg/mL		4 7
0676	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	5.0~20.0	U/L 32 生化 I		4 6
1414		〈胸水〉	e 胸水 0.5		U/L 32 生化 I		4 6	
1793	チミジンキナーゼ活性 (TK)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	7.5以下	U/L 233 ※2 血液		3 6
1040	グアナーゼ	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	0.4~0.8	IU/L 35 生化 I		6 11

※1 トリプシンとPSTIを同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定する。

※2 デオキシチミジンキナーゼ(TK)活性は、造血器腫瘍の診断又は治療効果判定のために行った場合に算定する。

A



e



A 汎用試験管
分離剤
e 滅菌スピッツ管

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
-----------	------	----------	---------------	-------------	------	-----	------------	----	----------

アイソザイム関連

0755	LDアイソザイム	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	アガロース 電気泳動法	LDH ₁ 21~31 LDH ₂ 28~35 LDH ₃ 21~26 LDH ₄ 7~14 LDH ₅ 5~13	48 生化 I	溶血での依頼は避けて下さい。 (溶血の場合LDH1,2,3の上昇 が考えられます。)	3 ~ 5
0756	ALPアイソザイム	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	アガロース 電気泳動法	ALP ₂ 36~74 ALP ₃ 25~59 ALP ₅ 0~16	48 生化 I		3 ~ 5
0757	アミラーゼ アイソザイム (Amyアイソザイム)	〈血清〉 A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	アガロース 電気泳動法	Total-S 36.0~84.3 Total-P 15.7~64.0	48 生化 I		3 ~ 5
1460		〈尿〉 e	尿 0.5	Total-S 17.7~61.3 Total-P 38.7~82.3		48 生化 I			
0183	P型アミラーゼ (腺型アミラーゼ)	〈血清〉 A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	免疫阻害法	18~53	48 生化 I		1 ~ 2
0184		〈尿〉 e	尿 0.5	33~407		48 生化 I			1 ~ 2
0759	CKアイソザイム	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	アガロース 電気泳動法	BB 0~2 MB 0~6 MM 93~99	55 生化 I	★:分離後 採血後、すみやかに血清 分離して下さい。	3 ~ 5
0682	CK-MB	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	LA	0.0~5.0	90 生化 I	★:分離後	1 ~ 2
0187	m-AST (ミトコンドリア-AST)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	プロテアーゼ法	0~7	49 生化 I		2 ~ 4

脂 質

0032	中性脂肪 (TG)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	酵素法 (遊離コレロール消去法)	30~149	11 生化 I	乳白血清では高値を示す 場合があります。	1 ~ 2
0033	リン脂質 (PL)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	酵素法	150~250	15 生化 I		1 ~ 2

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
0750	リポ蛋白分画	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	アガロースゲル電気泳動法	次頁参照	% 49 生化 I	食事による影響が大きいため早朝空腹時採血を厳守して下さい。凍結不可。	3 5
2753	リポ蛋白分画《PAG》	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ポリアクリルアミドゲルディスク電気泳動法	次頁参照	% 80 生化 I	凍結不可。	6 9
1238	リポ蛋白 (a) (Lp(a))	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	TIA	30以下	mg/dL 107 ※1 生化 I		3 4
1230	レムナント様リポ蛋白-コレステロール (RLP-C) (RLP-C)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	0.0~7.5	mg/dL 189 ※2 生化 I	糖尿病、冠動脈疾患等の動脈硬化高リスク症例においては、空腹時5.2mg/dL以上をハイリスクとする。凍結不可。	4 6
1096	アポ蛋白	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	TIA	M 119~155 F 126~165	1項目 31点 2項目 62点 3項目以上 94点 生化 I		2 4
1097					M 25.9~35.7 F 24.6~33.3			
1098					M 73~109 F 66~101			
1099					M 1.8~4.6 F 1.5~3.8			
1100					M 5.8~10.0 F 5.4~ 9.0			
1101					M 2.7~4.3 F 2.8~4.6			
0028	総コレステロール (T-Cho)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	130~219	mg/dL 17 ※3 生化 I		1 2
0029	遊離コレステロール (F-Cho)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	40~80	mg/dL 11 生化 I		1 2
0036	HDLコレステロール (HDL-Cho)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	直接酵素法	M 40~86 F 40~99	mg/dL 17 ※3 生化 I		1 2
1161	LDLコレステロール (LDL-Cho)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	直接酵素法	70~139	mg/dL 18 ※3 生化 I	10時間以上絶食後、採血して下さい。	1 2
1166	LDL/HDL比			計算法			LDLコレステロールとHDLコレステロールより算出するため両検査を同時にご依頼下さい。	1 2
0191	総胆汁酸 (TBA)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	10.0以下	μmol/L 47 生化 I		3 4
0749	グリココール酸 (CG)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (PEG法)	0~50	μg/dL 80 生化 I		5 6
2503	全脂質構成脂肪酸分画	A	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	LC-MS/MS	次頁参照	μg/mL, weight % 429 生化 II	血漿も検査可。脂肪酸名は次頁参照	15 22
4406	脂肪酸分画 (4成分)	I	血液 2.0 ⇨ 血漿 0.5	GC	次頁参照	μg/mL 429 生化 II	血清も検査可。	5 8

※1 リポ蛋白 (a) は、3月に1回を限度として算定できる。

※2 レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C) は、3月に1回を限度として算定できる。

※3 総コレステロール、LDL-コレステロール及びHDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。



A 汎用試験管
分離剤
e 滅菌スピッツ管
I ヘパリン試験管

リポ蛋白分画 (%)

	男性	女性
α	26.9~50.5	32.6~52.5
pre β	7.9~23.8	6.6~20.8
β	35.3~55.5	33.6~52.0

リポ蛋白分画 (PAG) (%)

	男性	女性
HDL	22~50	26~53
LDL	44~69	42~65
VLDL	5~20	4~17

全脂質構成脂肪酸分画

No.	脂肪酸名	略号	基準値	
			濃度 ($\mu\text{g}/\text{mL}$)	成分比 (weight %)
1	ラウリン酸	C12:0	4.2以下	0.16以下
2	ミリスチン酸	C14:0	8.2~40	0.33~1.17
3	ミリストレイン酸	C14:1 ω 5	3.4以下	0.10以下
4	パルミチン酸	C16:0	451~898	18.38~22.80
5	パルミトレイン酸	C16:1 ω 7	25~112	0.90~3.05
6	ステアリン酸	C18:0	164~306	6.30~9.10
7	オレイン酸	C18:1 ω 9	432~1069	17.53~26.82
8	リノール酸	C18:2 ω 6	697~1280	25.30~37.02
9	γ -リノレン酸	C18:3 ω 6	3.6~22	0.14~0.71
10	リノレン酸	C18:3 ω 3	10~41	0.31~1.06
11	アラキジン酸	C20:0	1.2~2.7	0.07以下
12	エイコセン酸	C20:1 ω 9	3.2~8.2	0.12~0.23
13	エイコサジエン酸	C20:2 ω 6	3.6~10	0.17~0.29
14	5-8-11 エイコサトリエン酸	C20:3 ω 9	1.2~5.4	0.17以下
15	ジホモ- γ -リノレン酸	C20:3 ω 6	23~72	0.92~2.24
16	アラキドン酸	C20:4 ω 6	142~307	4.86~9.42
17	エイコサペンタエン酸	C20:5 ω 3	12~112	0.36~3.42
18	ベヘニン酸	C22:0	1.3~2.6	0.08以下
19	エルシン酸	C22:1 ω 9	1.4以下	0.04以下
20	ドコサテトラエン酸	C22:4 ω 6	2.9~7.6	0.11~0.23
21	ドコサペンタエン酸	C22:5 ω 3	26~60	0.98~1.79
22	リグノセリン酸	C24:0	1.6~2.9	0.09以下
23	ドコサヘキサエン酸	C22:6 ω 3	51~185	1.69~5.55
24	ネルボン酸	C24:1 ω 9	2.1~4.0	0.13以下
T/T 比 (C20:3 ω 9/C20:4 ω 6)			0.02以下*	
EPA/AA 比 (C20:5 ω 3/C20:4 ω 6)			0.06~0.44*	

*: 単位なし

脂肪酸分画 (4成分) ($\mu\text{g}/\text{mL}$)

ジホモ- γ -リノレン酸	22.6~72.5
アラキドン酸	135.7~335.3
エイコサペンタエン酸	10.2~142.3
ドコサヘキサエン酸	54.8~240.3
EPA/AA 比	0.05~0.61
DHA/AA 比	0.27~1.07
(EPA+DHA)/AA 比	0.32~1.66

A



D



L



e

A 汎用試験管
分離剤D 血糖・HbA1c用試験管
フッ化Na、ヘパリンNaL 乳酸・ビリルビン酸用容器
除蛋白液1mL、0.8N過塩素酸

e 滅菌スピッツ管

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
糖 質								
0055	血糖 (グルコース) (GLU)	D	血漿 2.0	酵素法	70~109 mg/dL	11 生化 I		1 2
1146	1,5-アンヒドログルシトール (1,5-AG)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	14.0以上 μg/mL	80 ※1 生化 I		3 5
0189	ヘモグロビンA1c (HbA1c)	D	血液 2.0	酵素法	4.6~6.2 %	49 ※1 血液		1 2
1012	ヒアルロン酸	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	0.0~50.0 ng/mL	184 ※2 生化 I	肝硬変の判定基準 130ng/mL以上 (50~130ng/mLの 場合、肝の線維化が疑われます)	3 5
2811	KL-6	A	血液 1.0 ⇨ 血清 0.5	LA	500未満 U/mL	117 ※3 生化 I		2 4
0858	乳酸	L	血液 1.0 ⇨ 除蛋白上清 0.5	酵素法	3.7~16.3 mg/dL (空腹安静時)	47 生化 I	注1	3 5
1093	ピルビン酸	L	血液 1.0 ⇨ 除蛋白上清 0.5	酵素法	0.30~0.90 mg/dL (空腹安静時)	47 生化 I	注1	3 5
2821	クエン酸	〈血清〉	A 血液 4.5 ⇨ 血清 1.5	酵素法	1.3~2.6 mg/dL			4 10
2822		〈尿〉	e 尿 0.5		138~1010 mg/L			
1278	グリコアルブミン (GA)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	11.6~16.4 %	55 ※1 生化 I		1 2

低分子窒素化合物

0037	尿素窒素 (BUN)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ウレアーゼ ・UV法	8.0~20.0 mg/dL	11 生化 I		1 2
0063		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		7.0~14.0 g/day	11 生化 I	部分尿：コード0067 報告単位：mg/dL	注2
0039	クレアチニン (Cre)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	M 0.61~1.04 F 0.47~0.79 mg/dL	11 生化 I		1 2
0064		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		0.5~1.5 g/day	11 生化 I	部分尿：コード0072 報告単位：mg/dL	注2
2864	eGFR (推算糸球体濾過量)			計算法	mL/min/1.73m ²		血清クレアチニンのご依頼があり、同 時に年齢(18歳以上)、性別が明記さ れている場合に、ご報告致します。	1 2
0040	クレアチン (Cret)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	0.3~1.2 mg/dL	11 生化 I		3 4
0073		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		M 170以下 F 290以下 mg/day	11 生化 I	注2	
0041	尿酸 (UA)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ウリカーゼ法	M 3.6~7.0 F 2.5~7.0 mg/dL	11 生化 I	注3	1 2
0065		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		0.4~1.2 g/day	11 生化 I	部分尿：コード0099 報告単位：mg/dL	注2

※1 グリコアルブミン又はヘモグロビンA1c(HbA1c)、1,5AGのうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。
ただし、妊娠中の患者、I型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。

※2 ヒアルロン酸は、慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。

※3 肺サーファクタント蛋白-A (SP-A)、KL-6及び肺サーファクタント蛋白-D (SP-D)のうちいずれか複数を実施した場合は、主たるもののみ算定する。

注1. 0.8N過塩素酸と血液を等量混合し、3000rpm5分間遠心分離、その上清液を提出して下さい。過塩素酸は予めご依頼下さい。

注2. 24時間蓄尿し全尿量を記入のうえ必要量を提出して下さい。

注3. 基準値上限は、日本痛風・核酸代謝学会「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」における高尿酸血症の定義に準拠したものです。

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
低分子窒素化合物								
4526	シスタチンC	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ラテックス凝集比濁法	M 0.61~1.00 F 0.51~0.82 mg/L	121 生化 I ※1		3 4
0043	アンモニア (NH ₃)	Q	血液 1.0 ⇨ 除蛋白清 2.0	藤井・奥田変法	30~86 μg/dL (採血直後測定)	50 生化 I	専用容器(除蛋白液入り)に正確に1.0mLの血液を加え十分混和する。	1 2
1044	アミノ酸分画	〈血漿〉	I 血液 2.0 ⇨ ヘパリン血漿 0.5	HPLC	次頁参照	1212 生化 II		6 8
1045		〈尿〉	e 尿 0.5			1212 生化 II	早期2番尿を直ちに凍結して下さい(トルエン、塩酸は加えないで下さい。)	
0598	アミノ酸11分画	〈血漿〉	I 血液 2.0 ⇨ ヘパリン血漿 0.5	HPLC	次頁参照	1212 生化 II		5 6
2828		〈濾紙〉	血液濾紙			1212 生化 II	専用濾紙は予めご依頼下さい。	
1832	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	次頁参照	288 生化 II	溶血検体は不適。	3 4
2968	ホモシステイン	C	血液 1.5 ⇨ EDTA血漿 0.5	HPLC	M 6.3~18.9 F 5.1~11.7 nmol/mL	295 生化 II		6 14

※1 シスタチンCは、尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

A



C



I



Q



e

A 汎用試験管
分離剤C EDTA試験管
EDTA-2NaI ヘパリン試験管
ヘパリンNaQ アンモニア用容器
除蛋白液(4mL)

e 滅菌スピッツ管

アミノ酸分画・アミノ酸11分画

特に指定がない場合は非蛋白態アミノ酸を分画致します。加水分解を必要とする場合はご指示下さい。また、トリプトファンは塩酸加水分解されるため検出不能となります。
 〈血漿〉抗凝固剤はヘパリンが適していますが、短時間保存の場合はEDTA血漿でも有意差はありません。溶血血漿ではAsp, Gluが著しい高値を、Cys、Cys、Trpが低値を示します。血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸（Asp, Glu, Ala, Lys）が増加をきたします。
 〈尿〉蓄尿の場合は、細菌繁殖、分解等によりアミノ酸が変化することがありますので、早朝2番尿による測定をお勧め致します。

成分名	略号	血漿 (nmol/mL)	尿 (μmol/L)
タウリン	Tau	35.2~70.0	132.8~2045
ホスフォエタノールアミン	PEA	ND	5.9~76.6
アスパラギン酸	Asp	<3.2	<18.8
ハイドロキシプロリン	Hyp	5.4~18.2	<11.7
トレオニン	Thr	89.2~205.0	29.5~455.8
セリン	Ser	91.5~161.8	74.0~817.2
アスパラギン	Asn	40.8~76.5	24.2~316.9
グルタミン酸	Glu	10.8~44.4	5.1~84.6
グルタミン	Gln	488.2~733.1	93.7~1184
サルコシン	Sarco	ND	ND
α-アミノアジピン酸	α-AAA	ND	10.1~72.4
プロリン	Pro	89.6~258.8	<11.5
グリシン	Gly	153.2~362.1	263.3~3386
アラニン	Ala	239.9~510.2	47.8~803.5
シトルリン	Cit	20.4~44.8	<21.7
α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.0~25.7	2.2~27.9
バリン	Val	158.4~287.7	8.0~78.9
シスチン	Cys Cys	36.5~56.0	8.6~124.7
メチオニン	Met	19.2~32.7	2.6~37.8
シスタチオニン	Cysthio	ND	3.4~50.1
イソロイシン	Ile	41.3~84.9	3.0~28.8
ロイシン	Leu	80.9~154.3	6.0~61.8
チロシン	Tyr	50.2~82.6	21.5~255.1
β-アラニン	β-Ala	<7.7	<56.9
フェニルアラニン	Phe	45.7~76.5	11.8~104.5
β-アミノイソ酪酸	BAIBA	<3.7	18.4~1695
ホモシスチン	Homocys	ND	ND
γ-アミノ酪酸	GABA	ND	ND
モノエタノールアミン	MEA	6.0~10.7	100.1~937.9
ハイドロキシリジン	Hyl	ND	<11.6
オルニチン	Orn	43.2~95.7	3.6~29.0
1-メチルヒスチジン	1-Me-His	<12.8	24.8~1575
ヒスチジン	His	67.9~97.1	200.6~2367
リジン	Lys	118.7~257.0	23.6~535.2
3-メチルヒスチジン	3-Me-His	2.9~6.8	81.4~607.3
トリプトファン	Trp	41.4~65.5	16.9~146.8
アンセリン	Ans	ND	<62.3
カルノシン	Carno	<6.3	2.1~33.0
アルギニン	Arg	46.0~121.7	3.4~47.8
アロイソロイシン	allo-Ile	ND	ND
フィッシャー比※1		2.31~4.29※2	-

成分表	略号	血漿 (nmol/ml)
バリン	Val	158.4~287.7
メチオニン	Met	19.2~32.7
イソロイシン	Ile	41.3~84.9
ロイシン	Leu	80.9~154.3
チロシン	Tyr	50.2~82.6
フェニルアラニン	Phe	45.7~76.5
ヒスチジン	His	67.9~97.1
トリプトファン	Trp	41.4~65.5
オルニチン	Orn	43.2~95.7
リジン	Lys	118.7~257.0
アルギニン	Arg	46.0~121.7
フィッシャー比※1		2.31~4.29※2

※1 フィッシャー比: $\frac{\text{バリン} + \text{イソロイシン} + \text{ロイシン}}{\text{チロシン} + \text{フェニルアラニン}}$

※2 単位なし
 ND 不検出

総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (μmol/L)

BTR	4.41~10.05
BCAA	344~713
チロシン	51~98

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
1144	ビタミンA (レチノール)	A ↓ Z	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	HPLC	ng/mL 431~1041		☒:分離後	5 8
1270	レチノール結合蛋白 (RBP)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	M 2.7~6.0 F 1.9~4.6 mg/dL	136 免疫		4 6
2504	β-カロチン	A ↓ Z	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	HPLC	M 6.6~47.6 F 20.4~105.2 μg/dL		☒☒:分離後	9 15
0761	ビタミンB ₁ (サイアミン)	47	EDTA加血液 1.0	LC-MS/MS	μg/dL 2.6~5.8	253 生化I	☒ ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。	4 5
0762	ビタミンB ₂ (リボフラビン)	47	EDTA加血液 1.0	HPLC	μg/dL 12.8~27.6	256 生化I	☒ ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。	4 5
1137	ビタミンB ₆	A ↓ Z	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	HPLC	ng/mL 下表参照		☒:分離後	7 9
0763	ビタミンB ₁₂ (シアノコバラミン)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	pg/mL 233~914	148 生化I		3 5
2857	カルニチン (ビタミンBt)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素サイクリング法	総カルニチン 45.0~91.0 遊離カルニチン 36.0~74.0 アシルカルニチン 6.0~23.0 μmol/L	*1 95+95 生化I		5 8
0765	葉酸 (ビタミンM)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	ng/mL 3.6~12.9	158 生化I	溶血検体では測定値が上昇する場合があります。	3 5
0764	ビタミンC (アスコルビン酸)	A ↓ Z	血液 3.0 ⇨ 除蛋白血清 0.5	HPLC	μg/mL 5.5~16.8	314 生化I	☒☒:分離後 単独検体	7 10 注1
1188	25-OHビタミンD (Total)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	ng/mL 400	400 生化I		3 9
1189	25-OHビタミンD分画 (ビタミンD分画)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LC-MS/MS	D ₂ 12.1以下 D ₃ 5.5~41.4 ng/mL			7 13
1033	1,25-(OH) ₂ ビタミンD	A	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	RIA (二抗体法)	pg/mL 20~60	388 *2 生化I		5 8
2505	ビタミンE (トコフェロール)	A ↓ Z	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	蛍光法	mg/dL 0.75~1.41		☒:分離後	6 10

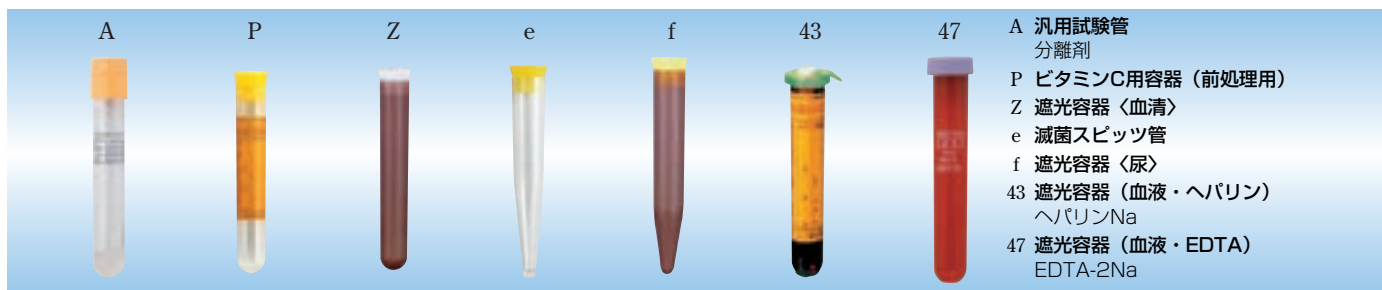
*1 総カルニチン及び遊離カルニチンは、関係学会の定める診療に関する指針を遵守し、酵素サイクリング法により測定した場合に算定する。本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。また、静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。なお、同一検体について、本検査と先天性代謝異常症検査を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

*2 1,25-ジヒドロキシビタミンD₃は、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD₃剤による治療中に測定した場合にのみ算定できる。なお、活性型ビタミンD₃剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。

注1. 正確に血清0.5mLを専用容器(P)に加え、混和後、遠心分離し、その上清を遮光容器(Z)に移し、ただちに、凍結して下さい。

ビタミンB₆ (ng/mL)

	男性	女性
ピリドキサミン (PAM)	0.0~0.6	0.0~0.6
ピリドキサル (PAL)	6.0~40.0	4.0~19.0
ピリドキシン (PIN)	0.0~3.0	0.0~3.0



コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
ポルフィリン関連								
0708	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	f	尿 1.0	HPLC	mg/L 0.0~2.2 (参考値)	112 尿・便	☒ A-13頁参照	5 8
1050	ポルフォビリノーゲン	f	蓄尿 3.0	比色法 (Granick法)	mg/day 0.0~2.0	191 尿・便	☒	8 10
2851	ウロポルフィリン	〈血液〉	43 ヘパリン加血液 1.5	HPLC	μg/dL RBC 0.0~1.0	☒ 速やかに出検。	5 12	
1051		〈尿〉	f 尿 3.0		μg/g・Cr 0~36			108 尿・便
0407	《定性》	f	尿 5.0	蛍光法	陰性	☒	6 12	
0776	コプロポルフィリン	〈血液〉	43 ヘパリン加血液 1.5	HPLC	μg/dL RBC 0.0~1.0	210 生化 I	☒	5 12
0777		〈尿〉	f 尿 3.0		μg/g・Cr 0~170	139 尿・便		
1083	赤血球プロトポルフィリン	43	ヘパリン加血液 0.5	HPLC	μg/dL 全血 A-13頁参照	272 生化 I	☒ 凍結不可。	5 12
電解質・微量金属								
0045	ナトリウム (Na)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	電極法	mEq/L 135~147	11 ※1 生化 I	部分尿：コード0075 報告単位：mEq/L	1 2
0175		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		g/day 1.6~5.8	11 ※1 生化 I		
0047	クロール (Cl)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	電極法	mEq/L 96~108	11 ※1 生化 I	部分尿：コード0077 報告単位：mEq/L	1 2
0177		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		g/day 2.5~8.9	11 ※1 生化 I		
0046	カリウム (K)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	電極法	mEq/L 3.6~5.0	11 生化 I	溶血血清では高値になります。 注1	1 2
0176		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		g/day 1.0~3.9	11 生化 I	部分尿：コード0076 報告単位：mEq/L	
0048	カルシウム (Ca)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	アルセナゾⅢ法	mg/dL 8.5~10.2	11 ※2 生化 I	部分尿：コード0129 報告単位：mg/dL	1 2
0125		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		g/day 0.1~0.3	11 ※2 生化 I		
1181	イオン化カルシウム (Ca ²⁺)	A	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	イオン電極法	mEq/L 2.41~2.72	26 ※2 生化 I		7 10
0049	無機リン (P)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	モリブデン酸直接法	mg/dL 2.5~4.5	17 生化 I	部分尿：コード0130 報告単位：mg/dL	1 2
0126		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		g/day 0.5~1.0	17 生化 I		
0050	マグネシウム (Mg)	〈血清〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	キシリジブルー法	mg/dL 1.7~2.7	11 生化 I		1 2
0127		〈蓄尿〉	e 蓄尿 0.5		g/day 0.02~0.13	11 生化 I		
0052	鉄 (Fe)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	比色法	μg/dL M 60~200 F 50~160	11 生化 I		1 2
0053	総鉄結合能 (TIBC)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	比色法	μg/dL 250~450	11 生化 I		1 2

※1 ナトリウム及びクロールについては、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。
 ※2 カルシウム及びイオン化カルシウムを同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。
 注1 血液凝固後、できるだけ速やかに血清分離。血清分離ができない場合は、室温にて保存してください。
 全血のままでの冷蔵保存や血清分離までの時間が長い場合、高値傾向を示します。

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
0054	不飽和鉄結合能 (U I B C)	A	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	比色法	190~270 μg/dL	11 生化 I		1 2
0051	銅 (Cu)	〈血清〉	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	比色法	M 80~130 F 100~150 μg/dL	23 生化 I		1 2
1951		〈尿〉	20	尿5.0	原子吸光法	18以下 μg/L	23 生化 I	必ず指定容器使用	5 8
0573	亜鉛 (Zn)	〈血清〉	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	原子吸光法	64~111 μg/dL	144 生化 I	必ず指定容器使用	4 6
2908		〈尿〉	20	尿5.0		64~947 μg/L	144 生化 I		注1
2910	セレン (Se)	〈血液〉	ヘパリン加血液 0.5		原子吸光法	15.5~27.0 μg/dL	144 *1 生化 I		6 12
2909		〈血清〉	血液 2.0	⇨ 血清 0.5		10.6~17.4 μg/dL	144 *1 生化 I		
1065	アルミニウム (Al)	V	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	原子吸光法	0.0~0.9 μg/dL	118 生化 I	必ず指定容器使用	5 7
0781	鉛 (Pb)	I	ヘパリン加血液 1.0		原子吸光法	1.0以下 μg/dL		A-13頁参照	5 8
0780	水銀 (Hg)	〈血液〉	ヘパリン加血液 0.5		原子吸光法	0.0~5.0 μg/dL			6 12
1427		〈尿〉	20	尿1.0		0.0~25.0 μg/L			
2912	クロム (Cr)	〈血液〉	ヘパリン加血液 0.5		原子吸光法	μg/dL			
2913		〈血清〉	血液 2.0	⇨ 血清 0.5		μg/dL		必ず指定容器使用	7 13
2914		〈尿〉	20	尿1.0		μg/L			
2915	カドミウム (Cd)	〈血液〉	ヘパリン加血液 0.5		原子吸光法	0.0~1.0 μg/dL			7 12
2916		〈尿〉	20	尿1.0		0.0~3.8 μg/L			
2917	マンガン (Mn)	〈血液〉	ヘパリン加血液 0.5		原子吸光法	0.4~2.0 μg/dL	27 *2 生化 I		
2918		〈血清〉	血液 2.0	⇨ 血清 0.5		0.0~0.7 μg/dL	27 *2 生化 I	必ず指定容器使用	7 12
2919		〈尿〉	20	尿0.5		2.0未満 μg/L	27 *2 生化 I		
2921	ニッケル (Ni)	V	血液 2.0	⇨ 血清 0.5	原子吸光法	0.0~0.6 μg/dL		必ず指定容器使用	7 12

※1 セレンは、長期静脈栄養管理若しくは長期成分栄養剤を用いた経腸栄養管理を受けている患者、人口乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者又は重症心身障害児(者)に対して、診察及び他の検査の結果からセレン欠乏症が疑われる場合の診断及び診断後の経過観察を目的として実施した場合に限り算定する。

※2 マンガン(Mn)は、1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定できる。

注1. 基準値は朝食前の採血により得られたデータです。食物の採取により血中の濃度が低下しますので、朝食前の午前中に採血して下さい。

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

機能検査

0070	クレアチンクリアランス	A e	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5 および 尿 0.5	酵素法	mL/min M 78.4~144.7 F 63.4~153.1			1 2
0071	クレアチンクリアランス (24時間)	A e	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5 および 尿 0.5	酵素法	L/day M 112.9~208.3 F 91.3~220.5		血清・尿を必ずペアで提出。 年齢・身長・体重・採尿時間・ 尿量を必ず明記して下さい。 採取方法は、N-6頁をご参照下さい。	1 2
2865	尿素クリアランス	A e	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0 および 尿 3.0	ウレアーゼ ・UV法	% 70~130			6 8
0014	ICG (インドサイアニンググリーン)	A	血液 各3.0 ⇨ 血清 各1.0	比色法	15分停滯率0~10% (消失率0.168~0.206)	(100)	☒:分離後 採取方法は、N-6頁をご参照下さい。	1 2
0878	PFDテスト (PABA排泄率)	e	尿各5.0	シアロカップリング法	% 73.4以上	(100)	注1 採取方法は、N-6頁をご参照下さい。	4 5
0405	フィッシュバーグ 濃縮試験	e	尿各3.0	屈折計	3回のうち少なくとも1 つの比重が1.022以上	(100)	採尿時間を明記し各々一部 尿を提出して下さい。 採取方法は、N-6頁をご参照下さい。	1 2
0451	浸透圧	<血清> A	血液 各3.0 ⇨ 血清 各1.0	氷点降下法	mOsm/kg・H ₂ O	15		3 5
0452		<尿> e	尿 1.0		mOsm/kg・H ₂ O	16		
0453		<透析液> e	透析液 1.0		mOsm/L			

注1. PFD内服前に対象尿を採取し、内服後6時間蓄尿して下さい。尿量測定後、各5.0mLを提出して下さい。6時間尿量を必ず明記して下さい。

A	I	V	e	20	
					A 汎用試験管 分離剤 I ヘパリン試験管 ヘパリンNa V 金属分析用容器 e 滅菌スピッツ管 20 尿・金属分析用容器

生化学

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
産業衛生関連									
0595	馬尿酸	e	尿	1.0	HPLC	g/L		下表参照	注1 5 10
1079	メチル馬尿酸	e	尿	1.0	HPLC	g/L		下表参照	注1 5 10
1080	マンデル酸	e	尿	1.0	HPLC	g/L		下表参照	注1 5 10
0591 2886 2889	総三塩化物	e	尿	1.0	GC	mg/L		下表参照	注1 5 8
1067 2872 2875	トリクロル酢酸	e	尿	1.0	GC	mg/L		下表参照	注1 5 8
1081	N-メチルホルムアミド	e	尿	2.0	GC	mg/L		下表参照	注1 5 10
1082	2,5-ヘキサンジオン	e	尿	3.0	GC	mg/L		下表参照	注1 5 10

注1. 「産業衛生関連検査」を複数項目で依頼の場合は、尿10.0mLをご提出下さい。

【特殊健診項目】名称および分布区分

コード No	対象物質名	検査項目名	単位	分 布		
				1	2	3
0781	鉛	鉛	μg/dL	≤20	20<, ≤40	40<
0708		δ-アミノレブリン酸	mg/L	≤5	5<, ≤10	10<
1083		赤血球プロトポルフィリン	μg/dL全血	≤40	40<, ≤100	100<
0595	トルエン	馬尿酸	g/L	≤1	1<, ≤2.5	2.5<
1079	キシレン	メチル馬尿酸	g/L	≤0.5	0.5<, ≤1.5	1.5<
1080	スチレン	マンデル酸	g/L	≤0.3	0.3<, ≤1	1<
1081	N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	mg/L	≤10	10<, ≤40	40<
1082	ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	mg/L	≤2	2<, ≤5	5<
0591	1,1,1-トリクロルエタン	総三塩化物 (ET)	mg/L	≤10	10<, ≤40	40<
1067		トリクロル酢酸 (ET)	mg/L	≤3	3<, ≤10	10<
2886	トリクロルエチレン	総三塩化物 (3-E)	mg/L	≤100	100<, ≤300	300<
2872		トリクロル酢酸 (3-E)	mg/L	≤30	30<, ≤100	100<
2889	テトラクロルエチレン	総三塩化物 (4-E)	mg/L	≤3	3<, ≤10	10<
2875		トリクロル酢酸 (4-E)	mg/L	≤3	3<, ≤10	10<

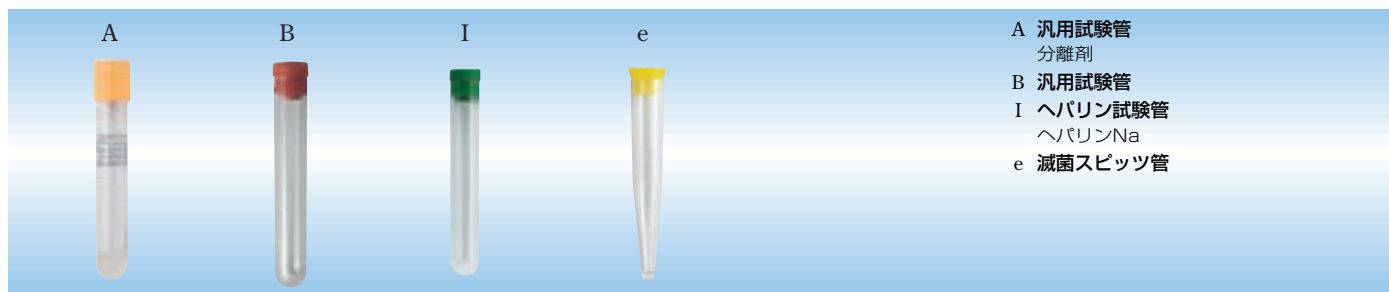
出典：鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則、様式第3号）
有機溶剤など健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2）

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
そ の 他								
2923	アセトン	〈血清〉	B 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	GC	μg/mL 5未満		分離剤入り容器は使用しないで下さい。 検出限界未満を基準値とする。	5 8
1431		〈尿〉	e 尿 1.0		μg/mL 5未満			
0568	ケトン体分画	〈静脈血〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	総ケトン体 26~122 アセト酢酸 13~69 3-ヒドロキシ酪酸 76以下	59 生化 I	☒:分離後 総ケトン体にアセトンは含まれません。	4 7
3706	ケトン体分画	〈動脈血〉	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	酵素法	AcAc/3-OHB 0.7以上	59 生化 I	☒:分離後 注1	4 7
0778	エタノール		I ヘパリン加血液 1.0	GC	mg/mL 0.1未満	113 生化 I	ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。 検出限界未満を基準値とする。	7 10
0779	メタノール		e 尿 2.0	GC	mg/L 3未満		検出限界未満を基準値とする。	6 11
4457	ペプシノゲン (PG)		A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	PG I 70.1以上 PG I / PG II 比 3.1以上		判定基準 (参考値) 萎縮性胃疾患患者として PG I 70ng/mL以下かつ PG I / PG II 比3.0以下	1 3
4459	ABC検診		A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ペプシノゲン:LA H-ピロリ抗体定量:LA	下表参照		ペプシノゲンとヘリコバクター・ピロリ抗体定量を実施し、両検査の結果とABC分類をご報告致します。(胃がんリスク分類)	1 2
4460	ABCD検診		A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ペプシノゲン:LA H-ピロリ抗体定量:LA	下表参照		ペプシノゲンとヘリコバクター・ピロリ抗体定量を実施し、両検査の結果とABCD分類をご報告致します。(胃がんリスク分類)	1 2
2939	イヌリン	〈血清〉	A 血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	アンスロン法	mg/dL 120 生化 I			8 18
2940		〈尿〉	e 尿 5.0		mg/dL 120 生化 I			
2926	ニコチン		I 血液 3.0 ⇨ ヘパリン血液 1.0	GC	ng/mL		EDTA血漿も検査可。	15 22
0775	結石鑑別	《定量》	e 結石 5mg	赤外線吸収スペクトル法	% 120 生化 II		乾燥した状態で提出して下さい。 血液などが付いた検体は蒸留水で洗浄し乾燥させて提出して下さい。 含有主成分の比率で報告。	4 6

注1. ブドウ糖投与または食後(血糖120mg/dL以上)に動脈採血して下さい。採血後は、すみやかに冷却遠心して血清分離し、必ず凍結でご提出下さい。

ABC検診・ABCD検診 判定(分類)基準

		ヘリコバクター・ピロリ抗体定量	
		(-)	(+)
ペプシノゲン (PG)	(-)	A群	B群
	(+)	(D群)	C群 (C群)



- A 汎用試験管
分離剤
- B 汎用試験管
- I ヘパリン試験管
ヘパリンNa
- e 滅菌スピッツ管

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
下垂体								
0701	成長ホルモン (GH)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13~9.88	114 ng/mL 生化Ⅱ	負荷前安静時。	4 6
1069	ソマトメジン-C	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	IRMA (ビーズ固相法)	下表参照	224 ※1 ng/mL 生化Ⅱ	性別、年齢を必ずご記入下さい。 血漿も検査可。	5 7
0702	黄体形成ホルモン (LH)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	下表参照	114 mIU/mL 生化Ⅱ		1 3
0703	卵胞刺激ホルモン (FSH)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	下表参照	114 mIU/mL 生化Ⅱ		1 3
0706	プロラクチン (PRL)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	下表参照	98 ng/mL 生化Ⅱ		1 3
0173	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	0.50~5.00	107 μIU/mL 生化Ⅱ		1 2
0704	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	C	血液 3.0 ⇨ EDTA血漿 1.0	ECLIA	7.2~63.3	200 pg/mL 生化Ⅱ	☒:分離後 早朝安静時。	3 4
0709	バゾプレシン (AVP) (抗利尿ホルモン)	C	血液 6.0 ⇨ EDTA血漿 2.2	RIA (二抗体法)	2.8以下	235 pg/mL 生化Ⅱ	溶血の影響により、測定値が高値 となる可能性があります。	6 8

※1 ソマトメジンCとIGFBP-3を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

ソマトメジン-C

(ng/mL)

年齢	男性	女性	年齢	男性	女性	年齢	男性	女性
0	11~149	15~154	26	119~329	146~336	52	86~242	78~213
1	14~148	23~186	27	116~322	141~328	53	85~240	77~212
2	18~154	32~213	28	114~315	137~320	54	84~239	76~211
3	24~164	40~227	29	111~309	133~312	55	84~238	75~210
4	32~176	48~238	30	109~303	129~304	56	83~237	74~208
5	44~193	56~252	31	107~297	126~297	57	82~236	73~207
6	55~215	69~287	32	105~292	122~290	58	81~235	72~205
7	63~247	89~357	33	103~287	119~283	59	80~233	71~203
8	72~292	111~438	34	102~283	115~277	60	79~232	70~201
9	84~350	133~517	35	100~279	112~271	61	77~230	69~198
10	99~423	155~588	36	99~275	109~265	62	76~228	68~196
11	113~499	175~638	37	97~272	106~260	63	75~226	66~194
12	125~557	188~654	38	96~269	103~254	64	73~224	65~191
13	133~579	193~643	39	95~266	100~250	65	72~221	64~188
14	138~570	193~625	40	94~263	98~245	66	70~219	62~186
15	141~552	192~614	41	94~261	95~240	67	68~216	61~183
16	142~543	192~611	42	93~259	93~236	68	66~213	60~180
17	142~540	191~599	43	92~257	90~233	69	65~209	59~177
18	142~526	188~574	44	92~255	88~229	70	63~206	57~175
19	143~501	182~539	45	91~253	87~226	71	61~202	56~172
20	142~470	175~499	46	90~250	85~224	72	58~198	55~170
21	139~436	168~459	47	90~250	83~221	73	56~194	54~167
22	135~405	161~425	48	89~248	82~219	74	54~190	53~165
23	131~379	155~397	49	88~246	81~218	75	52~185	52~163
24	128~356	151~375	50	87~245	80~216	76	50~181	50~160
25	125~337	147~358	51	87~243	79~215	77	48~177	49~158

LH・FSH (mIU/mL)

PRL (ng/mL)

		LH	FSH
男性		2.21~ 8.41	1.80~ 12.01
女性	卵胞期	1.46~14.66	2.94~ 9.25
	排卵期	8.09~99.29	5.41~ 23.39
	黄体期	0.59~13.39	1.34~ 6.21
	閉経後	11.00~50.00	26.00~120.00

		PRL
男性		4.29~13.69
女性	閉経前	4.91~29.32
	閉経後	3.12~15.39

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
甲 状 腺								
0171	トリヨードサイロニン (T ₃)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/mL 0.80~1.60	105 生化II		1 2
0563	遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	pg/mL 2.1~4.2	130 生化II		1 2
0172	総サイロキシン (T ₄)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	μg/dL 6.1~12.4	111 生化II		1 2
0242	遊離サイロキシン (FT ₄)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/dL 0.9~1.7	130 生化II		1 2
0712	サイロキシン結合グロブリン (TBG)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (PEG法)	μg/mL 14.0~29.4	130 生化II		3 6
0639	サイログロブリン (Tg)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/mL 33.7以下	137 生化II		4 6
0235	サイロイドテスト	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	PA	100倍未満	37 免疫		3 4
0234	マイクロゾームテスト	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	PA	100倍未満	37 免疫	*1	3 4
1031	抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	IU/mL 28未満	144 免疫		3 6
1258	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (TPO-Ab)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	IU/mL 16未満	146 免疫	*1	3 6
1016	TSHレセプター抗体 (TRAb)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RRA	% 15.0以下	232 免疫	*2	4 6
1021	TSHレセプター抗体 (TRAb) (第3世代)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	2.0未満 IU/L 未治療バセドウ病における推奨カットオフ値	232 免疫	*2	3 5
1792	甲状腺刺激抗体 (TSAb) (TSH刺激性レセプター抗体)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	EIA	% 120以下	340 免疫	*2	6 8

副 甲 状 腺								
1060	高感度PTH (HS-PTH)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	IRMA (ビーズ固相法)	pg/mL 90~270	175 生化II	血漿も検査可。	4 7
1787	副甲状腺ホルモン-intact (PTH-intact)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	pg/mL 10~65	175 生化II		2 4
0715	副甲状腺ホルモンwhole (whole PTH)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	pg/mL 8.3~38.7	175 生化II	血漿も検査可。	3 4
1253	副甲状腺ホルモン関連蛋白-intact (PTHrP-intact)	44	血液 2.0 ⇨ 血漿 0.5	IRMA (ビーズ固相法)	pmol/L 1.1未満	194 生化II	*3	6 8

*1 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を、抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 *2 甲状腺刺激抗体 (TSAb) 及び抗TSHレセプター抗体 (TRAb) を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。
 *3 副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP) は、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定する。



内分泌学

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

副甲状腺 (骨代謝関連)

0892	カルシトニン (CT)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	M 5.15以下 F 3.91以下	pg/mL	141 生化II	3 5
2510	オステオカルシン (BGP)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	FEIA	8.3~32.7	ng/mL	165 生化II	3 6
2996	TRACP-5b (酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ5b)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	M 170~590 F (YAM) 120~420	mU/dL	156 生化II	3 6
3997	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx) <血清>	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	M 9.5~17.7 F 閉経前7.5~16.5 閉経後10.7~24.0	nmol BCE/L	156 生化II	4 6
1891	I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx) <尿>	e	尿 1.5	EIA	下表参照	nmol BCE/mmol・Cr	156 生化II	4 6
4463	total PINP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	M 18.1~74.1 F 閉経前16.8~70.1 閉経後26.4~98.2	μg/L	170 生化II	1 2
1895	デオキシピリジノリン (DPD)	e	尿 1.5	EIA	M 2.1~5.4 F 2.8~7.6	nmol/mmol・Cr	191 生化II	4 6

腎・副腎皮質

0722	血漿レニン活性 (PRA)	C	血液 2.0 ⇨ EDTA血漿 0.6	EIA	0.2~2.3 (臥位) 0.2~3.9 (座位) 0.2~4.1 (立位)	ng/mL/h	100 生化II	4 5
2601	レニン濃度 (PRC)	C	血液 2.0 ⇨ EDTA血漿 0.5	IRMA (ヒーズ固相法)	2.5~21.4 (安静臥位) 3.6~63.7 (立位歩行)	pg/mL	111 生化II	4 7
0723	アンジオテンシン I	C	血液 2.0 ⇨ EDTA血漿 0.5	RIA (ヒーズ固相法)	500以下	pg/mL		4 5
0725	アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	笠原法	7.7~29.4	IU/L	148 生化I	3 5
0724	アンジオテンシン II	C	血液 4.0 ⇨ EDTA血漿 1.5	RIA (二抗体法)	50.0以下	pg/mL		7 12

- ※1 オステオカルシン (OC) は、続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺 (上皮小体) 腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できる。
 - ※2 NTx、オステオカルシン (OC) 又はデオキシピリジノリン (DPD) (尿) を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
 - ※3 TRACP-5bは、代謝性骨疾患及び骨転移 (代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る) の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。TRACP-5bとNTx、オステオカルシン (OC) 又はデオキシピリジノリン (DPD) と併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
 - ※4 NTx及びデオキシピリジノリン (DPD) (尿) は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回限り算定できる。
 - ※5 TRACP-5b、NTx、デオキシピリジノリン (DPD) (尿) は、肺癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。
 - ※6 インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact PINP)、骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)、I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (PINP) 及びALP アイソザイム (PAG電気泳動法) のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 - ※7 レニン活性とレニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみを算定する。
- 注1. 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差がでますから、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧め致します。
- 注2. 血漿分離後、-20℃以下の条件で速やかに凍結して下さい。氷結点 (0℃) 前後では、冷却活性化によるレニン濃度の上昇が認められます。

NTx (骨粗鬆症)

年齢 (歳)	NTx <尿> 正常参考値 (nmol BCE/mmol Cr) *		判定基準 (nmol BCE/mmol Cr)	判定基準 (nmol BCE/mmol Cr)	
	閉経前女性	閉経後女性		骨量低下リスクのCO値	骨折リスクのCO値
20~29	20~24	15.5~83.0	14.5~71.6	35.3	54.3
	25~29	13.1~62.5			
30~39	30~34	13.1~58.5	13.4~59.4	35.3	54.3
	35~39	8.5~59.3			
40~49	40~44	7.6~51.7	13.4~61.7	13.6	16.5
	45~49	9.1~51.4			
50~59	50~54	10.6~59.2	12.4~71.6	13.6	16.5
	55~59	14.5~95.4			
60~69	60~64	15.0~79.7	16.0~82.9	5.9	7.6
	65~69	11.7~85.5			
70~79	70~74	14.4~107.1	12.4~68.1	184.1	301.4
	75~79	14.8~102.9			
		9.3~54.3 (30~44歳)	14.3~89.0 (45~79歳)	13.0~66.2 (40~59歳)	

* 正常参考値は、"mean ± 1.96S.D." に基づく上・下限値として表示。

A



C



e



g



A 汎用試験管
分離剤

C EDTA試験管
EDTA-2Na

e 滅菌スピッツ管

g 褐色ポリ瓶

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
0574	コルチコステロン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (硫酸塩析法)	ng/mL M 0.38~8.42 F 0.21~8.48			10 15
2513	11-デオキシコルチコステロン (DOC)	A	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	RIA (硫酸塩析法)	ng/mL M 0.08~0.28 F 0.03~0.33			10 15
0580	コルチゾン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (硫酸塩析法)	ng/mL M 14.3~35.1 F 10.4~35.0 (AM9:00~12:00)			10 21
0728	コルチゾール	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	μg/dL 3.7~19.4 (午前10時以前)	130 生化II	血漿も検査可。	3 5
1714	遊離コルチゾール (非抱合型コルチゾール)	e	蓄尿2.0	RIA (チューブ固相法)	μg/day 11.2~80.3	130 生化II	トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。	3 6
0726	アルドステロン <血清>	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (チューブ固相法)	pg/mL 下表参照	128 生化II	血漿も検査可。注1	4 6
0727	アルドステロン <尿>	e	蓄尿2.0		μg/day 10以下	128 生化II	トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。	5 7
1245	アンドロステンジオン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (硫酸塩析法)	ng/mL 下表参照			10 16
3928	アンドロステロン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (硫酸塩析法)	ng/mL M 0.18~0.91 F 0.14~1.03			9 15
1635	デハイドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	μg/dL 下表参照	176 生化II		3 5
0731	17-ケートジェニックスステロイド・総 (17-KGS)	g	蓄尿10.0	比色法 (Few-神戸川法)	mg/day M 6.00~18.40 F 3.55~11.20	200 生化II	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい(保存剤による影響はありません)。	6 9
2514	17-ケートジェニックスステロイド分画 (17-KGS分画)	g	蓄尿15.0	比色法 (Few-神戸川法)	mg/day 下表参照	220 生化II	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい(保存剤による影響はありません)。	6 9
1914	17-ケートステロイド分画 <3分画>	e	蓄尿各5.0	GC-MS	mg/day 下表参照	213 生化II	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい(保存剤による影響はありません)。	6 9
2517	17-KS分画 <7分画>							

注1. 採血時刻、体位によって測定値に差がでますから、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧めします。

アルドステロン <血清>(pg/mL)

随時	36~240
臥位	30~159
立位	39~307

アンドロステンジオン・DHEA-S

年齢	アンドロステンジオン (ng/mL)	DHEA-S (μg/dL)	年齢	アンドロステンジオン (ng/mL)	DHEA-S (μg/dL)
男 20~29歳	0.48~1.82	159~538	女 20~29歳	0.64~2.34	92~399
男 30~39歳	0.42~1.52	125~475	女 30~39歳	0.57~2.24	58~327
男 40~49歳	0.46~1.67	123~422	女 40~49歳	0.28~1.35	41~218
男 50~59歳	0.41~1.57	76~386	女 50~59歳	0.25~1.21	30~201

* : 実測範囲による参考値 (n=4)

17-KGS分画 (mg/day)

11-デオキシKGS	
M	1.54~3.91
F	0.84~2.77
11-オキシKGS	
M	3.86~13.80
F	3.25~8.10

17-KS分画

(mg/day)

分画成分名	男性	女性
アンドロステロン	1.12~4.71	0.22~2.78
エチオコラノロン	0.43~3.23	0.10~2.39
デハイドロエピアンドロステロン	2.92 以下	1.49 以下
11-ケートアンドロステロン	0.50 以下	0.48 以下
11-ケートエチオコラノロン	0.08~0.63	0.62 以下
11-ヒドロキシアンドロステロン	0.39~2.04	0.19~1.17
11-ヒドロキシエチオコラノロン	0.54 以下	0.75 以下

内分泌学

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
副腎髄質・交感神経・中枢神経								
1216	メタネフリン 2分画	〈尿〉	e 尿2.0	LC/MS/MS	mg/L	227 生化II		4 5 6
4381		〈蓄尿〉	e 酸性蓄尿 2.0		メタネフリン (MN) 0.05~0.20 ノルメタネフリン (NMN) 0.10~0.28	227 生化II	メタネフリン総1日量(mg/day)、メタネフリン濃度(mg/L)、ノルメタネフリン濃度(mg/L)もご報告致します。 注1	4 5 6
0717	カテコールアミン 3分画	〈血漿〉	C 血液 3.0 ⇨ EDTA血漿 1.0	HPLC	ng/mL	175 生化II		4 5
0719		〈尿〉	e 尿1.0		μg/L	175 生化II		4 5
4382		〈蓄尿〉	e 酸性蓄尿 1.0		μg/day	175 生化II	「ドーパ」と同時依頼の場合は、尿10.0mLで両項目検査可。 注1	4 5
3944	遊離カテコールアミン 3分画	〈尿〉	e 尿1.0	HPLC	μg/L	175 生化II		4 5
4383		〈蓄尿〉	e 酸性蓄尿 1.0		μg/day	175 生化II		4 5 注1
3993		〈血漿〉	C 血液 5.0 ⇨ EDTA血漿 1.5	HPLC	ng/mL	90 生化II	※:分離後	6 10
0720	バニルルマンデル酸 (VMA)	〈蓄尿〉	e 酸性蓄尿 1.0	LC/MS/MS	mg/day	90 生化II	バニルルマンデル酸濃度(mg/L)もご報告致します。 注1	4 5 6
0849	《クレアチニン補正》	e 尿1.0	μg/mg・Cr		90 生化II	バニルルマンデル酸濃度(mg/L)およびクレアチニン値(mg/dL)もご報告致します。 正常児参考基準値は下表参照	4 5 6	
3948		〈血漿〉	C 血液 5.0 ⇨ EDTA血漿 1.5	HPLC	ng/mL	69 生化II	※:分離後	6 10
2511	ホモバニリン酸 (HVA)	〈蓄尿〉	e 酸性蓄尿 1.0	LC/MS/MS	mg/day	69 生化II	ホモバニリン酸濃度(mg/L)もご報告致します。 注1	4 5 6
4532	《クレアチニン補正》	e 尿1.0	μg/mg・Cr		69 生化II	ホモバニリン酸濃度(mg/L)およびクレアチニン値(mg/dL)もご報告致します。 正常児参考基準値は下表参照	3 5	
0888	セロトニン	〈血液〉	C EDTA加血液 1.0	HPLC	ng/mL	52.8~200.0		4 10
3949		〈血漿〉	C EDTA加血液 3.0 ⇨ 多小血小板血漿 1.0		ng/mL	623.0以下	採血後、4℃、900rpm、20分遠心分離によりPRPを採取して下さい。	4 10
0721	5-ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)	〈蓄尿〉	e 酸性蓄尿 1.0	LC/MS/MS	mg/day	95 生化II	5-HIAA濃度(mg/L)もご報告致します。 注1	4 5 6

注1. 6N塩酸約20mL(蓄尿1リットル当り)または市販の酸性蓄尿添加剤を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出下さい。

カテコールアミン3分画・遊離カテコールアミン3分画

分画成分名	カテコールアミン3分画		遊離カテコールアミン3分画
	血漿 (ng/mL)	蓄尿 (μg/day)	蓄尿 (μg/day)
アドレナリン (A)	0.17以下	1.1~22.5	0.6~14.1
ノルアドレナリン (NA)	0.15~0.57	29.2~118.0	9.7~41.4
ドーパミン (DA)	0.03以下	100.0~1000.0	120.0~310.0

尿中VMA/HVA(クレアチニン補正) : 正常児参考基準値

(μg/mgCr)

月 齢	1~3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11~12ヶ月	1~12ヶ月
VMA mean±S.D	8.6±4.10	8.9±3.35	9.1±3.20	9.1±3.25	9.0±3.29	8.8±3.43	8.6±3.20	8.8±3.32	8.3±3.44	9.1±3.38
HVA mean±S.D	18.1±6.18	18.2±4.79	17.9±4.96	17.5±4.88	17.2±5.16	16.6±5.42	16.7±5.28	16.4±5.40	16.1±5.54	17.4±4.98

A



C



e



A 汎用試験管
分離剤

C EDTA試験管
EDTA-2Na

e 滅菌スピッツ管

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

副腎髄質・交感神経・中枢神経

3956	ドーパミン・総	C	血液 5.0 ⇨ EDTA血液 2.0	HPLC	ng/mL 0.5~6.2			7 12
------	---------	---	---------------------	------	------------------	--	--	---------

膵・消化管

0150	インスリン (IRI)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	μU/mL 3.0~18.7	109 生化II	空腹時負荷前。	1 2
0891	インスリン抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA	¹²⁵ I-IRI結合率0.4%未満 濃度 125nU/mL未満	110 免疫	空腹時負荷前。	4 7
0746	ガストリン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA (PEG法)	pg/mL 37~172	107 生化II		3 6
0745	C-ペプチド (CPR)	血清	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/mL 0.8~2.5	114 *1 生化II	ピオチンを投与している患者(1日5mg以上)からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施して下さい。	1 2
0654		尿	e 蓄尿0.5		μg/day 22.8~155.2	114 *1 生化II	蓄尿は冷蔵保存しながら行うが、あらかじめ専用保存剤を蓄尿容器に1袋(10g)を入れて蓄尿を行って下さい。他項目との重複依頼は避けて下さい。	
1767	抗GAD抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA (ブリッジ法)	U/mL 5.0未満 (カットオフ値)	134 *2 生化II		3 7
1906	抗IA-2抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA	U/mL 0.4未満	213 *3 生化II		4 10

性腺・胎盤

3964	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG)	血清	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	mIU/mL 非妊婦3.0未満次頁参照	142 *4 生化II		1 2
3965		尿	e 尿0.5		mIU/mL 非妊婦3.0未満次頁参照	142 *4 生化II		
0672	HCG-βサブユニット	血清	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	IRMA (ビーズ固相法)	ng/mL 0.1以下	140 *4 *5 生化II	妊娠有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。	3 5
3963		尿	e 蓄尿1.0		ng/mL 0.1以下	140 *4 *5 生化II	トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。妊娠の有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。	
0742	ヒト胎盤性ラクトジェン (HPL)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	μg/mL 次頁参照	140 生化II	妊娠有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。	3 5
0734	エストロゲン・非妊婦	e	蓄尿3.0	RIA (硫酸塩析法)	μg/day 次頁参照		防腐剤を加えずに冷所に蓄尿し、所定量をご提出下さい。	9 21
3969	プレグナンジオール (P ₂)	e	蓄尿5.0	GC-MS	mg/day 次頁参照	213 生化II	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい(保存剤による影響はありません)。	8 10
3970	プレグナントリオール (P ₃)	e	蓄尿5.0	GC-MS	mg/day 次頁参照	240 生化II	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい(保存剤による影響はありません)。	8 10
4424	抗ミュラー管ホルモン (AMH)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	ECLIA	ng/mL 次頁参照			4 6
0736	エストラジオール (E ₂)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	pg/mL 次頁参照	182 *6 生化II	妊娠有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。	1 3

- ※1 CPRを同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみ算定する。
- ※2 抗GAD抗体は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。
- ※3 抗IA-2抗体は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗GAD抗体の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、当該検査を算定するに当たっては、抗GAD抗体の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
- ※4 HCG-β、HCG定性、HCG定量又は同半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
- ※5 HCG-βは、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合のみ算定できる。
- ※6 エストロゲン半定量又は定量については、E₃又はE₂と同時に実施した場合は算定できない。

内分泌学

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

性 腺 ・ 胎 盤

0733	テストステロン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	ng/mL 下表参照	128 生化Ⅱ	性別、年齢を必ずご記入下さい。 午前中(9時~12時)に採血して下さい。	3 ~ 5
2534	遊離テストステロン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	pg/mL 下表参照	166 生化Ⅱ		4 ~ 6
3968	5α-ジヒドロテストステロン (DHT)	A	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	RIA (硫酸塩析法)	M 0.20~1.00 F 0.05~0.30			10 ~ 15
0735	プロゲステロン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/mL 下表参照	155 生化Ⅱ	妊娠有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。	1 ~ 3
2858	癌胎児性 フィブロネクチン	01	腔分泌液	EIA	(-)	204 *1 免疫	採取方法は、N-10頁をご参照下さい。	3 ~ 5
1835	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	02	腔分泌液	LA	μg/mL 0.00~1.60	125 *2 尿・便	採取方法は、N-9頁をご参照下さい。	3 ~ 5

※1 癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腔分泌液)は、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。
 ※2 顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

HCG (mIU/mL)

	血 清	尿
男 性	3.0 未満	3.0 未満
女性(非妊婦)	3.0 未満	3.0 未満
妊 婦	~6週	4700~87200
	7~10週	6700~202000
	11~20週	13800~68300
	21~40週	4700~65300

HPL (μg/mL)

妊 婦	5~8週	0.3 以下
	16~20週	0.5~2.3
	24~28週	1.5~5.3
	36~40週	3.3~8.5

エストロゲン：非妊婦 (μg/day)

性 別	値	
男 性	2~20	
女 性	卵胞期	3~20
	卵胞前期	
	排卵期	10~60
	黄体期	8~50
	閉経後	10以下

P2・P3 (mg/day)

	P ₂	P ₃
男 性	0.12~0.93	0.25~1.48
女 性	卵 胞 期	0.16~1.28
	黄 体 期	0.69~4.70
	閉 経 後	1.00 以下
		1.00 以下

抗ミューラー管ホルモン (ng/mL)

男性	0.77~14.50	
女性	20~24歳	2.00~12.50
	25~29歳	1.95~10.70
	30~32歳	0.64~14.20
	33~35歳	0.89~8.31
	36~38歳	0.40~6.92
	39~41歳	0.11~7.26
	42~44歳	0.07~4.13
	45~49歳	1.52以下

テストステロン (ng/mL)

男性	1.92~8.84	
女性	閉経前	0.15~0.44
	閉経後	0.12~0.31

E2 (pg/mL)

	男 性	値
女 性	卵胞期	29~196
	排卵期	37~525
	黄体期	45~491
	閉経後	47以下
		47以下
妊 婦	前 期	209~4,289
	中 期	2,808~28,700
	後 期	9,875~31,800

遊離テストステロン：年齢階層参考基準値(pg/mL)

年 齢	男 性	女 性
20~29歳	8.8~31.7	1.5~4.9
30~39歳	7.3~28.9	0.8~4.1
40~49歳	6.2~24.9	0.5~4.0
50~59歳	6.1~25.0	—
60~80歳	5.8~18.2	—

プロゲステロン (ng/mL)

男性	0.2以下	
女性	卵胞期	0.3以下
	排卵期	5.7以下
	黄体期	2.1~24.2
	閉経後	0.3以下
	妊娠初期	13.0~51.8
	妊娠中期	24.3~82.0
	妊娠後期	63.5~174.4

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
そ の 他								
1108	ヒト心房性Na利尿ペプチド (hANP)	44	血液 2.0 ⇨ 血漿 0.5	FEIA	pg/mL 43.0以下	227 ※1 生化Ⅱ	注1	3 5
1764	脳性Na利尿ペプチド (BNP)	C	血液 2.0 ⇨ EDTA血漿 0.5	CLIA	pg/mL 18.4以下	136 ※1 生化Ⅱ	注1	1 2
1765	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	pg/mL 125以下	140 ※1 生化Ⅱ	※2 ※3 血漿も検査可。	1 3
0876	エリスロポエチン (EPO)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	CLEIA	mIU/mL 4.2~23.7	209 ※4 生化Ⅱ		3 5
1193	サイクリックAMP (c-AMP) <血漿>	C	血液 2.0 ⇨ EDTA血漿 0.5	RIA (DCC法)	pmol/mL 6.4~20.8	175 生化Ⅱ		5
3971	<尿>	e	蓄尿 1.0		μmol/day 3.3~6.1	175 生化Ⅱ	トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。塩酸蓄尿可。	12
0643	ヒスタミン	C	血液 2.0 ⇨ EDTA血漿 0.5	EIA	ng/mL 0.15~1.23			15 22
1372	肝細胞増殖因子 (HGF)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	ng/mL 0.39以下	227 ※5 生化Ⅰ		4 10

※1 心房性Na利尿ペプチド (ANP)、脳性Na利尿ペプチド (BNP) 及び脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP) のうち2項目以上をいずれかの検査を行なった日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。また、このうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を「摘要」欄に記載する。

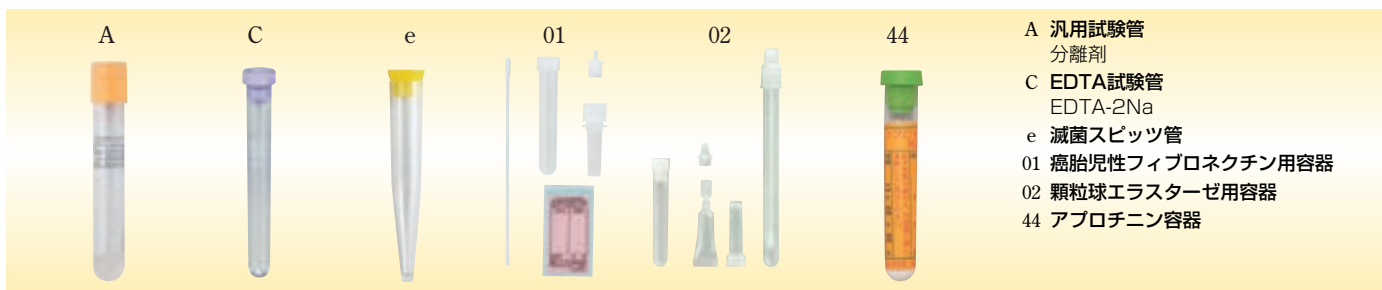
※2 脳性Na利尿ペプチド (BNP) 又は脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP) は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。

※3 脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP) を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に本検査の実施日 (脳性Na利尿ペプチド (BNP) 又は心房性Na利尿ペプチド (ANP) を併せて実施した場合は、併せて当該検査の実施日) を記載する。

※4 エリスロポエチンは、赤血球増加症の鑑別診断、重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン若しくはダルベポエチン投与前の透析患者における腎性貧血の診断及び骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定を目的として行った場合に算定する。

※5 肝細胞増殖因子 (HGF) は、肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合のみ算定する。

注1. 長時間全血のままの放置はお避け下さい。EDTA採血の場合は、ただちに分離の上、凍結保存して下さい。



コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
胎児性蛋白									
0169	α-フェトプロテイン (AFP)	A	血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	ng/mL 10.0以下	107 生化II		1 2
1810	AFPレクチン分画/LBA	A	血液 3.0	血清 0.6	LBA/EATA法	L3分画 10.0未満 % 総AFP量 10.0以下 ng/mL	190 生化II		4 5 7
0168	癌胎児性抗原 (CEA)	A	血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	ng/mL 5.0以下	105 生化II		1 2
1078	塩基性フェトプロテイン (BFP)	A	血液 2.0	血清 0.6	EIA	ng/mL 75未満	150 生化II	溶血不可	3 7

糖鎖抗原

1034	DUPAN-2	A	血液 2.0	血清 0.5	EIA	U/mL 150以下	121 生化II		4 7
0170	CA 19-9	A	血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	U/mL 37.0以下	130 生化II		1 2
1158	SPan1	A	血液 2.0	血清 0.5	RIA	U/mL 30.0以下	146 生化II		3 4
1041	シアリルLe ^x -i 抗原 (SLX)	A	血液 2.0	血清 0.5	RIA	U/mL 38.0以下	152 生化II	溶血はデータの変動要因となり ます。	4 6
1213	シアリルTn-抗原 (STN)	A	血液 2.0	血清 0.5	RIA	U/mL 45.0以下	146 生化II		3 4
1070	CA 72-4	A	血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	U/mL 8.0以下	146 生化II		3 4
1235	CA 54/61 (CA546)	A	血液 2.0	血清 0.6	EIA	U/mL 12.0以下	184 生化II		3 5
1048	NCC-ST-439	A	血液 2.0	血清 0.6	EIA	U/mL 下表参照	121 生化II		3 4
1130	BCA 225	A	血液 2.0	血清 0.6	CLEIA	U/mL 160.0未満	165 生化II		3 4
0753	CA 125	A	血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	U/mL 35.0以下	148 *1 生化II		1 2
1229	CA 602	A	血液 2.0	血清 0.6	EIA	U/mL 63.0以下	190 *1 生化II		3 4
0610	CA 15-3	A	血液 2.0	血清 0.5	CLIA	U/mL 31.3以下	121 *2 生化II		3 4

*1 CA125及びCA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

*2 CA15-3とシアリルLe^x抗原 (CSLEX) を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

NCC-ST-439 (U/mL)

男性	4.5未満
女性	50才以上 4.5未満
女性	49才以下 7.0未満



- A 汎用試験管
分離剤
C EDTA試験管
EDTA-2Na
08 尿中NMP専用容器

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

腫瘍関連抗原

0646	組織ポリペプチド抗原 (TPA)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	CLIA	U/L 75.0未満	110 生化II		3 4
0666	扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/mL 0.6~2.3	110 生化II	唾液・フケ・皮膚等の混入により高値傾向を示す場合があります。(検体の取り扱いには十分ご注意ください。)	1 2
1268	サイトケラチン19フラグメント (シフラ) (CYFRA21-1)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/mL 3.5以下	167 *1 生化II		3 4
1768	ガストリン放出ペプチド前駆体 (Pro-GRP)	C	血液 2.0 ⇨ EDTA血漿 0.6	CLIA	pg/mL 81.0未満	175 *2 生化II		3 4
0597	γ-セミノプロテイン (γ-Sm)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	EIA	ng/mL 4.0以下	194 生化II		3 4
1846	I型コラーゲンCテロペプチド (ICTP)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	RIA	ng/mL 4.5未満 (骨転移判定のcut off値)	170 *3 生化II		4 6
0569	前立腺特異抗原 (PSA)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/mL 4.0以下	130 *4 生化II		1 2
1043	PIVKA-II	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	CLIA	mAU/mL 40未満	143 生化II		1 2
0674	神経特異エノラーゼ (NSE)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ECLIA	ng/mL 16.3以下	146 *2 生化II	溶血は高値の影響があります。	3 4
0773	エラスターゼ1	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ラテックス凝集法	ng/dL 300以下	129 生化II		3 4
1888	尿中NMP22	08	尿 5.0	EIA	U/mL 12.0以下	151 *5 生化II		4 6
4520	PSAフリー/トータル比	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.7	CLIA	下欄参照	158 *6 生化II		3 4
0585	PSAタンデム	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	ng/mL 4.00以下	130 生化II		3 4
2723	PSA-ACT	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	CLIA	ng/mL 3.4以下	130 生化II	前立腺肥大症と前立腺癌の判別のカットオフ値は7.0ng/mLが推奨される。	3 4
1902	抗p53抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	U/mL 1.30以下	163 *7 生化II		4 6
0586	高感度PSA	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.7	CLIA	ng/mL 4.000以下	130 生化II		3 4

腫瘍関連ホルモンレセプター

9992	HER2蛋白定量 (血清)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	陰性 15.2以下 陽性 15.3以上	ng/mL 320 *8 生化II	判定結果において「陽性」とは、HER2蛋白の過剰発現を意味します。	3 6
------	---------------	---	-----------------	------	------------------------	-------------------	-----------------------------------	--------

- *1 サイトケラチン19フラグメント(シフラ)は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。
- *2 ガストリン放出ペプチド前駆体(Pro-GRP)を神経特異エノラーゼ(NSE)と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- *3 I型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)又はデオキシピリジリン(DPD)(尿)は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。
- *4 前立腺特異抗原(PSA)は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、PSAの検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を上限として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の適用欄に記載する。
- *5 核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)及び核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)は、尿沈渣(鏡検法)により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。また、尿路上皮癌の診断が確定した後にを行った場合であっても、悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。
- *6 遊離型PSA比(PSA F/T比)は、診察及び他の検査(PSA等)の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
- *7 抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は肺癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。
- *8 HER2蛋白は、悪性腫瘍が既に確定診断され、かつ、HER2蛋白過剰発現が認められている患者又は他の測定法により、HER2蛋白過剰発現の有無が確認されていない再発癌患者に対して、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

フリーPSA/トータルPSA比 (基準値)

前立腺癌と非癌との鑑別	トータルPSA4.1~10.0ng/mLのグレーゾーンにおいて、F/T比26.0%以下の場合、前立腺癌の高度疑い	
基準値	トータルPSA	4.00ng/mL以下
	フリーPSA	未設定
	フリー/トータル比	26.1%以上

腫瘍部位とマーカーの有用性

項目名	部位	肺	脾	胃	肝	食道	胆	大腸	卵巣	子宮	乳	膀胱	前立腺	甲状腺	血液
0168	CEA	○	○	○	○	△	○	◎	○	△	○			△	
1078	BFP	○	○		○		○		○	○			○		
0169	AFP				◎										
1810	AFPレクチン分画				◎										
0170	CA19-9		◎	△	○		◎	○	○						
1034	DUPAN-2		◎		○		○								
1158	SPan1		◎	△	○		◎	△							
1048	NCC-ST-439	○	◎		○		○	○			◎				
1041	SLX	◎	◎				○		◎						
1070	CA72-4	△	○	○				○	◎		○				
1130	BCA225										◎				
1213	STN			○					◎						
0646	TPA	○	○		○		○	○	△		△	△	△		
0753	CA125		△						◎						
0610	CA15-3										◎				
1229	CA602								◎	○					
1043	PIVKA-II				◎										
1268	CYFRA21-1	◎							△		△				
0666	SCC抗原	◎				○				◎					
0569	PSA												◎		
0597	γ-Sm												◎		
4520	PSAフリー/トータル比												◎		
0773	エラスターゼ1		◎												
0674	NSE	◎													
1235	CA54/61	○	○	○				○	◎	○					
1768	Pro-GRP	◎													
1888	尿中NMP22											◎			
1902	抗p53抗体	△		△		◎		◎	△		◎	△	△		

検体検査実施料について

- (1) 腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度に算定する。
- 悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は悪性腫瘍特異物質治療管理料（下記）に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。
- ア) 急性及び慢性肺炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合
 - イ) 肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、 α -フェトプロテイン（AFP）又はPIVKA-II半定量又は定量を行った場合（月1回に限る）
 - ウ) 子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的としてCA125又はCA602を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各1回に限る）
 - エ) 家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原（CEA）を行った場合

悪性腫瘍特異物質治療管理料について

悪性腫瘍特異物質治療管理料

- (1) 悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り算定する。
- (2) 悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、1月のうち2回以上腫瘍マーカー検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。
- (3) 腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に記載する。
- (4) 初回月加算は、適切な治療管理を行うために多項目の腫瘍マーカー検査を行うことが予想される初回月に限って算定する。ただし、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する当該初回月の前月において、腫瘍マーカーを算定している場合は、当該初回月加算はできない。
- (5) 腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合には、1項目とみなして、本管理料を算定する。
- (6) 当該月に悪性腫瘍特異物質以外の検査（腫瘍マーカーの項に規定する例外規定を含む。）を行った場合は、本管理料とは別に、検査に係る判断料を算定できる。
- (7) 特殊な腫瘍マーカー検査及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する腫瘍マーカー検査及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

測定方法	検査項目	悪性腫瘍特異物質治療管理料	
		同一患者 月1回	加算点 初回月
精密測定	癌胎児性抗原（CEA）	1項目 :360点 2項目以上 :400点	:150点
	扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）		
	CA15-3		
	前立腺特異抗原（PSA）		
	CA72-4		
	神経特異エノラーゼ（NSE）		
	核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）、同定性（尿）		
	サイトケラチン8・18（尿）		
	サイトケラチン19フラグメント（シフラ）		
	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）		
	CA602		
	ヒト精巢上体蛋白4（HE4）		
	HER2タンパク		
	※ [] 内は、受託中止項目です。		

(イ. 尿中BTAに係るもの ロ. その他のもの)

- 注1. イについては、別に厚生労働大臣が定める基準を満たす保険医療機関において、悪性腫瘍の患者に対して、尿中BTAに係る検査を行い、その結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り第1回の検査及び治療管理を行ったときに算定する。
- 注2. ロについては、別に厚生労働大臣が定める基準を満たす保険医療機関において、悪性腫瘍の患者に対して、区分番号D009に掲げる腫瘍マーカーに係る検査（注1に規程する検査を除く。）のうち1又は2以上の項目を行い、その結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り第1回の検査及び治療管理を行ったときに算定する。
- 注3. 注2に規程する悪性腫瘍特異物質治療管理に係る腫瘍マーカーの検査を行った場合は、1回目の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定すべき月に限り、150点を口の所定点数に加算する。ただし、当該月の前月に腫瘍マーカーの所定点数を算定している場合は、この限りではない。
- 注4. 注1に規程する検査及び治療管理並びに注2に規程する検査及び治療管理を同一月に行った場合にあっては、ロの所定点数のみにより算定する。
- 注5. 腫瘍マーカーの検査に要する費用は所定点数に含まれるものとする。
- 注6. 注1及び注2に規程されていない腫瘍マーカーの検査及び計画的な治療管理であって特殊なものに要する費用は、注1又は注2に掲げられている腫瘍マーカーの検査及び治療管理のうち、最も近似するものの所定点数により算定する。

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	備考 主な商品名	所要 日数
-----------	------	----------	---------------	-------------	------	--------	------------	-------------	----------

抗てんかん剤

0784	フェニトイン	A	血液 2.0	血清 0.5	LA	10~20 μg/mL	特	ジフェニルヒダントイン ヒダントール アレビアチン	2 ~ 4
0783	フェノバルビタール	A	血液 2.0	血清 0.5	LA	10~35 μg/mL	特	フェノバル リナーセン ルミナル	2 ~ 4
0786	プリミドン	A	血液 2.0	血清 0.5	EIA	5.0~12.0 μg/mL	特	プリムロン プリミドン	2 ~ 5
0785	カルバマゼピン	A	血液 2.0	血清 0.5	LA	4~12 μg/mL	特	テグレート テレスミン レキシシ	2 ~ 4
0787	バルプロ酸ナトリウム	A	血液 2.0	血清 0.5	LA	40~125 μg/mL	特	デパケン ハイセレニン パレリン	2 ~ 4
0663	エトスクシミド	A	血液 2.0	血清 0.5	EIA	40.0~100.0 μg/mL	特	ザロンチン エビレオプチマル	3 ~ 5
0882	クロナゼパム	A	血液 2.0	血清 0.5	LC/MS/MS	25~75 ng/mL	特	ランドセン リボトリール	4 ~ 6
0695	ニトラゼパム	A	血液 2.0	血清 0.5	LC/MS/MS	200以下 ng/mL	特	ネルボン ベンザリン	4 ~ 6
1084	ジアゼパム	A	血液 2.0	血清 0.5	HPLC	600~1000 ng/mL	特	セルシン、ホリゾン、ソナコン、 ジアボックス (N-デスメチルジア ゼパムも同時報告いたします。)	4 ~ 6
1064	ゾニサミド	A	血液 2.0	血清 0.5	LA	10~30 μg/mL	特	エクセグラン	3 ~ 5
0855	クロバザム	A	血液 2.0	血清 0.5	LC/MS/MS	ng/mL	特	マイスタン (デスメチルクロバザムも 同時報告いたします。)	4 ~ 6
2660	ガバベンチン	I	血液 2.0	ヘパリン血清 0.5	LC/MS/MS	μg/mL	特	ガバベン錠	4 ~ 6
2634	レベチラセタム	A	血液 2.0	血清 0.5	LC/MS/MS	μg/mL	特	イーケブラ	4 ~ 5
2661	ラモトリギン	I	血液 2.0	ヘパリン血清 0.5	LC/MS/MS	μg/mL	特	ラミクタール	4 ~ 6

精神神経用剤

1037	ハロペリドール	A	血液 2.0	血清 0.5	EIA	3.0~17.0 ng/mL	特	血漿も検査可。 (ヘパリン、EDTA2Na)	2 ~ 4
1763	ブロムペリドール	A	血液 2.0	血清 0.5	EIA	15.0以下 ng/mL	特	インプロメン	2 ~ 4
0859	リチウム (Li)	A	血液 2.0	血清 0.5	比色法	0.3~1.2 mEq/L	特	リーマス リチオマル	3 ~ 5
2613	クロルプロマジン	A	血液 8.0	血清 2.5	GC-MS	ng/mL		ウィンタミン コントミン	9 ~ 15

A

C

I

A 汎用試験管
分離剤C EDTA試験管
EDTA-2NaI ヘパリン試験管
ヘパリンNa

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	備考 主な商品名	所要 日数
-----------	------	----------	---------------	-------------	------	--------	------------	-------------	----------

鎮 痙 剤

2506	Ｌ－ドーパ	C	血液 5.0 ⇨ EDTA血液 2.0		HPLC	ng/mL 1.2~2.2		⊕:分離後 ドバストン、ドバゾール ドパール	6 ~ 12
------	-------	---	---------------------	--	------	------------------	--	------------------------------	--------------

ジギタリス製剤

0788	ジゴキシン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		LA	ng/mL 0.5~1.5	特	ジゴキシン	2 ~ 4
------	-------	---	-----------------	--	----	------------------	---	-------	-------------

不 整 脈 用 剤

1789	プロカインアミド	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		EIA	μg/mL 4.0~10.0	特	アミサリン	3 ~ 5
2627	キニジン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		EIA	μg/mL 2.0~6.0	特	硫酸キニジン	3 ~ 9
2628	アプリンジン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		LC/MS/MS	μg/mL 0.25~1.25	特	アスペノン	4 ~ 6
1252	リドカイン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		EIA	μg/mL 1.2~5.0	特	キシロカイン	3 ~ 5
1017	ジソピラミド	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		EIA	μg/mL 2.0~5.0	特	リスモダン、ノルペース カフィール、リスラミドR	3 ~ 5
2629	ピルシカイニド	I	血液 2.0 ⇨ ヘリン血液 0.5		LC/MS/MS	μg/mL peak 0.2~0.9	特	サンリズム	4 ~ 6
2631	プロパフェノン	A	血液 5.0 ⇨ 血清 1.5		LC/MS/MS	ng/mL		フロノン ソビラール	4 ~ 6
1215	メキシレチン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		LC/MS/MS	μg/mL 0.5~2.0	特	メキシチール メキシレート チルミメール	4 ~ 6
1633	フレカイニド	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		LC/MS/MS	ng/mL 200~1000	特	タンボコール	4 ~ 6
2618	シベンゾリン	I	血液 2.0 ⇨ ヘリン血液 0.5		LC/MS/MS	ng/mL trough 70~250	特	シベノール	4 ~ 6
2869	アミオダロン	I	血液 2.0 ⇨ ヘリン血液 0.6		LC/MS/MS	ng/mL 500~1000	特	アンカロン	4 ~ 6
2652	ピルメノール	I	血液 6.0 ⇨ ヘリン血液 1.5		HPLC	ng/mL 400.0以上	特	ピメノール	4 ~ 7
2635	ベプリジル	I	血液 2.0 ⇨ ヘリン血液 0.5		LC/MS/MS	μg/mL 250~800	特	ベプリコール	4 ~ 5

抗 生 物 質 製 剤

2646	ゲンタマイシン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		EIA	peak trough μg/mL 15~20 1未満	特	⊕:分離後 ゲンタシン、ルイネシン エルタシン	3 ~ 5
2647	トブラマイシン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		EIA	peak trough μg/mL 15~20 1未満	特	⊕:分離後 トブラシン	3 ~ 5
2648	アミカシン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		EIA	peak trough μg/mL 50~60 4未満	特	⊕:分離後 アミカマイシン、ピクリン アルベカシンの交差反応があるので注意下さい。	3 ~ 5
1658	バンコマイシン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		EIA	trough μg/mL 10~15	特	塩酸バンコマイシン	3 ~ 5
2650	アルベカシン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		ラテックス 凝集比濁法	peak trough μg/mL 15~20 1~2未満	特	⊕:分離後 ハベカシン	3 ~ 5
1659	テイコプラニン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		ラテックス 凝集比濁法	trough μg/mL 15~30	特	タゴシット	3 ~ 5

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	備考 主な商品名	所要 日数
-----------	------	----------	---------------	-------------	------	--------	------------	-------------	----------

鎮咳去痰剤

0633	テオフィリン	A	血液 2.0 ⇨	血清 0.5	LA	成人 乳児	μg/mL 5~15 5~10	⑦ ユニフィル アミノフィリン キョーフィリン	2 ~ 4
------	--------	---	----------	--------	----	----------	-----------------------	----------------------------------	-------------

免疫抑制剤

1280	シクロスポリン	C	EDTA加血液 0.7		ECLIA		ng/mL	⑦ ネオーラル サンディミュン ④単独検体	3 ~ 5
1864	タクロリムス	C	EDTA加血液 0.7		ECLIA		ng/mL	⑦ プログラフ グラセプター ④単独検体	3 ~ 5

解熱鎮痛消炎剤

1220	サリチル酸	A	血液 2.0 ⇨	血清 0.5	酵素法	(抗炎症作用)	μg/mL 100~250	⑦ アスピリン パファリン	3 ~ 5
2633	アセトアミノフェン	A	血液 2.0 ⇨	血清 0.5	EIA	(中毒域) 4時間 200.1以上 8時間 100.1以上 12時間 50.1以上	190 *1 生化 I	アセトアミノフェン ピリナジン ナバ	4 ~ 9

抗悪性腫瘍剤

2655	メトトレキサート	A	血液 2.0 ⇨	血清 0.5	EIA	(危険限界濃度) 24時間 10以上 48時間 1以上 72時間 0.1以上	⑦	採血時刻 メトトレキサート・ロイコボリン 救急療法時 24時間、48時間、 72時間	2 ~ 5
2657	5-フルオロウラシル (5-FU)	A	血液 5.0 ⇨	血清 1.5	HPLC		ng/mL	5-FU, FU フルフルール、ユーエフティ フルツロン、ミフロール ヤマフル	

刺激療法剤

1035	金 (金コロイド)	血清	A	血液 3.0 ⇨	血清 1.0	原子吸光法	μg/dL	シオゾール	4 ~ 13
2658		尿	e	尿 6.0					

その他

2665	乱用薬物スクリーニング	g	尿 10.0		EMIT (スクリーニング) LC/MS/MS法 (確認検査)	検出せず		防腐剤不用。 次頁参照。	4 ~ 6
2670	覚せい剤検査	g	尿 10.0		EMIT (スクリーニング) LC/MS/MS法 (確認検査)	検出せず			4 ~ 6
2666	アヘン系麻薬検査	g	尿 10.0		EMIT (スクリーニング) LC/MS/MS法 (確認検査)	検出せず			4 ~ 6
2667	コカイン系麻薬検査	g	尿 10.0		EMIT (スクリーニング) LC/MS/MS法 (確認検査)	検出せず			4 ~ 6
2668	大麻・マリファナ検査	g	尿 10.0		EMIT (スクリーニング) LC/MS/MS法 (確認検査)	検出せず			4 ~ 6
2669	幻覚剤検査	g	尿 10.0		EMIT (スクリーニング) LC/MS/MS法 (確認検査)	検出せず			4 ~ 6

※1 アセトアミノフェンは、同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	備考 主な商品名	所要 日数
そ の 他								
2578	農薬 スクリーニング	〈血液〉	I へパリン加血液 5.0	GC-MS	検出せず		対象農薬は下表参照。	8 13
2579		〈尿〉	e 尿5.0					
0587	パラコート (グラムキソン)	〈血清〉	A 血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	HPLC	μg/mL 0.1未満		検出限界未満を基準値 とします。	5 12
2829		〈尿〉	e 尿1.0					

乱用薬物スクリーニング対象薬物

覚せい剤、アヘンアルカロイド系麻薬（エチルモルヒネを除く）
コカアルカロイド系麻薬、幻覚剤、大麻・マリファナ

農薬スクリーニング対象薬物

有機リン酸系農薬、ピレスロイド剤、トリアジン系農薬、
カーバメート系農薬、アニリン系農薬

※パラコートについては、個別の定量分析として実施
（「農薬スクリーニング」対象外薬物）

A



C



I



e



g



A 汎用試験管
分離剤
C EDTA試験管
EDTA-2Na
I へパリン試験管
へパリンNa
e 滅菌スピッツ管
g 褐色ポリ瓶

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
-----------	------	----------	---------------	-------------	------	-----	------------	----	----------

肝炎ウイルス関連検査

0842	IgG・HA抗体	A	血液 2.0	血清 0.6	CLIA	(-)	S/CO 146 免疫	*1	3 4
0841	IgM・HA抗体	A	血液 2.0	血清 0.6	CLIA	(-)	146 免疫	*1	3 4
0209	HBs抗原	A	血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	(-)	29 免疫		1 2
0843			血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	(-) 1.0未満	COI 88 免疫		1 2
0210	HBs抗体	A	血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	(-)	32 免疫		1 2
0844			血液 2.0	血清 0.5	ECLIA	(-) 10.0未満	IU/L 88 免疫		1 2
0845	HBe抗原	A	血液 2.0	血清 0.5	CLIA	(-)	107 免疫		3 4
0846	HBe抗体	A	血液 2.0	血清 0.6	CLIA	(-)	107 免疫		3 4
3985	HBc抗体	A	血液 2.0	血清 0.5	PHA	64倍未満	141 免疫	*2	4 6
0847			血液 2.0	血清 0.5	CLIA	(-)			3 4
0656	IgM・HBc抗体	A	血液 2.0	血清 0.5	CLIA	(-)	146 免疫	*2	3 4
2698	HBVプレコア変異及び コアプロモーター変異	05	血液 2.0	血清 0.5	PCR-ミニシーケンス法/ 特異プローブ法		450 微生物	*3 :分離後 単独検体	4 7

※1 HA抗体とHA-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。

※2 HBc抗体半定量・定量とHBc-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。

※3 HBV核酸プレコア変異及びコアプロモーター変異検出は、B型急性肝炎患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に限り、患者1人につき1回算定できる。B型慢性肝炎患者に対しては経過観察中にALT異常値などにより肝炎憎悪が疑われ、かつ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できる。なお、本検査実施以降は、肝炎ウイルス関連検査のうちB型肝炎に関する検査(ただし、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の治療効果判定に用いる検査を除く。)は、算定できない。

肝炎ウイルス判定基準

検査項目名		陰性(-)	判定保留(±)	陽性(+)
IgG・HA抗体	S/CO値	1.00未満		1.00以上
IgM・HA抗体	S/CO値	0.80未満	0.80~1.20	1.21以上
HBs抗原	カットオフ比	1.0COI未満		1.0COI以上
HBs抗体	測定値	10.0IU/l未満		10.0IU/l以上
HBe抗原	S/CO値	1.0未満		1.0以上
HBe抗体	阻害率	50.0%未満		50.0%以上
HBc抗体	S/CO値	1.00未満		1.00以上
IgM・HBc抗体	S/CO値	1.0未満		1.0以上

A

05

31

41



A 汎用試験管
分離剤

05 PCR専用試験管
分離剤

31 HBV・HCV専用容器
分離剤

41 HIV-1専用容器
分離剤、EDTA-2K

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL)	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
--------	------	------	----------	----------	------	-----	---------	----	-------

肝炎ウイルス関連検査

1813	HBV-DNA定量/ リアルタイムPCR(IU)	31	血液 5.0	血清 2.0	リアルタイムPCR	L.IU/mL 検出せず	279 微生物	単独検体	4 6
3987	HBVゲノタイプ《EIA》	A	血液 2.0	血清 0.5	EIA		340 免疫	*1 HBs抗原量の少ない検体は、判定保留となる場合があります。	3 7
1281	HCV抗体	A	血液 2.0	血清 0.5	CLIA	S/CO 1.00未満	111 免疫		1 2
1811	HCVコア蛋白-HS	A	血液 3.0	血清 0.6	CLIA	fmol/L 3.0未満	111 免疫		3 4
1805	HCV-RNA定量/ リアルタイムPCR	31	血液 5.0	血清 2.0	リアルタイムPCR	L.IU/mL 検出せず	437 微生物	*2 単独検体	4 6
1374	HCV群別 (グループ分類)	A	血液 2.0	血清 0.6	CLEIA	下表参照	233 免疫	*3	3 6
1247	HCVサブタイプ解析 (HCV-RNAジェノタイプ)	05	血液 2.0	血清 0.5	RT-PCR法	検出せず (1a,1b,2a,2b,3a,3b)		*4 分離後 単独検体	4 6 注1

レトロウイルス

2687	《PA》	A	血液 2.0	血清 0.5	PA	16倍未満	85 免疫		3 5
0578	HTLV-I抗体 (ATLA)	《CLIA》	A	血液 2.0	血清 0.5	CLIA	(-) S/CO 1.00未満	173 免疫	1 3
2527	《確認試験》	A	血液 2.0	血清 0.6	ウエスタンブロット法	(-)	425 免疫	*4	4 10
0560	HIV-抗原・抗体	05	血液 2.0	血清 0.6	CLIA	陰性	118 免疫	単独検体	2 4 注2
0561	HIV-1抗体 《確認試験》	05	血液 2.0	血清 0.6	ウエスタンブロット法	陰性	280 免疫	*5 単独検体	4 7
0562	HIV-2抗体 《確認試験》	05	血液 2.0	血清 0.6	ウエスタンブロット法	陰性	380 免疫	*5 単独検体	4 10
1806	HIV-1RNA定量/ リアルタイムPCR	41	血液 7.0	EDTA血清 2.1	リアルタイムPCR	copy/mL 検出せず	520 微生物	*6 単独検体	4 6 注3

- *1 HBVジェノタイプ判定は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
 - *2 HCV核酸定量は、急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。また、治療経過の観察の場合において、HCV核酸定量及びHCV核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 - *3 HCV血清群別判定は、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
 - *4 HTLV-I抗体(ウエスタンブロット法及びライソブロット法)は、HTLV-I抗体定性、半定量又はHTLV-I抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的としてウエスタンブロット法又はライソブロット法により行った場合に算定する。
 - *5 HIV-1抗体(ウエスタンブロット法)又はHIV-2抗体(ウエスタンブロット法)は、スクリーニング検査としてのHIV-1抗体、HIV-1,2抗体定性若しくは同半定量、HIV-1,2抗体定量又はHIV-1,2抗原・抗体同時測定定性若しくは同定量が陽性の場合の確認診断用の検査である。
 - *6 HIV-1核酸定量は、HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1抗体、HIV-1,2抗体定性、同半定量、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性、同定量、又はHIV-1,2抗体定量が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。HIV-1抗体(ウエスタンブロット法)を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができる。
- 注1. 「HCV-RNA」の検体採取・保存に際しては、RNA分解酵素の影響及び検体相互のCross Contaminationを防ぐため、以下の点にご注意下さい。
- ①素手で採血管のゴムキャップ、スピッツ管の蓋にふれないで下さい。
 - ②真空採血管(分離剤入り:ガラス管不可)を使用し、採血して下さい。
 - ③同一検体で他の項目との同時依頼をしないで下さい。
 - ④遠心分離後必ず凍結し(-80℃が望ましい)、凍結融解をしないで下さい。
 - ⑤キャップの開封、分取などが必要な場合、必ず1検体ずつ処理して下さい。
- 注2. スクリーニング検査《CLIA》で「陽性」を呈した場合は、原則としてウエスタンブロット法による確認検査を実施致します。
- 注3. 「HIV-1RNA定量」のご依頼にあたっては、他項目とは別に(HIV-1専用容器)単独検体としてご提出下さい。
- ①必ず専用採血管にて採血し、1200×g±400×g、20分間遠心分離してご提出下さい。
 - ②血清は検査不可。
 - ③患者名はイニシャルまたはID番号をご使用下さい。

HCV群別

意義	判定
どちらのグループも陽性で抗体価の比較が2倍以上とならない場合で、どちらのグループか判定できない場合	判定保留
どちらのグループの抗体も陰性の場合	判定不能 (不検出)
一方のグループの抗体が陽性で、他方のグループが陰性の場合	GROUP1 又は GROUP2
どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の2倍以上を示した場合、高い抗体価のグループを報告します。	

リアルタイムPCR法の結果表示

検査項目	内容	報告書表示
HBV-DNA/ リアルタイムPCR法	増幅反応シグナルを検出しなかった場合	検出せず
	1.0L.IU/mL(定量下限値)未満で、増幅反応シグナルを検出した場合	<1.0+
	測定範囲内で結果を得た場合	1.0~9.1
	9.1L.IU/mL(定量上限値)を超えた場合	9.1以上
HCV-RNA/ リアルタイムPCR法	増幅反応シグナルを検出しなかった場合	検出せず
	1.2L.IU/mL(定量下限値)未満で、増幅反応シグナルを検出した場合	<1.2+
	測定範囲内で結果を得た場合	1.2~8.1
	8.1L.IU/mL(定量上限値)を超えた場合	8.1以上

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
-----------	------	----------	---------------------------	------	-----	------------	----	----------

ウイルス抗原の検出

4156	アデノウイルス抗原定性	i	糞便 1.0g	ICA	(-)	60 免疫	※1	3 ~ 9
4144	サイトメガロウイルスpp65 抗原 (C7-HRP)	C	EDTA加血液 3.0	直接酵素抗体法	陰性	387 免疫	単独検体	3 ~ 5
4094	サイトメガロウイルス抗原 アンチジェネミア	C	EDTA加血液 5.0	間接酵素抗体法	(-)	387 免疫	単独検体	3 ~ 4
1104	単純ヘルペス ウイルス特異抗原 〈塗抹標本〉	09	塗抹標本	FAT	1型 陰性 2型 陰性	180 免疫	※2 採取方法は、N-7頁をご参照下さい。	4 ~ 6
4150	単純ヘルペス ウイルス抗原	〈ぬぐい液〉	11	ぬぐい液	シェル・バイアル法	1型 陰性 2型 陰性		4 ~ 6
4151		〈水疱内容〉	11	水疱内容				
4152	水痘・帯状 ヘルペスウイルス抗原 〈水疱内容〉	11	水疱内容	シェル・バイアル法	陰性			5 ~ 7
2972	ロタウイルス抗原	i	糞便 1.0g	EIA	(-)	65 免疫	※1 単独検体	4 ~ 10
1250	HPV-DNA同定 〈中〜高リスク型〉	d	ぬぐい液	ハイブリッド キャプチャー法	陰性 Index 1.00未満	360 微生物	※3 検体の採取・保存には専用容器を ご使用下さい。注1	3 ~ 4
4159								
1254	パルボウイルス B 19 DNA	05	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	PCR	検出せず			6 ~ 8
0637	EBV-DNA定量	05	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	リアルタイムPCR	コピー/mL 100未満		髄液でも検査可 単独検体	3 ~ 5
1901	ノロウイルス-RNAマルチ	33	糞便	リアルタイムPCR	ノロウイルスG1(-) ロタウイルスG群(-) GII(-) アデノウイルス40/41型(-) ロタウイルスA群(-) アストロウイルス(-)		単独検体	4 ~ 7
1915	ノロウイルス抗原《EIA》	25	糞便 1.0g	EIA	(-)		単独検体	3 ~ 6

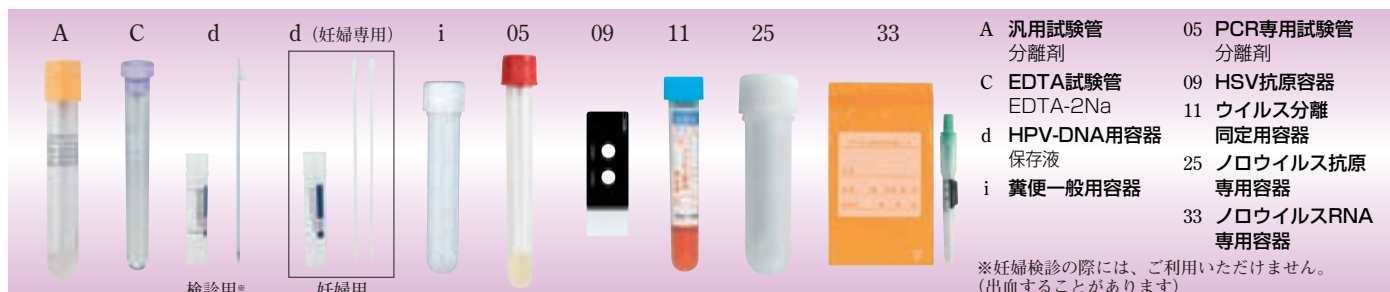
※1 アデノウイルス抗原定性(糞便)とロタウイルス抗原定性(糞便)又は定量(糞便)を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定する。

※2 単純ヘルペスウイルス抗原定性は、ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。

※3 HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)は、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。又当該検査とHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

注1. HPVとして、16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、および68型の“中〜高リスク型” HPVを検出致します(型別判定はできません)。

注2. 6、11、42、43、および44型の“低リスク型” HPVを検出致します(型別判定はできません)。



コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	--------	--------	----	------

ウイルス抗体の検出 (NT)

1028	単純ヘルペス (HSV)	1 型	A	血液各2.0 ⇨ 血清各0.5	NT	血清4倍 髄液原液	79 免疫	※1 髄液も検査可。	12 / 18
1029		2 型							
4111	麻疹		A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	NT	血清4倍 髄液原液	79 免疫	※1 髄液も検査可。	8 / 12
1036	ムンプス		A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	NT	血清4倍 髄液原液	79 免疫	※1 髄液も検査可。	12 / 18
1058	RS		A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	NT	血清4倍 髄液原液	79 免疫	※1 髄液も検査可。	12 / 18
1105	エコー	1 型	A	血液各2.0 ⇨ 血清各0.5	NT	血清8倍 髄液原液	79 免疫	※1 髄液も検査可。	12 / 18
4024		3 型							
4025		4 型							
4026		5 型							
4027		6 型							
4028		7 型							
4029		9 型							
4030		1 1 型							
4031		1 2 型							
4032		1 3 型							
4033		1 4 型							
4034		1 6 型							
4035		1 7 型							
4036		1 8 型							
4037		1 9 型							
4038		2 1 型							
4039		2 2 型							
4040		2 4 型							
4041		2 5 型							
4042		3 0 型							

※1 ウイルス抗体価(1) ・同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
 ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
 ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)とグロブリンクラス別ウイルス抗体価を併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
 ウイルス抗体価(2) ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。
 ①アデノウイルス ②コクサッキーウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤エコーウイルス ⑥ヘルペスウイルス ⑦インフルエンザウイルスA型 ⑧インフルエンザウイルスB型 ⑨ムンプスウイルス ⑩パラインフルエンザウイルスⅠ型 ⑪パラインフルエンザウイルスⅡ型 ⑫パラインフルエンザウイルスⅢ型 ⑬ポリオウイルスⅠ型 ⑭ポリオウイルスⅡ型 ⑮ポリオウイルスⅢ型 ⑯RSウイルス ⑰風疹ウイルス ⑱麻疹ウイルス ⑲日本脳炎ウイルス ⑳オーム病クラミジア ㉑水痘・帯状疱疹ウイルス

ウイルス学

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	備考	所要 日数	
ウイルス抗体の検出 (NT)										
4002	アデノ	A	血液 各2.0	⇨ 血清 各0.5	NT	血清8倍 髄液原液	79 免疫	*1 髄液も検査可。	12 18	
4003										1 型
4004										2 型
4005										3 型
4006										4 型
4007										5 型
4008										6 型
4009										7 型
4010										8 型
4011										11 型
4012	19 型									
4014	21 型									
4014	37 型									
4052	コクサッキー A群	A	血液 各2.0	⇨ 血清 各0.5	NT	血清4倍 髄液原液	79 免疫	*1 髄液も検査可。	12 18	
4053										2 型
0832										3 型
4127										4 型
4054										5 型
4055										6 型
0833										7 型
4056										9 型
0555	10 型									
0555	16 型									
0555	16 型									

* : NT法の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますので、ご了承下さい。

細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	--------	--------	----	------

ウイルス抗体の検出 (NT)

4057	コクサッキーB群	1型	A 血液各2.0 ⇨ 血清各0.5	NT	血清8倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	12 18
4058		2型						
4059		3型						
4060		4型						
4061		5型						
4062		6型						
1106	エンテロ	70型	A 血液各2.0 ⇨ 血清各0.5	NT	血清8倍 髄液原液		髄液も検査可。	12 18
1062		71型						
4101	ポリオ	1型	A 血液各2.0 ⇨ 血清各0.5	NT	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	12 18
4102		2型						
4103		3型						

※1 ウイルス抗体価(1) ・ 同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
 ・ ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
 ・ ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)とグロブリンクラス別ウイルス抗体価を併せて測定した場合には、いずれか一方の点数を算定する。
 ウイルス抗体価(2) ・ ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。
 ①アデノウイルス ②コクサッキーウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤エコーウイルス ⑥ヘルペスウイルス ⑦インフルエンザウイルスA型 ⑧インフルエンザウイルスB型 ⑨ムンプスウイルス ⑩パラインフルエンザウイルスⅠ型 ⑪パラインフルエンザウイルスⅡ型 ⑫パラインフルエンザウイルスⅢ型 ⑬ポリオウイルスⅠ型 ⑭ポリオウイルスⅡ型 ⑮ポリオウイルスⅢ型 ⑯RSウイルス ⑰風疹ウイルス ⑱麻疹ウイルス ⑲日本脳炎ウイルス ⑳オーム病クラミジア ㉑水痘・帯状疱疹ウイルス

ウイルス学



A

A 汎用試験管
分離剤

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	備考	所要 日数
-----------	------	----------	---------------	-------------	------	--------	------------	----	----------

ウイルス抗体の検出(CF)

0821	単純ヘルペス (HSV)	A	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
0822	水痘・帯状ヘルペス (VZV)	A	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
1030	ムンプス	A	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
0824	インフルエンザ	A型	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
0825		B型	血液 2.0	血清 0.5					
0895	RS	A	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
0831	日本脳炎	A	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
4001	アデノ	A	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
0653	サイトメガロ (CMV)	A	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
4093	ロタ	A	血液 2.0	血清 0.5	CF	血清4倍 髄液原液		髄液も検査可。	4 〜 6
4051	コクサッキー A群	9型	血液 各2.0	血清 各0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
0834	コクサッキー B群	1型	血液 各2.0	血清 各0.5	CF	血清4倍 髄液原液	79 免疫 ※1	髄液も検査可。	4 〜 6
0835		2型							
0836		3型							
0837		4型							
0838		5型							
0839		6型							

- ※1 ウイルス抗体価(1) ・同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
 ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
 ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)とグロブリンクラス別ウイルス抗体価を併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
- ウイルス抗体価(2) ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。
 ①アデノウイルス ②コクサッキーウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤エコーウイルス ⑥ヘルペスウイルス ⑦インフルエンザウイルスA型 ⑧インフルエンザウイルスB型 ⑨ムンプスウイルス ⑩パラインフルエンザウイルスⅠ型 ⑪パラインフルエンザウイルスⅡ型 ⑫パラインフルエンザウイルスⅢ型 ⑬ポリオウイルスⅠ型 ⑭ポリオウイルスⅡ型 ⑮ポリオウイルスⅢ型 ⑯RSウイルス ⑰風疹ウイルス ⑱麻疹ウイルス ⑲日本脳炎ウイルス ⑳オーム病クラミジア
 ㉑水痘・帯状疱疹ウイルス

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	備考	所要日数
ウイルス抗体の検出 (HI)								
0236	風疹	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	HI	血清8倍 髄液原液	79 ※1 免疫	髄液も検査可。	4 〜 6
0237	麻疹	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	HI	血清8倍 髄液原液	79 ※1 免疫	髄液も検査可。	4 〜 6
0238	ムンプス	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	HI	血清8倍 髄液原液	79 ※1 免疫	髄液も検査可。	4 〜 6
4013	インフルエンザ	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	HI	血清10倍 髄液原液	79+79 ※1 免疫	髄液も検査可。インフルエンザA型およびB型の流行ワクチン株につき、一括検査実施致します。	4 〜 6
0871	パラインフルエンザ	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	HI	血清10倍 髄液原液	79 ※1 免疫	髄液も検査可。	4 〜 6
1型 (HA-2)								
2型 (CA)								
0873	3型 (HA-1)							
4091	日本脳炎	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	HI	血清10倍 髄液10倍	79 ※1 免疫	髄液も検査可。抗体価40倍以上の検体は、2MEでその測定結果も併せてご報告致します。	7 〜 10
0551	エコー	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	HI	血清8倍 髄液原液	79 ※1 免疫	髄液も検査可。	4 〜 6
3型								
7型								
11型								
1164	12型							
1165								

ウイルス学

A



A 汎用試験管
分離剤

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	備考	所要 日数
-----------	------	----------	---------------------------	------	--------	------------	----	----------

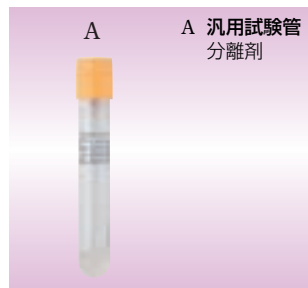
ウイルス抗体の検出 (FA・EIA)

0698	IgG					218 免疫		
0697	EBV-VCA IgA	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	FA	血清10倍 髄液原液	79 免疫	髄液も検査可。	4 5 7
0696	IgM					218 免疫		
0635	IgG					218 免疫		
0675	EBV-EADR IgA	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	FA	血清10倍 髄液原液	79 免疫	髄液も検査可。	4 5 7
0655	IgM							
0636	EBV-EBNA	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	FA	血清10倍 髄液原液	79 免疫	髄液も検査可。	4 5 7
1172	単純ヘルペス (HSV) IgG	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	EIA	IgG (-) EIA価2.0未満	218 免疫		4 5 7
1173	IgM				IgM (-) index0.80未満			
1019	水痘・帯状 ヘルペス (VZV) IgG	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	EIA	IgG (-) EIA価2.0未満	218 免疫		4 5 7
1020	IgM				IgM (-) index0.80未満			
0556	風疹 IgG	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	EIA	IgG (-) EIA価2.0未満	218 免疫		4 5 7
0557	IgM				IgM (-) index0.80未満			
4112	麻疹 IgG	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	EIA	IgG (-) EIA価2.0未満	218 免疫		4 5 7
4113	IgM				IgM (-) index0.80未満			
1167	ムンプス IgG	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	EIA	IgG (-) EIA価2.0未満	218 免疫		4 5 7
1110	IgM				IgM (-) index0.80未満			
0683	サイトメガロ (CMV) IgG	A	血液 各2.0 ⇨ 血清 各0.5	EIA	IgG (-) EIA価2.0未満	218 免疫		4 5 7
0684	IgM				IgM (-) index0.80未満			
4073	パルボウイルス B19抗体 IgG	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	(-)			4 5 10
4070	IgM		血液 2.0 ⇨ 血清 0.5		(-) index0.80未満	218 免疫		

- ※1 グロブリンクラス別ウイルス抗体価(1)・同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。
 ・同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
 ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)とグロブリンクラス別ウイルス抗体価を併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
 グロブリンクラス別ウイルス抗体価(2)・グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
 ①ヘルペスウイルス ②風疹ウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤麻疹ウイルス ⑥ムンプスウイルス ⑦ヒトパルボウイルスB19 ⑧水痘・帯状疱疹ウイルス
- ※2 ウイルス抗体価(1)・同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
 ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
 ・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)とグロブリンクラス別ウイルス抗体価を併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
 ウイルス抗体価(2)・ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。
 ①アデノウイルス ②コクサッキーウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤エコーウイルス ⑥ヘルペスウイルス
 ⑦インフルエンザウイルスA型 ⑧インフルエンザウイルスB型 ⑨ムンプスウイルス ⑩パラインフルエンザウイルスI型 ⑪パラ
 インフルエンザウイルスII型 ⑫パラインフルエンザウイルスIII型 ⑬ポリオウイルスI型 ⑭ポリオウイルスII型 ⑮ポリオ
 ウイルスIII型 ⑯RSウイルス ⑰風疹ウイルス ⑱麻疹ウイルス ⑲日本脳炎ウイルス ⑳オーム病クラミジア ㉑水痘・帯状疱疹
 ウイルス
- ※3 ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15才以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

ウイルス抗体価検査 (EIA) 判定基準

[IgG]	判定	EIA価	[IgM]	判定	index
	陰性(-)	2.0未満		陰性(-)	0.80未満
	判定保留(±)	2.0~3.9		判定保留(±)	0.80~1.20
	陽性(+)	4.0以上		陽性(+)	1.21以上

汎用試験管
分離剤

ウイルス検査項目一覧

検査項目名	検査方法 材料	抗体検査										抗原検査						備考						
		NT法		CF法		HI法		FA法		EIA法		血液	血清	尿	糞便	上皮細胞	ぬぐい液		その他					
		血	髄	血	髄	血	髄	血	髄	血	髄													
アデノ				4001	4325																			
1型		4002	4289																					
2型		4003	4290																					
3型		4004	4291																					
4型		4005	4292																					
5型		4006	4293																					
6型		4007	4294																					
7型		4008	4295																					
8型		4009	4296																					
11型		4010	4297																					
19型		4011	4298																					
21型		4012	4372																					
37型		4014																						
抗原																	4156						(ICA)	
コクサッキーA群	2型	4052	4369																					
3型		4053	4370																					
4型		0832	4299																					
5型		4127																						
6型		4054	4300																					
7型		4055	4301																					
9型		0833	4302	4051	4368																			
10型		4056	4303																					
16型		0555	4304																					
B群	1型	4057	4305	0834	4326																			
2型		4058	4306	0835	4327																			
3型		4059	4307	0836	4328																			
4型		4060	4308	0837	4329																			
5型		4061	4309	0838	4330																			
6型		4062	4310	0839	4331																			
サイトメガロ				0653	4332																			
IgG									0683															
IgM									0684															
抗原										4144														サイトメガロpp65抗原
エンテロ	70型	1106	4311																					
71型		1062	4312																					
ポリオ	1型	4101	4313																					
2型		4102	4314																					
3型		4103	4315																					
EBV	VCA	IgG							0698	4359														
		IgA							0697	4360														
		IgM							0696	4361														
	EADR	IgG							0635	4362														
		IgA							0675	4363														
		IgM							0655	4364														
	EBNA	DNA							0636	4371														
													0637											(リアルタイムPCR)
パルボB19	IgG								4073															
	IgM								4070															
	抗原												1254											(PCR)
オーム病				0809	4376																			
HPV(中~高リスク)	抗原																					1250		(ハイブリッドキャッチャー法)
HPV(低リスク)	抗原																					4159		(ハイブリッドキャッチャー法)

ウイルス抗体測定について

ウイルス血清抗体価の測定は、感染後産生されたものであり、過去（近い、遠い）にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すもので、今現在の状態と必ずしも一致しません。（ウイルス血清抗体価に基準値という概念はありません。）

血清診断法はあくまでも間接的な診断法であって、結果を解釈するには、①各検査法の特徴、②抗体応答パターン、③ウイルスごとの感染様式の特徴、④血清診断法の限界などを理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。

●ペア血清

ウイルス感染症の病原ウイルスを抗体から推定するためには、急性期（発病後早期）と回復期（発病後2～3週間）の血清をペアにして同時に抗体価を測定し、抗体価の上昇があることを示さなければなりません。通常、ペア血清の抗体価が4倍以上上昇している場合、有意と判断し、そのウイルスの感染を推定します。

●ウイルス抗体検査法

補体結合反応	CF	CF活性を持つ免疫グロブリンはIgG・IgM抗体のみであって、IgA抗体はCF活性を持たない。（一般的にIgG抗体を検出している。）活性はHI法やNT法よりやや遅れて上昇し、短時間しか持続せず、上昇度もそれほど高くない。
赤血球凝集反応	HI	IgG、IgA、IgM抗体の全てにHI活性がみられるため、感染後HI抗体価は速やかに上昇し、長い間（数年～何十年）持続する。また感度もCF法より良好である。
中和反応	NT	HI法とほぼ同時に上昇し、長い間持続する。感度および型特異性が高く、初感染でNT抗体価の有意の上昇を認めるときは、その診断価値が高いが、既感染のときはペア血清によるNT抗体価の有意な変動はみられない。
蛍光抗体法	FA	目的とするウイルス抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて反応させ、蛍光強度を測定する方法で、直接法（FA）と間接法（IFA）がある。FA法は検出感度が高く、特異性に優れている。また、IgG抗体、IgM抗体などのクラス別抗体測定が可能である。
酵素免疫測定法	EIA	目的とするウイルス抗原と特異抗体を反応させ、酵素反応（酵素標識抗体、基質）にて発色させ、その吸光度より定量する。検出感度が高く、IgG抗体、IgM抗体などのグロブリンクラス別抗体測定が可能である。他法に比べて感度が高く微量の抗体が定量的に検出できる。

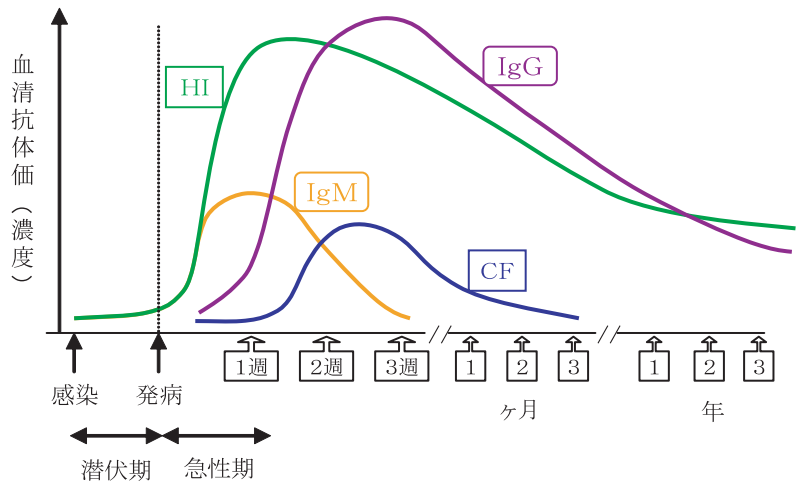
●抗体応答パターン

HI（赤血球凝集抑制反応）抗体価は発病後急速に上昇し、およそ1週間でピークに達する。その後HI価は徐々に下降していくが、何年、何十年にわたってHI抗体活性は検出される。

CF（補体結合反応）抗体価はHI活性よりも遅れて上昇し、ピーク時の力価も低く、持続も短い。

IgM抗体は最初に産生されるがその量は少なく短期間で消失する。

IgG抗体はIgM抗体の後に大量に産生され、その後低濃度になるが長時間持続する。



ウイルス学

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) → 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

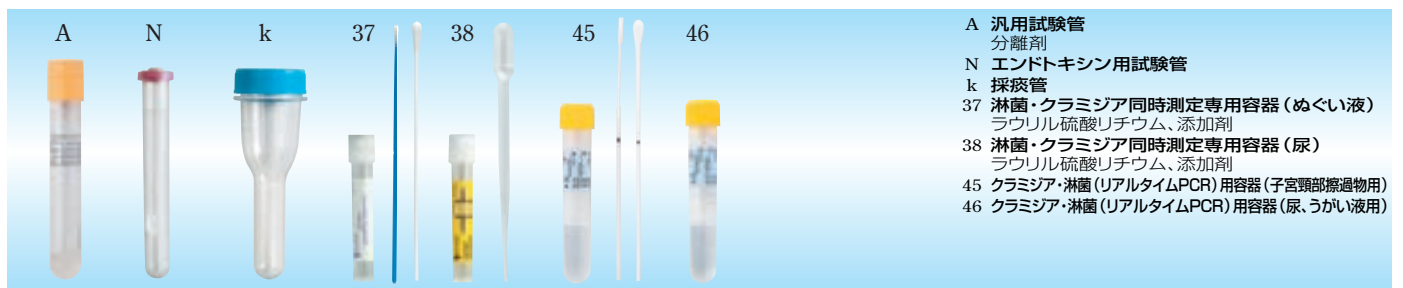
感染症血清反応

0281	ASO (ASLO)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	LA	IU/mL 0~239	15 免疫		1 2
0204	抗ストレプトキナーゼ (ASK)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	PA	1280倍以下	29 免疫		3 5
0208	寒冷凝集反応	A	血液 2.0 → 血清 0.5	HA	64倍未満	11 免疫		1 2
4430	トキソプラズマ抗体	IgG	A	血液 2.0 → 血清 0.5	CLEIA	下表参照		3 5
4431		IgM	A	血液 2.0 → 血清 0.5				
0863	マイコプラズマ抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	CF	血清4倍未満 髄液原液未満	32 免疫	髄液も検査可。	4 7
0213		A	血液 2.0 → 血清 0.5	PA	血清40倍未満 髄液40倍未満	32 免疫	髄液も検査可。	1 2
2731	マイコプラズマ ニューモニエ DNA同定	k	呼吸器系材料	LAMP	陰性	300 微生物	 単独検体	4 6
0267	梅毒定性	RPR	A	血液 2.0 → 血清 0.5	LA	(-)	15 免疫 ^{※1}	1 2
0268		TPLA法	A	血液 2.0 → 血清 0.5	LA	(-)	32 免疫	髄液も検査可。
0269	梅毒定量	RPR	A	血液 2.0 → 血清 0.5	LA	1.0未満	R.U 34 免疫 ^{※1}	1 2
0270		TPLA法	A	血液 2.0 → 血清 0.5	LA	10未満	T.U 53 免疫	1 2
0224	FTA-ABS	《定性》	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FAT	(-)	142 免疫	4 6
4162		《定量》	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FAT	20倍未満	142 免疫	
0692	FTA-ABS-IgM	《定性》	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FA	(-)	142 免疫	5 6
4164		《定量》	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FA	20倍未満	142 免疫	

※1 梅毒血清反応 (STS) 定性、梅毒血清反応 (STS) 半定量及び梅毒血清反応 (STS) 定量は、従来の梅毒沈降反応 (ガラス板法、VDRL法、RPR法、凝集法等) をい、梅毒血清反応 (STS) 定性、梅毒血清反応 (STS) 半定量及び梅毒血清反応 (STS) 定量ごとに梅毒沈降反応を併せて2種類以上ずつ行った場合でも、それぞれ主たるもののみ算定する。

トキソプラズマ抗体判定基準

トキソプラズマ抗体 IgG (IU/mL)		トキソプラズマ抗体 IgM (S/CO)	
(-)	7.5未満	(-)	0.8未満
(±)	7.5以上 10.5未満	(±)	0.8以上 1.0未満
(+)	10.5以上	(+)	1.0以上



コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
1921	クラミジア・トラコーマチス/リアルタイムPCR	45	子宮頸部擦過物	リアルタイムPCR	(-)	204 微生物	※1 ※4	4 6
1924		46	尿4.5~6.3					
1926		46	うがい液4.5~6.3					
1195	クラミジア・トラコーマチス抗体 IgA&IgG	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	次頁参照	206 免疫	※2	4 6
1821	クラミジア・ニューモニエ抗体 IgA	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	EIA	次頁参照	75 免疫		4 7
1822	クラミジア・ニューモニエ抗体 IgG	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	EIA	次頁参照	70 免疫		4 7
1841	クラミジア・ニューモニエ抗体 IgM	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	EIA	0.90未満 (-)	160 免疫		3 6
1916	淋菌及びクラミジア・トラコーマチスrRNA同時測定	37	ぬぐい液	TMA	陰性	286 微生物	※3	3 6
1917		38	尿2.0					
1922	淋菌/リアルタイムPCR	45	子宮頸部擦過物	リアルタイムPCR	(-)	204 微生物	※5 ※6	4 6
1925		46	尿4.5~6.3					
1927		46	うがい液4.5~6.3					
1152	カンジダ抗原	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	(-) タイター2未満	138 免疫	※7 ※8	3 4
4173	アスペルギルス抗原	A	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	EIA	(-) COI: 0.5未満	164 免疫	※7 ※9	3 5
1237	アスペルギルス抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CF	血清4倍未満 髄液原液未満			4 6
2949	エンドトキシン定量《ES法》	N	血液3.0	比濁時間分析法	pg/mL 5.0未満	250 免疫	※10	3 5
2700	(1→3)-β-D-グルカン	N	血液3.0	発色合成基質法	pg/mL 20以下	213 免疫	※7 ※11	3 5
0893	プロカルシトニン (PCT)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	ng/mL 0.05以下	301 生化I	※10	3 5

- ※1 クラミジア・トラコーマチス核酸検出とクラミジア・トラコーマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。
- ※2 グロブリンクラス別クラミジア・トラコーマチス抗体は、クラミジア・トラコーマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患(骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等)の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。なお、IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※3 淋菌及びクラミジア・トラコーマチス同時核酸検出は、クラミジア・トラコーマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコーマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査によっては感染因子の鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコーマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。ただし、クラミジア・トラコーマチス抗原定性、細菌培養同定検査(淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの)、淋菌核酸検出又はクラミジア・トラコーマチス核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※4 クラミジア・トラコーマチス核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。
- ※5 淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。ただし、男子尿を含み、女子尿を含まない。
- ※6 淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査(淋菌感染を疑って実施するもの)を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※7 カンジダ抗原定性、同半定量、同定量、(1→3)-β-D-グルカン、D-アラビニトール、アスペルギルス抗原、クリプトコックス抗原半定量又は同定性を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。
- ※8 カンジダ抗原定性、半定量又は定量は、カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。
- ※9 アスペルギルス抗原は、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。
- ※10 プロカルシトニン (PCT) 定量又は同半定量は、敗血症(細菌性)を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。ただし、エンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※11 (1→3)-β-D-グルカンは、深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。

免疫血清学

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

感染症血清反応

4180	百日咳菌抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	PT-IgG抗体 10未満 FHA-IgG抗体 10未満	EU/mL 272 免疫		4 6	
4183	百日咳菌抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	(−) NTU値：8.5未満	80 免疫		3 5	
4182									IgM IgA
4181	百日咳菌核酸検出	49	後鼻腔 ぬぐい液	LAMP	(−)	360 *1 微生物		3 6	
0809	オーム病抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CF	血清4倍未満 髄液原液未満	79 免疫	髄液も検査可。	4 6	
4174	ツツガ虫 Gilliam	A	血液 1.0 ⇨ 血清 0.3						
4175									IgG IgM
4176	ツツガ虫 Kato	A	血液 1.0 ⇨ 血清 0.3	FAT	10倍未満	213 免疫		6 9	
4177									IgG IgM
4178	ツツガ虫 Karp	A	血液 1.0 ⇨ 血清 0.3						
4179									IgG IgM
4189	クリプトコッカス ネオフォルマンズ抗原	A	血液 3.0 ⇨ 血清 1.0	逆受身ラテックス 凝集反応	(−)	179 免疫	髄液も検査可。	5 7	
1151	ヘリコバクター・ピロリ 抗体《定性》	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	(−)	70 免疫		1 2	
4458	ヘリコバクター・ピロリ 抗体《定量》	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	U/mL 10未満	80 免疫		1 3	
1900	便中 ヘリコバクター・ピロリ抗原	18	糞便	EIA	(−)	146 免疫		3 5	
1898	尿素 呼気試験	ユービット	12	呼気 各200~250cc	IR (赤外分光分析)	ユービット服用 20分後のΔ ¹³ C2.5%未満を (−)	70 微生物	内法の呼気採取用パックは指定の容器 (12； 呼気採取パック) をご利用下さい。各感染 診断用剤 (ユービット、ピロニック) の用法、 容量及び使用上の注意をご確認の上、服用 下さい。また、呼気の採取方法は採取容器 に添付している説明書をご確認下さい。	3 5
3898		ピロニック	13	呼気 各15cc	GC-MS (質量分析)	ピロニック服用 10分後のΔ ¹³ C3.0%未満を (−)	70 微生物		4 6
1871	アニサキス抗体IgG&IgA	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ELISA	(−) Index 0.00~1.50	210 *2 免疫		6 8	

※1 百日咳菌核酸検出は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して、LAMP法により測定した場合に算定できる。

※2 アニサキスIgG・IgA抗体は、腸アニサキス症、肉芽腫を伴う慢性胃アニサキス症又はアニサキス異所迷入例 (肺アニサキス症等) における診断のために実施した場合のみ算定できる。

クラミジア・トラコーマチス抗体IgA&IgG

判定	カットオフ・インデックス
陰性 (−)	0.900未満
判定保留 (±)	0.900~1.099
陽性 (+)	1.100以上

クラミジア・ニューモニエ抗体IgA、IgG

判定	カットオフ・インデックス
陰性 (−)	1.0未満
判定保留 (±)	1.0~1.1
陽性 (+)	1.2以上

(判定基準) 百日咳菌抗体IgM、IgA

NTU値	判定
8.5未満	(−)
8.5~11.5	(±)
11.5を超える	(+)

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
蛋 白								
0202	CRP	《定性》	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	(-)	16 免疫 ※1		1 2
0262		《定量》	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	0.30以下	16 免疫 ※1		1 2
1809	血清アミロイドA蛋白 (SAAP)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	8.0以下	47 免疫 ※1		3 5
1705	プレアルブミン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	TIA	22.0~40.0	107 免疫		3 5
0182	尿中アルブミン	e	蓄尿0.5	TIA	30.0未満	105 尿・便 ※2		1 2
0181	尿中アルブミン 《クレアチニン補正》	e	尿0.5	TIA	30.0未満	105 尿・便 ※2		1 2
1790	α ₁ アンチトリプシン (α ₁ AT)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ネフェロメトリー法	94~150	80 血液		3 4
2548	α ₁ -アシドグリコプロテイン (α ₁ -AG)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	免疫比濁法	42.0~93.0			3 5
1171	α ₁ ミクログロブリン (α ₁ -MG) (AMG)	《血清》	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	M 10.6~20.9 F 9.6~18.6	140 免疫		3 5
4198		《尿》	e 尿1.0		M 0.8~14.1 F 0.5~7.0	140 免疫		3 5
2549	α ₂ マクログロブリン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ネフェロメトリー法	M 100~200 F 130~250	138 血液		3 4
0771	β ₂ ミクログロブリン (β ₂ -MG) (BMG)	《血清》	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	0.9~1.9	107 免疫		1 2
0772		《尿》	e 尿0.5		250以下	107 免疫	酸性蓄尿は検査不可。	1 2
0626	セルロプラスミン (Cp)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ネフェロメトリー法	21.0~37.0	90 免疫		3 5
0766	トランスフェリン (Tf)	《血清》	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	TIA	M 190~300 F 200~340	60 免疫		3 4
1242		《尿》	e 尿1.0	LA	1.0以下	107 尿・便 ※2	凍結不可。	3 4
0149	フェリチン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	M 21.0~282.0 F 5.0~157.0	111 生化 I		1 2
0583	クリオグロブリン	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ゲル内拡散法	(-)	42 免疫	採血時より血清分離までの間は37℃の状態で行って下さい。	5 6
0589	ミオグロビン	《血清》	A 血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	M 154.9以下 F 106.0以下	143 生化 I ※3		3 4
1473		《尿》	06 尿6.0	RIA	10以下	143 生化 I ※3		3 5

※1 C反応性蛋白(CRP)定性又はC反応性蛋白(CRP)又は血清アミロイドA蛋白(SAA)を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
 ※2 アルブミン定量(尿)、トランスフェリン(尿)及びIV型コラーゲン(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
 ※3 ミオグロビン定性又は定量と心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。



コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) → 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
蛋 白								
1138	心室筋ミオシン軽鎖 I	A	血液 2.0 → 血清 0.5	EIA	ng/mL 2.5以下	184 ※1 生化 I		3 5
1232	高感度心筋トロポニン T	A	血液 2.0 → 血清 0.7	ECLIA	ng/mL 0.014以下	120 ※2 生化 I	急性心筋梗塞診断のカットオフ値0.100ng/mL。採血の影響は値傾向になります。トロポニンTを投与(11日の投与5mg以上)している方からの採血は、投与後少なくとも8時間以上経過してから実施して下さい。	1 2
4531	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	ELISA	ng/mL 6.2未満	143 ※3 生化 I		3 5
4199	IV型コラーゲン	A	血液 2.0 → 血清 0.5	LA	ng/mL 150.0以下	143 ※5 生化 I		3 5
1887	尿中IV型コラーゲン	24	尿 5.0	EIA	μg/g・Cr 4.9以下 40歳以上 4.0以下 30歳代 3.0以下 随時尿 7.3以下	194 ※6 尿・便	必ず安静就寝後の起床時に採取した尿を専用容器にてご提出下さい。	4 10
1039	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	IRMA (チューブ固相法)	U/mL 0.3~0.8	140 ※5 生化 I		4 6
0710	ハプトグロビン (Hp)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	TIA/薄層アクリルアミドゲル電気泳動法	mg/dL 下表参照	140 免疫		5 7
4202	APRスコア	A	血液 2.0 → 血清 0.5	LA	陰性 スコア0	191 ※7 免疫	未熟児・成熟児の区別、出生後時間を記入、α ₁ -酸性糖蛋白、ハプトグロビン、C反応性蛋白を測定してスコア算出。	5 6
1886	肺サーファクタント蛋白A(SP-A)	A	血液 2.0 → 血清 0.6	CLEIA	ng/mL 43.8未満	130 ※8 生化 I		3 5
1889	肺サーファクタント蛋白D(SP-D)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	CLEIA	ng/mL 110.0未満	136 ※8 生化 I		3 5

補 体

0803	血清補体価 (CH ₅₀)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	リポソーム免疫測定法	U/mL 31.6~57.6	38 免疫	⚡:分離後	3 4
0804	C 3 (β ₁ C/β ₁ Aグロブリン)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	TIA	mg/dL 86~160	70 免疫		3 4
0852	C 4 (β ₁ Eグロブリン)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	TIA	mg/dL 17~45	70 免疫		3 4
1513	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒビター)	G	血液 1.8 → クエン酸血漿 0.5	発色性合成基質法	% 70~130	276 免疫		5 9

- ※1 心室筋ミオシン軽鎖 I は、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
- ※2 心筋トロポニン T (TnT) 定性・定量と心筋トロポニン I を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※3 ミオグロビン定性又は定量と心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP) 定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※4 心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP) 定性及び定量は、急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合のみ算定する。
- ※5 IV型コラーゲン又はIV型コラーゲン・7SIは、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P) 又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
- ※6 アルブミン定量(尿)、トランスフェリン(尿)及びIV型コラーゲン(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
- ※7 APRスコア定性は、α₁-酸性糖蛋白、ハプトグロビン及びC反応性蛋白 (CRP) 定性の3つを測定した場合に算定する。
- ※8 KL-6、肺サーファクタント蛋白-A (SP-A) 及び肺サーファクタント蛋白-D (SP-D) のうちいずれか複数を実施した場合は、主たるもののみ算定する。

ハプトグロビン (mg/dL)

1-1型	43~180
2-1型	38~179
2-2型	15~116

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	---------	----	-------

自己免疫関連

0203	リウマトイド因子 《定性》 (RF)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	(-)			1~2
0263	《定量》	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	0~15 U/mL	30 免疫 ※1 ※4		1~2
1709	IgG型リウマチ因子 (IgG-RF)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	EIA	(IgG-RF index) 2.0未満	203 免疫 ※1 ※2		3~5
1890	抗ガラクトース欠損IgG (CARF)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.6	ECLIA	6.0未満 AU/mL	117 免疫 ※1 ※2 ※4		3~5
2953	MMP-3	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	M 36.9~121.0 F 17.3~59.7 ng/mL	116 免疫 ※1 ※2		1~3
1907	抗CCP抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLIA	4.5未満 U/mL	210 免疫 ※2		1~2
0806	抗核抗体 (ANA)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	FAT	40倍未満	105 免疫		3~5
1908	抗LKM-1抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ELISA	下表参照	221 免疫 ※3		3~6
0679	抗SS-A抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	オクタロニー法	陰性	163 免疫		5~7
2900		A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	10.0未満 U/mL			3~5
0680	抗SS-B抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	オクタロニー法	陰性	161 免疫		5~7
2903		A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	10.0未満 U/mL			3~5
0577	抗Sm抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	オクタロニー法	陰性	155 免疫		5~7
1918		A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	10.0未満 U/mL			3~5
0576	抗RNP抗体	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	オクタロニー法	陰性	144 免疫		5~7
0588		A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	10.0未満 U/mL			3~5

- ※1 リウマトイド因子 (RF) 定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、IgG型リウマトイド因子及びC3d結合免疫複合体のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
- ※2 抗シトルリン化ペプチド抗体定性又は同定量は、関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性的の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。また、抗シトルリン化ペプチド抗体定性、同定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。
- ※3 抗LKM-1抗体は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。
- ※4 抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量は、リウマトイド因子 (RF) 定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

抗LKM-I抗体 (index)

陰性	17未満
判定保留	17~49
陽性	50以上

A



G



24



A 汎用試験管
分離剤

G 血液凝固試験管
3.8%クエン酸Na

24 尿中IV型コラーゲン用容器

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) → 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

自己免疫関連

0807	抗DNA抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	RIA (硫酸塩析法)	6.0以下	IU/mL 172 免疫		4 6
1226	抗ds-DNA抗体	I g G	A 血液 2.0 → 血清 0.5	ELISA	12以下	IU/mL 172 免疫		3 5
4217		I g M	A 血液 2.0 → 血清 0.5		6未満	U/mL		3 10
1227	抗ss-DNA抗体	I g G	A 血液 2.0 → 血清 0.5	ELISA	25以下	AU/mL 172 免疫		3 5
4219		I g M	A 血液 2.0 → 血清 0.5		17未満	U/mL		3 10
2976	抗Scl-70抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	オクタロニー法	陰性	162 免疫		5 7
1025		A	血液 2.0 → 血清 0.5	CLEIA	10.0未満	U/mL		3 5
1160	抗Jo-1抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	オクタロニー法	陰性	144 免疫		5 7
1159		A	血液 2.0 → 血清 0.5	CLEIA	10.0未満	U/mL		3 5
1024	抗セントロメア抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	ELISA	下表参照	184 ^{※1} 免疫		3 5
0887	抗ミトコンドリア抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FAT	20倍未満	191 免疫		3 5
4230	抗ミトコンドリアM2抗体	A	血液 1.0 → 血清 0.3	CLEIA	(-) Index 7.0未満	200 免疫		3 5
0829	免疫複合体・C1q (イムノコンプレックス)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	EIA (C1q固相法)	3.0以下	161 ^{※2} 免疫	☒:分離後	3 5
0641	抗血小板抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	MPHA	(-)	262 免疫		4 6
1134	血小板表面 I g G (PA-IgG)	O	血液 7.0	EIA	30.2以下	204 ^{※3} 免疫	☒ 同 月~木 注1	3 5
1257	抗カルジオリピン・β ₂ GPI 複合体抗体 (抗CL-β ₂ GPI複合体抗体)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	EIA	3.5以下	223 ^{※4} 免疫		3 5
1894	抗カルジオリピン抗体	I g G	A 血液 2.0 → 血清 0.5	EIA	10未満	239 ^{※4} 免疫		4 7
1214		I g M	A 血液 2.0 → 血清 0.5		ELISA	8.0未満	U/mL	

※1 抗セントロメア抗体定量又は同定性は、原発性胆汁性肝硬変又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合のみ算定できる。
 ※2 リウマトイド因子 (RF) 定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、IgG型リウマトイド因子及びC3d結合免疫複合体のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
 ※3 血小板関連IgG (PA-IgG) は、特異性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。
 ※4 抗カルジオリピンβ₂グリコプロテイン I 複合体抗体と抗カルジオリピン抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 注1. 血小板数が1~3万/μL以下の場合、2倍量の血液をご提出下さい (専用採血管2本使用)。1万/μL以下の場合、当社担当者までお問い合わせ下さい。

抗セントロメア抗体 (index)

陰性	10.0未満
判定保留	10.0~15.9
陽性	16.0以上



A 汎用試験管
分離剤
O PA-IgG用試験管
保存液

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) → 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
1107	抗アセチルコリンレセプター結合抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	RIA (抗ヒトIgG法)	0.2以下 ^{nmol/L}	847 ^{※1} 免疫		4 8
0669	抗平滑筋抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FAT	20倍未満			3 5
2551	抗心筋抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	IFA	Negative			15 25
0581	抗横紋筋抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	EIA	(-)			15 25
0649	抗胃壁細胞抗体 (抗パリエタル細胞抗体)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FAT	10倍未満			5 7
2600	抗副腎皮質抗体	A	血液 6.0 → 血清 2.0	FAT	(-)			16 20
0558	抗皮膚抗体 (ASA)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	IFA	抗体価 10倍未満 細胞間質抗体 (-) 基底膜抗体 (-)			6 8
1056	抗精子抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	不動化法	(-)			13 17
4237	抗肝細胞膜抗体 (LMAb)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	IFA	(-)			19 31
4240	抗糸球体基底膜抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FEIA	(-) U/mL 7.0未満	277 ^{※2} 免疫		3 5
1788	抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA) (C-ANCA)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FEIA	(-) IU/mL 2.0未満	275 免疫		3 5
1804	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体 (MPO-ANCA) (P-ANCA)	A	血液 2.0 → 血清 0.5	FEIA	(-) IU/mL 3.5未満	273 ^{※3} 免疫		3 5
4245	下垂体抗体-1	A	血液 2.0 → 血清 0.7	FA	(-)		ラット下垂体を抗原とする細胞質抗体	5 10
4252	抗インスリンレセプター抗体	A	血液 8.0 → 血清 2.5	RRA	(-)			5 25
1904	抗デスマグレイン1抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	CLEIA	U/mL 20.0未満	300 ^{※4} 免疫		3 5
1905	抗デスマグレイン3抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	CLEIA	U/mL 20.0未満	270 ^{※5} 免疫		3 5
1913	抗BP180抗体	A	血液 2.0 → 血清 0.5	CLEIA	U/mL 9.0未満	270 ^{※6} 免疫		3 5

※1 抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗AChR抗体) は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。なお、本検査と抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体) は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。

※3 抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体 (MPO-ANCA) は、急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。

※4 抗デスマグレイン1抗体は、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患調査研究事業稀少難治性疾患に関する調査研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。また、落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスマグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※5 抗デスマグレイン3抗体は、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患調査研究事業稀少難治性疾患に関する調査研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。また、尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスマグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※6 抗BP180-NC16a抗体は、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。

免疫血清学

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
血液型検査								
0225	A B O式血液型	16	EDTA加血液 2.0	マイクロプレート 直接凝集法		24 免疫		1 2
0226	R h - (D) 因子	16	EDTA加血液 2.0	マイクロプレート 直接凝集法		24 免疫		1 2
0257	R h - H r 式血液型	16	EDTA加血液 2.0	カラム凝集法		156 免疫		3 4
0231	抗 グ ロ ブ リ ン 試 験	直接クームス試験	16	EDTA加血液 2.0	マイクロプレート 固相法	(-)	34 免疫	1 2
0232		間接クームス試験	B	血液8.0		(-)	47 免疫	1 2
4254		定量クームス試験	A	血液 6.0 ⇨ 血清 2.5	試験管法	1倍未満	47 免疫	単独検体 3 4
0579	不規則性抗体	B — E	血液8.0 および EDTA加血液2.0	マイクロプレート 固相法	(-)	159 *1 免疫		3 4
0244 ∨ 0253	交差適合試験 (クロスマッチ)	B — E	血液8.0 および EDTA加血液2.0	マイクロプレート 固相法				1 2

※1 不規則抗体検査は、輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術又は子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）、帝王切開術又は異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は区分「K920」輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれかに該当するかを記載する。

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

免疫成分判定検査

0801	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による同定)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	免疫電気泳動法		170 免疫	※1	5 7
0802	免疫電気泳動 (特異抗血清による同定)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	免疫固定法		230 免疫	※1 特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承下さい。年齢、病歴を明記して下さい。	5 7
0790	ベンス・ジョーンズ蛋白同定 (BJP同定)	e	尿 10.0	免疫固定法		203 免疫	特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承下さい。年齢、病歴を明記して下さい。使用する抗血清は IgG、IgA、IgM、κ、λ の5つになります。	4 6
1702	オリゴクローナルバンド	e	髄液 1.0 及び 血清 1.0	等電点電気泳動法	検出せず	538 尿・便	※2	11 15
1704	ミエリン塩基性蛋白 (MBP)	e	髄液 0.3	ELISA	pg/mL 102.0以下	593 尿・便	※2	4 10

免疫グロブリン

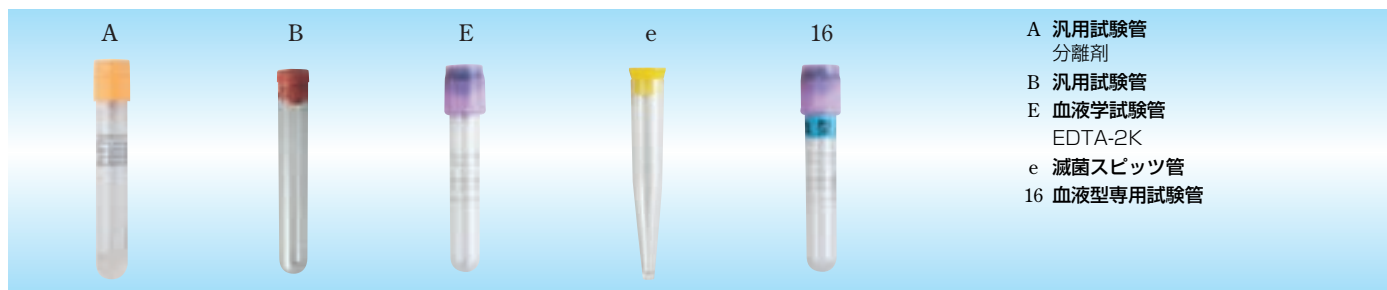
0791	IgG	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	TIA	mg/dL 870~1700	38 免疫		2 3
0792	IgA	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	TIA	mg/dL 110~410	38 免疫		2 3
0793	IgM	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	TIA	mg/dL M 33~190 F 46~260	38 免疫		2 3
0794	IgD	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	LA	mg/dL 12.6以下	38 免疫		3 4
1912	IgG4	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	TIA	mg/dL 5~117	377 免疫		3 5
4257	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	ネフエロメトリー法	0.26~1.65	400 免疫	※3	8 9

※1 免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)及び免疫電気泳動法(特異抗血清)については、同一検体につき一回に限り算定する。また、当該検査を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

※2 IgGインデックス、オリゴクローナルバンド及びミエリン塩基性蛋白(MBP)(髄液)は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

※3 免疫グロブリンL鎖κ/λ比は高免疫グロブリン血症の鑑別のために測定した場合に算定できる。又、本検査と免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)又は免疫電気泳動法(特異抗血清)を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。

免疫血清学



コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨	検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
-----------	------	----------	---------------	-------------	------	-----	------------	----	----------

免疫グロブリン（アレルギー関連）

0795	非特異的IgE (IgE)	A	血液 2.0	血清 0.5	FEIA	IU/mL 170以下	100 免疫		3 5
3001	特異的IgE (シングルアレルゲン)	A	血液 1.0	血清 0.3	FEIA	U _A /mL 0.35未満	110 免疫	*1 F-13参照	3 5
3577 3592	特異的IgE (マルチアレルゲン)	A	血液 1.0	血清 0.3	FEIA	U _A /mL 0.35未満	110 免疫	*1 F-12参照	3 5
3595	アトピー鑑別試験 (ファディアトープ)	A	血液 2.0	血清 0.5	FEIA	(-)	194 免疫	F-12参照	3 5
2995	TARC	A	血液 2.0	血清 0.5	CLEIA	pg/mL 下表参照	189 免疫	*2	3 4
3000	TAP-18	A	血液 6.0	血清 2.0	FEIA	U _A /mL 0.35未満	1430 免疫		3 5
3933	MAST 36	A	血液 2.0	血清 0.6	CLEIA	1.39(ルミカウント)以下 MASTクラス0	1430 免疫		4 6
3941	View アレルギー-39	A	血液 3.0	血清 1.0	FEIA	クラス0 V・index値：0.27未満	1430 免疫		4 6

※1 特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1430点を限度として算定する。

※2 TARCは、血清中のヒトTARC量を測定する場合に月1回を限度として算定できる。

年齢別参考基準値 非特異的IgE(IU/mL)

年齢	平均値±1SD
1歳未満	1.36～19.32
1～3歳	5.24～29.99
4～6歳	5.19～111.94
7～9歳	13.12～141.91
10～12歳	11.09～171.79
13～18歳	24.72～126.77
19歳以上	27.54～138.34

基準値 TARC (pg/mL)

年齢	基準値
6～12ヶ月	1367未満
1～2歳	998未満
2歳以上	743未満
成人	450未満

CAP-RAST クラス

クラス	U _A /mL
0	0.34以下
1	0.35～0.69
2	0.70～3.49
3	3.50～17.4
4	17.5～49.9
5	50.0～99.9
6	100以上

MAST クラス

クラス	ルミカウント(LC)
0	0～1.39
1	1.40～2.77
2	2.78～13.4
3	13.5～58.0
4	58.1～119
5	120～159
6	160～200

View アレルギー-39 クラス

クラス	V・index
0	0.27未満
1	0.27～0.49
2	0.50～1.79
3	1.80～7.04
4	7.05～17.34
5	17.35～29.30
6	29.31以上

A

A 汎用試験管
分離剤

各種 構成アレルゲン

	分野	構成アレルゲン	点数
3577	イネ科—マルチ	ハルガヤ・ギョウギシバ・カモガヤ・オオアワガエリ・アシ	110点
3580	雑草—マルチ	ブタクサ・ヨモギ・フランスギク・タンポポ(属)・アキノキリンソウ	110点
3583	動物上皮—マルチ	ネコ皮膚・イヌ皮膚・モルモット上皮・ラット・マウス	110点
3586	カビ—マルチ	ペニシリウム・クラドスポリウム・アスペルギルス カンジダ・アルテルナリア・ヘルミントポリウム	110点
3589	食物—マルチ	卵白・ミルク・小麦・ピーナッツ・大豆	110点
3592	穀物—マルチ	小麦・とうもろこし・米・ごま・そば	110点
3595	アトピー鑑別試験 (ファディアトープ)	ヤケヒョウヒダニ・コナヒョウヒダニ・ネコ皮膚 イヌ皮膚・カンジダ・アルテルナリア・ブタクサ ヨモギ・ギョウギシバ・カモガヤ・スギ・シラカンバ(属)	194点
3000	TAP—18	ヤケヒョウヒダニ・ブタクサ・ヨモギ・スギ ヒノキ・ゴキブリ・蛾・カモガヤ アスペルギルス・カンジダ・ピチロスポリウム 卵白・ミルク・小麦(食物)・ピーナッツ 大豆・そば(食物)・動物上皮マルチ	1430点
3933	MAST 36	ソバ・小麦・ピーナッツ・大豆・米・マグロ・サケ・エビ・カニ ミルク・牛肉・豚肉・鶏肉・卵白・オボムコイド・キウイ・トマト・モモ バナナ・ゴマ・オオアワガエリ・カモガヤ・ブタクサ混合 I ヨモギ・スギ・ヒノキ・ハンノキ・シラカンバ コナヒョウヒダニ・ハウスダスト I・ネコ皮膚・イヌ皮膚 カンジダ・アルテルナリア・アスペルギルス・ラテックス	1430点
3941	View アレルギー—39	ハウスダスト I・ヤケヒョウヒダニ・スギ・ヒノキ・ハンノキ(属) シラカンバ(属)・カモガヤ・オオアワガエリ・ブタクサ・ヨモギ アルテルナリア・アスペルギルス・カンジダ・マラセチア(属) ネコ皮膚・イヌ皮膚・ゴキブリ・ガ・ミルク・卵白・オボムコイド・米 小麦・ソバ・大豆・ピーナッツ・リンゴ・バナナ・キウイ・ゴマ 牛肉・豚肉・鶏肉・エビ・カニ・サバ・サケ・マグロ・ラテックス	1430点

セット検査

スクリーニング		アトピー性皮膚炎・じん麻疹				
室内 101	ハウスダスト I 動物上皮マルチ ヤケヒョウヒダニ ゴキブリ カビマルチ	乳幼児 109	ヤケヒョウヒダニ 卵白 オボムコイド ミルク	ピーナッツ 大豆 小麦 米	イワシ イクラ ゴマ ゴキブリ	動物上皮マルチ
食物系 102	エビ 穀物マルチ アニサキス ソバ 食物マルチ	学童 110	ヤケヒョウヒダニ 卵白 ミルク ピーナッツ	大豆 小麦 米 ソバ	エビ キウイ ゴマ カビマルチ	動物上皮マルチ
花粉 103	スギ 雑草マルチ ヒノキ カナムグラ イネ科マルチ	成人 111	ヤケヒョウヒダニ スギ ピチロスポリウム 卵白	大豆 小麦 米 ソバ	カニ エビ サバ カビマルチ	動物上皮マルチ
春季 104	ハウスダスト I イネ科マルチ ハンノキ(属) スギ ヒノキ	アトピーセット 112	ヤケヒョウヒダニ スギ 雑草マルチ イネ科マルチ	カビマルチ 食物マルチ 穀物マルチ 動物上皮マルチ		

アレルギー性鼻炎				気管支喘息					
通年性 105	ハウスダスト I ヤケヒョウヒダニ カモガヤ スギ	ヒノキ ネコ皮膚 イヌ皮膚 ゴキブリ	ユスリカ(成虫) ガ 雑草マルチ イネ科マルチ	カビマルチ	乳児 113	ハウスダスト I ヤケヒョウヒダニ スギ 卵白	ミルク ピーナッツ 大豆 小麦	米 ソバ ネコ皮膚 イヌ皮膚	ゴキブリ
春 106	ハウスダスト I ヤケヒョウヒダニ フランスギク タンポポ(属)	ハルガヤ カモガヤ ハンノキ(属) マツ(属)	スギ ヒノキ ネコ皮膚 イヌ皮膚	カビマルチ	幼児 114	ハウスダスト I ヤケヒョウヒダニ スギ 卵白	ミルク 大豆 小麦 米	ソバ ネコ皮膚 イヌ皮膚 ゴキブリ	カビマルチ
夏 107	ハウスダスト I ヤケヒョウヒダニ ブタクサ カナムグラ	ハルガヤ カモガヤ オオアワガエリ ネコ皮膚	イヌ皮膚 ゴキブリ ユスリカ(成虫) ガ	カビマルチ	学童 115	ハウスダスト I ヤケヒョウヒダニ スギ 卵白	小麦 ソバ ネコ皮膚 イヌ皮膚	ゴキブリ ガ 雑草マルチ イネ科マルチ	カビマルチ
秋 108	ハウスダスト I ヤケヒョウヒダニ ブタクサ ヨモギ	アキノキリンソウ カナムグラ スギ ネコ皮膚	イヌ皮膚 ゴキブリ ユスリカ(成虫) ガ	カビマルチ	成人 116	ハウスダスト I ヤケヒョウヒダニ スギ アスペルギルス	カンジダ アルテルナリア ネコ皮膚 イヌ皮膚	ゴキブリ ユスリカ(成虫) ガ 雑草マルチ	イネ科マルチ

特異的IgE アレルゲン一覧

特異的IgE (シングルアレルゲン)

コードNo	室内塵
3001	HD-1 (ハウスダスト1)
3004	HD-2 (ハウスダスト2)

コードNo	ダニ
3007	ヤケヒョウヒダニ
3010	コナヒョウヒダニ
3013	アシプトコナダニ
3016	サヤアシコナダニ
3019	ケナガコナダニ

コードNo	雑草花粉
3022	ブタクサ
3025	ブタクサモドキ
3028	オオブタクサ
3034	ニガヨモギ
3037	ヨモギ
3040	フランスギク
3043	タンポポ (属)
3046	ヘラオオバコ
3049	シロザ
3055	アキノキリンソウ
3070	ヒメスイバ
3076	イラクサ (属)
3079	カナムグラ

コードNo	イネ科花粉
3175	ハルガヤ
3178	ギョウギシバ
3181	カモガヤ
3184	ヒロハウシノケ草
3187	ホソムギ
3190	オオアワガエリ
3193	アシ
3196	ナガハグサ
3199	コヌカグサ (属)
3202	セイバンモロコシ
3217	小麦 (属) (花粉)
3220	オオスズメノテッポウ
3223	スズメノヒエ (属)

コードNo	樹木花粉
3082	カエデ (属)
3085	ハンノキ (属)
3088	シラカンバ (属)
3094	ブナ (属)
3097	ビャクシン (属)
3100	コナラ (属)
3103	ニレ (属)
3106	オリーブ
3109	クルミ (属)
3115	ヤナギ (属)
3124	マツ (属)
3127	スギ
3133	アカシア (属)
3139	クワ (属)
3142	ヒノキ

コードNo	真菌 (カビ) / 細菌
3226	ペニシリウム
3229	クラドスポリウム
3232	アスペルギルス
3235	ムコール
3238	カンジダ
3241	アルテルナリア
3247	ヘルミントスポリウム
3274	ピティロスポリウム
3857	黄色ブドウ球菌 エンテロトキシンA
3860	黄色ブドウ球菌 エンテロトキシンB
3848	トリコフィトン
3607	マラセチア (属)

コードNo	職業性
3277	オオバコ種子
3280	絹
3283	イソシアネートTDI
3286	イソシアネートMDI
3289	イソシアネートHDI
3292	エチレンオキシド
3295	無水フタル酸
3298	ラテックス
3854	ホルマリン

コードNo	食物性
3304	卵白
3469	卵黄
3863	オボムコイド
3307	ミルク
3349	チーズ
3352	モールドチーズ
3472	α -ラクトアルブミン
3475	β -ラクトグロブリン
3478	カゼイン
3337	えんどう
3340	ピーナッツ
3343	大豆
3346	いんげん豆
3397	はしばみの実
3400	ブラジルナッツ
3403	アーモンド
3430	ココナッツ
3313	小麦 (食物)
3316	ライ麦 (食物)
3319	大麦 (食物)
3322	オート麦 (食物)
3325	とうもろこし
3328	米
3334	そば (食物)
3502	きび
3505	あわ
3508	ひえ
3601	ω -5グリアジン

コードNo	食物性
3604	カシューナッツ
3415	豚肉
3418	牛肉
3355	鶏肉
3370	羊肉
3310	タラ
3406	カニ
3409	エビ
3433	ムラサキイガイ
3436	マグロ
3439	サケ
3460	カレイ
3484	ロブスター
3487	サバ
3490	イカ
3493	タコ
3496	アジ
3499	イワシ
3866	イクラ
3869	たらこ
3872	アサリ
3875	カキ
3878	ホタテ
3358	キウイ
3361	セロリ
3364	パセリ
3367	メロン
3379	マンゴ
3382	バナナ
3388	洋なし
3391	モモ
3394	アボカド
3412	トマト
3421	にんじん
3424	オレンジ
3427	じゃがいも
3442	いちご
3448	にんにく
3451	グレープフルーツ
3454	ほうれん草
3457	かぼちゃ
3463	たまねぎ
3466	リンゴ
3511	たけのこ
3514	さつまいも
3881	ヤマイモ
3887	スイカ
3331	ゴマ (食物)
3373	マスタード
3376	麦芽
3385	カカオ
3445	ビール酵母
3481	グルテン
3884	クルミ

コードNo	動物
3517	ネコ皮膚
3523	ウマ皮膚
3526	ウシ皮膚
3529	イヌ皮膚
3532	モルモット上皮
3550	ヤギ上皮
3553	羊上皮
3556	家兎上皮
3559	豚上皮
3562	ハムスター上皮
3571	ラット
3574	マウス
3538	ガチョウ羽毛
3541	セキセイインコのふん
3544	セキセイインコ羽毛
3565	ニワトリ羽毛
3568	アヒル羽毛

コードNo	昆虫
3145	ミツバチ
3148	スズメバチ
3151	アシナガバチ
3154	ゴキブリ
3157	ユスリカ (成虫)
3160	蛾
3163	ヤブカ (属)

コードNo	その他
3166	蛔虫
3172	アニサキス
3301	ヒトインスリン
3598	綿
3851	ゼラチン

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

細胞性免疫検査

0813	T細胞・B細胞百分率	I	ヘパリン加血液 3.0	フローサイトメトリー	T : 66~89 B : 4~13	204 免疫	☑月~木	4 ~ 6	
4701	IgG-FcR ⁺ ・T細胞百分率	I	ヘパリン加血液 3.0	フローサイトメトリー	2~23		☑月~木	4 ~ 6	
1199	B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig)	I	ヘパリン加血液 各1.0	フローサイトメトリー	IgG	1~3	161 免疫	☑月~木 3項目以上同時にご依頼の場合は血液3.0mL採血して下さい。	4 ~ 6
1200					IgA	1~3			
1201					IgM	3~12			
1202					IgD	1~10			
1203					κ鎖	3~8			
1204					λ鎖	1~5			
0818					PHAによるリンパ球幼若化検査	I			
0819	Con-Aによるリンパ球幼若化検査	I	ヘパリン加血液 5.0	³ H-サイミジン取り込み能	Con-A ⁺ Control 20300~65700 127~456		☑☑月~木	8 ~ 9	
4991 ~ 4995	薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST)	I	ヘパリン加血液 7.0	³ H-サイミジン取り込み能		1薬剤 ^{※1} 345点 2薬剤 425点 3薬剤以上 515点 免疫	☑☑月~木 1薬剤増すごとに血液5.0mL必要となります。血液と同時に依頼薬剤も提出して下さい。(原則として坐薬、皮内反応注射薬は検査できません。)	9 ~ 11	
2589	NK細胞活性	T	血液5.0	⁵¹ Cr遊離法			☑月~木	4 ~ 6	
4801 ~ 4832	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	I	ヘパリン加血液 3.0	フローサイトメトリー	G-2頁参照		☑☑月~木 1.0項目以上ご依頼の場合は血液5.0mL採血して下さい。	4 ~ 6	
4841 ~ 4935	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	I	ヘパリン加血液 3.0	Two-colorフローサイトメトリー	G-3頁参照			4 ~ 6	
3721	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA) CD45ゲーティング (造血器腫瘍細胞抗原検査)	I U	ヘパリン加血液 5.0 または 骨髄液1.0	フローサイトメトリー		2000 ^{※2} 血液	☑月~木 腫瘍細胞が高率に出現している検体をご提出下さい。出現率が低い検体の場合、判定の精度が悪くなりますのでご注意ください。実施項目はG-3ページを参照して下さい。	4 ~ 6	
1194	好中球貪食能	I	ヘパリン加血液 2.0	フローサイトメトリー	70~87		☑月~木	4 ~ 5	
1179	好中球殺菌能	I	ヘパリン加血液 2.0	フローサイトメトリー	93~97			4 ~ 5	

※1 リンパ球刺激試験 (LST) は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品による。

※2 造血器腫瘍細胞抗原検査はモノクローナル抗体を用いて白血病細胞又は悪性リンパ腫細胞の表面抗原又は細胞内抗原の検索を実施して病型分類を行った場合に算定できる。対象疾病は白血病、悪性リンパ腫等である。なお、検査に用いられるモノクローナル抗体は、医薬品として承認されたものであり、検査に当たって用いたモノクローナル抗体の種類、回数にかかわらず、一連として所定点数を算定する。

注1. 薬剤では最低500万個のリンパ球が必要です。上記の検体量はリンパ球の回収率と正常リンパ球数より求めたもので、場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となることがあります。目安として白血球数が3,000/μL以下の場合は倍量程度を採血してご提出下さい。

I	T	U	I ヘパリン試験管 ヘパリンNa T NK細胞活性用試験管 保存液0.7mL U 遺伝子関連用試験管 RPMI-1640FBS、硫酸カナマイシン、 ノボヘパリンNa、炭酸水素Na、HEPES
			

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	------------	----	----------

細胞性免疫検査

1798	可溶性インターロイキン-2 レセプター (sIL-2R)	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	U/mL 121~613	438 ※1 生化Ⅱ		3 ~ 4
------	---------------------------------	---	-----------------	-------	-----------------	---------------	--	-------------

※1 可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R) は、非ホジキンリンパ腫、ATLの診断の目的で測定した場合に算定できる。また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料により算定する。

曜日指定 細胞性免疫検査の受託可能日は月曜日から木曜日までです。

モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析

コード No.	CD No.	基準値 (%)	主として反応する細胞・代表的な反応性	実施料・判断料
4801	CD1	1.0以下	胸腺皮質細胞	
4802	CD2	71.0~91.0	汎T細胞・Eロゼット形成細胞	
4803	CD3	58.0~84.0	成熟(末梢) T細胞	194 ※2 免疫
4804	CD4	25.0~54.0	インデューサー/ヘルパーT細胞	
4805	CD8	23.0~56.0	サブレッサー/細胞障害性T細胞	
4806	CD4 CD8 比	0.4~2.3		
4831	CD5	60.0~90.0	汎T細胞・一部のB細胞	
4808	CD7	72.0~90.0	汎T細胞	
4809	CD10	1.0以下	common-ALL・好中球	
4811	CD11b	18.0~49.0	NK細胞・サブレッサーT細胞の一部	
4813	CD13	9.0以下	単球・顆粒球・骨髓細胞	
4814	CD14	5.0以下	単球	
4816	CD16	6.0~39.0	NK細胞 (Fcγレセプター)	
4817	CD19	5.0~24.0	汎B細胞	
4818	CD20	3.0~20.0	汎B細胞	
4819	CD21	3.0~18.0	C3d/EBVレセプター・成熟B細胞	
4820	CD22	2.0~17.0	成熟B細胞	
4822	CD25	8.0~34.0	IL-2レセプター/p55Tac	
4823	CD30	1.0以下	活性化T・B細胞・ホジキン細胞	
4824	CD33	5.0以下	未熟顆粒球・APL・AML	
4825	CD34	1.0以下	骨髓幹細胞・B前駆細胞	
4826	CD38	18.0~59.0	活性化及び増殖細胞	
4827	CD56	9.0~43.0	neural cell adhesion molecule (NCAM)・NK細胞・LAK細胞	
4828	CD57	4.0~45.0	NK細胞・サブレッサーT細胞の一部	
4832	HLA-DR	11.0~46.0	B細胞・活性化T細胞 (HLA-DR抗原)	

※2 T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。

曜日指定 細胞性免疫検査の受託可能日は月曜日から木曜日までです。

Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査

コードNo.	検査項目	基準値 (%)			実施料判断料	コードNo.	検査項目	基準値 (%)			実施料判断料
4851	Two-color CD11b/CD8	CD11b- CD8+	11.0~40.0		※1 194 免疫	4935	Two-color CD20/CD5	CD20+ CD5-	9.0以下		
		CD11b- CD8-	29.0~64.0					CD20- CD5-	9.0~40.0		
		CD11b+ CD8-	8.0~32.0					CD20- CD5+	54.0~87.0		
		CD11b+ CD8+	6.0~27.0					CD20+ CD5+	13.0以下		
		Bright	20.0以下								
Dull	3.0~17.0										
4864	Two-color HLA-DR/CD8	HLA-DR- CD8+	15.0~49.0		※1 194 免疫	4870	Two-color CD57/CD16	CD57- CD16+	1.0~15.0		
		HLA-DR- CD8-	28.0~62.0					CD57- CD16-	49.0~87.0		
		HLA-DR+ CD8-	6.0~25.0					CD57+ CD16-	2.0~40.0		
		HLA-DR+ CD8+	2.0~27.0					CD57+ CD16+	2.0~27.0		
4880	Two-color CD16/CD56	CD16- CD56+	2.0~20.0			4858	Two-color HLA-DR/CD4	HLA-DR+ CD4-	8.0~37.0		※1 194 免疫
		CD16- CD56-	57.0~91.0					HLA-DR- CD4-	24.0~61.0		
		CD16+ CD56-	9.0以下					HLA-DR- CD4+	22.0~51.0		
		CD16+ CD56+	4.0~33.0					HLA-DR+ CD4+	1.0~12.0		
4905	Two-color CD45RO/CD4	CD45RO- CD4+	6.0~34.0		※1 194 免疫	4885	Two-color HLA-DR/CD3	HLA-DR+ CD3-	3.0~18.0		※1 194 免疫
		CD45RO- CD4-	28.0~58.0					HLA-DR- CD3-	7.0~36.0		
		CD45RO+ CD4-	7.0~32.0					HLA-DR- CD3+	33.0~75.0		
		CD45RO+ CD4+	10.0~32.0					HLA-DR+ CD3+	5.0~33.0		
4807	Two-color CD4/CD8	CD4- CD8+	22.0~54.0		※1 194 免疫	4841	Two-color CD4/CD45RA	CD4- CD45RA+	30.0~57.0		※1 194 免疫
		CD4- CD8-	14.0~38.0					CD4- CD45RA-	5.0~23.0		
		CD4+ CD8-	23.0~52.0					CD4+ CD45RA-	15.0~34.0		
		CD4+ CD8+	7.0以下					CD4+ CD45RA+	9.0~37.0		
		CD4/CD8比	0.40~2.30								
4895	Two-color CD4/CD25	CD4+ CD25-	15.0~39.0		※1 194 免疫	4846	Two-color CD4/CD29	CD4- CD29+	22.0~59.0		※1 194 免疫
		CD4- CD25-	37.0~69.0					CD4- CD29-	12.0~38.0		
		CD4- CD25+	2.0~14.0					CD4+ CD29-	9.0~34.0		
		CD4+ CD25+	6.0~21.0					CD4+ CD29+	11.0~26.0		

※1 T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。

白血病・リンパ腫解析検査 (LLA) CD45ゲーティング (造血器腫瘍細胞抗原検査)

項目コードNo.	モノクローナル抗体
3721	CD1 CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD13 CD14 CD19 CD20 CD33 CD34 CD41 CD56 GP-A HLA-DR

A



A 汎用試験管
分離剤

細胞性免疫

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
先天異常染色体								
0815	G-Banding			G-band				12 19
3729	C-Banding	I	ヘパリン加血液 各3.0	C-band		2631+397 血液	☑☒月~木 依頼書に臨床診断名および 臨床所見等をご記入下さい。	21 25
3730	Q-Banding			Q-band				
3732	高精度分染法			高精度分染法				
3733	脆弱X染色体	I	ヘパリン加血液 3.0	G-Bandingによる 脆弱X染色体の検出		2631+397 血液	☑☒月、火、金 依頼書に臨床診断名および 臨床所見等をご記入下さい。	20 24

注1

先天異常染色体 [FISH] 検査

3734	13染色体	I	ヘパリン加血液 各3.0	FISH		2631+397 血液	☑☒月~木 2項目以上のご依頼の場合も 血液3.0mLで検査可能です。	8 11
3735	18染色体							
3736	21染色体							
3737	X染色体							
4951	Y染色体							
3739	7染色体 (ウィリアムズ症候群)	I	ヘパリン加血液 各3.0	FISH		2631+397 血液	☑☒月~木 該当する疾患名にてご依頼 下さい。 本検査は疾患に直接関与する 遺伝子を検出する検査ではな く、責任領域の欠失の有無を 判断する検査です。 15染色体は片親性ダイソミー の検索はできません。	12 15
3740	15染色体 (ブラダーウイリ症候群)							
3741	15染色体 (アンジェルマン症候群)							
3742	17染色体 (ミラーディカー症候群)							
3743	22染色体(22q11欠失) conotruncal anomaly face症候群 velo-cardio-facial症候群 DiGeorge症候群							

血液疾患染色体

0816	染色体 G-Banding	I U	ヘパリン加血液5.0 または骨髄液1.0	G-band		2631+397 血液	☑☒(血液、骨髄液共に)月~木 該当する疾患名にてご依頼下さい。 対象疾患名は下記を参照下さい。注1	12 19
------	---------------	--------	-------------------------	--------	--	----------------	--	----------

血液疾患染色体検査 (G-Banding) 留意事項

- ステロイド系薬剤、アルキル化薬剤、及び代謝拮抗薬剤の投与中は染色体分裂像が得られず検査ができません。
 - 末梢血液でご依頼の際、血中に幼若細胞 (blast) の出現がみられない場合、また寛解期患者の血液では染色体分裂像が得られず検査ができません。
- 注1. 受託数の急増などにより、ご報告が遅延することがありますので予めご了承下さい。

血液疾患染色体 (G-Banding) 対象疾患名

●該当する疾患名にてご依頼下さい。

G- Banding	Myeloid系	Lymphoid系
	疾患名	疾患名
	MDS (骨髄異形成症候群)	ALL (急性リンパ性白血病)
	MPN (骨髄増殖性腫瘍)	CLL (慢性リンパ性白血病)
	ANLL (急性非リンパ性白血病)	ML (悪性リンパ腫)
	BMT (骨髄移植)	MM/PL (多発性骨髄腫/形質細胞性白血病)
	その他	その他

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

血液疾患染色体 [FISH] 検査

4983	bcr-abl t(9;22)転座	I	ヘパリン加血液 5.0	FISH		2631+397 血液	☑ 月～木	8 5 11
3835	bcr-abl t(9;22)転座 (末梢血好中球)	I	ヘパリン加血液 5.0	FISH		2631+397 血液	☑ 月～木 血液は採血後、速やかにご提出ください。 採血後30時間以上経過した血液を使用した 場合、細胞の形態的变化により、判定に影 響がでる場合がありますため検査できません。	8 5 11
4986	Major BCR-ABL1 mRNA (IS)	C	EDTA加血液	RT-PCR		2520 血液	☑ 月～木	5 5 7
3750	8染色体	I U	ヘパリン加血液 各5.0 または 骨髄液各1.0	FISH		2631+397 血液	☑ 月～木	11 5 15
3751	12染色体							
3752	X染色体							
3753	Y染色体							

免疫関連遺伝子

3755	免疫グロブリン H鎖J _H 再構成	C	EDTA加血液 各7.0 または 骨髄液	サザンプロット ハイブリダイゼ ーション	遺伝子再構成を 認めず	2504*1 血液	☑ ☑ :組織 依頼書に臨床診断名および投与中 の薬剤名等をご記入下さい。 細胞は、院内で使用の培養容器 (培養液を満したしたもの)に入れ 冷蔵保存にてご提出下さい。 ホルマリンなどにより固定した組 織は、高分子DNAが得られない ため、サザンプロットハイブリ ダイゼーションによる解析は不可 能です。	12 5 14
3756	免疫グロブリン H鎖C _μ 再構成							
3757	免疫グロブリン L鎖J _K 再構成							
3758	免疫グロブリン L鎖C _K 再構成	U	各1.0 または 細胞					
3759	免疫グロブリン L鎖C _λ 再構成							
3760	T細胞レセプター β鎖J _{β1} 再構成							
3761	T細胞レセプター β鎖J _{β1} 再構成	u	各2×10 ⁷ cells または 組織					
3762	T細胞レセプター β鎖J _{β2} 再構成							
3763	T細胞レセプター γ鎖J _γ 再構成							
3764	T細胞レセプター δ鎖J _{δ1} 再構成		各250mg					

*1 免疫関連遺伝子再構成

悪性リンパ腫、急性リンパ性白血病又は慢性リンパ性白血球の診断の目的で検査を行った場合に、6月に1回を限度として算定できる。また、悪性腫瘍遺伝子検査、造血器腫瘍遺伝子検査又は免疫関連遺伝子再構成のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

C	I	U	u	C EDTA試験管 EDTA-2Na I ヘパリン試験管 ヘパリンNa U 遺伝子関連用試験管 RPMI-1640FBS、硫酸カナマイシン、 ノボヘパリンNa、炭酸水素Na、HEPES u レセプター用容器
				

染色体・遺伝子関連

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
-----------	------	----------	---------------------------	------	-----	------------	----	----------

癌関連遺伝子

3821	RAS遺伝子変異解析	v	未染標本 スライド 5~10枚	PCR-rSSO法		2500 尿・便	病理材料でRAS遺伝子(KRAS 遺伝子、NRAS遺伝子ともに exon 2 codon 12,13、 exon 3 codon 59,61、 exon 4 codon 117,146) の変異解析を目的としており ます。病理材料以外は受託で きません。 注1	5 ~ 7
3815	c-kit遺伝子変異解析 (GIST)	v e	未染標本 スライド 5~10枚 または 組織 250mg	ダイレクト シーケンス法		2500 尿・便	本検査はc-kit遺伝子exon9、 11の変異解析を目的としてお ります。他項目との重複依頼 は避けて下さい。 注2	12 ~ 24

注1. 未染標本スライド材料について

提出の際には、HE染色標本により腫瘍細胞が確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより10 μ mの厚さの連続切片にてスライド作成願います。作成した未染標本スライドはオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。なお、病理検査材料は、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定液の種類や、固定時間といった保存状況、保存年数によっては、解析不可能なことがありますので、あらかじめご了承ください。他項目との重複依頼は避けてください。

注2. 未染標本スライド材料について

未染標本スライドは、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定液の種類や、固定時間といった保存状況、保存年数によっては、解析不可能なことがありますので、あらかじめご了承ください。

・留意事項

組織片は、必ず病理組織学的に鏡検され、腫瘍細胞の存在が確認されていることが受託の必須条件となります。未染標本スライドは、必ず「腫瘍部位確認用検査」を合せてご依頼ください。提出する際、未染標本スライドの表に切片の厚さを記入し、オブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。

・未染標本スライドの種類と枚数

未染標本スライド種類	切片の厚さ	枚数
腫瘍部位確認用	3~4 μ m	2枚
DNA抽出用	10 μ m	5~10枚

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------


HLA検査・移植関連検査

2959	HLA-A, B (血清対応型タイピング)	C	EDTA加血液 2.0	PCR-rSSO			☑ 月～木 下表参照 単独検体	4 ～ 6
2960	HLA-DR (血清対応型タイピング)	C	EDTA加血液 2.0	PCR-rSSO			☑ 月～木 下表参照 単独検体	4 ～ 6
3826	リンパ球混合培養 (MLC)	I	(受給者) ヘパリン加血液20.0 (提供者) ヘパリン加血液10.0 (非血縁者) ヘパリン加血液10.0	³ H-サイミジン 取込み能			☑ 火～木 続柄・臨床診断名・投与薬剤名 は必ず明記して下さい。 「MLCの非血縁者血液はコン トロールとして使用します。」	10 ～ 12


HLA (血清対応型タイピング)の種類

HLA-A, B 血清対応型タイピング										HLA-DR 血清対応型タイピング		
A			B							DR		
A1	A25(10)	A34(10)	B7	B21	B4005	B49(21)	B57(17)	B65(14)	B77(15)	DR1	DR9	DR17(3)
A2	A26(10)	A36	B8	B22	B41	B50(21)	B58(17)	B67	B78	DR2	DR10	DR18(3)
A3	A28	A43	B12	B27	B42	B51(5)	B59	B70	B81	DR3	DR11(5)	
A9	A29(19)	A66(10)	B13	B35	B44(12)	B52(5)	B60(40)	B71(70)		DR4	DR12(5)	
A10	A30(19)	A68(28)	B14	B37	B45(12)	B53	B61(40)	B72(70)		DR5	DR13(6)	
A11	A31(19)	A69(28)	B15	B38(16)	B46	B54(22)	B62(15)	B73		DR6	DR14(6)	
A23(9)	A32(19)	A74(19)	B16	B39(16)	B47	B55(22)	B63(15)	B75(15)		DR7	DR15(2)	
A24(9)	A33(19)	A80	B18	B40	B48	B56(22)	B64(14)	B76(15)		DR8	DR16(2)	


C




I



e



v



C EDTA試験管
EDTA-2Na

I ヘパリン試験管
ヘパリンNa

e 滅菌スピッツ管

v プレバレート

染色体・遺伝子関連

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
血液算定・機能								
0301	白血球数 (WBC)			電気抵抗検出方式	/ μ L M 3900~9800 F 3500~9100			
0302	赤血球数 (RBC)			シースフロー 電気抵抗検出方式	10^4 / μ L M 427~570 F 376~500			
0303	血色素量 (Hb)			SLSヘモグロビン法	g/dL M 13.5~17.6 F 11.3~15.2	21 血液		
0304	ヘマトクリット値 (Ht)			赤血球パルス波 高値検出法	% M 39.8~51.8 F 33.4~44.9			1 2
0308	血小板数 (PLT)	E	EDTA加血液 2.0	シースフロー 電気抵抗検出方式	10^4 / μ L M 13.1~36.2 F 13.0~36.9			1 2
0305	平均赤血球容積 (MCV)				fL M 82.7~101.6 F 79.0~100.0			
0306	平均赤血球血色素量 (MCH)				pg M 28.0~34.6 F 26.3~34.3			
0307	平均赤血球血色素濃度 (MCHC)				% M 31.6~36.6 F 30.7~36.6			
0381	網状赤血球数 (Ret)	E	EDTA加血液 2.0	フローサイトメトリー法	% 0.2~2.0	12 血液		1 2
0317	好酸球数	E	EDTA加血液 2.0	フローサイトメトリー 間接法	/ μ L 70~440	17 血液	※1	1 2
0362	喀痰中好酸球	v	塗抹標本1枚	ライト・ギムザ染色	(-)	15 血液	注1	1 2
0359	鼻汁中好酸球	v	塗抹標本1枚	ライト染色	(-)	15 血液	注1	2 4
0355	血沈 (赤沈・ESR)	F	クエン酸Na加血液 1.6	ウエスターグレン法	mm/h 1~15			1 2

※1 同一検体について、好酸球数及び末梢血液像(自動機械法)又は末梢血液像(鏡検法)を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

注1. プレパラートの中央部のみに塗布して下さい。

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
血液形態								
0318	白血球像 (W-Hg)	E	EDTA加血液 2.0	RF/DCインピーダンス方式及び鏡検法	Baso 0.0~2.9% Eosino 0.0~9.0% Neutr 27.6~70.4% Lympho 20.2~59.3% Mono 0.2~12.2%	15 血液 ※1		1 2
0330	赤血球像 (R-Hg)			鏡検法	大小不均形性核染色多寡 (一)			
0313	好塩基性斑点赤血球	E	EDTA加血液 2.0	ライト・ギムザ染色	0.0~0.5 %			1 2
0361	骨髓像 (マルク)	v	塗抹標本2枚以上	ギムザ染色による鏡検法		837 血液 ※1	未固定。依頼書にできましたら臨床所見等ご記入下さい。	8 16

血液特殊染色								
0468	ペルオキシダーゼ染色	血液	v	塗抹標本2枚以上	3,3-Diamino-benzidine法	27 血液 ※2	メタノール固定を実施しますと、染色不良となりますので、ご注意下さい。	8 12
0463		骨髄液				40 血液 ※3		
0469	エステラーゼ染色	血液	v	塗抹標本2枚以上	α-NB・NAS-D二重染色法	27 血液 ※2	メタノール固定を実施しますと、染色不良となりますので、ご注意下さい。	8 12
0464		骨髄液				40 血液 ※3		
0470	鉄染色	血液	v	塗抹標本2枚以上	ベルリン青染色	27 血液 ※2		8 12
0465		骨髄液				40 血液 ※3		
0471	ALP染色	血液	v	塗抹標本2枚以上	アゾ色素法	27 血液 ※2		8 12
0466		骨髄液				40 血液 ※3		
0472	PAS染色	血液	v	塗抹標本2枚以上	過ヨウ素酸シッフ反応	27 血液 ※2		8 12
0467		骨髄液				40 血液 ※3		

血液寄生虫								
0366	マラリア原虫	E	EDTA加血液 2.0	ライト・ギムザ染色	(一)	40 血液	塗抹標本でご提出の場合は、薄層塗抹標本と濃塗抹標本を各3枚ご提出下さい。	3 4

※1 末梢血液像(自動機械法)、末梢血液像(鏡検法)及び骨髓像の検査については、少なくともリンパ球、単球、好中球、好酸球、好塩基球の5分類以上の同定・比率計算を行った場合に算定する。末梢血液像(鏡検法)及び骨髓像の検査に当たって、位相差顕微鏡又は蛍光顕微鏡を用いた場合であっても所定点数により算定する。また、末梢血液像(鏡検法)の検査の際に赤血球直径の測定を併せて行った場合であっても、所定点数により算定する。

※2 特殊染色と末梢血液像(鏡検法)を併せて行った場合は、特殊染色加算として、特殊染色ごとにそれぞれ27点を所定点数に加算する。

※3 特殊染色と骨髓像を併せて行った場合は、特殊染色加算として、特殊染色ごとにそれぞれ40点を所定点数に加算する。

注1. -3~-5℃の固定液(ホルマリン原液10mL+純メタノール90mL+1%酢酸1mL)(pH4.8)に5秒間浸漬、水洗15秒、乾燥。抗凝固剤は使用しないで下さい。

E



F



v



E 血液学試験管 EDTA-2K
F 血沈用試験管 クエン酸Na
v プレパラート

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数	
出血凝固線溶									
0336	プロトロンビン時間 (PT)	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	透過光検出法	PT活性値 70.0~120.0 PTINR 0.90~1.10	% 18 血液 ※1	抗凝薬投与中の患者はその 旨で記入下さい。	1 2	
0337	トロンボテスト (TT)	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	透過光検出法	TT活性値 70~130	% 18 血液 ※1		1 2	
0338	フィブリノーゲン (FIB)	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	透過光検出法	200~400	mg/dL 23 血液		1 2	
0340	活性化部分トロンボプラスチン (APTT)	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	透過光検出法	25.0~40.0	秒 29 血液		1 2	
0353	FDP	〈血漿〉	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	LA	5.0以下	μg/mL 80 血液	ヘパリン投与患者はその旨で 記入下さい。	1 2
0354		〈尿〉	21	尿 2.0	LPiA	100以下	ng/mL 72 尿・便		3 4
1136	D-ダイマー《定量》	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	LA	1.0以下	μg/mL 137 血液		1 2	
4405	フィブリンモノマー 複合体定量	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	LA	6.1以下	μg/mL 233 血液 ※2 ※3		3 6	
2507	ヘパリン	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	発色性合成基質法		IU/mL 108 生化 I ※4		6 10	
1893	ループスアンチコアグラント	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	希釈ラッセル 蛇毒試験法	1.3未満	281 免疫 ※5		3 4	
1279	PIVKA-II	G	血液 1.8 ⇨ クレリン 0.5	CLEIA	1未満	μg/mL 143 血液 ※6		3 6	

※1 プロトロンビン時間(PT)とトロンボテストを同時に施行した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 フィブリンモノマー複合体、トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)及びプロトロンビンフラグメントF1+2のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※3 フィブリンモノマー複合体は、DIC、静脈血栓症又は肺動脈血栓症の診断及び治療経過の観察のために実施した場合に算定する。

※4 ヘパリンの血中濃度測定においては、同一の患者につき1月以内に当該検査を2回以上行った場合においては、算定は1回とし、1回目の測定を行ったときに算定する。

※5 ループスアンチコアグラント定量及び同定性は、希釈ラッセル蛇毒試験法又はリン脂質中和法により、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。


※6 PIVKA-IIは、出血・凝固検査として行った場合に算定する。

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
2674	プラスミノゲン 《抗原量》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	LA	mg/dL 9.1~14.5	100 血液		5 6
0349	(PLG) 《活性》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	合成基質法	% 71~128	100 血液		3 4
0350	アンチプラスミン 《活性》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	合成基質法	% 85~118	131 血液		3 4
1139	(α ₂ PI) (α ₂ プラスミンインヒビター)	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	LPIA	μg/mL 0.8未満	162 血液		3 4
0345	α ₂ プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC)	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	LPIA	mg/dL 15.0~31.0	70 血液		3 4
1162	アンチトロンビン 《活性》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	合成基質法	% 80~130	70 血液		1 2
1055	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	CLEIA	ng/mL 3.0未満	186 血液	※1 採血方法の不適により異常高値を示すことがあります。(ツージリッジ採血法にてお願いします。)	3 4
2678	プロトロンビンフラグメントF1+2 (F1+2)	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	EIA	pmol/L 69~229	193 血液	※1	3 6
2679	プロテインC 《定量》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	LPIA	% 70~150	246 血液		3 6
1221	《活性》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	合成基質法	% 64~135	248 血液		3 6
2681	《定量》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	EIA	% 65~135	162 血液	測定対象はトータル(遊離型および複合体型)です。	3 7
2680	プロテインS 《遊離型》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	LA	% 60~150	162 血液		3 7
2555	《活性》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	凝固時間法	% M 67~164 F 56~126	170 血液		3 5
0346	血小板第4因子 (PF-4)	X	血液 4.5 ⇨ 血漿 0.5	EIA	ng/mL 20以下	178 血液	採血方法は、N-7頁をご参照下さい。	4 10
1236	β-トロンボグロブリン (β-TG)	X	血液 4.5 ⇨ 血漿 0.5	EIA	ng/mL 60以下	177 血液		4 10
2559	トロンボモジュリン 《血清》	A	血液 2.0 ⇨ 血清 0.5	CLEIA	U/mL 12.1~24.9	205 血液	※2	3 6
2560	(TM) 《血漿》	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5		U/mL 8.7~22.7	205 血液	※2	3 6
2682	プレカリクレイン	G	血液 1.8 ⇨ ケン血漿 0.5	凝固時間法	% 65~130			10 14


※1 トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)、フィブリンモノマー複合体及びプロトロンビンフラグメントF1+2のうちいずれか複数数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 トロンボモジュリンは、膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合のみ算定できる。


A




G



X



21



A 汎用試験管
分離剤

G 血液凝固試験管
3.2%クエン酸Na

X β-TG、PF-4用試験管

21 尿中FDP用容器
抗プラスミン剤

コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数	
凝 固 因 子									
2684	第Ⅱ因子活性	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	凝固時間法 (PT法)	74~146 (参考値)	%	229 血液	3 6	
2685	第Ⅴ因子活性	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	凝固時間法 (PT法)	70~152 (参考値)	%	229 血液	3 6	
2686	第Ⅵ因子活性	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	凝固時間法 (PT法)	63~143 (参考値)	%	229 血液	3 6	
0348	第Ⅶ因子様抗原 (フォン・ウィルブランド因子定量)	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	LA	50~150 (参考値)	%	155 血液	3 6	
0566	第Ⅷ因子活性	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	凝固時間法 (APTT法)	62~145 (参考値)	%	229 血液	3 6	
0567	第Ⅸ因子活性	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	凝固時間法 (APTT法)	74~149 (参考値)	%	229 血液	3 6	
0351	第Ⅹ因子活性	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	凝固時間法 (PT法)	71~128 (参考値)	%	229 血液	3 6	
2688	第Ⅺ因子活性	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	凝固時間法 (APTT法)	73~136 (参考値)	%	229 血液	3 6	
2689	第Ⅻ因子活性	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	凝固時間法 (APTT法)	46~156 (参考値)	%	229 血液	3 6	
1052	第Ⅼ因子定量	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	LA	70以上	%	229 血液	3 6	
2690	凝固抑制 因子検査	第Ⅶ因子	G 血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	ベセスダ法	検出せず	BU/mL	152 *1	2項目ご依頼の場合は、それぞれ1本ずつ採血して下さい。	3 6
2691		第Ⅸ因子	G 血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL			152 *1	3 6		
2565	フォン・ウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター)	G	血液 1.8 mL ⇨ クエン酸血漿 0.5 mL	固定血小板凝集法	50~150	%	136 血液	3 6	

※1 凝固因子インヒビターは、第Ⅶ因子又は第Ⅸ因子の定量測定を行った場合に、それぞれの測定1回につきこの項で算定する。

G



G 血液凝固試験管
3.2%クエン酸Na

コード No	検査項目	検体必要量 (mL)	容器	保存	検査方法	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------------	----	----	------	--------	----	------

一般細菌検査

0501	塗抹鏡検			冷蔵	グラム染色など	61 微生物	材料が便、大腸又は培地の時、検査は実施しません。	3 4
0504	好気性菌培養・同定	口腔気道又は呼吸器からの検体	le m n	冷蔵	Bergey's Manual 他に基づく同定法	160 微生物	ピブリオ、淋菌、髄膜炎菌を疑う検体は室温保存にてご提出下さい。	5 8
0521		消化管からの検体	j e	冷蔵	Bergey's Manual 他に基づく同定法	180 微生物	〔緊急報告〕 1.2類・3類感染菌が検出された時 2.血液・髄液から菌が検出された時 (髄液は塗抹、培養同定でご依頼下さい)	5 8
0506		泌尿器又は生殖器からの検体	m e	冷蔵	Bergey's Manual 他に基づく同定法	170 微生物		5 8
0507		血液又は穿刺液	e y	血液・髄液、 室温 その他の穿刺液、 冷蔵	Bergey's Manual 他に基づく同定法	210 微生物	〔便検査〕 症状、目的菌等の依頼が無い場合はサルモネラ、シガラ、ピブリオの報告となります。 〔尿中菌数定量〕 自然尿・中間尿・穿刺尿・カテーテル尿で培養のご依頼があれば、全てご報告致します。 細菌数が10 ⁵ /mL以上の時、尿路感染が疑われます。	5 8
0508		その他の部位からの検体	m n y	冷蔵	Bergey's Manual 他に基づく同定法	160 微生物		5 8
0503	嫌気性菌培養・同定		z q m	血液・髄液、 室温 その他 冷蔵	Bergey's Manual 他に基づく同定法	*1 115加算 微生物	嫌気ポーター、カルチャースワブプラス又は嫌気用ボトルでご提出下さい。 (便検体では、クロストリジウム・ディフィシルの有無のみ報告)	6 9
0541	感受性試験	1 菌種		冷蔵	ディスク法 微量液体希釈法	170 微生物	〔基本薬剤セット〕 検出された菌種により、抗菌力の期待ができる薬剤を選択しご報告致します。 セット内容についてはJ-6ページ参照 便及び陰分泌物、口腔気道系検体の常在菌及び真菌の感受性試験は行いません。 マイコプラズマ、ウレアプラズマ、トリコモナス、レプトスピラ及びレジオネラ菌の感受性試験は実施しておりません。	5 8
0542		2 菌種		冷蔵	ディスク法 微量液体希釈法	220 微生物		5 8
0543		3 菌種以上		冷蔵	ディスク法 微量液体希釈法	280 微生物		5 8

真菌検査

5005	塗抹鏡検			冷蔵	グラム染色 KOH法 墨汁染色	61 微生物	KOH法は材料が皮膚、ツメ、毛髪の場合に実施いたします。 墨汁染色は材料が髄液の場合に実施いたします。	3 4
5006	培養・同定		一般細菌に準ずる			# 微生物	#検体の採取部位により保険点数は異なります。 材料が皮膚、ツメ、毛髪の場合、培養に受付後2週間かかります。 糸状真菌(カビ)を疑いの場合は真菌単独でご依頼下さい。	5 21
7001	酵母様真菌感受性試験	生検体 菌株		生検体 冷蔵 菌株 室温	微量液体希釈法	*2 150 微生物	生検体、菌株とも真菌培養同定検査を実施いたします。 (検査は保険点数収載対象菌種について実施いたします)	5 8

*1 嫌気培養同定検査 嫌気性培養のみを行なった場合は培養同定検査の所定点数のみ算定し、嫌気性培養の加算は算定できない。
*2 酵母様真菌薬剤感受性検査 深在性真菌症(カンジダ、クリプトコックスに限る。)であり、原因菌が分離できた患者に対して行った場合に限り算定する。

●好気性菌培養・同定 [材料]

口腔・気道・呼吸器	喀痰、気管内採痰、咽頭ぬぐい液、鼻汁、気管支洗浄液、気管支擦過物、扁桃ぬぐい液、鼻腔、呼吸器膿
消化管	便、大腸粘膜、胆汁、胃液、十二指腸液、唾液、嘔吐物、消化器膿、胃粘液(ピロリ菌)
泌尿器・生殖器	自然尿、中間尿、カテーテル尿、穿刺尿、陰分泌物、尿道分泌物、精液、月経血、泌尿生殖器膿
血液・穿刺液	胸水、腹水、関節液、髄液、羊水、動脈血、静脈血、骨髄液、臍帯血
その他の部位	褥瘡、耳漏、眼脂、開放性膿、非開放性膿、乳汁、皮膚、爪、毛髪

●酵母様真菌薬剤感受性試験の薬剤名

薬剤名	(略号)	商品名
アムホテリシンB	(AMPH-B)	ファンギゾン
フルシトシン	(5-FC)	アンコチル
フルコナゾール	(FLCZ)	ジフルカン
イトラコナゾール	(ITCZ)	イトリゾール
ミコナゾール	(MCZ)	フロリードF
ミカファンギン	(MCFG)	ファンガード
ポリコナゾール	(VRCZ)	バイフェンド

コード No	検査項目	検体必要量 (mL)	容器	保存	検査方法	実施料判断料	備考	所要日数
特殊目的菌・原虫類								
5211	淋菌		m n e	室温	好気培養同定	# 微生物		4 8
5212	髄膜炎菌		m n e	室温	好気培養同定	# 微生物		4 8
5234	百日咳菌		m n	室温	好気培養同定	# 微生物		8 13
5206	ジフテリア菌		m n	室温	好気培養同定	# 微生物		8 13
5232	マイコプラズマ		e m 35	室温	好気培養同定	# 微生物		8 13
5231	レジオネラ		一般細菌に準ずる	冷蔵	好気培養同定	# 微生物		8 13
5246	クロストリジウム・ディフィシル (C・ディフィシル)	糞便	q m	冷蔵	嫌気培養同定	# 微生物	糞便を嫌気ポーターに半分以上入れてご提出下さい。	5 8
5230	カンピロバクター	糞便	j	冷蔵	微好気培養同定	# 微生物	糞便(充分量)をキャリブレアーに入れてご提出下さい。	5 8
5225	病原性大腸菌O群血清型 (大腸菌血清型別)	糞便	j	冷蔵	免疫血清凝集反応	180 免疫	*1 病原性大腸菌の(O157, O26, O111, O128型)であることが確認された場合、ペロトキシン検査を自動的に実施します。	5 8
5306	大腸菌ペロトキシン	菌株		室温	RPLA法	194 微生物	*2 基準値(-) 便検体にて一般細菌培養と同時依頼の場合は9~11日単一菌株でご提出下さい。	5 6
5240	ウレアプラズマ		e m 36	室温	好気培養同定	# 微生物		6 7
5237	クリプトコッカス		一般細菌に準ずる	冷蔵	好気培養同定	# 微生物		7 9
5251	カンジダ		一般細菌に準ずる	冷蔵	好気培養同定	# 微生物		5 8
5244	アスペルギルス		一般細菌に準ずる	冷蔵	好気培養同定	# 微生物		8 15
5236	放線菌 (アクチノミセス)		q m	冷蔵	嫌気培養同定	# 微生物	嫌気ポーター又はカルチャースワブプラスでご提出下さい。	9 16
0531	MRSA	臨床材料	一般細菌に準ずる	冷蔵	MRSAスクリーニング培地使用	# 微生物	喀痰、尿、便、血液など臨床由来材料からのMRSA検査。	5 8
5281	トリコモナス		e m 14	室温	鏡検・培養	鏡検61 培養# 微生物		6 7
5247	レプトスピラ		34	室温	培養同定	培養# 微生物	検体は血液又は膀胱穿刺尿のみです。専用培地(コルト培地)で提出	21 31

※1 大腸菌血清型別 細菌培養同定検査により大腸菌が確認された後、血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別には算定できない。
 ※2 大腸菌ペロトキシン定性 大腸菌の抗原定性の結果より病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。大腸菌ペロトキシン定性のうち、細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、大腸菌の抗原定性を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

検体の採取部位により保険点数は異なります。

口腔、気道又は呼吸器からの検体	160
消化管からの検体	180
血液又は穿刺液	210
泌尿器又は生殖器からの検体	170
その他の部位からの検体	160
嫌気培養加算	115

コード No	検査項目	検体必要量 (mL)	容器	保存	検査方法	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------------	----	----	------	--------	----	------

抗酸菌検査

0511	塗抹鏡検 (チールネルゼン法)		一般細菌に準ずる	冷蔵	チールネルゼン法	61 微生物	材料が、皮、皮膚、爪等は鏡検の検査は実施しません。血液材料の場合はヘパリン入り採血管にてご提出下さい。	2 3
0509	塗抹鏡検 (蛍光法)		一般細菌に準ずる	冷蔵	蛍光法	50 微生物	カルチャーボトル(血液)での受付は不可。スクリーニングは感度の高い蛍光法をご利用下さい。又、培地検体での提出はコロニーの発育が認められるものに限ります。	2 3
0512	分離培養 (小川培地法)		一般細菌に準ずる	冷蔵	3%小川培地を使用	※1 204 微生物	【緊急報告】 1.鏡検(蛍光法・チールネルゼン法)陽性の時 2.培養で陽性の時	4W 6W 8W
5901	分離培養 (MGIT法)		一般細菌に準ずる	冷蔵	酸素感受性蛍光センサー法 (MGIT培地使用)	※1 280 微生物	酸素感受性蛍光センサー法は材料が便の時、検査は実施しません。	3W 6W
5906	結核菌群核酸同定 /リアルタイムPCR	下表参照	下表参照	冷蔵	リアルタイムPCR法	※1 410 微生物	塗抹鏡検、分離培養との共有可。コード5906とコード5907の共有可。	3 5
5907	マイコバクテリウム・アビウム・イントラセラー核酸同定/リアルタイムPCR (MAC/リアルタイムPCR)	下表参照	下表参照	冷蔵	リアルタイムPCR法	※2 421 微生物	コード5907は結核菌群の結果が(+)でもMAC/リアルタイムPCRを実施。	3 5
5908	結核菌群・MAC核酸同定セット /リアルタイムPCR (結核菌群・MACセット/リアルタイムPCR)	下表参照	下表参照	冷蔵	リアルタイムPCR法		コード5908は結核菌群の結果が(-)の場合のみMAC/リアルタイムPCRを実施。	3 5
5904	抗酸菌種同定(18菌種)	菌株(培地) 又は 生検体		菌株 室温 生検体 冷蔵	マイクロプレート ハイブリダイゼーション法	※1 410 微生物	生検体の場合は、培養もご依頼下さい。培養陽性後、菌量不足の場合は増菌後、検査を実施いたします。液体培地(MGIT等)は小川培地へ増菌後、検査を実施いたします。下欄参照	8 11
5902	結核菌群同定	菌株(培地) 又は 生検体		菌株 室温 生検体 冷蔵	HPA法	※1 410 微生物	生検体の場合は、培養もご依頼下さい。培養陽性後、検査を実施します。	8 11
5903	マイコバクテリウム・アビウム・イントラセラー核酸同定 (MAC同定)	菌株(培地) 又は 生検体		菌株 室温 生検体 冷蔵	HPA法	※2 421 微生物	培養陽性後、菌量不足の場合は増菌後検査を実施いたします。	8 11
0549	感受性試験4薬剤以上	菌株		室温	マイクロタイター法	※3 380 微生物	SM,PAS,INH,KM EVM,EB,RFP,TH CS,LVFX	3W 5W
2946	結核菌IFN-γ 《ELISPOT法》	ヘパリン加血液 5.0mL	48 (専用容器)	室温	ELISPOT法	630 免疫	月~金 他項目との重複依頼は避けてください。検体は採取後、当日・午前中にご提出ください。	4 6

※1 抗酸菌分離培養検査、結核菌群核酸抽出、抗酸菌核酸同定 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
 ※2 マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセラー (MAC) 核酸抽出 他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみ算定できる。抗酸菌同定と併せて実施された場合にあつては、主たるもののみ算定する。
 ※3 抗酸菌薬剤感受性検査 直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。混合薬剤耐性検査においても、使われた薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。

●結核菌群核酸同定/リアルタイムPCR,MAC/リアルタイムPCRの材料別必要量

材料	必要量	容器	備考
喀痰、胃液、髄液、肺洗浄液、膿	2~3mL	ℓ (喀痰) e (その他)	
尿、胸水、腹水	5~10mL	e	
血液(血清不可)	3~5mL	容器は予めご依頼下さい。	ヘパリンは不可、カルチャーボトルは不可
骨髄液	1~2mL	容器は予めご依頼下さい。	ヘパリンは不可
組織(生検体)	5mm ³ 以上 (5~10mg)	容器は予めご依頼下さい。	乾燥防止の為生理食塩水を1mL加えてご提出下さい。ホルマリン固定組織は不可
糞便	小指頭大	i	
固形培地	1コロニー以上	小川培地 他	抗酸菌陽性のもの (コロニーが認められるもの)
液体培地	1mL以上	MGIT培地	抗酸菌陽性のもの
スワブ	1本以上	m	検査は実施しますがデータの信頼性が低いため参考値としてご理解下さい。

1.結核菌群核酸同定検査対象菌種

- 1) M.tuberculosis
 - 2) M.bovis
 - 3) M.bovis BCG
 - 4) M.africanum
 - 5) M.microti
- ★1

2.抗酸菌種同定 (18菌種)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1) TB complex★2 | 10) M.gastri |
| 2) M.kansasii | 11) M.xenopi |
| 3) M.marinum | 12) M.nonchromogenicum |
| 4) M.simiae | 13) M.terrae |
| 5) M.scrofulaceum | 14) M.triviale |
| 6) M.gordonae | 15) M.fortuitum |
| 7) M.szulgai | 16) M.chelonae |
| 8) M.avium | 17) M.abscessus |
| 9) M.intracellulare | 18) M.peregrinum |

★1 個々の菌種についての結果は出ませんのでご注意ください。

★2 TB complexには、M.tuberculosis、M.bovis、M.africanum、M.microtiが含まれます。

コード No	検査項目	検体必要量 (mL)	容器	保存	検査方法	実施料判断料	備考	所要日数
その他								
5233	ヘリコバクター・ピロリ/培養 (H.ピロリ/培養)		03	冷蔵	微好気性培養	180 微生物	[材料] 胃生検は、必ずHP培地に無菌的にかつ速やかに採取して下さい。検体は容器の材料位置ライン(酸素を遮断するため)まで入れ、冷蔵で保存してご提出下さい。 (-)~(3+)で報告	7 8
5991	ヘリコバクター・ピロリ/感受性試験 (H.ピロリ/MIC測定)		03	冷蔵	微好気性培養 微量液体希釈法		培養陰性時は検査実施いたしません。 MIC値及び判定基準でご報告いたします。 薬剤: CAM, AMPC, MNZ	7 10
5304	MRSAスクリーニング	職員 検診用 材料	m	冷蔵	MRSA スクリーニング 培地使用		病院職員(健常者)の鼻前庭又は咽頭のMRSAの有無。 検体は鼻前庭又は咽頭ぬぐい液に限りませす。 感受性検査は実施いたしません。(+)又は(-)で報告	5 7
5302	クロストリジウム・ディフィシル毒素 (C.ディフィシル毒素)	糞便 拇指頭大	i	冷蔵	EIA	80 免疫	ToxinA及びToxinBの検出 偽膜性大腸炎の迅速診断 (+)、(-)、判定保留で報告	3 4
5992	便培養 (2菌種) (シゲラ・サルモネラ)	糞便	j	冷蔵	培養・同定法		シゲラ・サルモネラの有無を(+)又は(-)で報告 注1	5 8
5993	便培養 (3菌種) (シゲラ・サルモネラ・O-157)	糞便	j	冷蔵	培養・同定法		各菌の有無を(+)又は(-)で報告。 O-157が(+)の場合はベロトキシンも自動的に実施します。O-157以外の病原性大腸菌検査をご希望の場合は、一般細菌便培養に目的菌の病原性大腸菌血清型別をご依頼下さい。	5 8
5994	便培養 (4菌種) (シゲラ・サルモネラ・O-157・ピリオ/コレラ・腸炎ピリオ)	糞便	j	冷蔵	培養・同定法			5 8 注1
4411	透析液/R2A	透析液 5~10mL	e	冷蔵	平板塗抹法		R2A培地にて17~23℃7日間培養 菌名+生菌数(CFU/mL)を報告	10 16

注1 便集団検診用検査項目です。一般細菌便培養と共用は出来ませんのでご了承下さい。

微生物 輸送容器・輸送培地の一覧

略号	輸送容器										輸送培地				
	l	j	i	m	n	y	z	q	e	03	35	36	34	14	
容器															
材料	スポイト式 採痰管	糞便用容器 (キャップ入り)	糞便 一般用容器	カルチャー スワブプラス	カルチャー スワブプラス (チャコール入り)	好気用 レズン ボトル	嫌気用 レズン ボトル	嫌気 ポーター	滅菌 スピッツ	HP培地	マイコプラズマ用	ウレアプラズマ用	コルトフ 培地	トリコモ ナス用	
喀痰・気管内痰	1~2mL														
咽頭拭い液	充分量														
糞便	充分量														
自然尿・カテーテル尿	3~5mL														
膿分泌物・尿道分泌物	充分量														
胸水・腹水・関節液	2~3mL														
髄液	2~3mL														
動脈血・静脈血	3~10mL														
耳漏・眼脂	充分量														
皮膚・爪・毛	充分量														
膿(開放性・非開放性)	充分量														
その他の検体	充分量														
検査可能菌	好気性菌														
検査可能菌	嫌気性菌														
検査可能菌	真菌														
検査可能菌	抗酸菌														
容器・培地・ 保存可能期間 (使用前)	3年	室温1年	特になし	室温2年	室温2年	室温9ヶ月	室温9ヶ月	室温2年		冷蔵4ヶ月	冷蔵2ヶ月	冷蔵3ヶ月	冷蔵1年	冷蔵6ヶ月	
検体採取時の輸送条件	冷蔵	冷蔵・室温	冷蔵・室温	冷蔵	冷蔵・室温	室温	室温	冷蔵		冷蔵	室温	室温	室温	室温	
注意事項・その他															

★ピリオを特に強く疑うときは室温にて送付して下さい。

感受性薬剤と商品名

系統	日本化学療法学会制定略号	抗 菌 薬 名	商 品 名	
ペニシリン系	PCG	ペニシリンG	注射用ペニシリンGカリウム他	
	MPIPC	オキサシリン		
	ABPC	アンピシリン	ピクシリン他	
	AMPC	アモキシシリン	パセトシン、サワシリン他	
	PIPC	ピペラシリン	ペントシリン他	
	SBTPC	スルタミシリン	ユナシン	
β-ラクタム系	SBT/ABPC	スルバクタムナトリウム/アンピシリンナトリウム	ユナシン-S、スルバクシン他	
	CVA/AMPC	クラバン酸/アモキシシリン	オーグメンチン、クラバモックス	
	TAZ/PIPC	タゾバクタム/ピペラシリン	ゾシン	
	SBT/CPZ	スルバクタム/セフォペラゾン	スルペラゾン、セフォン他	
	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾン他	
	CEZ	セファゾリン	セファメジン他	
	CCL	セファクロル	ケフラー他	
	CTM	セフォチアム	ハロスボア、パンスボリン他	
	CTX	セフォタキシム	クラフォラン、セフォタックス	
	CPZ	セフォペラゾン	セフォビッド他	
	CZX	セフチゾキシム	エボセリン	
	CMX	セフメノキシム	ベストコール他	
	CAZ	セフトアジジム	モダシン他	
	CTRX	セフトリアキソン	ロセフィン、セフキソン他	
	CFIX	セフィキシム	セフスパン他	
	CMNX	セフミノクス	メイセリン	
	LMOX	ラタモキセフ	シオマリン	
	FMOX	フロモキセフ	フルマリン	
	CETB	セフチブテン	セフテム	
	CFDN	セフジニル	セフゾン、セフニール	
CPR	セフピロム硫酸塩	ケイテン		
CDTR-PI	セフジトレン・ピボキシル	メイアクト		
CZOP	セフォゾプラン塩酸塩	ファーストシン		
CFPN-PI	セフカベン・ピボキシル塩酸塩	フロモックス		
CFPM	セフェピム塩酸塩	マキシピーム		
CPDX-PR	セフボドキシム・プロキセチル	バナシ他		
CFTM-PI	セフテラム・ピボキシル	トミロン他		
※1	FRPM	ファロベナム	ファロム	
※2	AZT	アズトレオナム	アザクタム	
カルバペネム系	IPM/CS	イミペナム/シラスタチン	チエナム、イミスタン、インダスト他	
	PAPM/BP	パニベナム/ベタミプロン	カルベニン	
	MEPM	メロベナム	メロベン	
	BIPM	ビアベナム	オメガシン	
	DRPM	ドリベナム	フィニバックス	
	TBPM-PI	テビベナム・ピボキシル	オラベナム	
	アミノグリコシド系	KM	カナマイシン	カナマイシンカプセル他
GM		ゲンタマイシン	ゲンタシン他	
DKB		ジベカシン	パニマイシン	
TOB		トブラマイシン	トブラシン	
AMK		アミカシン	アミカマイシン他	
NTL		ネチルマイシン		
ISP		イセバマイシン	イセバシン、エクサシン	
ABK		アルベカシン	ハベカシン	
マクロライド系		EM	エリスロマイシン	エリスロシン、エリスロマイシン
		JM	ジョサマイシン	ジョサマイ、ジョサマイシン他
	RKM	ロキタマイシン		
	AZM	アジスロマイシン	ジスロマック	
	CAM	クラリスロマイシン	クラリス、クラリシッド他	
※3	TC	テトラサイクリン	アクロマイシン	
MINO	ミノサイクリン	ミノマイシン他		
※4	CP	クロラムフェニコール	クロロマイセチン、クロラムフェニコール他	
キノロン系	LVFX	レボフロキサシン	クラビット	
	NFLX	ノルフロキサシン	バクシダール他	
	OFLX	オフロキサシン	タリザート他	
	CPFX	シプロフロキサシン	シプロキサシン他	
	NA	ナリジクス酸	ウイントマイロン	
	GFLX	ガチフロキサシン	ガチフロ	
	PZFX	パズフロキサシン	パシル、パズクロス	
	TFLX	トスフロキサシントシル酸塩	オゼックス、トスキサシン	
	LFLX	ロメフロキサシン塩酸塩	バレオン、ロメバクト	
	MFLX	モキシフロキサシン塩酸塩	アベロックス	
	GRNX	メシル酸ガレノキサシン	ジェニナック	
	STFX	シタフロキサシン	グレースビット	
	※5	LCM	リンコマイシン	リンコシン他
CLDM	クリンダマイシン	ダラシン他		
ポリペプチド系	CL	コリスチン	コリマイシンS	
	VCM	バンコマイシン	バンコマイシン	
	TEIC	テイクoplanin	タゴシッド	
その他	ST	スルファメトキサゾール/トリメトプリム	バクタ、バクトラミン	
	FOM	ホスホマイシン	ホスミシン、ハロスミン	
	MUP	ムピロシン	バクトロバン	
	RFP	リファンピシン	リファジン、アブテシン	
	LZD	リネゾリド	ザイボックス	

※1 ベネム系 ※2 モノバクタム系 ※3 テトラサイクリン系 ※4 クロラムフェニコール系 ※5 リンコマイシン系

薬剤感受性試験

系 統	β-ラクタマーゼ阻害薬				セフェム系薬											※1	カルバペネム系薬			アミノグリコシド系薬			※2	ニューキノロン系薬			※3	※4	その他									
	ペニシリン系薬				CCL	CEZ	CTM	CPZ	CMZ	CFDN	CDTRI	CFNPI	CAZ	CTX	FMOX	CFPM	AZT	IPM/CS	MEM	PAPM/BP	GM	AMK	ABK	EM	CAM	AZM	MINO	TC	LVFX	TLX	CPFX	CLDM	VCM	ST	FOM			
菌 種	PCG	AMP	ABPC	PIPC	SBT/CPZ	CVA/AMP	SBT/ABPC																															
ブドウ球菌	○	○					○	○	○								○			○	○	○				○	○						○	○	○			
腸球菌			○	○													○									○	○											
肺炎球菌	○	○				○											○	○								○	○											
溶連菌 (その他のレンサ球菌も含む)	○	○				○	○										○									○	○											
グラム陽性球菌 (上記以外の)	○	○							○								○									○	○							○				
緑膿菌				○	○															○	○																	
インフルエンザ菌		○				○	○										○									○	○									○		
ヘモフィルス (インフルエンザ菌以外)		○																								○	○											
カンピロバクター		○																																				
ビブリオ		○																																				
グラム陰性桿菌 (上記以外の)		○	○	○	○																																	○
グラム陽性桿菌		○																																				
モラクセラ(カタル球菌)						○																																
淋菌、髄膜炎菌 (上記以外の陰性球菌)	○					○																																
嫌気性菌	○					○																																

※1 モノバクタム系薬 ※2 テトラサイクリン系薬 ※3 リンコマイシン系薬 ※4 グリコペプチド系薬

セット項目についてのご説明

- ・院内セット
院内セットとは、セットとする項目を弊社システムに登録することで、より少ないチェックで依頼を可能とするシステムです。
- ・基本薬剤
基本薬剤セットをご依頼された場合は上記のとおりです。

細菌検査の検体の採取方法

咽頭拭い液 検体容器は弊社指定のm容器を使用して下さい。口を大きく開かせ、舌圧子で舌を押さえます。その後患者に「アー」と言わせ、口蓋が広がったときにm容器に付属の綿棒で扁桃腺窩を強く擦り取ります。このとき、綿棒が舌や口腔粘膜に触れないように注意して下さい。採取後、提出までに時間のかかる場合には冷蔵保存して下さい。

鼻咽頭粘液 鼻咽頭粘液ではmよりも弊社指定のn容器の方が綿棒の軸が細いため検体が採取しやすいと思われます。鼻咽頭粘液はn付属の綿棒を鼻を経て静かに鼻咽頭に挿入し、鼻中隔の近くで鼻の底部に保持し、回転させて取り出します。採取後、提出までに時間がかかる場合には冷蔵保存しますが、肺炎・気管支炎原因菌は時間の経過と共に急速に死滅するものが多いので、冷蔵保存は検体採取後18〜24時間程度を限度と考慮して下さい。

髄液 皮膚表面からの菌の混入による髄膜炎を避けるため、検体の採取はなるべく清浄な条件下で行う必要があります。穿刺部位の消毒は特に入念に行い、穿刺予定部位を中心として円状にしたいに外側に向けてなるべく広範囲を消毒します。2〜3回の消毒後、局所麻酔を行い第4〜5腰椎間に穿刺して髄液を採取します。
検体容器としては弊社指定のe容器またはy容器を使用して下さい。yでは増菌培養が可能のため培養検査での菌の検出率は向上すると思われませんが、反面検査実施当初では検体が液体培地によって希釈されているため、鏡検検査での検出率が低下することが考えられます。

尿 検体容器は弊社指定のe容器をご利用下さい。乳幼児ではバックやカテーテルを使用したり、新生児では恥骨上からの膀胱穿刺法で採取することもあります。バックやカテーテルを使用する方法では会陰、尿道周囲を良く消毒し、雑菌の混入を防ぐ注意が必要です。

皮膚 セロテープなどの粘着テープ等に直接貼付して採取された材料は、粘着面からの採取が困難であり、輸送状況により粘着膜が劣化する可能性があります。このため、鏡検及び培養検査は検査不能とさせていただきます。採取した皮膚は直接滅菌スピッツ(e)に入れてご提出くださいますようお願いいたします。

耳漏 耳漏の採取法は鼓膜穿孔の有無により異なりますが、検体容器はいずれも弊社指定のn容器をご使用下さい。

①鼓膜穿孔のない場合

70%エタノールを耳用綿棒につけて外耳道を清拭し消毒するのが一般的です。外耳道を清拭し消毒後局所麻酔下で鼓膜切開を実施し、切開によって流出した分泌物をn容器付属の綿棒を使用して採取します。このとき、綿棒が外耳道に触れると消毒に使用した70%エタノールが検体に混入し、病原菌の発育を妨げる場合があるので注意が必要です。

②鼓膜穿孔のある場合

耳漏が多量に流れ出ている場合にはまず外耳道に流出している耳漏を綿棒で清拭するか、吸引管で吸引します。その後70%エタノールを耳用綿棒につけて外耳道を清拭し、新たに流出してきた耳漏をn容器付属の綿棒を使用してなるべく鼓膜に近い部分で採取します。
耳漏が少ない場合は消毒後なるべく鼓膜に近い部分で採取するか、新たに鼓膜を切開して検体を採取します。

眼脂 眼脂は結膜面からのみ採取して下さい。眼角部や眼瞼縁は常在菌が存在するので、ここから採取することは避けて下さい。通常、下眼瞼を下方に引いて反転し、円蓋部結膜を露出してそこに滞留する眼脂をn容器付属の綿棒で採取して下さい。

涙液分泌 涙嚢炎ではまず、涙点(下方、ついで上方)を外反露出して清浄にして、次いで涙嚢部を指先手中程度の力で圧迫すると涙点から貯留液(多くは膿性、懸濁性)が逆流してくるので、これをn容器付属の綿棒で採取して下さい。指圧による貯留液の採取が困難な場合は生理的食塩水による涙嚢洗浄を行い、これを検体として下さい。

血液 血液培養検査では汚染菌の混入を極力避けることが大切です。採血にあたり、好気用と嫌気用のボトルを用意して依頼するボトルのゴム栓を消毒用アルコールで拭き取ります。採血部位をイソプロパノール又はエタノール清拭した後ヨードチンキ消毒し、滅菌ディスプレイの注射器で採血します。
採血終了後、使用するボトルに3〜10mL血液を注入してボトルの内容物を静かに混和して下さい。採血後のボトルは室温にて保存して下さい。

各臨床材料より検出された菌の病原性の考え方

	黄色ブドウ球菌	A群溶連菌	B群溶連菌	肺炎球菌	腸球菌	淋菌	髄膜炎菌	モラクセラ(カタール球菌)	大腸菌	肺炎桿菌	緑膿菌	インフルエンザ菌	セラチア属	その他の腸内細菌	その他のシュードモナス属	病原性大腸菌	サルモネラ属	赤痢菌	ヒブリオ属	カンピロバクター属	リステリア属	バクテロイデス属	酵母様真菌
喀痰	▲	◎	▲	◎	▲			○	◇	◇	◇	○	▲	▲	▲				○			◇	▲
咽頭拭い液	▲	◎	▲	◎	▲			○	◇	◇	◇	○	▲	▲	▲		○			○		▲	▲
気管分泌物	▲	◎	▲	◎	▲			○	◇	◇	◇	○	▲	▲	▲								▲
耳漏	▲	◎	○	◎	▲			○	◇	◇	◇	○	◇	◇	◇		◎		○			◇	◇
尿	▲		○		▲	◎			○	○	○	○	◇	◇	◇		◎		○			▲	◇
血液	◇	◎	◎	◎	◇				○	○	○	○	◇	◇	◇		◎		◎	◎	◎	◇	○
髄液	◎	◎	◎	◎	○		◎		○	○	○	○	▲	◇	◇						◎	○	○
胸水	◇		◎	◎	◇				○	○	○	○	◇	◇	◇							○	○
腹水	◎		◎	◎	○				○	○	○	○	◇	◇	◇							○	○
糞便	▲				▲				▲	◇	◇		◇	◇	▲	◎	◎	◎	◎	◎		▲	◇
膈分泌物	◇		○	◇	▲	◎			◇	◇	◇	▲	◇	◇	◇							◇	○
胆汁	▲	◎	◎	◎	▲				○	○	○	○	▲	▲	▲		◎					◎	▲

◎… 起炎菌としての頻度が高いもの。
 ○… 病原性としては必ずしも強くはないが、起炎菌としてなり得るもの。
 ◇… 菌交代現象の結果より生じた可能性もあり得るもの。
 ▲… ヒトまたは環境に由来する細菌で、起炎菌としての頻度は低いと思われるもの。

改正感染症法

法令を踏まえて弊社では一種～四種病原体の受託輸送及び保管に関しまして下記の対応を行います。

- 特定病原体等（一種～四種病原体等）の受領に関して
 - （1）一種～三種病原体に関しては弊社及び弊社委託運搬業者が法令要求事項に対応できないため、受領は行いません。
 - （2）四種病原体と確定している菌株をご出検される場合は、感染症法に定められた容器（国連規格カテゴリーA UNマーク、バイオハザードマーク付き）をご出検施設様でご用意して頂いた場合のみ受領、検査致します。
 - （3）上記の容器以外での受領、運搬は感染症法違反となりますので何卒ご理解の程お願い致します。

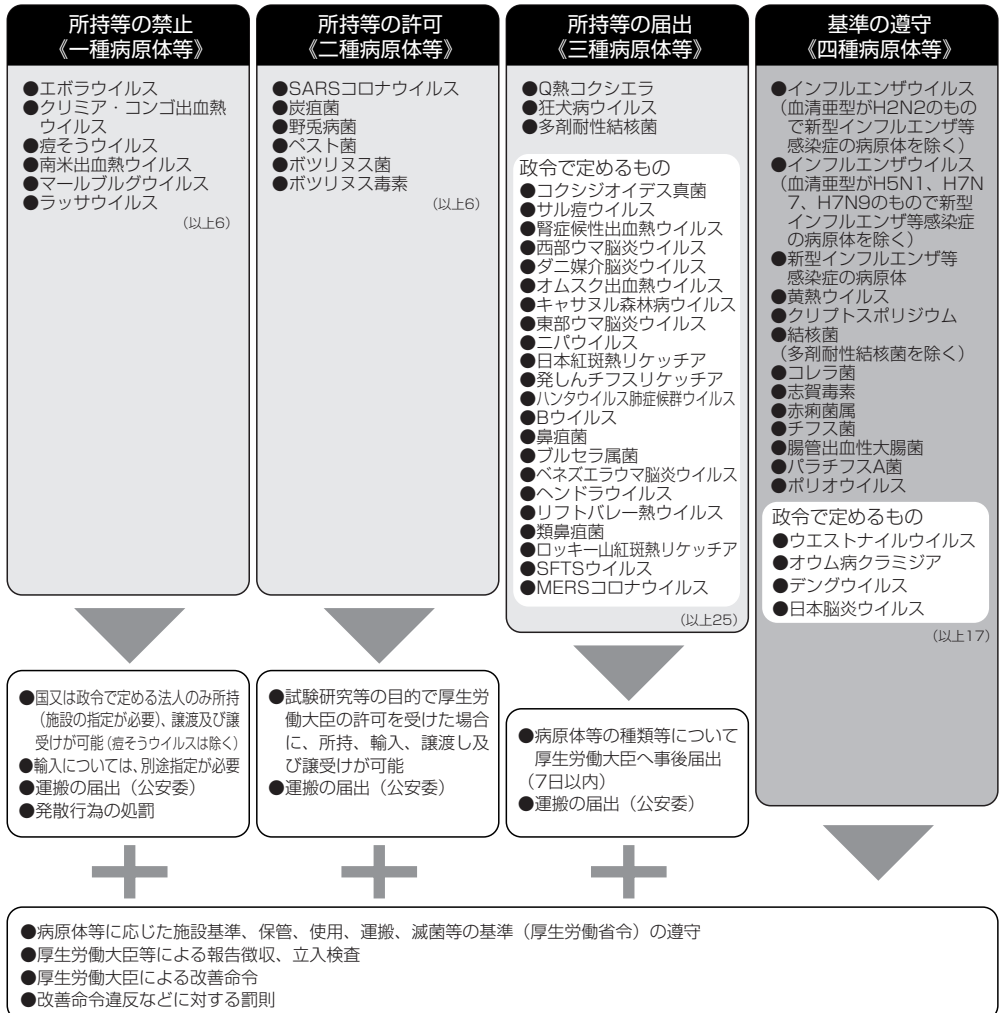
- 弊社で検出された特定病原体（一種～四種病原体）の取扱い
 - （1）特定病原体の保管期間につきましては、右表をご参照下さい。
 - （2）特定病原体と確定後の追加検査は原則お断り致します。
 - （3）四種病原体の返却に関しましては公的機関が感染症法等に基づく疫学調査などに必要な場合に限り検討致します。その際返却容器は原則公的機関側で用意していただく事になります。詳細はご相談下さい。

- その他の病原体
 - （1）改正感染症法に該当しない菌株に関しましては従来通りの対応となります。

特定病原体の取扱いについて

病原体種類	一種病原体	二種病原体	三種病原体	四種病原体
受領について	受領できません。	受領できません。	受領できません。	出検先で輸送容器をご用意いただきます。 出検前に必ずご連絡下さい。
菌株保管期間	—	—	多剤耐性結核菌は同定確定1ヶ月後に滅菌処理致します。	●結核菌は同定確定1ヶ月後に滅菌処理致します。 ●結核菌以外は同定確定10日後に滅菌処理致します。
返却について	—	—	返却は行いません。	公的機関からの依頼に対してのみ輸送容器をご用意していただき返却致します。
代表的な病原体	—	—	多剤耐性結核菌	チフス、コレラ、結核菌、腸管出血性大腸菌他

病原体等の適正な管理を含めた総合的な感染症対策の概要



コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
尿 検 査								
0401	pH	e	尿10.0	試験紙法	5.0~7.5	※1	☒:ウロビリノーゲン、ビリルビン 自動機器判定	1 2
	比重			屈折法	1.003~1.030			
	ウロビリノーゲン定性			試験紙法	(±)			
	ビリルビン定性			試験紙法	(-)			
	ケトン体			試験紙法	(-)			
	糖定性			試験紙法	(-)			
	蛋白定性			試験紙法	(-)			
	潜血反応			試験紙法	(-)			
0409	沈渣	e	尿10.0	フローサイトメトリー法、 又は鏡検法		※1 ※2		1 2
0402	尿糖定量	e	尿0.5	酵素法	30以下 mg/dL	9 尿・便	蓄尿:コード0066 基準値:0.04~0.09 g/day	1 2
0498	尿蛋白定量	e	尿0.5	ピロガロール レッド法	10以下 mg/dL	7 尿・便	蓄尿:コード0499 基準値:20.0~120.0 mg/day	1 2
0406	ベンス・ジョーンズ蛋白定性 (BJP定性)	e	尿10.0	Putnum法	(-)	9 尿・便	陽性の場合には免疫学的同定 をおすすめします。	1 2

※1 当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できる。

※2 尿路系疾患が強く疑われる患者について、診療所が尿沈渣(鏡検法)を衛生検査所等に委託する場合であって、当該衛生検査所等が採尿後4時間以内に検査を行い、検査結果が速やかに当該診療所に報告された場合は、所定点数を算定できる。

コード No	検査項目	採取容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	---------------------	------	-----	--------	----	------

糞便検査

0415	虫卵	i	糞便 拇指頭大	塗抹法	(-)	20 尿・便	虫卵検査は反復検査が望ましいとされています。	3 4
0416		i	糞便 拇指頭大	集卵法	(-)	15 尿・便		3 4
0417	蟻虫卵 (セロファンテープ法)	w	粘着標本	セロファンテープ 2日法	(-)	20 尿・便		1 2
0489	虫体鑑別	t	虫体	肉眼／鏡検		23 尿・便	検体は乾燥させないで下さい。	2 3
0486	便中ヘモグロビン (便中Hb)	h	糞便	LA	(-)	37 尿・便	1日法 採取方法は、N-8頁をご参照下さい。	2 3
0490					(-)	74 尿・便	2日法 採取方法は、N-8頁をご参照下さい。	
0491					(-)	111 尿・便	3日法 採取方法は、N-8頁をご参照下さい。	
2573	アメーバ検査	専用	糞便	直接塗抹法 (コード法)	(-)	61 微生物	容器は予めご依頼下さい。 採取方法は、N-8頁をご参照下さい。	3 4

髄液検査

0421	髄液一般検査	e	髄液各0.5	屈折計法	1.005~1.007	62 尿・便	微生物学検査と併せてご依頼の場合は、室温にてご提出下さい。	1 2
				ノンネアペルト反応	(-)			
				パンディ反応	(-) ~ (±)			
				細胞数	Fuchs-Rosenthal法			
				細胞種類(好中球N/リンパ球L)	ライト・ギムザ染色			
				トリプトファン反応	e			
0422	蛋白定量	e	髄液各0.5	ピロガロールド法	mg/dL 10~40	11 生化I		1 2
0423	糖定量	e	髄液各0.5	酵素法	mg/dL 50~75	11 生化I		1 2
0424	クロール (Cl)			電極法	mEq/L 120~130	11 生化I		1 2



コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
穿 刺 液 検 査								
0428	リバルタ反応	e	穿刺液全量	原法	(-)			1 2
	比重			屈折計法				
0429	蛋白定量			屈折計法	g/dL	11 生化I		
0089	LD			JSCC標準化 対応法	U/L	11 生化I		
0430	穿刺液・沈渣			遠沈鏡検法				
0690	沈渣・尿酸結晶			鏡検法				
1169	沈渣・ピロリン酸Ca	鏡検法						

精 液 検 査

0431	pH	k	精液全量	試験紙法	7.0~8.0	70 尿・便	採取時間を必ず明記して下さい。採取後、できるだけ速やかに提出して下さい。	1 2	
	量			肉眼的計量	2.0以上				mL
	精子濃度			鏡検法	20×10^6 以上				/mL
	精子正常形態率			鏡検法	15以上				%

e



k



e 滅菌スピッツ管
k 採痰管
適量を採取し提出。

コード No	検査項目	採取容器	検査材料	検査方法	実施料判断料	備考	所要日数
--------	------	------	------	------	--------	----	------

病理組織検査

9901	1 臓器	t	10%ホルマリン固定組織	ヘマトキシリンエオジン染色	860 病理	材料は、切除後直ちに指定の方法により固定してからご提出下さい。	6 12
9951	2 臓器		10%ホルマリン固定組織	ヘマトキシリンエオジン染色	1720 病理		
	3 臓器以上		10%ホルマリン固定組織	ヘマトキシリンエオジン染色	2580 病理		
0901	手術材料	10%ホルマリン固定組織	ヘマトキシリンエオジン染色	860 病理			






細胞診検査

9802	子宮頸管擦過 (ECスメア)	v	湿潤固定 標本部位別に1枚	パバニコロ染色	150 病理	4 5 7
9801	膣および膣円蓋部 (Vスメア)					
9803	体部内膜 (EMスメア)					
9821	喀痰 (SP)	v	喀痰・湿潤固定標本 気管支擦過・気管支洗浄 湿潤固定標本 3枚	パバニコロ染色	190 病理	
9822	気管支擦過					
9823	気管支洗浄					乾燥固定標本メイギムザ用 1枚
9826	蓄痰細胞診YM式	s	YM式喀痰管に入れた喀痰 (早期痰を3日間連続で採取)	パバニコロ染色	190 病理	4 5 7
9845	胸腔液 (P I)	v	湿潤固定標本 3枚	パバニコロ染色	190 病理	4 5 12
9844	腹水 (A s)					
9841	尿			乾燥固定標本メイギムザ用 1枚	メイギムザ染色	
9851	胆汁	e	生材料の場合は冷蔵保存・提出			

その他

1197	エストロゲンレセプター	t	10%ホルマリン固定組織	IHC法	陰性	720 病理	※1	7 5 14
1196	プロゲステロンレセプター	t	10%ホルマリン固定組織	IHC法	陰性	690 病理	※1	
9991	HER2蛋白定量 (組織)	t	10%ホルマリン固定組織	IHC法		690 病理		

※1 エストロゲンレセプターの免疫染色とプロゲステロンレセプターの免疫染色を同一月に実施した場合は、いずれかの主たる病理組織標本作製の所定点数及び注に規定する加算 (180点) のみを算定する。

e	k	s	t	v	e 滅菌スピッツ管 k 採痰管 s YM式喀痰管 保存液 t 組織片容器 10%ホルマリン固定液に組織片を入れ提出。 v プレバレート
					

病理組織・細胞診検査のご依頼について

- 1) 病理組織検査、細胞診検査それぞれに専用依頼書を用意していますので、ご利用下さい。
- 2) 専用依頼書の記載欄には、もれなくご記入下さい。
- 3) 検体は、本案内書ご参照の上ご提出下さい。検体容器は、密栓され、液漏れのないものをご使用下さい。

病理組織検査 材料の提出方法

病理組織検査をご依頼の際は、検査材料を10%ホルマリン（局方ホルマリンの10倍希釈）固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライド、凍結組織などをご提出下さい。

■10%ホルマリン固定組織

- 1) 検体は採取後、自己融解・乾燥などを防ぐために、できるだけ速やかに固定して下さい。
- 2) 検体の固定には充分量の10%ホルマリン液をご使用下さい（組織の10～20倍量を目安として下さい）。
- 3) 内視鏡下生検材料等の微細組織をご提出の際は、濾紙等に貼り付け、10%ホルマリン液にお入れ下さい。
- 4) 内視鏡下生検材料等で複数個の微細組織をご提出の際は、濾紙に番号等を記入し、採取部位毎に組織片容器にお入れ下さい。
- 5) 手術摘出検体は、提出検体より大きい広口容器（又はタッパウェア等）に入れて提出して下さい。
- 6) 手術材料等の大きい組織をご提出の際は、下記図表の点に注意し、固定液が十分に浸透するように固定して下さい。

病理組織固定（ホルマリン固定）法

組 織	固 定 法
胃、胆管、胆嚢、等	臓器を切開後、粘膜面を上にし、板に広げ、虫ピンなどで止めて10%ホルマリン液に入れます。
肺	気管支断端から10%ホルマリンを注入し、断面にガーゼを挟み、表面にも厚みのガーゼを掛け、10%ホルマリン液に入れます。
子宮	前面よりY字型に切開して10%ホルマリン液に入れます。
厚みのある臓器	予め割を入れてから10%ホルマリン液に入れます。
郭清リンパ節	部位番号あるいは部位名を明記し、別々の容器で固定後、ご提出下さい。〈別々の組織片容器にて固定〉



■未染標本スライド

- 1) 患者名、検査番号等を明記し、切片が傷つかないようにしてご提出下さい。
- 2) 染色時の剥離が充分考えられますので、数枚余分にご提出下さい。
- 3) 酵素抗体法染色用スライドは、APS（シラン）coatingのものを使用し、37℃にて一晩乾燥後、パラフィンを融解せずにご提出下さい。酵素抗体法染色用には原則として1項目につき2枚をご用意下さい。

■病理組織検査の算定について

- ・病理組織標本作製（1臓器につき）860点
- ・病理組織標本作製料について
次に挙げるものは、各区分ごとに1臓器として算定する。
ア.気管支及び肝臓 イ.食道 ウ.胃及び十二指腸 エ.小腸 オ.盲腸
カ.上行結腸、横行結腸及び下行結腸 キ.S状結腸 ク.直腸 ケ.子宮体部及び子宮頸部
- ・病理標本作製にあたって、3臓器以上の標本作製を行った場合は、3臓器を限度として算定する。
- ・病理組織標本作製に当って、免疫抗体法（蛍光抗体法、酵素抗体法）を用いた検査を行った場合は、1臓器につき1回のみ400点を算定する。
- ・確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、所定点数に1,600点を加算する。
確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者とは、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性腎炎、内分泌腫瘍又は軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症（点疱瘡、類天疱瘡）又は悪性黒色腫が疑われる患者を指す。

細胞診検査 材料の提出方法

標本の固定

固定は細胞の変性・融解などの変化を停止させる作業ですので、塗抹後直ちに固定する必要があります。

湿固定はパバニコロウ染色・PAS染色などの為の固定法で、乾燥固定はギムザ染色などの為の固定法です。

固定の良否は採取部位・方法とともに細胞診判定内容を左右する重要な因子の一つです。迅速な固定をお願い致します。

①婦人科検体

②液状処理細胞診検体 (LBC)

シンプレップ Thin Prep

③シュアパス Sure Path

検体採取の留意点

- ・スライドガラスにてご提出の場合、フロスト部分に鉛筆で患者名、材料名を明記して下さい。(マジックペン、ボールペン不可)
- ・血液や粘液をなるべく入れないで下さい。
- ・固定保存液は容器に示された範囲内であることを確認の上、ご提出下さい。
- ・妊婦にはブラシを使用しないで下さい。

※ 採取器具は以下を参考にして下さい。



サーベックスブラシ



エンドサーベックス
ブラシ標準



エンドサーベックス
ブラシタイプ



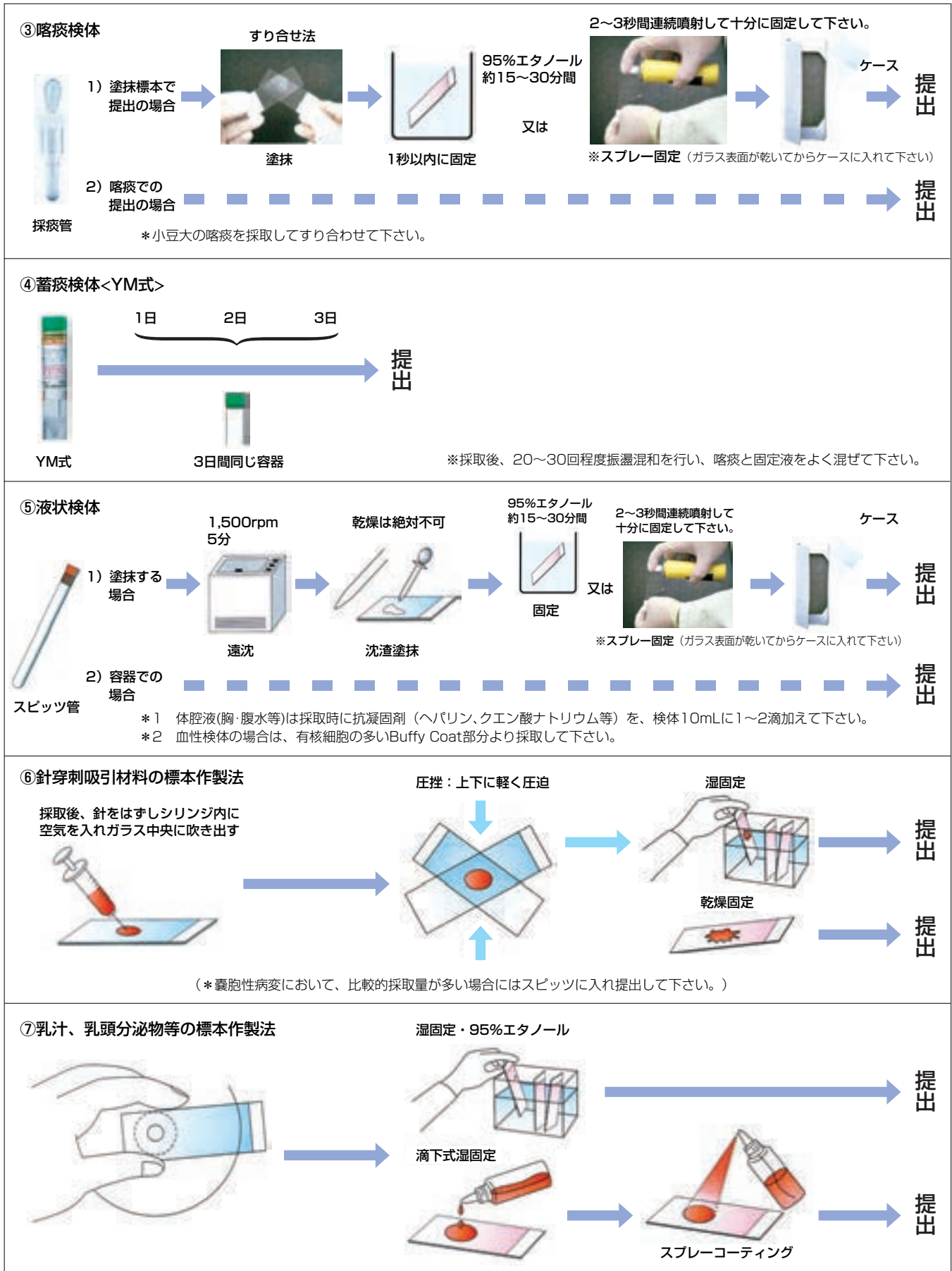
綿棒

※特に綿棒の場合は、検体採取量が少なくなる為、
検体不適性となる場合があります。ご了承下さい。

◎湿潤固定標本:パバニコロウ染色に用いられます。

〈方法〉①塗抹後、1秒以内に95%エタノールにて固定(15~30分)し、スプレー固定剤を噴霧して下さい。

②スプレー固定剤のみを使用する際は、スプレー固定剤が滴る程度噴霧して下さい。



[ご注意]

・スライドガラスにて提出の場合、フロスト部分に鉛筆で患者名、材料名を明記して下さい。(マジックペン、ボールペン不可)

○湿潤固定標本: パパニコロウ染色に用いられます。

〈方法〉①塗抹後、1秒以内に95%エタノールにて固定(15~30分)し、スプレー固定剤を噴霧して下さい。

○乾燥標本: ギムザ染色、PAS染色等に用いられます。

(⑤⑥の材料には湿潤固定の他、必ず乾燥標本をつけて提出して下さい。)

〈方法〉塗抹後、ドライヤー等の冷風にて急速に乾燥させる。(乾燥固定)

骨塩定量 (DIP法) における基準値と骨粗鬆症診断基準

コードNo.	検査材料	検査方法	基準値	所用日数	実施料判断料	備考
4544	X線フィルム (四つ切または大四つ切)	DIP法	下表参照	4~6	140 ※1	

※1 骨塩定量検査は、骨粗鬆症の診断及びその経過観察の際のみ算定できる。ただし、4月に1回を限度とする。

〈原発性骨粗鬆症診断基準〉 (2012年改訂版)

YAM:若年成人平均値(20~44歳)

判定	骨密度値	脊椎X線像での骨粗鬆症化	女性YAM値	男性YAM値
正常	YAMの80%以上	なし	2.864	2.984
骨量減少	YAMの70%以上~80%未満	疑いあり		
骨粗鬆症	YAMの70%未満	あり		

上記は、脆弱性骨折を認めない場合の診断基準値です。脆弱性骨折とは、低骨量(骨密度がYAMの80%未満、あるいは脊椎X線像で骨粗鬆症化がある場合)が原因で、軽微な外力によって発生した非外傷性骨折です。骨折部位は脊椎、大腿骨頸部、橈骨遠位部、その他です。

※男性の診断基準は、「原発性骨粗鬆症診断基準値」における女性の診断基準に照らした参考基準値です。

〈DIP法における第二中手骨骨密度の基準値〉

		女性			男性		
年齢	件数	骨密度:m-BMD			判定パラメータ		
		平均値	SD	平均値±2SD	YAM値	80%値	70%値
20~24	2,252	2.788	0.240	2.308 ~ 3.268	2.864	2.291	2.005
25~29	3,192	2.854	0.242	2.370 ~ 3.338			
30~34	5,653	2.877	0.241	2.395 ~ 3.359			
35~39	7,032	2.880	0.247	2.386 ~ 3.374			
40~44	7,263	2.867	0.250	2.367 ~ 3.367			
45~49	9,163	2.835	0.258	2.319 ~ 3.351			
50~54	8,382	2.705	0.289	2.127 ~ 3.283			
55~59	8,190	2.502	0.294	1.914 ~ 3.090			
60~64	7,337	2.375	0.288	1.799 ~ 2.951			
65~69	5,854	2.272	0.286	1.700 ~ 2.844			
70~74	2,688	2.172	0.289	1.594 ~ 2.750			
75~79	952	2.073	0.310	1.453 ~ 2.693			
80~84	223	1.975	0.279	1.417 ~ 2.533			
85~	43	1.847	0.253	1.341 ~ 2.353			
計	68,224						
20~24	156	2.907	0.293	2.321 ~ 3.493	2.907*	2.326*	2.035*
25~29	335	2.932	0.273	2.386 ~ 3.478			
30~34	250	3.010	0.279	2.452 ~ 3.568			
35~39	365	3.047	0.289	2.469 ~ 3.625			
40~44	517	2.997	0.300	2.397 ~ 3.597			
45~49	665	2.952	0.304	2.344 ~ 3.560			
50~54	826	2.960	0.291	2.378 ~ 3.542			
55~59	708	2.931	0.311	2.309 ~ 3.553			
60~64	621	2.939	0.311	2.317 ~ 3.561			
65~69	562	2.884	0.349	2.186 ~ 3.582			
70~74	355	2.836	0.326	2.184 ~ 3.488			
75~79	171	2.774	0.376	2.022 ~ 3.526			
80~84	59	2.796	0.362	2.072 ~ 3.520			
85~							
計	5,590						

* : 男性の診断基準は設定されていないため、20~24歳の平均骨密度をYAMと仮定し、それぞれの80%値および70%値を算出した参考値。
(出典：日本骨代謝学会 骨粗鬆症診断基準検討委員会、1996年)

〈DIP法におけるMCI基準値〉

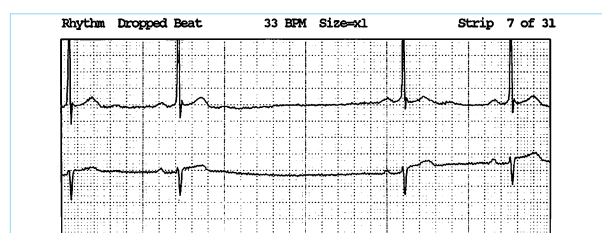
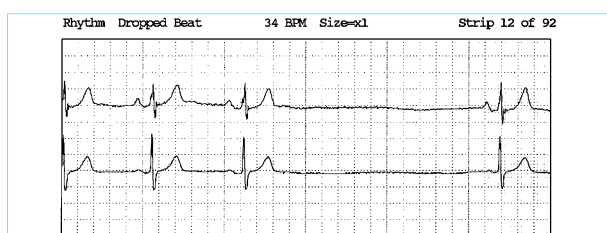
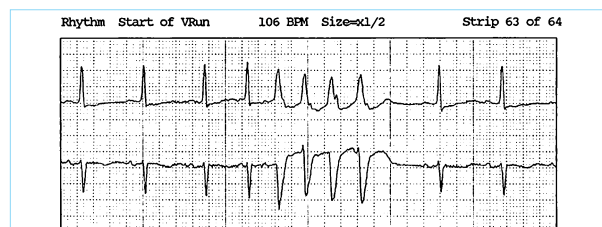
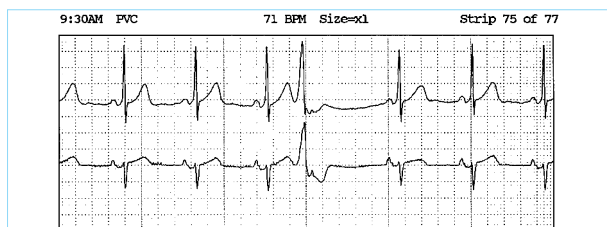
年齢	女性				男性			
	件数	平均値	SD	平均値±2SD	件数	平均値	SD	平均値±2SD
20~24	2,252	0.486	0.067	0.352~0.620	156	0.459	0.061	0.337~0.581
25~29	3,192	0.498	0.071	0.356~0.640	335	0.466	0.064	0.338~0.594
30~34	5,653	0.498	0.069	0.360~0.636	250	0.474	0.065	0.344~0.604
35~39	7,032	0.490	0.069	0.352~0.628	365	0.466	0.061	0.344~0.588
40~44	7,263	0.479	0.066	0.347~0.611	517	0.449	0.061	0.327~0.571
45~49	9,163	0.474	0.064	0.346~0.602	665	0.436	0.057	0.322~0.550
50~54	8,382	0.459	0.062	0.335~0.583	826	0.433	0.057	0.319~0.547
55~59	8,190	0.424	0.057	0.310~0.538	708	0.428	0.057	0.314~0.542
60~64	7,337	0.398	0.052	0.294~0.502	621	0.437	0.059	0.319~0.555
65~69	5,854	0.378	0.050	0.278~0.478	562	0.427	0.061	0.305~0.549
70~74	2,688	0.360	0.046	0.268~0.452	355	0.411	0.057	0.297~0.525
75~79	952	0.344	0.045	0.254~0.434	171	0.407	0.063	0.281~0.533
80~84	223	0.330	0.043	0.244~0.416	59	0.409	0.050	0.309~0.509
85~	43	0.316	0.046	0.244~0.408				
計	68,224				5,590			

ホルター心電図（長時間心電図）

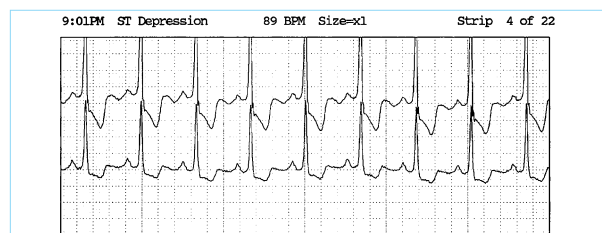
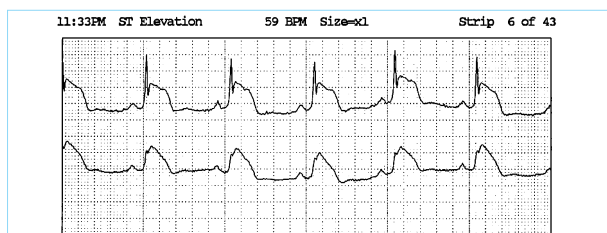
コードNo.	提出方法	検査方法	所用日数	実施料 判断料	備考
0604	下記参照	対話型の半自動解析機 により解析	7日	1750	記録状態によっては解析でき ない場合があります

〈ホルター心電図の適応とStrip 波形例〉

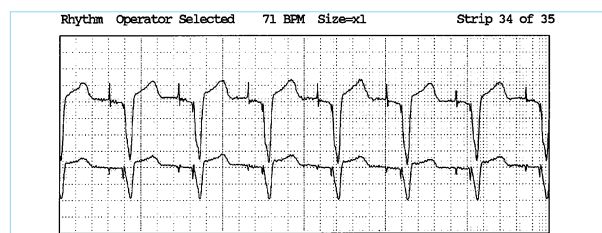
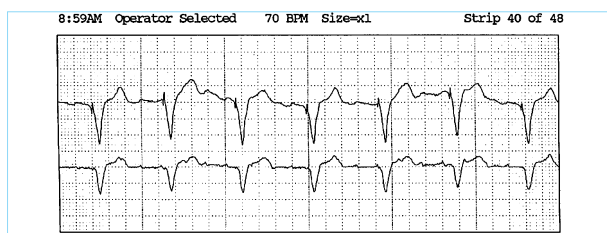
1.不整脈の診断、期外収縮数の定量評価、連発や心室頻拍の有無、
洞不全症候群での最低心拍数や最長洞停止時間などの評価



2.虚血性のST変化の検出（特に異型狭心症発作時のST上昇の記録）



3.ペースメーカー機能のチェック



〈ホルター心電図の提出方法〉

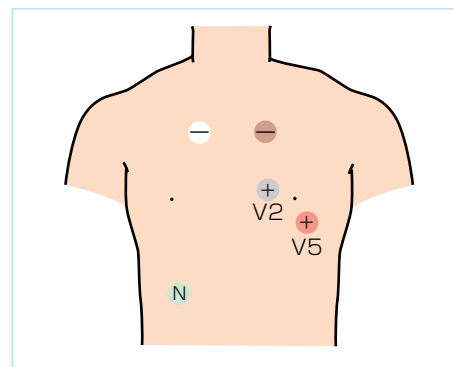
ホルター心電図記録装置によって記録されたSDカード、カセットテープ等

〈電極の装着部位〉

- 白：右側
- 茶：左側
 - 鎖骨の下の平らなところで左右対称
- 黒：V2の位置
- 赤：V5の位置
 - 本来ならばV5の位置ですが、ノイズ混入をふせぐため
 - ◎腕を動かした時電極にあたらぬようにするため
 - V4の方にすらす
 - ◎女性の場合、電極は乳房のつけねより完全に下に付ける
- 緑：アース どこでも良いが腕などにあたらぬ平らなところ

※ノイズの混入や基線の動揺を避けるために電極の装着は特に入念に行ってください。

電極の装着部位



コード No	検査項目	採取 容器	採取量 (mL) ⇨ 検体量 (mL)	検査方法	基準値	実施料 判断料	備考	所要 日数
-----------	------	----------	---------------------------	------	-----	------------	----	----------

新規項目



その他

検査方法の概略

CF 補体結合試験

Complement Fixation Test

抗原-抗体結合物がある一定の条件のもとに補体を活性化し、免疫グロブリンのFc部分に補体を結合する現象を応用した検査方法。主にウイルス抗体の検出に用いられる最も基本的なものである。CF活性を持つのはIgGとIgMのみであるが、一般に感染後短期間のみ検出される場合が多い。べア血清で測定するのが望ましい。

CLEIA 化学発光酵素免疫測定法

Chemiluminescent Enzyme Immuno Assay

被検物質に対する抗体を担体に固相したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光基質を加える。この基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光し、その発光量をルミノメーターで測定し定量する方法。

CLIA 化学発光免疫測定法

Chemiluminescent Immuno Assay

被検検体にアクリジニウム・エステルを標識した抗体と固相化抗体を反応させサンドイッチ法により測定する検査方法、磁気分離固相法によりB/F分離した後、専用アナライザーでアクリジニウム・エステル発光の量により定量する。

ECLIA 電気化学発光免疫測定法

Electro Chemiluminescent Immunoassay

電解反応により生成されるエネルギーによりルテニウムピリジン錯体を励起して発光させる化学発光法の一つである。被検検体に測定を目的とする物質(A)に対する抗体を結合したビーズを反応させると、抗原抗体複合物が生成される。次にこのビーズを洗浄し、ビーズに結合した(A)にルテニウム標識抗体を反応させるとサンドイッチ状の複合物が形成される。さらにビーズを洗浄し電極上にて電気エネルギーを加えるとビーズに結合したルテニウム標識抗体量に応じてルテニウム錯体が発光する。この発光量は(A)の量と相関するので検量線により濃度を読み取る。

EIA 酵素免疫測定法

Enzyme Immuno Assay

抗原または被検検体に抗体を反応させた抗原抗体複合物に酵素標識抗体を加え反応させた後、その酵素に対する基質を添加し発色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非競合法に大別され、広く各種ホルモン、ウイルス抗原・抗体価、薬物濃度などの測定に用いられる。標識酵素にはペルオキシダーゼやアルカリフォスファターゼなどが用いられている。

ELISA 酵素免疫測定法

Enzyme-Linked Immunosorbent Assay

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

FA 蛍光抗体法

Fluorescent Antibody Method

目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。蛍光色素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して抗体を反応させた後、蛍光色素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

FAT 蛍光抗体法

Fluorescent Antibody Test

抗原または抗体を測定する場合にFITCなどの蛍光色素を標識した抗原と抗体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察すると特異的な蛍光が見られ、これにより判定する。抗体(抗原)に蛍光色素を直接結合させる直接法と抗原抗体反応させた後、さらに抗血清に蛍光色素を反応させる間接法がある。

FEIA 蛍光酵素免疫測定法

Fluoroenzyme Immuno Assay

EIA法の一つである。主にアレルギー特異的IgE抗体を測定するのに用いられ、酵素を標識として用い測定対象のアレルゲン(抗原)を被検検体に入れ、抗原抗体反応により酵素が基質に反応する。その際に発する蛍光の強度により検量線より濃度を測定する。

FISH 蛍光 in situ ハイブリダイゼーション

Fluorescence in situ hybridization

蛍光色素で標識したプローブを用いて標的DNAとハイブリダイゼーションを行い、特定の波長で発色させた蛍光部位を染色体上のシグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。蛍光色素で標識したプローブと標的DNAを直接結合させる直接法と、標識物質で標識したプローブと標的DNAを結合させた後に、標識プローブと蛍光物質を結合させて発色させる間接法がある。

FPIA 蛍光偏光免疫測定法

Fluorescence Polarization Immuno Assay

血中薬剤濃度のような比較的分子量の小さい物質の測定に用いられる。試料中の測定物質と一定量の蛍光標識標準物質が、一定量のこの標準物質の抗体と競合する。この抗原-抗体反応と、蛍光偏光度との関係から検量線を用いて濃度を求める。

GC ガスクロマトグラフィー

Gas Chromatography

固定相としてキャピラリーカラムを用い、測定試料が移動相(キャリアーガス)によって流動する間に溶解性の差によって分離・同定される。充填剤は測定試料の構造により無極性型、極性型があり、検出器には電子捕獲検出器(ECD)、水素炎イオン化検出器(FID)、熱伝導度検出器(TCD)などが用いられている。

GC-MS ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー

Gas Chromatography-Mas Spectrometry

マススペクトロメトリー(質量分析:MS)は測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得られたイオン化した物質のエネルギー分布や電荷分布の違いによる特異的なスペクトルを解析することにより化合物の同定、定量、構造解析が行われる。GC-MSはこのMSにガスクロマトグラフィーを組み合わせたものである。

HA 赤血球凝集反応

Hemagglutination

赤血球の表面抗原と抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

HI 赤血球凝集抑制試験

Hemagglutination Inhibition Test

一般にウイルスは動物の赤血球を凝集する性質を持っており、ウイルス抗原が対応する抗体と結合し抗原抗体反応を起こすと赤血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルス抗原を被検検体と反応させ、これに赤血球を加え反応させ、どの希釈倍率まで凝集が抑制されたかにより抗体価を判定する。

HPLC 高速液体クロマトグラフィー

High Performance Liquid Chromatography

微細な球体のシリカやイオン交換樹脂、疎水性のアルキル基、親水基をもったシリカゲルなどを充填したカラムを用いて試料中の測定物質を分離し、光学的方法や電気的な検出方法によりその測定物質を検出し、得られたクロマトグラムからピーク高やピーク面積により定量化する。

ICA イムノクロマトグラフィー法

Immuno chromatography assay

液体をニトロセルロース膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用した免疫学的測定法である。液状検体中の標的物質が膜を移動する過程でまず色素標識抗体に結合させ、さらに膜に固相化した抗体で抗原-抗体複合体を捕捉する。こうして形成されたサンドイッチ複合体(色素標識抗体-抗原-固相化抗体)は抗体固相化地点で呈色することになるため、目視にて確認することができる。

IFA 間接蛍光抗体法

Indirect Fluorescent Antibody method

目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。蛍光色素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して抗体を反応させた後、蛍光色素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

IR 赤外吸収スペクトロメトリー

Infrared Absorption Spectrometry

分子は各々固有の振動をしているので、測定試料に照射する赤外線(波長を連続的に変化させていくと、試料の分子の固有振動周波数と同じ周波数の赤外線が吸収されて、その分子構造に応じた固有の振動スペクトルを得ることができる。その物質の赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行なう方法である。

IRMA 免疫放射定量法

Immunoradiometric Assay

RIA法(ラジオイムノアッセイ)の一つで、非競合的な反応に基づくものをいい、一般のRIA法より特異性が高いといわれる。測定を目的とする抗原に標識抗体を加えると抗原と標識抗体が結合した抗原-抗体複合物ができるが、その放射活性により検量線から濃度を読み取る。最近では2抗体法以外の方法をIRMAと呼ぶことがある。

検査方法の概略

KIMS

Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

抗原または抗体を結合させたマイクロパーティクルを用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率から測定する方法。

LA ラテックス凝集法・ラテックス凝集比濁法

Latex agglutination

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると陽性の場合に抗原抗体反応によりラテックス粒子が凝集する性質を利用し、目的物質を測定する。

LAMP

Loop-Mediated Isothermal Amplification

標的遺伝子の配列から6つの領域に対して4種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させる方法。

LC/MS/MS 液体クロマトグラフィータンデム四重極型質量分析法

Liquid chromatography tandem mass spectrometry

LC/MS/MSは高速液体クロマトグラフ(HPLC)と質量分析計(MS)を2段階結合させた装置。試料をHPLCにより分離し、1台目のMSでイオン化させ質量毎に分離(プリカーサーイオン)する。これを不活性ガスと衝突させ、1台目のMSで選択したイオンから生じた2次的イオン(プロダクトイオン)を2段階目のMSで計測する。2回の質量分離を行うため高い分離能と特異性が得られるため、試料中の夾雑成分の影響を受けにくく信頼性の高い正確な定量を行うことができる。

LPIA ラテックス近赤外比濁法

Latex Photometric Immuno Assay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると抗原抗体反応により凝集し濁度が変化する。これに赤外線当てその透過度により定量する方法である。

MPHA 混合受身赤血球凝集試験

Mixed Passive Hemagglutination Test

プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。それに被検検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行なう。

NT 中和試験

Neutralization Test

ウイルス抗体価の測定によく用いられる。被検検体を段階希釈しウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある細胞に接種して一定期間培養を行なう。中和抗体が存在するとウイルスが中和され細胞変性効果(CPE)が起こらず、その最大希釈倍率を抗体価とする。最も特異性の高い抗体価測定法である。

PA 粒子凝集試験

Particle Agglutination Test

ゼラチン粒子などの担体に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これと被検検体を反応させると、抗体が陽性の場合にはゼラチン粒子が凝集する。

PCR ポリメラーゼ連鎖反応

Polymerase Chain Reaction

DNAの断片を増幅する方法である。目的とする領域のDNAを増幅するために、まず加熱し変性させ一本鎖DNAにする。次に2種のプライマーを混合させ適当な温度条件でアニールさせると各々のプライマーは変性したDNAと相補性のある塩基で対を形成し、DNAポリメラーゼの反応により鎖が伸長し、最初のDNA部分の鎖は1回だけ増幅される。このプロセスを数十回繰り返していくと数百塩基対から数千塩基対のDNA断片のコピーをほぼ無限大に得ることができる。RNAを増幅する場合は逆転写酵素(reverse transcriptase ; RT)によりcDNAに転換して増幅する。

PHA 受身赤血球凝集試験

Passive Hemagglutination Test

動物の赤血球に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これに被検検体を反応させる。凝集が起これば陽性である。

REA

Radioenzymatic Assay

標的物質の有する酵素活性を放射性アイソトープ標識基質を用いて測定するものである。検体とアイソトープ標識基質を反応させ、その反応生成物を放射活性より測定する。予め標準品を用いて作成した検量線から標的物質の活性を求めることができる。

RIA 放射性免疫測定法

Radio Immuno Assay

測定を目的とする抗原に対する抗体を用いて、被検検体に抗体を加え抗原抗体反応を起こさせた後、さらにラジオアイソトープ(主に¹²⁵I)で標識した抗体を入れて、複合体を形成した標識物(bound)と未反応物(free)を分離(B・F分離)し、放射活性を測定してB/Fの比率を求めて検量線から濃度を測定する。一般に二抗体法のような競合反応以外の方法を、IRMAと呼んでいる。

RRA ラジオレセプターアッセイ

Radio Receptor Assay

ホルモンやビタミンDなどはそのレセプターと結合することで活性を持つが、その性質を応用して通常の抗原・抗体反応と同じ様に、測定を目的とする物質にレセプターを結合させ、その反応性により目的物質を定量する方法である。

RT-PCR

Reverse Transcriptase-Polymerase Chain Reaction

RNAが増幅対象の場合に、RNAを鋳型として逆転写酵素(reverse transcriptase : RT)により相補的なcDNAを合成してPCRを行う方法。

Scorpion-ARMS法

変異を特異的に増幅する「ARMS」と増幅された変異をシグナルに変える「Scorpions」の2種類の技術を組み合わせた新しい高感度リアルタイムPCRです。

SRID 免疫拡散法

Single Radial Immunodiffusion

ある特定の抗原量や抗体価を測定する場合に、それに対応する抗体や抗原が入ったゲルを用いた免疫拡散板に検体をスポットし、ゲル内沈降反応により生じた沈降線の直径により被検物質の濃度を定量する。二重免疫拡散法は沈降線の交差により判定する。

TIA 免疫比濁法

Turbidimetric Immuno Assay

被検検体中の測定目的物質に対応する抗体を検体に加えると抗原抗体反応により、抗原抗体複合物が生成される。この複合物の濁度は被検物質の抗原量と相関するため、この濁度を測定し既知濃度標準物質により作成された検量線により濃度を測定する。

TMA

Transcription Mediated Amplification

2種類の酵素と2種類のプライマーおよび基質を用いてRNAを増幅する方法。抽出したRNAから逆転写酵素により2本鎖DNAを合成し、この2本鎖DNAを鋳型としてRNAポリメラーゼの逆転写反応によりRNAを合成することを繰り返し、目的とするRNA領域を増幅させる。

UV 紫外外部吸光度分析

Ultraviolet absorption Spectrophotometry

通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、補酵素がNADHやNADPHの場合は波長が340nm付近の紫外部に最大吸収を持つので、これらの補酵素が反応系に関与する場合はUV法が用いられる。

⁵¹Cr遊離法

非自己細胞(癌細胞、感染細胞など)に対するリンパ系細胞の障害活性を調べる目的で、標的細胞(Target cell:K562,Raji Chang Liverなどの培養株化細胞やニトロリの赤血球など)を放射性的⁵¹Crで標識し、これに被検細胞(effector cell)または抗体系を加えて培養し、障害によって標的細胞から遊離する⁵¹Cr放射活性を測定する。全放射活性に対する遊離放射活性の比をもって障害活性のインデックスとする。

³H-サイミジン取り込み能³H-TdR uptake

リンパ球が非自己抗原による刺激に反応して芽球化する現象を利用した方法。リンパ球に刺激物質と³H-サイミジンを加えて培養し、DNA合成により³H-サイミジンが細胞に取り込まれる量を放射活性として測定する。刺激物質にはPHA, ConA, 薬剤などが用いられる。

検査方法の概略

ウエスタンブロット法

Western blot

目的とする蛋白質を電気泳動により分離し、電気的にニトロセルロース膜に転写して、目的の蛋白質に対する抗体を反応させた後、放射性同位元素または酵素で標識した抗体を2次反応させ、目的の蛋白質を検出する方法。イムノブロット法とも呼ばれる。

液相（核酸）ハイブリダイゼーション

液相中でrRNAを遊離させ、化学発光物質で標識したDNAプローブを用いてハイブリダイゼーションを行い、ハイブリッドを分離剤に吸着させた後、化学発光により検出する方法。

オクタロニー法

Ouchterlony method

平板内二重免疫拡散法と呼ばれるゲル内拡散法の1つ。ゲル内で抗体と抗原を拡散させ、抗原抗体反応により形成された沈降線の数や反応性の有無から、抗原と抗体の反応を確認する方法。

凝固時間法（PT法、APTT法）

測定対象となる因子の欠乏血漿とトロンボプラスチン、アクチン、塩化カルシウムを加え、凝固するまでの時間を測定する方法。

合成基質法

検体に発色性合成基質と一定濃度のプラスミン又は、過剰のヘパリンを加えそれぞれの複合体を形成させる。その後残存プラスミン残存トロンピンが、基質に反応しp-ニトロアニリンを遊離してくる。それぞれの残存活性は被検血漿中の α_2 -プラスミンインヒビターや、アンチトロンピンⅢの活性を反映するので遊離したp-ニトロアニリンを波長405nmで比色定量することによりそれぞれの活性を求める。

酵素法

Enzymatic method

酵素反応を利用して目的とする物質を定量する方法で、終点測定法（end point assay）と初速度測定法（rate assay）とがある。終点測定法は、酵素反応が平衡状態に達した時点、すなわち反応がみかけ上完結した時点での最終生成物などを測定する方法で、初速度測定法は、反応速度、すなわち単位時間当たりの基質の減少または生成物の増加などを測定する方法である。

サザンブロットハイブリダイゼーション

Southern blot hybridization

制限酵素で消化したDNAを電気泳動により分離し、1本鎖DNAに変性後、毛細管現象を利用してナイロンメンブレンに転写して、標的プローブとハイブリダイゼーションを行い、目的の遺伝子を検出する方法。DNAの量的、質的変化の異常を解析する場合に用いられる。

試験紙法

試験紙を用いて、試料を浸し試薬と化学反応、pHの変化等による色調の変化を目視または特定波長の光を試験紙にあて、それからの反射光の強さを既知濃度物質の反射光と比較して濃度を半定量的に求める。

電気泳動法

荷電粒子の浮遊する電解質溶液に通電すると、粒子は各粒子の荷電と逆の極側に移動する現象を利用し、移動度から目的の物質を測定する方法。水溶液支持体にはセルロースアセテート膜、アガロースゲル、ポリアクリルアミドゲルなどが用いられる。

電極法

Electrode method

主に電解質などの測定に利用される検査方法。イオン選択電極を用いて電気化学的に測定するもので、選択されるイオンの量に対数比例する強度の電位を発生し、この電位を測定することによりイオン濃度を測定する。

ネフェロメトリー法

Nephelometry

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、光の散乱強度を測定する方法。

比色法

Colorimetry

溶液の色の濃さを標準液の色の濃さと比較して溶液濃度を求める方法で、最も簡単な方法は肉眼で比較する方法である。しかし、通常は、溶液の吸光度はその濃度と液層の幅に比例するというランベルトベアの法則（Lambert-Beer law）にもとづき、光電光度計を用いて試料溶液の吸光度を測定し、標準液の吸光度と比較することによって測定値を求める。溶液が無色の場合は、発光試薬を加えるか、目にみえない紫外線や赤外線吸収を調べる。

比濁法

Turbidimetry

沈殿（混濁）反応を呈する物質の測定法のひとつ。反応液の濁りの度合い（濁度）を測って溶液中に浮遊するサスペンションの濃度を求める分析法。

比濁時間分析法

Turbidimetric Time Assay

エンドトキシン測定法の一つ、エンドトキシンの存在下にカプトガニ血液抽出物中の凝固成分であるファクターC、ファクターB、凝固酵素（clotting enzyme）前駆体、およびコアグロゲン（coagulogen）が段階的に活性化され、最終的に生成したコアグリン（coagulin）がゲル化する性質を利用したものである。ここでゲル形成に要する時間は反応初発時のエンドトキシン量の2回対数に反比例することから、ゲル化時間を測定すれば、検体中のエンドトキシン量を求めることができる。

フローサイトメトリー

Flow cytometry

蛍光色素で標識したモノクローナル抗体で染色した細胞を高速で流しながらレーザー光を照射し、前方散乱光（細胞の大きさ）や90°散乱光（細胞の内部構造）と蛍光強度（細胞表面の対応抗原）から個々の細胞を解析する方法。2種類の蛍光色素を用いて二重染色を行い解析する場合はTwo-colorフローサイトメトリーと呼ばれる。

免疫電気泳動法

Immuno-electrophoresis

電気泳動を行う際に支持体として用いるゲルの中に抗血清（抗体）を入れることにより、検体中の蛋白質を解析する検査。抗ヒト全血清を用いた検査では数十種類のヒト血清蛋白の観察が可能であり、抗ヒト特異血清を用いた検査では単クローンの免疫グロブリンが認められるM-蛋白血症の診断に有用である。泳動を行う際に用いる支持体にはセルロース・アセテート膜やアガロース（寒天）ゲル、比較的分離能が良いとされるポリアクリルアミドゲル（PAGE）などがある。

免疫電気泳動法（免疫固定法）

Immunofixation/Electrophoresis

免疫固定電気泳動法はアガロース支持体を用いた蛋白の電気泳動と免疫沈降反応を組み合わせた検査方法である。支持体上に検体を塗布し、電気泳動により蛋白成分を分離させ、さらに特異抗血清（IgG,A,M,D,E, κ , λ ）による免疫沈降反応を応用することで反応生成物を支持体中に固定する。反応を起こした複合体は蛋白染色により明瞭なバンドとして観察することができる。

リアルタイムPCR

PCR法を基本原理とする核酸増幅法の一つであり、分解により蛍光を発生するオリゴヌクレオチドを利用することにより、PCRサイクルごとに蛍光シグナルを確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。

検体の安定性

検査項目	期間
------	----

生化学検査

総蛋白	冷蔵4週
アルブミン	冷蔵4週
蛋白分画	冷蔵1週
チモール混濁反応 (TTT)	冷蔵3～5日
硫酸亜鉛混濁反応 (ZTT)	冷蔵2～3日
総ビリルビン	冷蔵1週
直接ビリルビン	冷蔵1週
アルカリフォスファターゼ (ALP)	冷蔵1週
AST	冷蔵1週
ALT	冷蔵1週
乳酸脱水素酵素 (LD)	冷蔵2日
γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γ-GT)	冷蔵3週
コリンエステラーゼ	冷蔵2週
ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	冷蔵4週
クレアチンキナーゼ (CK)	冷蔵4週
総コレステロール	冷蔵1週
中性脂肪	冷蔵4週
HDLコレステロール	冷蔵2週
尿素窒素	冷蔵2週
クレアチニン	冷蔵4週
尿酸	冷蔵4週
アミラーゼ	冷蔵4週
ナトリウム	冷蔵4週
カリウム	冷蔵4週
クロール	冷蔵4週
カルシウム	冷蔵2週
無機リン	冷蔵2週
鉄	冷蔵2週
不飽和鉄結合能	冷蔵4週
血糖	冷蔵3週
アポ蛋白	冷蔵2～3日
リパーゼ	冷蔵4週
LDアイソザイム	室温3～4日
CK-MB	凍結4日
CKアイソザイム	凍結4日
浸透圧	冷蔵4週

腫瘍関連検査

α-フェト蛋白 (AFP)	冷蔵1ヶ月
CEA	冷蔵1ヶ月
CA19-9	冷蔵1ヶ月
CA125	冷蔵2週
PSA	冷蔵2週
NSE	冷蔵1週

検査項目	期間
------	----

内分泌検査

黄体形成ホルモン (LH)	冷蔵1ヶ月
卵胞刺激ホルモン (FSH)	冷蔵1ヶ月
プロラクチン	冷蔵1ヶ月
甲状腺刺激ホルモン (TSH)	冷蔵1ヶ月
トリヨードサイロニン (T ₃)	冷蔵1ヶ月
遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)	冷蔵1ヶ月
総サイロキシシン (T ₄)	冷蔵1ヶ月
遊離サイロキシシン (FT ₄)	冷蔵1ヶ月
サイログロブリン	室温5日
カルシトニン	凍結12週
血漿レニン活性	凍結4週
コルチゾール	冷蔵12週
カテコールアミン3分画	凍結10日
パニルマンデル酸 <尿>	冷蔵4週
ホモバニリン酸 <尿>	冷蔵4週
インスリン	冷蔵1週
C-ペプチド	凍結3週
HCG	凍結4週
HCGβサブユニット	冷蔵12週
テストステロン	冷蔵12週
ヒト心房性Na利尿ポリペプチド (hANP)	凍結12週

薬物検査

フェニトイン	冷蔵2週
フェノバルビタール	冷蔵2週
カルバマゼピン	冷蔵2週
バルプロ酸ナトリウム	冷蔵2週
エトスクシמיד	凍結2週
ジゴキシシン	冷蔵2週
テオフィリン	冷蔵2週

ウイルス学検査

IgM・HA抗体	冷蔵1週
HBs抗原	冷蔵4週
HBs抗体	冷蔵4週
HBe抗原	冷蔵4週
HBe抗体	冷蔵4週
HBc抗体 (CLIA)	冷蔵2週
IgM・HBc抗体	室温1週
HTLV-I抗体	冷蔵4週
ウイルス抗体価 (HI)	冷蔵4週
ウイルス抗体価 (CF)	冷蔵4週

検査項目	期間
------	----

免疫血清学検査

ASO	冷蔵2週
トキソプラズマ抗体	冷蔵2週
マイコプラズマ抗体	冷蔵2週
梅毒検査・RPR	冷蔵2週
梅毒検査・TPLA	冷蔵2週
FTA-ABS	冷蔵2週
CRP	冷蔵2週
プレアルブミン	冷蔵4週
α ₂ マクログロブリン	冷蔵4週
トランスフェリン	冷蔵1週
フェリチン	冷蔵2週
血清補体価	凍結4週
C3	冷蔵1週
C4	冷蔵1週
リウマトイド (RF) 因子	冷蔵4週
抗核抗体	凍結4週
抗DNA抗体 (RIA)	凍結4週
抗ミトコンドリア抗体	冷蔵4週
免疫電気泳動 (特異抗血清)	凍結3週
免疫グロブリン	冷蔵4週
非特異的IgE	冷蔵2週
特異的IgE	冷蔵2週

血液学検査

プロトロンビン時間	凍結2週
トロンボテスト	凍結2週
フィブリノーゲン	凍結4週
APTT	凍結2週
アンチトロンビン	凍結4週
プラスミノーゲン	凍結4週

健診判定基準

健診検査項目の健診判定値

番号	項目名	データ基準		単位
		保健指導判定値	受診勧奨判定値	
1	血 圧 (収縮期)	130	140	mmHg
2	血 圧 (拡張期)	85	90	mmHg
3	中性脂肪	150	300	mg/dL
4	HDL-コレステロール	39	34	mg/dL
5	LDL-コレステロール	120	140	mg/dL
6	空腹時血糖	100	126	mg/dL
7	HbA1c	5.2	6.1	%
8	AST(GOT)	31	51	U/L
9	ALT(GPT)	31	51	U/L
10	γ -GT(γ -GTP)	51	101	U/L
11	血色素量 [ヘモグロビン値]	13.0 (男性) 12.0 (女性)	12.0 (男性) 11.0 (女性)	g/dL

※1～2のデータ基準については日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン」に基づく。

※3～5のデータ基準については日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患診療ガイドライン」及び「老人保健法による健康診査マニュアル」に基づく。

※6～7については日本糖尿病学会「糖尿病治療ガイド」等の各判定基準に基づく。

※8～10のデータ基準については日本消化器病学会肝機能研究班意見書に基づく。

※11のデータ基準については、WHOの貧血の判定基準、人間ドック学会作成の「人間ドック成績判定及び事後指導に関するガイドライン」のデータ等に基づく。

※検査方法については、それぞれの検査項目毎に90%以上をカバーするトレーサビリティが取れた日常検査法を記載した。

※検査項目コードについては、上記以外の検査方法も含め、JLAC10コードを用いる。


メタボリックシンドロームの診断基準

内臓脂肪の蓄積		血糖値	
ウエスト周囲径 男性 \geq 85cm 女性 \geq 90cm (内臓脂肪面積 男女ともに \geq 100cm ² に相当)	+	空腹時高血糖	\geq 110mg/dL
		収縮期 (最大) 血圧 かつ/または 拡張期 (最小) 血圧	\geq 130mmHg \geq 85mmHg
		高トリグリセライド血症 かつ/または 低HDLコレステロール血症	\geq 150mg/dL < 40mg/dL

※上 3項目のうち、いずれか2項目以上があてはまる場合。

- 容量・採取量など
- 有効期間
- 内容
- 主な適用検査
- 保管方法

A 汎用試験管




- 容量 8.5mL
- 分離剤
- 室温
- 1年
- 生化学検査一般
血清学検査一般
ウイルス学検査一般

B 汎用試験管



- 容量 9mL
- 室温
- 2年
- 不規則性抗体
血液型不適合
間接クームス
クロスマッチ

C EDTA試験管




- 容量 5.5mL
- EDTA-2Na
- 室温
- 2年
- 血漿レニン活性
カテコールアミン3分画
ACTH
アンジオテンシン1・II
サイクリックAMP
BNP

D 血糖・HbA1c用試験管



- 採取量 2mL
- フッ化ナトリウム
ヘパリンナトリウム
- 室温
- 2年
- 血糖
HbA1c

E 血液学試験管



- 採取量 2mL
- EDTA-2K
- 室温
- 1年
- 末梢血液一般検査
血液像

F 血沈用試験管



- 採取量 1.6mL
- クエン酸ナトリウム
- 室温
- 1.5年
- 血沈

G 血液凝固試験管



- 採取量 1.8mL
- 3.2%クエン酸ナトリウム
- 室温
- 1.5年
- 凝固因子活性
Dダイマー
TAT
PT
APTT
AT

I ヘパリン試験管



- 容量 9mL
- ヘパリンナトリウム
- 室温
- 1.5年
- アミノ酸分画
微量金属
染色体

L 乳酸・ピルビン酸用容器




- 採取量 1mL
- 除蛋白液 1mL
0.8N過塩素酸
- 冷蔵
- 6ヶ月
- 乳酸
ピルビン酸

N エンドトキシン用試験管



- 採取量 3mL
- ヘパリンナトリウム
- 室温
- 2年
- エンドトキシン定量
(1→3)-β-D-ガラクト

O PA-IgG用試験管



- 容量 8mL
- 保存液
- 室温
- 1年
- PA-IgG

P ビタミンC用容器



- 採取量 血清0.5mL
- 0.8N過塩素酸
- 冷蔵
- 1年
- ビタミンC

Q アンモニア用容器



- 採取量 1mL
- 除蛋白液 (4mL)
- 冷蔵
- 血中アンモニア

T NK細胞活性用試験管



- 採取量 5mL
- 保存液 0.7mL
- 冷蔵
- 1年
(アルミシート封後1ヶ月)
- NK細胞活性

U 遺伝子関連用試験管



- 容量 5mL
- RPMI-1640
FBS
硫酸カナマイシン
ノボヘパリンNa
炭酸水素Na
HEPES
- 凍結
- 色が薄いピンクの状態で使用
- 免疫グロブリンH鎖鎖
T細胞レセプター
血液疾患染色体

V 金属分析用容器



- 採取量 3mL
- 凝固促進剤
- 室温
- 1年
- 亜鉛
アルミニウム
マンガン
ニッケル

X β-TG.PF-4用試験管



- 採取量 4.5mL
- テオフィリン
アデノシン
ジピリダモール
クエン酸Na
クエン酸
- 冷蔵・遮光
- 1.5年
- β-トロンボグロブリン
血小板第4因子

Z 遮光容器〈血清〉



- 容量 10mL
- 室温
- 3年
- β-カロチン
ビタミンA
ビタミンB₆
ビタミンC
ビタミンE

d HPV-DNA用容器



〔検診用〕〔妊婦用〕

- 保存液
- 室温
- 容器に表示
- HPV-DNA同定

e 滅菌スピッツ管



- 容量 10mL
- 室温
- 3年
- 尿検査全般
微生物学検査

f 遮光容器〈尿〉



- 容量 10mL
- 室温
- 3年
- ウロポルフィリン
コポポルフィリン
δ-ALA

g 褐色ポリ瓶



- 容量 50mL
- 室温
- 3年
- 17-KGS分画
17-KS分画

h 便中ヘモグロビン用容器



- 保存液
- 室温
- 便中ヘモグロビン

i 糞便一般用容器



- 室温

j 糞便用容器(キャリブレア入り)



- キャリブレア
- 室温
- 1年
- 微生物学検査

k 採痰管



- 室温
- 3年
- 精液検査
細胞診検査

l スポイト式採痰管



- 室温
- 微生物学検査

m カルチャースワブプラス



- 改良アミーズ培地
- 室温
- 20ヶ月
- 微生物学検査

n カルチャースワブプラス(チャコール入り)




- 改良アミーズ培地
- 室温
- 20ヶ月
- 微生物学検査

q 嫌気ポーター



- レザズリン入寒天
- 室温
- 2年
- 微生物学検査

S YM式喀痰管



- 保存液
- 遮光、室温
- 1年
- 蓄痰細胞診

t 組織片容器



- 室温
- 病理組織検査

u レセプター用容器




- 室温
- 3年
- 免疫関連遺伝子
癌関連遺伝子

v プレパレート



- 室温
- 血液像
細胞診
血液特殊染色
鼻汁好酸球

w 蟻虫卵検査専用テープ



- 室温
- 3年
- 蟻虫卵検査

y 好気用レズンボトル



- 採取量 3~10mL
- 遮光、室温
- 270日
- 好気性菌培養同定
真菌培養同定

z 嫌気用レズンボトル



- 採取量 3~10mL
- 遮光、室温
- 270日
- 嫌気性菌培養同定

01 癌胎児性フィブロネクチン用容器



- 抽出液
- 室温
- 1年
- 頸管腔分泌液中
癌胎児性フィブ
ロネクチン

02 顆粒球エラストラーゼ用容器



- 抽出液
- 冷蔵
- 1年
- 子宮頸管粘液中顆
粒球エラストラーゼ

03 HP培地



- 培地（半流動）
- 冷蔵
- 4ヶ月
- ヘリコバクター
・ピロリ

05 PCR専用試験管



- 採取量 5mL
- 分離剤
- 室温
- 1年
- HIV抗原・抗体

06 尿中ミオグロビン用容器



- 採取量 6mL
(2つのラインの間
に入れて下さい)
- 安定化剤
- 室温
- 1年
- ミオグロビン〈尿〉

08 尿中NMP22用容器



- 採取量 5mL
- BSA、防腐剤、
色素
- 遮光、室温
- 容器に表示
- 尿中NMP22

09 HSV抗原容器



- 室温
- 単純ヘルペスウイルス特異抗原

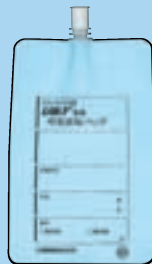
11 ウイルス分離同定用容器



- ウイルス保存液
- 冷蔵
- 6ヶ月
- 水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原・単純ヘルペスウイルス抗原

※提出の際ご連絡下さい

12 呼気採取パック



- 室温
- 尿素呼気試験 (コービット)

13 ピロニック用呼気採取チューブ



- 遮光、室温
- 1年
- 尿素呼気試験 (ピロニック)

14 トリコモナス培地



- 容量 5.5mL
- トリコモナス用培地
- 遮光、冷蔵
- 6ヶ月
- トリコモナス原虫

16 血液型専用試験管



- 採取量 2mL
- EDTA-2K
- 室温
- 1年
- 血液型

18 便中ヘリコバクター・ピロリ専用容器



- 安定化剤
- 室温
- 1年
- 便中ヘリコバクター・ピロリ抗原

20 尿・金属分析用容器



- 室温
- 3年
- 尿中微量金属

21 尿中FDP用容器



- 採取量 2mL
- 抗プラスミン剤
- 室温
- 2年
- FDP〈尿〉

24 尿中Ⅳ型コラーゲン用容器



- 採取量 5mL
- 1.5M Tris-HCl
- 室温
- 1年
- 尿中Ⅳ型コラーゲン

25 ノロウイルス抗原専用容器



- 採取量 1.0g
- 室温
- ノロウイルス抗原 (EIA)

31 HBV・HCV専用容器



- 採取量 5mL
- 凝固促進剤
- 室温
- 1年
- HBV-DNA定量／リアルタイムPCR
- HCV-RNA定量／リアルタイムPCR

32 ポリ容器



- 容量 300mL
- 室温
- PSP


33 ノロウイルスRNA専用容器



- 室温
- ノロウイルス-RNAマルチ

- 容量・採取量など
- 内容
- 保管方法
- 有効期間
- 主な適用検査

34 コルトフ培地



- 採取量 1mL
- 冷蔵
- 1年
- 微生物学検査 (レプトスピラ)

35 PPLO寒天培地




- 冷蔵
- 2ヶ月
- 微生物学検査 (マイコプラズマ)

36 ウレアプラズマ寒天培地



- 冷蔵
- 3ヶ月
- 微生物学検査 (ウレアプラズマ)

37 淋菌・クラミジア同時測定専用容器 (ぬぐい液)




- ラウリル硫酸リチウム、添加剤
- 室温
- 1年
- 淋菌及びクラミジア・トラコーマチスrRNA同時測定〈ぬぐい液〉

38 淋菌・クラミジア同時測定専用容器 (尿)



- ラウリル硫酸リチウム、添加剤
- 室温
- 1年
- 淋菌及びクラミジア・トラコーマチスrRNA同時測定〈尿〉

41 HIV-1専用容器




- 採取量 8mL
- EDTA-2K
- 室温
- 1年
- HIV-1RNA定量 / リアルタイムPCR

43 遮光容器 (血液・ヘパリン)




- 容量 5mL
- ヘパリンNa
- 室温
- 2年
- 赤血球プロトポフィリン / コプロポフィリン

44 アプロチニン容器




- 採取量 2mL
- EDTA-2Na
- アプロチニン
- 室温
- 1年
- hANP

45 クラミジア・淋菌 (リアルタイムPCR) 用容器 (子宮頸部擦過物用)



- 塩酸グアニグン
- 室温
- 容器に表示
- クラミジア・トラコーマチス / リアルタイムPCR 〈子宮頸部擦過物用〉
- 淋菌 / リアルタイムPCR 〈子宮頸部擦過物用〉

46 クラミジア・淋菌 (リアルタイムPCR) 用容器 (尿、うがい液用)



- 採取量 4.5~6.3mL
- 塩酸グアニグン
- 室温
- 容器に表示
- クラミジア・トラコーマチス / リアルタイムPCR 〈尿、うがい液用〉
- 淋菌 / リアルタイムPCR 〈尿、うがい液用〉

47 遮光容器 (血液・EDTA)



- 容量 4mL
- EDTA-2Na
- 室温
- 1年
- ビタミンB₁ / ビタミンB₂

48 結核菌IFN-γ (ELISPOT法) 用容器

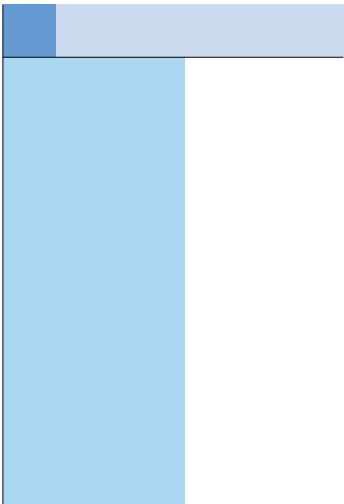
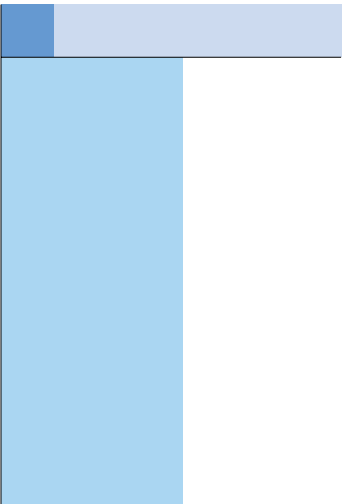


- 採取量 5mL
- ヘパリンNa
- 室温
- 2年
- 結核菌IFN-γ (ELISPOT法)

49 フロックスワブ

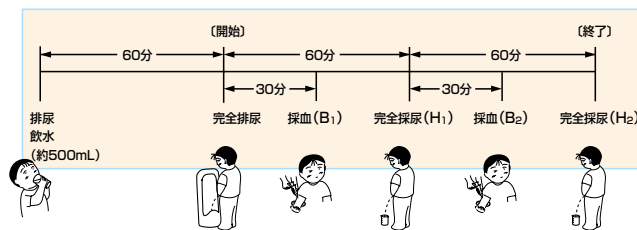


- 室温
- 3年
- 百日咳菌核酸検出

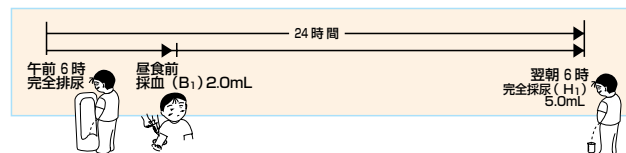

クレアチニン・尿素クリアランス

1. 排尿後、微温水約500mLを飲ませて下さい。
 2. 60分後に完全排尿させ、時刻を記録する。(試験開始)
 3. 試験開始30分後、採血する。(B₁)
 4. 試験開始60分後、完全採尿し、尿量測定後一部を出検。(H₁)
 5. 1回目採尿30分後、採血する。(B₂)
 6. 1回目採尿60分後、完全採尿し、尿量測定後一部を出検。(H₂)
- ※被検者は空腹状態とし、試験が終了するまで安静臥床を保って下さい。
不完全排尿は測定誤差の原因となりますので、必ず完全排尿させて下さい。
採尿時間、採尿時間、尿量、身長、体重の記録とともに提出して下さい。



クレアチニンクリアランス(24時間)

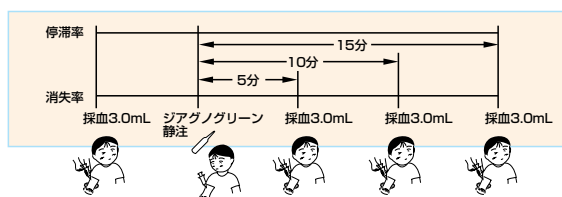
1. 一定時刻に完全排尿させてこれを捨て、以後の尿を翌日同時刻まで冷所に蓄尿する。
2. 混和後、蓄尿量を測定し、その一部(5.0mL)を提出する(H₁)。
3. 昼食前に2.0mL採血する。溶血をさけて血清分離する(B₁)。



ICG

(早朝空腹時に行い、検査終了まで安静仰臥させるのがよい。)

1. 負荷前に約3.0mL採血する(対照用/前)
2. ジアグノグリーン25mgを注射用蒸留水5.0mLに溶かし、体重10kgにつき1.0mLを静注する(調製直後に使用)。
3. 採血は注射と反対側から約3.0mL採血する。
4. 血漿(血清)分離の際、赤血球が混じると誤差を生じる。
5. 検体は遮光して下さい。

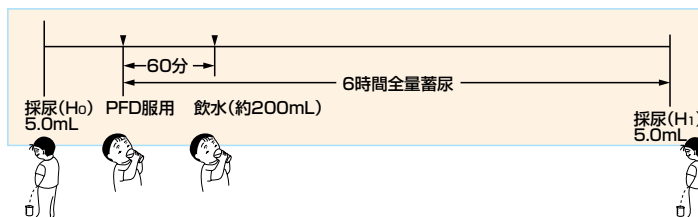


PFD

1. 対照として早朝空腹時に採尿して下さい。
 2. 次にPFD試験薬を200mLの水とともに服用して下さい。(以降蓄尿)
 3. 約1時間後、利尿のためにコップ1杯相当の水を飲ませて下さい。
 4. 試験薬内服以降6時間の採尿量を記録して下さい。
 5. 以上のようにして得た尿を4~6℃保存し、所定量を提出して下さい。
- その際、6時間尿量を必ず明記して下さい。
- ※消化酵素含有製剤、消炎酵素剤、利尿剤などの投与を受けている患者では、検査値に影響がありますので、検査前3日よりこれらの薬剤の投与を行わないで下さい。

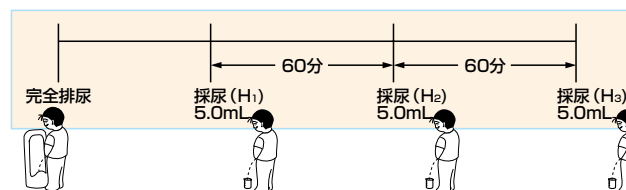
※次の患者には検査実施しないで下さい。

- ①腎機能が高度に低下している患者
- ②急性腎炎の急性期の患者
- ③急性肝炎の急性期の患者
- ④妊婦もしくは妊娠している可能性のある女性


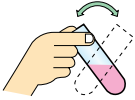
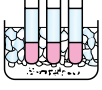

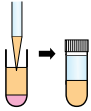


フィッシュバーグ濃縮試験

1. 試験前日午後6時までに夕食をとらせ、以後試験終了まで飲食を禁ずる。
 2. 就寝前排尿し夜間排尿分は捨てる。
 3. 翌朝起床とともに第1回採尿(午前6時)。
 4. 被検者は臥床のままとし、1時間後第2回採尿(午前7時)。
 5. その後起床・臥床は任意とし、更に1時間後第3回採尿(午前8時)。
- ※喫煙は利尿を抑制するので当日は禁煙して下さい。



β トロンボグロブリン (β-TG) 血小板第4因子 (PF-4)

操作を2分以内に行う	4.5mL 	20ゲージ (19~23ゲージ) の針を用いたポリエチレン注射器により、(組織から組織因子の混入を避けるため) 2シリンジ法で初めの血液2mLを捨て、次の血液4.5mLを採取して下さい。真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないで下さい。また、できれば止血帯も使用しないで下さい。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取して下さい。
		予めキャップを開け冷却しておいた専用容器に採取した血液4.5mLを移し、ゆっくり2~3回反転混合して下さい。指定のサンプリングチューブ以外は使用しないで下さい。サンプリングチューブは振とうさせないで下さい。
		採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに戻し、冷却して下さい。砕氷水の水面よりチューブ中の血液の液面が下になるようにして下さい。角氷は使用しないで下さい。
60分間		砕氷水に少なくとも15分間静置後、採取血液を2,500×gで20分間、2~8℃で遠心分離して下さい。(下表に2500×gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) 1時間以内に必ず冷却下で遠心分離して下さい。
30分間		上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.5mL検体容器へ採取して下さい。検体は必ずプラスチック製試験管に入れ凍結保存して下さい。(1ヶ月安定) 血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けて下さい。

単純ヘルペスウイルス特異抗原

【検体の方法】

水疱の場合：小水疱、膿疱、痂皮

- 1) 針を挿入し、上部の皮あるいは痂皮を剥がして下さい。(図1)
- 2) ピンセットで、剥がした皮を除去して下さい。(図2)
- 3) ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基部部前面を綿棒で強くぬぐって下さい。(図3)

水疱でない場合：基底部細胞の採取

ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基部前面を綿棒で強くぬぐって下さい。(図3)

《注意》

- ① 早朝の水疱病巣が検体として最適です。
- ② 水疱内容液は検体として不適です。
- ③ ウイルス感染細胞は病巣基部部にありますので、患者が痛いというくらい強くぬぐい、基底部の細胞を採取します。
- ④ 膿が出ている場合は、病巣基部部をかき乱さないように注意し、綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取して下さい。

図1

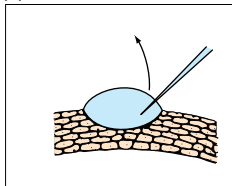


図2

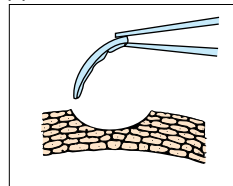
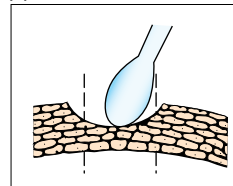
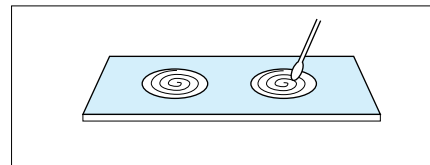


図3



【検体の塗抹方法】

- 1) スライドガラスの2つのウェルに内側から円を描くように、こすらず、軽く叩くように塗抹して下さい。その際、綿棒に付着している検体全てが塗抹されるよう、綿棒を少しずつ回転させ、ウェルからはみ出さないように塗抹して下さい。



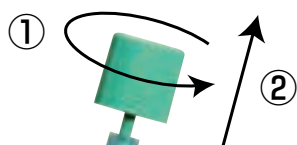
- 2) **風乾** 操作中検体が剥がれ落ちる原因となりますので、完全に乾燥させて下さい。
- 3) **アセトン固定** 検体の塗布してあるウェルにアセトンを滴下して固定し、蒸発させます。

便中ヘモグロビン

1 ラベルに氏名等を記入



※必ず、採便した日・時を記入して下さい。



①キャップを回して、
②引きぬく

2 便をとりすぎると、正しい検査ができません



表面をまんべんなくこすり取る。

とる量

みぞ



先端のみぞに埋まるくらい

3



さし込んで、キャップを強く押す

パチンと音がするまで



※1回さし込んだら、ぬかないこと

1日目



青字ラベル

2日目



赤字ラベル

提出用袋に2本入れ

すぐに提出

採便後は冷暗所で保存

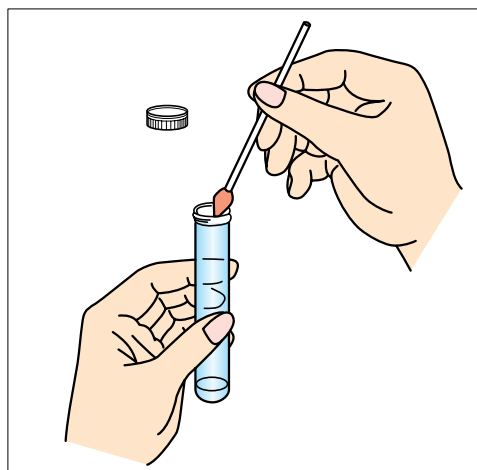
《注意》

- アルミシールは、やぶらないで下さい。
- 1本の容器に、2日分とらないで下さい。
- 容器の液を捨てたり、水を足したりしないで下さい。
- なるべく新しい便を提出して下さい。
- 生理中は、採便をしないで下さい。
- 人体に直接使用しないで下さい。
- 大便をとる目的以外には使用しないで下さい。
- 保管は、子どもの手の届かない所にして下さい。



(糞便) アメーバ検査

- 1) 専用容器のキャップを取りはずし、市販の10%ホルマリンを10mL入れて下さい。
 - 2) 付属のスプーンを使って、新鮮な便は山盛り1杯、保存便は2杯を容器に入れて下さい。
 - 3) スプーンでよくかきまぜ、内容物がこぼれないようにしっかりキャップをして下さい。
 - 4) 軟便、水様便で原虫を疑う場合、日を変えての連続検査をお勧めします。
- ※ 血便材料の際は、容器番号「i:糞便一般検査用容器」でご提出下さい。(ホルマリンの影響により検体が固まり検査不能となります)

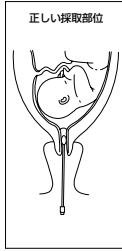


子宮頸管粘液中顆粒球エラストラーゼ

子宮腔部の粘液を綿棒で丁寧に拭い取ります。



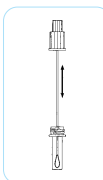
綿棒を頸管内に挿入し、ゆっくりと2回転させて頸管粘液を採取します。



- ①子宮頸管部より採取します。
 - ②検体採取は腔部洗浄前に行います。
 - ③綿棒が外子宮周辺の分泌物や粘液に接触しないようにして下さい。
綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入して下さい。
 - ④綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液（滲出液）をしみ込ませるようにして下さい。
少量の固形物が付着した場合は取り除き、大量の固形物が付着した場合は、検体採取をやり直して下さい。
- 【採取前】

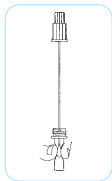
⇒

【採取後】
- ⑤採取した検体は15分以内に抽出操作を行います。



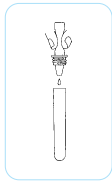
抽出容器の液量確認後、頸管粘液（滲出液）を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。

綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。



綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。

フィルターをセットします。



検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴（約300μL）を分取します。必要量を得られない場合は検体採取からやり直して下さい。

検体保存容器にキャップをし、容器ラベルを貼って保存します。冷蔵（8℃）で3日以内、冷凍（-15℃以下）で3ヵ月以内に測定して下さい。

クラミジア・トラコーマチス同定

【検体の採取方法】

- 1) 尿道からの採取 図1
無傷の上皮細胞が多数得られるように採取して下さい。膿および滲出液は検体として不適当です。
①検体採取の1時間前より排尿しないで下さい。
②採取用綿棒を用意し、回転させながら尿道に2～4cm挿入して下さい。
③強く回転させて上皮細胞を剥がし、1～2秒間そのままにした後、綿棒を引き抜いて下さい。
- 2) 子宮頸管からの採取 図2
無傷の立方または円柱上皮細胞が多数得られるように採取して下さい。扁平上皮細胞は検体として不適当です。
①腔鏡を用いた露出した子宮頸部（外子宮口を中心にして）をガーゼまたは綿棒で軽く清拭し、過剰な粘液を除去して下さい。
②外子宮口より子宮頸管内に綿棒を挿入して下さい（扁平・円柱境界部より奥に入れて下さい）。
③頸管の全表面に触れるように5～10秒間強く回転させながら細胞を剥がし、腔壁に接触しないように綿棒を引き抜いて下さい。

図1 尿道からの検体採取

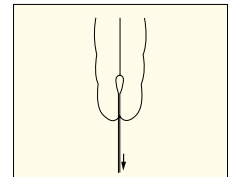


図2 子宮頸管からの検体採取

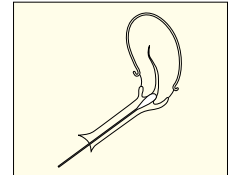
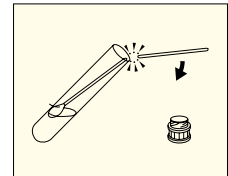


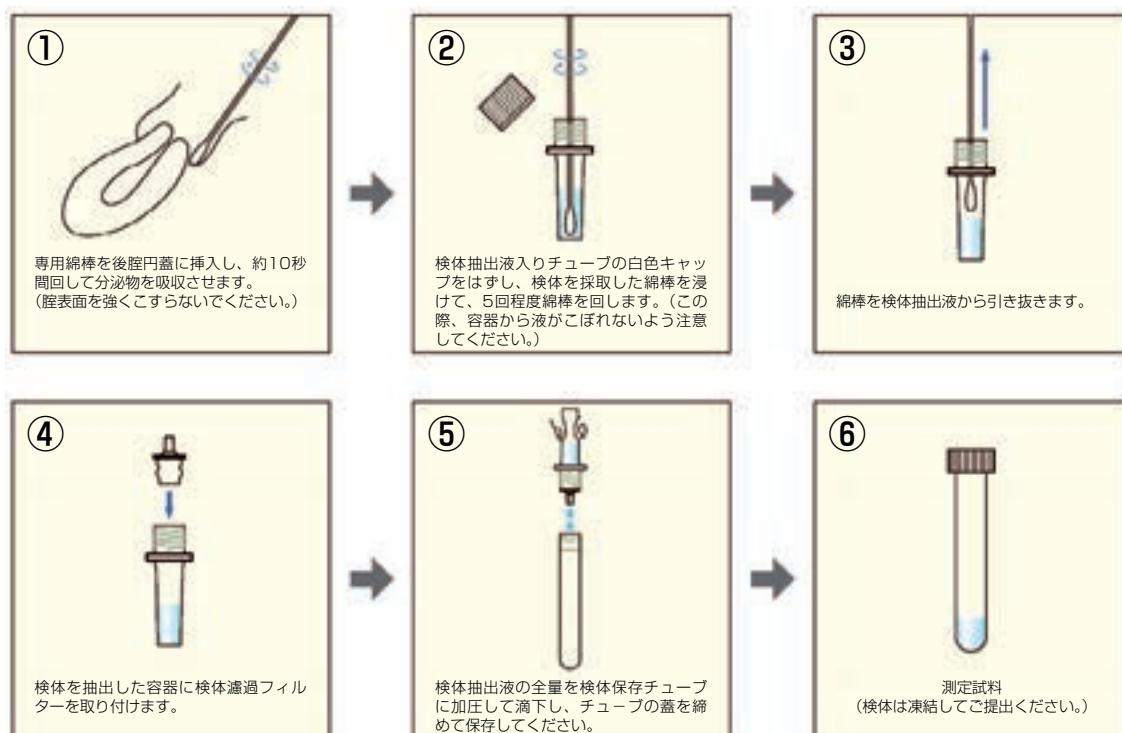
図3 めぐい液（IDEIA用）の処置



【IDEIA用検体の処置および保存方法】

- 3) 初尿の採取
①検体採取の1時間前より排尿しないで下さい。
②起床時または来院時の初尿約10mLを採尿カップに採取して下さい。
- 1) めぐい液（尿道または子宮頸管からの擦過細胞）の処置方法 図3
①検体採取後直ちに綿棒を容器底部まで入れ、検体希釈液に浸っていることを確認して下さい。
②綿棒を容器上部で折り、そのままキャップをして下さい。
③容器2～8℃で冷蔵保存して下さい。
- 2) (男子) 初尿の処置方法
①尿をよく振った後、滅菌スピッツに入れ、密栓して下さい。
②容器を2～8℃で冷蔵保存して下さい。

癌胎児性フィブロネクチン



クラミジア、淋菌/リアルタイムPCR



うがい液の採取/処理方法

- ①生理食塩水（日局方など）をコップに15～20mL入れて下さい。
- ②生理食塩水15～20mLを口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよく“ガラガラ”とうがいを行います。
※口に含んで吐き出した液とうがい用容器に残した液を合せてうがい液とします。
- ③うがい液全量をうがい用コップに回収し、スポイトで専用容器に必要量添加します。
※専用容器に記載されている2つのラインの間とうがい液を入れます。
- ④フタをしっかりと閉めて、5回転倒混和させて冷蔵で保管して下さい。
※検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けて下さい。
※コップ、生理食塩水および滅菌済みのスポイトは予め医療機関にてご用意下さい。

(初) 尿の採取方法

- ①検体採取の1時間前より排尿しないで下さい。
- ②起床時または来院時の初尿を約10mLを採尿カップに採取して下さい。
- ③滅菌済みスポイトを用いて尿を採取します。
(滅菌済みスポイトは予め医療機関にてご用意ください。)
- ④容器に記載されている2つのラインの間に収まるように尿を入れます。
- ⑤フタをしっかりと閉めて、5回転倒混和させて冷蔵で保管して下さい。

検査項目名	委託先終	参考文献名	発行年	頁	著者
生 化 学 検 査					
アセトン (定量)	*1	労働科学 59	1983	555	深掘 すみ江, 中明 賢二
アデノシンデアミナーゼ (ADA)	*3	臨床検査機器・試薬 9 (4)	1986	715-720	佐野 史良, 他
アポ蛋白	*1	動脈硬化 16	1988	832	野間 昭夫, 他
アミノ酸 11 分画	*1	第24回液体クロマトグラフ研究会講演要旨集 22	1981	32	小田 治, 他
アミノ酸分画	*1	臨床病理 28 (補)	1980	138	植木 眞琴, 他
		臨床化学シンポジウム 20	1980	142	大沢 恵津子, 他
アミラーゼ	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	416-419	元雄 良治
アミラーゼアインザイム	*2	JJCLA VOL.37 No.3	2012	293-297	星野 忠
		生物物理化学 23	1979	266	松丸 佳一, 他
アルドラーゼ (ALD)	*1	Med.Technol	1984	157	宮原 洋一
アルミニウム (Al)	*1	Clin.Chim.Acta 147	1985	247	Mazzeo-Farina,A.andCerulli,N.
亜鉛 (Zn)	*1	検査と技術 9	1981	478	松本 武志, 金井 晃
イオン化カルシウム	*1	検査と技術 19 (2)	1991	119-124	桑 克彦
イヌリン	*1	日本臨床 40 (秋期臨時増刊)	1982	221-223	飯野 靖彦, 他
ウロポルフィリン	*1	Ann.Clin.Lab.Sci.26	1996	313	Nuttall, K.L.et al.
		日本臨床 53	1995	1337	近藤 雅雄
エタノール	*1	薬毒物分析実践ハンドブック	2002	118	鈴木加奈子
カドミウム (Cd)	*1	Clin.Chem.25	1979	1948	Lagesson, V.and Andrasco,L.
カルニチン (ビタミン B t)	*1	Clinical Chemistry 40 (5)	1994	817-821	Takahashi M., et al.
		Biochem.Int.10	1985	205	Ohishi, N.et al.
クエン酸 (血清・尿)	*1	Clin.Chim.Acta 30	1984	1231	Wariy, V.S. et al.
クロム (Cr)	*1	医学と生物学 101	1980	277	田中 俊行, 他
グアナーゼ	*1	臨床化学 12	1983	304	杉山 正康, 他
グリコアルブミン	*0	医学と薬学 51	2004	737-745	永峰 康孝, 他
グリコール酸 (CG)	*1	小児科臨床 32	1979	1635	石井 勝己, 他
クレアチニンクリアランス	*0	臨床検査法提要 34版	2015	1503	金井 正光
血中脂肪酸分画 (4 分画)	*2	分析化学 31	1982	87-91	小沢 昭夫, 他
ケトン体分画 (静脈血)	*1	Clin.Chim.Acta 134	1983	327	Harano, Y.et al.
ケトン体分画 (動脈血)	*1	Am. J. Surg.146	1983	299	Ozawa, K. et al.
結石鑑別	*5	Arch Jpm Chir, 50	1981	476	向原 純雄
コプロポルフィリン定性	*1	臨床皮膚科 23	1969	201	佐々木 英夫, 他
コプロポルフィリン定量 (血液)	*1	臨床検査 31 Clin.Chem.26	1980	1832	Salmi, M.
コプロポルフィリン定量 (尿)	*1	Ann.Clin.Lab.Sci. 26	1996	313	Nuttall, K.L.et al
		日本臨床53	1995	1377	近藤 雅雄
浸透圧	*3	医療と検査機器・試薬 30 (4)	2007	383-391	増田 健太, 他
水銀 (Hg)	*1	食品衛生学雑誌 25	1984	30	宮永 昭一, 他
麟ホスホリパーゼ A ₂ (麟 P L A ₂)	*2	ホルモンと臨床 38 (7)	1990	729-734	竹田 晶弘, 他
赤血球プロトポルフィリン	*1	鉛健康診断のすすめ方: 労働省労働基準局労働衛生課 (監修)	1990	81	全国労働衛生団体連合会事務局
セレン (Se)	*1	J.Anal.At.Spectrom. 3	1988	511	Rnowles, M. B. and Brodie.
全脂質構成脂肪酸分画	*1	油化学 27	1978	233	芝原 章, 他
		臨床科学 1	1972	398	内山 充
		ぶんせき 11	1978	774	金井 晃
総三塩化物 (TTC)	*1	有機溶剤健康診断のすすめ方	1990	135	労働省労働基準局労働衛生課 (監修)
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比	*1	臨床病理 40	1992	673	杉山 正康, 他
蛋白分画 (P R-F)	*0	臨床病理 30 (増刊)	1977	18-37	橋本 寿美子, 他
チミジンキナーゼ	*1	核医学 25	1988	561	鳥住 和民, 他
銅 (Cu) (尿)	*1	臨床病理 (特集第17号)	1970	84	奥田 稔, 林 康之
トリクロロ酢酸 (TCA)	*1	有機溶剤健康診断のすすめ方	1990	135	労働省労働基準局労働衛生課 (監修)
トリブシン	*2	医学と薬学 53 (5)	2005	635-641	河野 幹彦, 他
鉛 (Pb)	*1	鉛健康診断のすすめ方	1990	56	労働省労働基準局労働衛生課 (監修)
ニコチン	*1	臨床化学 8	1979	338	村中 日出夫, 玉田 妙子
ニッケル (Ni)	*1	Clin.Chem.23	1977	948	Mikac-Devic, D.et al.
乳酸	*1	生物試料分析 8	1985	16	浅沼 和子
馬尿酸	*1	有機溶剤健康診断のすすめ方	1990	135	労働省労働基準局労働衛生課 (監修)
ヒアルロン酸	*1	医学と薬学 44	2000	1141	鳥村 朗, 他
ビタミン A	*1	Clinical Chemistry Principles and Technics 2nd	1974		Henry, R. et al.
ビタミン B ₁ (サイアミン)	*1	ビタミン 55	1981	185	木村 美恵子, 他
ビタミン B ₁₂ (シアノコバラミン)	*1	医学と薬学 41	1999	145	河口 行雄, 他
ビタミン B ₂ (リボフラビン)	*1	臨床病理 29	1981	564	安田 和人, 他
ビタミン B ₆	*1	薬学雑誌 98	1978	1319	吉田 継親, 他
ビタミン C (アスコルビン酸)	*1	Analytical Biochemistry 229	1995	329	J Lykkesteldt, et al
ビタミン E (トコフェロール)	*1	栄養と食糧 28	1975	277	阿部 皓一, 他
ビルビリン酸	*1	生物試料分析 8	1985	16	浅沼 和子
フィッシュバーク濃縮試験	*0	臨床検査法提要 34版	2015	1513-1514	金井 正光
骨型アルカリフォスファターゼ	*1	医学と薬学 55	2006	279	倉澤 健太郎, 他
ホモシステイン	*5	Eur.J.Clin.Chem,Biochem, 29	1991	549	Birte Vester and K.Rasmussen
		J.Chromatography, 422	1987	43	A.Araki and Y.Sako
ポルフォビリノーゲン	*1	日本臨床 53 (増刊)	1995	874	垣下 榮三
マンガン (Mn)	*1	日本災害医学会会誌 37	1989	195	加地 浩, 他
マンデル酸	*1	有機溶剤健康診断のすすめ方	1990	135	労働省労働基準局労働衛生課 (監修)
メタノール	*1	労働科学 59	1983	555	深掘 すみ江, 中明 賢二
メチル馬尿酸	*1	有機溶剤健康診断のすすめ方	1990		労働省労働基準局労働衛生課 (監修)
葉酸	*1	機器・試薬 25	2002	441	安田 和人, 他
リゾチーム (血清・尿)	*1	臨床病理 21	1973	37	仁科 甫啓, 他
リパーゼ	*3	医学と薬学 41 (3)	1999	489-496	松井 静代, 他
リポ蛋白 (a) (Lp (a))	*3	THERAPEUTIC RESEARCH 13 (2)	1992	249-256	梶山 悟朗
リポ蛋白分画	*1	臨床検査 19	1975	988	大島 寿美子, 他

検査項目名	委託先	参考文献名	発行年	頁	著者
リボ蛋白分画 (PAG)	*1	Clin.Chem.31	1985	1893	Roche, D.et al.
レチノール結合蛋白 (RBP)	*1	臨床病理 57 (3)	2009	195	三浦 信樹, 他
レムナント様リポ蛋白-コレステロール (RLP-コレステロール)	*5	医学と薬学 56 (2)	2006	269-276	滝野 豊, 他
A/G (アルブミン/グロブリン比)	*0	臨床検査法提要 (31版) 金原出版	1998	480	金井 正光
アルカリフォスファターゼ (ALP)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	389-392	足立 幸彦, 他
ALPアイソザイム	*2	目で見える免疫電気泳動2 (医歯薬出版)	1989	55-71	芝 紀子
		Clin Chem 18	1972	417-421	Fritsche HAJr, et al.
アルブミン (ALB) (血清)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	453-454	金井 正光
アルブミン (ALB) (尿)	*0	科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン	2004	67-80	日本糖尿病学会
BUN (尿素窒素)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	470-473	金井 正光
CK (クレアチンキナーゼ)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	367-372	庄司 進一
CK-MB	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	367-372	庄司 進一
CKアイソザイム	*2	臨床検査 32 (11)	1988	1309-1315	高木 康, 他
クレアチニン (Cre)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	642-645	木村 秀樹
クレアチン (Creat)	*5	Med.Technol., 12	1984	270-276	今野 稔
カルシウム (Ca)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	535-540	金井 正光
コリンエステラーゼ (ChE)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	567-570	金井 正光
コロール (CI)	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	267-271	上野 芳人, 他
銅 (Cu)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	549-550	金井 正光
直接ビリルビン (DBIL)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	530-535	金井 正光
遊離コレステロール (FChol)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	511-513	金井 正光
		臨床検査 33	1989	885	下條 信雄
血糖 (GLU)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	695-699	五十嵐 雅彦
鉄 (Fe)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	546-549	金井 正光
AST (GOT)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	378-381	安部井 誠人
ALT (GPT)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	378-381	安部井 誠人
HDL-Chol	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	16-19	金原 秀雄, 他
ヘモグロビンA1c (HbA1c)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	700-703	佐藤 麻子
ICG試験	*0	臨床検査法提要 34版	2015	1440-1442	金井 正光
カリウム (K)	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	260-266	上野 芳人, 他
KL-6	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	358-360	石川 暢久, 他
LAP (ロイシンアミノペプチターゼ)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	585-587	金井 正光
LD	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	382-385	前川 真人
LDアイソザイム	*2	Medical Technology 25 (1)	1997	45-51	森山 隆則, 他
マグネシウム (Mg)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	541-544	金井 正光
m-AST (m-GOT, ミトコンドリア-GOT)	*3	生物試料分析13 (3)	1990	123-128	渡津 吉史, 他
N-メチルホルムアミド	*1	有機溶剤健康診断のすすめ方	1990	135	労働省労働基準局労働衛生課 (監修)
尿NAG (N-アセチルβ-D-グルコサミニダーゼ)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	155-157	杉田 収
アンモニア (NH ₃)	*0	最新医学 21	1966	622-627	奥田 拓道・藤井 節郎
ナトリウム (Na)	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	260-266	上野 芳人, 他
P (無機リン)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	544-546	金井 正光
P型アミラーゼ (P-Amy)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	416-419	元雄 良治
PFDTテスト	*1	日消病会誌 74	1977	1323	衣笠 勝彦
リン脂質 (PL)	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	58-60	久保 信彦
総ビリルビン (TBIL)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	530-535	金井 正光
総コレステロール (TChol)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	511-513	金井 正光
		動脈硬化性疾患治療ガイドライン	2002		
中性脂肪 (TG)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	513-514	金井 正光
TIBC (総鉄結合能)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	546-549	金井 正光
総蛋白 (TP)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	452-453	金井 正光
TTT (チモール混濁反応)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	234-236	多田 慎一郎, 他
尿酸 (UA)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	654-657	山崎 知行, 他
UIBC (不飽和鉄結合能)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	546-549	金井 正光
ZTT (硫酸亜鉛混濁反応)	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	234-236	多田 慎一郎, 他
β-リポ蛋白 (β-Lip)	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	54-57	宍野 安治
β-カロチン	*1	臨床検査 31	1987	268	加美山 茂利, 他
γ-GT	*0	日本臨床67 増刊号8	2009	386-388	土島 睦
δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	*1	医学のあゆみ 139	1986	845	岡山 明, 他
1,5-AG	*1	機器・試薬 24	2001	39	森脇 貴美, 他
1α, 25-(OH) ₂ ビタミンD	*1	臨床透析 14	1998	371	鈴木 正司, 他
バラコート (グラムキソン)	*1	薬毒物検査マニュアル	1999	64-65	日本法医学会法医学中毒学ワーキンググループ編
内 分 泌 学 検 査					
アルドステロン	*1	医学と薬学 21	1989	293	塩之入 洋, 他
アンジオテンシン I、II	*1	医学と薬学 36 (2)	1996	297-303	岩鼻 美佐, 他
アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)	*1	Clin.Chem.27	1981	1922	Kasahara, Y.et al.
アンドロステロン	*1	Steroids 22	1973	63	Youssefnejadian,E.
アンドロステンジオン	*1	Clin.Chem.42 (Suppl.6 A6st)	1996	384	Ung,K.et al.
インスリン抗体	*1	医学と薬学 60	2008	289	村山 寛, 他
エストラジオール (E ₂)	*0	ホルモンと臨床 53 (5)	2005	123-129	板倉 啓一, 他
エストロゲン・非妊婦	*1	日内分泌会誌 59	1983	10	高見 知子, 他
エリスロポエチン (EPO)	*3	医学と薬学 67 (2)	2012	297-306	増田詩織, 他
オステオカルシン (BGP)	*1	ホルモンと臨床 38	1990	1291	川口 浩, 他
黄体形成ホルモン (LH) (血清)	*0	ホルモンと臨床 53 (5)	2005	123-129	板倉 啓一, 他
カテコールアミン 3 分画	*1	機器・試薬 11	1988	635	辻 潮, 他
カテコールアミン 3 分画 (尿)	*1	第47, 48回島津デュポン高感度液体クロマトグラフィー講座, 高感度液体クロマトグラフィーセミナー要旨集	1977	6-8	守 和子
		Clin.Chem.27	1981	2060	Anderson, G.M.et al.
カルシトニン (CT)	*1	ホルモンと臨床 37	1989	151	高見 博, 他
ガストリン	*1	ホルモンと臨床 31	1983	1123	竹田 昌弘, 他

検査項目名	委託先終	参考文献名	発行年	頁	著者
肝細胞増殖因子 (HGF)	*1	肝胆膵 25	1992	541	武藤 泰敏, 他
血漿レニン活性 (PRA)	*1	医学と薬学 5	1981	589	萩原 俊男, 他
抗 I A-2 抗体	*1	ブラクティス 16	1999	567	松浦 信夫, 他
コルチコステロン	*1	Steroids 23	1974	363	Nabors,C.J.et al.
コルチゾール	*1	医学と薬学 55	2006	145	花田 浩之, 他
コルチゾン	*1	ホルモンと臨床 45	1997	707	遠藤 伸, 他
抗 GAD 抗体	*1	ホルモンと臨床 44	1996	895	高瀬 清美, 他
高感度 PTH (HS-PTH)	*1	透析会誌 26	1993	1585	福澤 良彦, 他
抗甲状腺ペルオキサンダーゼ抗体 (TPO-Ab)	*2	医学と薬学 55 (5)	2006	775-782	森田 新二, 他
甲状腺刺激抗体 (TSAb)	*1	医学と薬学 42	1999	851	上条 桂一, 他
甲状腺刺激ホルモン (TSH)	*0	ホルモンと臨床37	1989	63	高坂 唯子, 他
抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	*2	医学と薬学 55 (5)	2006	775-782	森田 新二, 他
抗ミューラー管ホルモン (AMH)	*2	Journal of immunological methods 362(1-2)	2010	51-59	kumar A et al
サイクリックAMP (c-AMP)	*1	Biochem.Med.18	1977	257	Honma, M.et al.
サイロキシン結合グロブリン (TBG)	*1	ホルモンと臨床 27	1979	1287	伴 良男, 他
サイログロブリン (Tg)	*2	医学と薬学 71 (9)	2014	1655-1666	北川 亘, 他
セロトニン	*1	J.Chromatogr.341	1985	445	Picard, M.et al.
成長ホルモン (GH)〈血清〉	*1	医学と薬学 68	2012	899	小山 沙世, 他
ソマトメジン-C	*1	Endocrine J. 59	2012	771	Isojima T, et al.
デオキシビリジノリン	*1	Osteoporosis Japan 12	2004	191	日本骨粗鬆症学会
		ホルモンと臨床 42	1994	659	畠 啓視, 他
テストステロン	*1	医学と薬学 70 (2)	2013	331	松崎 利也, 他
デハイドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S)	*1	日本臨床検査自動化学会誌 37 (Suppl1)	2012	36	市原 清志
ドーパミン・総	*1	J.Chromatogr.162	1979	7	Hansson, C.et al.
脳性Na利尿ポリペプチド (BNP)	*0	医学と薬学 53 (3)	2005	355-360	下迫 賢一, 他
N T-p r oBNP	*0	Clin. chem. Lab. Med. 42 (1)	2004	37-44	Prontera C.et al.
パニリルマンデル酸 (VMA)《定量》	*1	Clin.Chem.25	1979	1234	Flood, J.G.et al.
ヒト心房性Na利尿ポリペプチド (hANP)	*1	検査機器・試薬 36 (5)	2013	699	積田 智佳, 他
ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG)	*0	産婦の世界 38	1982	999	飯野 孝一, 他
ヒト胎盤性ラクトジェン (HPL)	*1	日本臨床 53 (増刊)	1995	600	望月 眞人, 他
プレグナンジオール (P ₂)	*1	Endocrine J. 50	2003	571	Suzuki, T.et al.
プレグナントリオール (P ₃)	*1	Endocrine J. 50	2003	571	Suzuki, T.et al.
プロゲステロン	*0	産科と婦人科 73 (1)	2006	133	岩佐 武, 他
プロラクチン (PRL)	*0	医学と薬学 56 (4)	2006	577-586	高加 国夫, 他
副甲状腺ホルモン intact (PTH-intact)	*0	ホルモンと臨床 46 (5)	2001	753-758	山岡 美穂, 他
副甲状腺ホルモン関連蛋白 intact (PTHrP-intact)	*1	ホルモンと臨床 40	1992	1309	福本 誠二, 他
副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	*3	医学と薬学 57 (2)	2007	239-244	阿部 正樹, 他
ホモバニリン酸 (HVA)〈尿〉	*1	Clin.Chem.27	1981	228	Rosano, T.G.et al.
メタネフリン2分画	*1	第47, 48回島津チェンボ高感度液体クロマトグラフィー講座, 高感度液体クロマトグラフィーセミナー要旨集	1977	15	守 和子
遊離カテコールアミン3分画	*1	Clin.Chem.27	1981	2060	Anderson, T., G.et al.
遊離コルチゾール	*1	機器・試薬 22	1999	509	福島 靖恵, 他
遊離テストステロン	*1	日本臨床 68 増刊号4	2010	471-474	鈴木 啓悦
卵巣刺激ホルモン (FSH)〈血清〉	*0	ホルモンと臨床 53 (5)	2005	123-129	板倉 啓一, 他
レニン濃度 (PRC)	*1	医学と薬学 32	1994	529	土屋 ますみ, 他
C-ペプチド (CPR)	*0	医療と検査機器・試薬29 (5)	2006	485-491	唐澤 美佳, 他
FT ₃ (遊離トリヨードサイロニン)	*0	医学と薬学 46 (4)	2001	759-771	楚南 盛正, 他
FT ₄ (遊離サイロキシン)	*0	医学と薬学 46 (4)	2001	759-771	楚南 盛正, 他
ホモバニリン酸 (HVA)〈血漿〉	*1	Clin.Chem.34 (12)	1988	2504	Alfredo Gironi, et al.
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド	*1	Osteoporosis Japan 12	2004	191	日本骨粗鬆症学会
		ホルモンと臨床 43	1995	655	高見 博, 他
インスリン (IRI)	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	511-513	田村 明, 岡 芳知
T ₃ (トリヨードサイロニン)	*0	医学と薬学 46 (4)	2001	759-771	楚南 盛正, 他
T ₄ (総サイロキシン)	*0	医学と薬学 46 (4)	2001	759-771	楚南 盛正, 他
甲状腺刺激ホルモン (TSH)	*0	医学と薬学 46 (4)	2001	759-771	楚南 盛正, 他
TSHレセプター抗体 (TRAb)	*2	医学と薬学 39 (5)	1998	1031-1039	西 功, 他
TSHレセプター抗体 (第3世代)	*0	医学と薬学 59 (6)	2008	1111-1120	吉村 弘, 他
パニルマンデル酸 (VMA)〈血漿〉	*1	Clin.Chem.34 (12)	1988	2504-2506	Alfredo Gironi, et al.
whole PTH	*1	医学と薬学 48	2002	243	山下 弘幸, 他
		腎と骨代謝	2004	79	徳本 明秀, 他
11-デオキシコルチコステロン (DOC)	*1	ホルモンと臨床 24	1976	1151	栃木 武一, 他
17-ケートジェニックステロイド・総 (17-KGS)	*1	ホルモンと臨床 22	1974	105	神戸川 明
17-ケートジェニックステロイド分画 (17-KGS分画)	*1	ホルモンと臨床 22	1974	105	神戸川 明
17-ケートステロイド分画 (17-KS分画)	*1	Endocrine J. 50	2003	571	Suzuki,T.et al.
5-ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)	*1	Clin.Chem.28	1982	207	Rosano, T.G.et al.
5α-ジハイドロテストステロン (DHT)	*1	日内分泌会誌 49	1973	1391	穂坂 政彦, 他
腫瘍関連検査					
エラスターゼ-1	*5	臨床病理 50	2002	376-380	大出 勝也, 他
塩基性フェトプロテイン (BFP)	*5	臨床病理 36	1988	1039-1044	設楽 光弘, 他
高感度PSA	*5	Prog. Med, 21	2001	2279-2283	武田 悟, 他
サイトケラチン19フラグメント (シフラ)	*5	臨床検査機器・試薬, 21	1998	289-293	平川 寛一郎, 他
シアルルLe ^x -i抗原 (SLX)	*5	癌と化学療法 14	1987	1315-1321	井村 裕夫, 他
シアルルTn抗原 (STN)	*5	癌と化学療法 16	1989	3213-3219	井村 裕夫, 他
神経特異エノラーゼ (NSE)	*5	医学と薬学 60	2008	657-663	花田 浩之, 他
組織ポリペプチド抗原 (TPA)	*5	医学と薬学 34	1995	749-757	吉川 文雄, 他
尿中NMP22	*5	医学と薬学 43 (2)	2000	397-400	坪井 五三美, 他
扁平上皮癌関連抗原 (SCC)	*0	医学と薬学 52	2004	413-421	高木 康, 他
AFP	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	665-667	青柳 豊, 他
BCA225	*5	基礎と臨床 23	1989	6087-6095	石 和久, 他

検査項目名	最新 委託 先終	参考文献名	発行 年	頁	著者
CA125	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	681-684	平地 修、他
CA15-3	*5	医学と薬学 61	2009	105-113	三浦 雅一、他
CA19-9	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	685-687	稲治 英生
CA54-61 (CA546)	*5	癌と化学療法 19	1992	827-835	野澤 志朗、他
CA602	*5	癌と化学療法 19	1992	2085-2093	野澤 志朗、他
CA72-4	*1	医学と薬学 49	2003	127-135	青山 昭、他
CEA	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	739-742	黒木 政英秀
DUPAN-2	*5	臨床病理 34	1986	705-710	櫻林 郁之介、他
I型コラーゲンC-テロペプチド (ICTP)	*5	ホルモンと臨床 42 (12)	1994	1189-1193	清原 剛、他
HER2蛋白定量 (血清)	*1	Int. J. of Biol. Markers 19	2004	1	Luftner D, et al.
NCC-ST-439	*5	臨床病理 35	1987	1233-1238	吉岡 久、他
PSA (前立腺特異抗原)	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	665-667	栗山 学
		医学と薬学 40 (5)	1998	925-929	栗山 学、他
PIVKA-II	*0	臨床と研究 73	1996	224-232	高津 和子、他
Pro-GRP	*5	医学と薬学 62	2009	759-766	吉村 徹、他
PSA-ACT	*5	医学と薬学 36	1996	477-483	秩父 賢司、他
PSAフリー/トータル比	*5	Prog.Med. 21	2001	2279-2283	武田 悟、他
SPan-1	*5	核医学 27	1990	405-413	福田 容子、他
γ-セミノプロテイン (γ-Sm)	*5	医学と薬学 40	1998	345-350	西松 寛明、他
薬物検査					
アセトアミノフェン	*2	日本臨床検査自動化学会誌 33 (5)	2008	860-864	木村 英樹、他
アプリンジン	*2	病院薬学 14 (4)	1988	256-261	高田 充隆、他
アミオダロン	*2	Journal of Chromatography 417	1987	465-470	Ress K, et al.
アミカシン	*2	日本臨床検査自動化学会誌 33 (5)	2008	860-864	木村 英樹、他
アルベカシン	*2	The Japanese Journal of Antibiotics 44-7	1991	705-717	新島 端夫
エトスクスミド	*2	臨床化学 6 (3)	1978	202-211	宮本 侃治
覚せい剤検査	*1	J. Anal. Toxicol. 12	1988	207	Asselin W. M., et al.
カルバマゼピン	*0	Med. Technol. 37	2009	1005-1008	末森 一恵
キニジン	*2	日本臨床検査自動化学会誌 33 (5)	2008	860-864	木村 英樹、他
クロナゼパム	*2	Journal of Chromatography 336	1984	229-233	Heazlewood R.L. et al.
クロバザム	*2	Journal of Chromatography B750	2001	41-49	Kunicki PK
クロルプロマジン	*2	J.Chromatogr., 277	1982	103-112	K.Murakami
ゲンタマイシン	*2	医学と薬学 42 (6)	1999	1061-1074	石橋 みどり、他
シベンゾリン	*2	薬物動態 3 (6)	1998	761-771	寺川 雅人、他
サリチル酸	*2	日本臨床検査自動化学会誌 33 (5)	2008	860-864	木村 英樹、他
シクロスポリン	*2	Clin.Chem.35 (1)	1989	120-124	Wolf BA et al.
ジアゼパム	*2	Journal of Chromatography 150	1978	361-366	Brocchi RR et al.
ジゴキシシン	*0	臨床検査機器・試薬 23	2000	273-279	山田 満廣、他
ジソピラミド	*2	臨床検査機器・試薬 6 (2)	1983	520-523	扇谷 茂樹、他
ゾニサミド (エクセグラン)	*2	薬理と治療 16 (12)	1988	4805-4811	野口 秀人、他
タクロリムス	*2	Transplantation Proceedings 23 (6)	1991	2725-2729	Kobayashi M., et al.
リチウム	*2	Clin.Chem.23 (1)	1977	41-45	Hisayasu GH et al.
テイコブラニン	*2	JJCLA 38 (1)	2013	79-82	師岡 美里、他
テオフィリン	*0	Med. Technol. 37	2009	1005-1008	末森 一恵
トブラマイシン	*2	日本臨床検査自動化学会誌 33 (5)	2008	860-864	木村 英樹、他
ニトラゼパム	*2	Journal of Chromatography 336	1984	229-233	Heazlewood R.L. et al.
農業スクリーニング	*1	第24回日本環境化学会講演会資料集	1998	30-45	福島 実
ハロペリドール	*0	日本臨床検査自動化学会誌 29	2004	360-360	上野 哲、他
バルプロ酸ナトリウム	*0	Med. Technol. 37	2009	1005-1008	末森 一恵
バンコマイシン	*2	日本臨床検査自動化学会誌 33 (5)	2008	860-864	木村 英樹、他
白金	*2	Clinica Chemica Acta, 113	1987	329	Tohanna
ビルメノール	*2	臨床医薬 11 (4)	1995	903-906	市川 林、他
フェニトイン	*0	Med. Technol. 37	2009	1005-1008	末森 一恵
フェノバルビタール	*0	Med. Technol. 37	2009	1005-1008	末森 一恵
フレカイニド	*2	Pharm.Res.Comm.18 (8)	1986	739-745	Piovan, D., at al.
プロムペリドール	*0	日本臨床検査自動化学会誌 29	2004	360-360	上野 哲、他
ブリミドン	*2	臨床化学 6 (3)	1978	202-211	宮本 侃治
プロカインアミド	*2	日本臨床検査自動化学会誌 33 (5)	2008	860-864	木村 英樹、他
プロパフェノン	*2	European Heart Journal 12	1991	526-532	Steurer G et al.
ヘパリン	*2	Thrombosis Reseach 8(3)	1976	413-416	teien A et al
メキシレチン	*2	TDM研究 3 (2)	1986	126-128	坂本 伸哉、他
メトトレキサート (メソトレキサート)	*2	医学と薬学 72 (4)	2015	761-767	中原 佑香里、他
乱用薬物スクリーニング	*1	J.Forensic Sci.Soc. 21	1981	327	Fletcher S.M.
リドカイン	*2	臨床化学 6 (3)	1978	202-211	宮本 侃治
ウイルス学検査					
アデノウイルス抗原定性	*1	Am.J.Clin.Pathol.88	1987	358	Espy.M.J.et al.
ウイルス抗体の検出 (CF)	*2	臨床検査 マニュアル (文光堂)	1988	880-886	北村 元任、他
ウイルス抗体の検出 (FA)	*2	臨床病理 特 (35)	1978	179-189	日沼 頼夫、他
		感染症学雑誌 61 (2)	1990	195-201	新村 真人、他
		ウイルス実験学各論	1967	243-244	中村 敬三
ウイルス抗体の検出 (HI)	*2	ウイルス実験学 総論2版	1973	214-225	国立予防衛生研究所学友会 (編)
ウイルス抗体の検出 (NT)	*2	ウイルス実験学 総論2版	1973	260-274	国立予防衛生研究所学友会 (編)
サイトメガロウイルス抗原	*2	臨床とウイルス 17 (1)	1989	89-96	紺野 謙治、他
水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原	*1	臨床とウイルス 17 (1)	1989	89-96	紺野 謙治、他
		J.Med.Virol.28	1989	1	Schirm, J.
単純ヘルペスウイルス特異抗原	*1	J.Clin.Microbiol.26	1988	22	Espy, M. J. et al.
ノロウイルス-RNA マルチ	*5	臨床と微生物, 36	2009	251-256	田所 健一、他

検査項目名	委託先終	参考文献名	発行年	頁	著者
ロタウイルス抗原	*5	小児科臨床 41	1988	397-400	篠崎 立彦, 他
EBV-DNA定量	*1	実験医学 15 (7S)	1997	728-733	Stevens J.
IgM・HA抗体	*5	医学と薬学 58	2007	151-161	矢野 公士, 他
IgG・HA抗体	*5	医学と薬学 58	2007	151-161	矢野 公士, 他
HBVプレコア変異及びコアプロモーター変異	*1	肝胆膵 41	2000	59	松山 和弘, 他
HBV-DNA定量/リアルタイムPCR	*5	医学と薬学 73	2016	1329-1339	菅原 昌章, 他
IgM・HBc抗体	*5	医学と薬学 52	2004	847-858	中尾 瑞美子, 他
HBs抗原	*5	医学と薬学 52	2004	621-628	宮川 正明, 他
HBs抗体	*5	医学と薬学 52	2004	621-628	宮川 正明, 他
HBc抗体 (PHA)	*5	検査と技術, 16	1988	1442-1446	大森 友幸, 他
HBc抗体 (CLIA)	*5	Prog.Med., 22	2002	1037-1046	飯田 健一, 他
HBs抗体	*0	機器・試薬 17	1994	1161-1166	山口 芳子, 他
HBs抗原	*0	機器・試薬 17	1994	1161-1166	山口 芳子, 他
HBVゲノタイプ (EIA)	*2	臨床病理 57 (1)	2009	42-47	田中 靖人, 他
HCVコア蛋白-HS	*5	消化器科 45	2007	454-466	熊田 博光, 他
HCV抗体	*0	日本臨床68 増刊号1	2010	446-449	石川 和克, 他
HCV-RNA定量/リアルタイムPCR	*5	医学と薬学 73	2016	1329-1339	菅原 昌章, 他
HCVサブタイプ解析 (HCV-RNAジェノタイプ)	*2	Journal of Clinical Microbiology 35 (1)	1997	201-207	Ohno T. et al.
HCV群別 (HCVセロタイプ)	*5	医学と薬学 70	2013	633-641	長谷川 瞳, 他
HIV-抗原・抗体	*1	Prog. Med. 27	2007	425	武田 悟, 他
HIV-1抗体 (確認試験)	*1	New Engl.J.Med.312	1985	265	Garp, R.et al.
HTLV-1抗体 (確認試験)	*1	機器・試薬 16	1993	579	宮腰 秀夫, 他
HTLV-1抗体 (スクリーニング)	*0	医学と薬学 31	1994	367	堀江 昭伸, 他
免疫血清学検査					
アスペルギルス抗原	*1	医学と薬学 42	1999	207	見手倉 久治, 他
アスペルギルス抗体	*1	Dis.Chest 53	1968	729	Walter, J.S.et al.
アニサキス抗体 (IgA, IgG)	*1	臨床検査機器・試薬 15 (1)	1992	68-72	安土 孝則, 他
	*1	Med.Technol.10	1980	807	宮田 義人
エンドトキシン定量 (ES法)	*1	検査と技術 30	2003	739	石原 美弥子, 他
オーム病抗体	*2	臨床検査マニュアル (文光堂)	1988	880-886	北村 元仕, 他
カンジダ抗原	*1	機器・試薬 10	1987	1183	小笠原 仁, 他
間接クームス試験	*0	輸血検査マニュアル			河瀬 正晴
寒冷凝集反応	*0	臨床検査法提要 34版	2015	920-921	金井 正光
クラミジア・トラコーマチス/リアルタイムPCR	*1	医学と薬学 66 (6)	2011	1007	熊本 悦明, 他
クラミジア・トラコーマチスIgA&IgG	*1	医学と薬学 37	1997	711	梶原 祥子, 他
クラミジアニューモニエ抗体IgA	*5	医学と薬学 45	2001	923-928	鎌田 貢壽, 他
クラミジアニューモニエ抗体IgG	*5	医学と薬学 45	2001	923-928	鎌田 貢壽, 他
クリオグロブリン	*1	Clin.Chem 47	1998	1558	Okazaki, T.et al.
クリプトコッカスネオフォルマン抗原	*1	真菌と真菌症 30 (3)	1989	211-221	篠田 孝子, 他
血小板表面IgG (PA-IgG)	*1	臨床病理 32	1988	641	倉田 義之, 他
血清アミロイド蛋白 (SAAP)	*2	生物物理化学 37 (1)	1993	19-23	永徳 広美, 他
血清補体価 (CH ₅₀)	*0	医療検査機器と試薬 25 (1)	2002	417-429	山田 満廣, 他
抗DNA抗体 (RIA)	*3	臨床免疫 25 (8)	1993	1096-1102	鈴木王洋, 他
抗J _o -1抗体	*2	臨床検査機器・試薬 13 (4)	1990	835-838	西海 正彦
抗J _o -1抗体 (定量)	*2	医学と薬学 39 (1)	1998	163-174	廣澤 実一, 他
抗RNP抗体	*2	臨床検査法提要 第30版 (金原出版)	1993	973-975	金井 正光, 他
抗RNP抗体 (定量)	*2	検査と薬学 37 (2)	1997	509-520	秋月 正史, 他
抗SS-A抗体	*2	臨床検査法提要 第30版 (金原出版)	1993	973-975	金井 正光, 他
抗SS-A抗体 (定量)	*2	検査と薬学 37 (2)	1997	509-520	秋月 正史, 他
抗SS-B抗体	*2	臨床検査法提要 第30版 (金原出版)	1993	973-975	金井 正光, 他
抗SS-B抗体 (定量)	*2	検査と薬学 37 (2)	1997	509-520	秋月 正史, 他
抗Scl-70抗体 (定量)	*2	医学と薬学 39 (1)	1998	163-174	廣澤 実一, 他
抗Scl-70抗体	*2	臨床検査法提要 第30版 (金原出版)	1993	973-975	金井 正光, 他
抗Sm抗体	*2	医学と薬学 37 (2)	1997	509-520	秋月 正史, 他
抗dsDNA抗体IgG	*2	日本臨床検査自動化学会誌 26 (6)	2001	747-753	陣内 記代, 他
抗dsDNA抗体IgM	*2	医学と薬学 58 (5)	2007	763-767	山下 雅樹, 他
抗ssDNA抗体IgG	*2	日本臨床検査自動化学会誌 26 (6)	2001	747-753	陣内 記代, 他
抗アセチルコリンレセプター結合抗体	*2	ホルモンと臨床 48 (1)	2000	89-93	太田 光照, 他
抗胃壁細胞抗体 (抗パリエタル細胞抗体)	*1	J.Clin.Invest.44	1965	2021	Jeffries, G.H. et al.
抗横紋筋抗体	*1	Mayo.Clin.Proc.63	1988	474	Cikes N.et al.
抗核抗体 (ANA)	*2	臨床検査 30 (7)	1986	687-692	東條 毅
抗下垂体抗体-1	*5	ホルモンと臨床 37	1989	387-394	小林 功, 他
抗ガラクトース欠損IgG (CARF)	*5	医学と薬学 42 (5)	1999	817-828	平山 吉郎, 他
抗カルジオリピン、β ₂ GPI複合体抗体	*1	医学と薬学 26	1991	535	小池 隆夫, 他
抗カルジオリピン抗体 (IgG)	*1	医学と薬学 36	1996	1389	岡田 純, 他
抗カルジオリピン抗体 (IgM)	*1	医学と薬学 43 (6)	2000	1183-1188	錦木 淳一, 他
抗好中球細胞質抗体	*1	医学と薬学 66 (5)	2011	823	松下 雅和, 他
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体	*1	医学と薬学 66 (5)	2011	823	松下 雅和, 他
抗肝細胞膜抗体	*1	臨床病理 34 (3)	1986	319	
抗血小板抗体	*1	Med.Technol.11	1983	724	坂本 久浩
交差適合試験 (クロスマッチ)	*0	輸血検査マニュアル			河瀬 正晴
抗糸球体基底膜抗体	*1	医学と薬学 68 (4)	2012	697	白井 文一, 他
抗心筋抗体	*1	Clin.Chem.21	1975	1903	Twomey S.L.and Bernett G.E.
抗精子抗体	*1	ホルモンと臨床, 24 (7)	1976	617-623	香山 浩二, 他
抗デスメグレイン1抗体	*1	医学と薬学 49 (1)	2003	108-116	黒田 慶子, 他
抗デスメグレイン3抗体	*1	医学と薬学 49 (1)	2003	108-116	黒田 慶子, 他
抗皮膚抗体	*5	Immunopathology, Little Brown and Co., Ltd			Nakamura, R.M.
抗副腎皮質抗体	*1	Clin. Endocrinol. 16	1982	345	Scherbaum W.A., et al.

検査項目名	委託先 最終	参考文献名	発行年	頁	著者
抗平滑筋抗体	*1	日本臨床 42 (春季臨増)	1984	1430	長島 秀夫, 他
抗セントロメア抗体	*2	医薬と薬学 45	2001	129-135	宮脇 昌二, 他
抗ミトコンドリアM2抗体	*1	医学と薬学 67 (3)	2012	485	丹野 瑞木, 他
抗ミトコンドリア抗体	*1	日本臨床 42 (春季臨増)	1984	1416	長島 秀夫, 小出 典男
サイロイドテスト	*1	臨床免疫 12	1980	743	桜美 武彦, 他
高感度心筋トロポニンT	*0	医学と薬学 62	2009	331-340	戸田 圭三, 他
心室筋ミオシン軽鎖 I	*5	医学と薬学 52	2004	443-449	宮崎 修一, 他
セルロプラスミン (Cp)	*1	日本臨床 42 (春季臨増)	1984	1209	飯村 康夫, 他
直接クームス	*0	輸血検査マニュアル 臨床検査法提要 34版	2015	337	河瀬 正晴 金井 正光
ツツガム抗体 グロブリン別	*1	臨床とウイルス 12	1984	270	山本 正悟
定量クームス試験	*1	検査と技術 24	1996	1097	松田 仁志, 他
トキソプラズマ抗体 IgG、IgM	*5	臨床病理 42 (7)	1994	743-747	亀井喜世子, 他
トランスフェリン (血清)	*3	臨床病理 44 (5)	1996	429-434	河内 忠, 他
トランスフェリン (尿)	*1	医学と薬学 28	1992	1055	遠藤 隆, 他
特異的 IgE (アトピー鑑別試験)	*1	医学と薬学 23	1990	83	我妻 義則, 他
特異的 IgE	*1	医学検査 40 (9)	1991	1585-1590	松村 典子, 他
尿素呼吸試験	*5	Helicobacter 3	1998	46	Ohars, S. Et al.
尿中アルブミン	*0	科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン	2004	67-80	日本糖尿病学会
ハプトグロビン	*1	臨床病理 (特集第10号)	1996	207	河合 忠, 他
肺サーファクタントプロテインD (SP-D)	*5	医学と薬学 71	2014	2303-2308	村田 誠, 他
非特異的 IgE	*1	アレルギーの領域 2 (7)	1995	920-925	島津 伸一郎
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	*2	機器・試薬 33 (5)	2010	629-632	藤田 孝, 他
百日咳菌核酸検出	*5	J. Clin. microbiol 44	2006	1899-1902	Kamachi, K. et al.
百日咳菌抗体 (EIA)	*5	医学と薬学 65	2011	531-536	岡田 賢司
ブレアルブミン	*1	臨床病理 44 (5)	1996	429	河合 忠, 他
プロカルシトニン (PCT)	*2	医学と薬学 73 (4)	2016	459-467	小林 一三, 他
不規則性抗体	*0	Med.Technol.11	1983	657	南雲 文夫
便中ヘリコバクター・ピロリー抗原	*1	感染症誌 76	2002	378	神谷 茂, 他
マイクログロブリンテスト	*1	臨床免疫 12	1980	743	桜美 武彦, 他
マイコプラズマ (PA)	*0	Medical Technology Vol.21 No.2 医歯薬出版 日本臨床68 増刊号1	1993 2010	234-236	石田 一雄 森永 芳智, 他
マイコプラズマ抗体 (CF)	*1	臨床検査 19	1975	1240	富山 哲雄
マイコプラズマニューモニエDNA 同定	*2	感染症学雑誌 82 (3)	2008	168-176	吉野 学, 他
ミエリン塩基性蛋白	*2	Clinical Chemistry 46 (9)	2000	1326-1330	Ohta M et al
ミオグロビン	*1	臨床検査機器・試薬 23	2000	35	太田 直孝, 他
免疫電気泳動	*2	日常検査法シリーズ11、免疫電気泳動法、2版	1977	8-26	大谷 英樹
免疫グロブリン遊離 L 鎖 κ/λ 比	*2	医学と薬学 64 (1)	2010	111-117	伊藤 早織, 他
淋菌/リアルタイムPCR	*1	医学と薬学 66 (6)	2011	1007	熊本 悦明, 他
ABO式血液型	*0	Medical Technology Vol.22 No.7 医歯薬出版株式会社 Blood Group Immunology DADE Technical Manual 第8版 aaBB			
APRスコア	*5	小児科臨床 37	1977	757-764	後藤 玄夫
ASK	*5	臨床検査機器・試薬 7 日本臨床 (下) 日本臨床社	1984 1985	417-422	土屋 彦治, 他 大國 真彦
ASO	*0	日本臨床68 増刊号1 日本臨床 39 (6)	2010 1995	135-137 685-688	山中 哲夫 伊藤 忠一
BMG (β_2 マイクログロブリン)	*0	日本臨床 57 (増刊号)	1999	236-238	伊藤 喜久
C1インアクチベーター活性	*1	Immuno. Infekt. 13	1985	113-118	Dick W., et al.
C1q	*1	日本臨床 42 (春季臨増)	1984	1209	飯村 康夫, 他
C3 (β_1C/β_1A グロブリン)	*0	臨床病理 44 (5)	1996	429-434	河合 忠, 他
C4 (β_1E グロブリン)	*0	臨床病理 44 (5)	1996	429-434	河合 忠, 他
CRP	*0	日本臨床検査自動化学会誌66 日本臨床67 増刊号8	1990 2009	459 237-242	
フェリチン (FER)	*1	Clinical Chemistry 37	1991	1693	Isao Nishizono, et al.
FTA-ABS (血清)	*1	臨床検査法提要 (改訂第31版) 金原出版, 東京	1998	896	金井 正光 (編著)
IgD	*1	機器・試薬 14	1991	509	小野 由香里, 他
IgG、IgA、IgM	*0	臨床病理 44 (5)	1996	429-434	河内 忠, 他
IgG4	*5	日本臨床免疫学会誌 21	1998	145-149	崎山 幸雄, 他
IgG型リウマチ因子 (IgG-RF)	*1	リウマチ科 4 (1)	1990	112-124	藤松 順一, 他
MMP-3	*0	新薬と臨床 50 (1)	2001	215-221	横内 敬二, 他
RF	*0	日本臨床68 増刊号1 medicina Vol.32 No.13 医学書院	2010 1995	485-487	窪田 哲朗 岩本 幸子
Rh (D) 因子	*0	Medical Technology Vol.22 No.7 医歯薬出版株式会社 Blood Group Immunology DADE Technical Manual 第8版 aaBB			
Rh-Hr式血液型	*1	Med.Technol.11	1983	631	山崎 順啓
RPR (梅毒)	*0	日本性感染症学雑誌 13	2002	124-130	大里 和久
TPHA	*5	微生物検査必携 (第2版) 免疫血清検査	1978	162-164	厚生省監修
TPLA (梅毒)	*0	日本性感染症学雑誌 13	2002	124-130	大里 和久
α_1 -アシドグロブリン (α_1 -AG)	*1	医学と薬学 29	1993	1239	山下 順香, 他
α_1 アンチトリプシン (α_1 AT)	*1	医学と薬学 29	1993	1239	山下 順香, 他
α_1 マイクログロブリン	*3	medicina 36 (11)	1999	196-197	伊藤 喜久, 他
α_2 マクログロブリン	*1	日本臨床 42 (春季臨増)	1984	1209	飯村 康夫, 他
(1 \rightarrow 3)- β -D-グルカン	*1	医学と薬学 67	2012	895	吉田 耕一郎, 他
IV型コラーゲン	*1	日本臨床検査自動化学会誌 28	2003	513	重村 雅彦, 他

検査項目名	委託先終	参考文献名	発行年	頁	著者
細胞性免疫検査					
可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	*1	臨床病理 60 (5)	2012	422	渡邊 奈緒美, 他
好中球殺菌能	*1	臨床病理 33	1985	371	関 秀俊, 他
好中球貪食能	*1	Immunohaematology 7	1985	486	関 秀俊, 多賀 千之
白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)	*2	American Journal of Clinical Pathology 100	1993	534-540	Borowitz M.J. et al.
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	*2	Clin.Chem.28 (9)	1982	1905-1909	Ip SH, et al.
薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST)	*2	臨床免疫 15 (9)	1983	727-736	北見 啓之, 他
B細胞 表面免疫グロブリン	*2	Clin.Chem.28 (9)	1982	1905-1909	Stephen Hip, et al.
IgG-FcR+・T細胞百分率	*2	The Journal of Immunology 130 (5)	1983	2133-2141	Perussi a B., et al.
LAK活性 (非誘導) (誘導)	*2	日臨免疫誌 8	1985	1-14	漆崎 一郎, 他
NK細胞活性	*2	Medical Technology 21 (7)	1993	574-580	康 浩一, 他
PHA、Con-Aによるリンパ球幼若化検査	*2	臨床検査 23	1979	660-667	笠原 忠, 他
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	*2	臨床免疫 17 (10)	1985	914-925	高瀬 浩造
染色体検査・遺伝子関連検査					
T細胞百分率・B細胞百分率	*2	Immunology 44	1981	865-871	Wauwe JV, et al.
アルデヒドデヒドロゲナーゼ2 (ALDH2)	*2	蛋白質核酸酵素 44 (9)	1999	1431-1438	金城 正孝
血液疾患染色体G-Banding	*2	Lancet 2	1971	971-972	Seabright M
血液疾患染色体Q-Banding	*2	Hereditas 67	1971	89-102	Caspersson T, et al.
ジストロフィンDNA欠失	*2	Clin. Biochemistry 39 (4)	2006	367-372	Lai KKS et al.
先天異常染色体C-Banding	*2	Exp Cell Res 75	1972	304-306	Summer AT et al.
先天異常染色体G-Banding	*2	Lancet 2	1971	971-972	Seabright M
先天異常染色体Q-Banding	*2	Hereditas 67	1971	89-102	Caspersson T, et al.
先天異常染色体R-Banding	*2	C R Acad Sc Paris 276	1973	3179-3181	Dutrillaux B, et al.
先天異常染色体高精度分染法	*2	Proc Jpn Acad 55 (1)	1979	15-18	Ikeuchi T, et al.
脆弱X染色体	*2	Science 197	1977	265-266	Sutherland GR
ミトコンドリアDNA11778塩基点突然変異 (レーベル病)	*2	蛋白質核酸酵素 44 (9)	1999	1431-1438	金城 政孝
免疫グロブリンH鎖C _H 再構成	*2	日本臨床 47 (増刊号)	1989	113-123	村上 龍文, 他
免疫グロブリンH鎖J _H 再構成	*2	日本臨床 47 (増刊号)	1989	113-123	村上 龍文, 他
免疫グロブリンL鎖C _L 再構成	*2	日本臨床 47 (増刊号)	1989	113-123	村上 龍文, 他
免疫グロブリンL鎖C _L 再構成	*2	日本臨床 47 (増刊号)	1989	113-123	村上 龍文, 他
免疫グロブリンL鎖J _L 再構成	*2	日本臨床 47 (増刊号)	1989	485-491	岡部 寛裕, 他
リンパ球混合培養 (MLC)	*2	移植 14	1979	93-113	笹月 健彦, 他
bcr-ablキメラmRNA, minor-bcr bcr-ablキメラmRNA	*2	Proc Natl Acad Sci USA 85 (15)	1988	5698-5702	kawasaki ES, et al.
bcr-abl t(9;22)転座	*2	臨床FISHプロトコール 阿部達生監修 (秀潤社)	1997	90-95	稲澤 譲治
bcr-abl t(9;22)転座 (末梢血好中球)	*2	臨床FISHプロトコール 阿部達生監修 (秀潤社)	1997	90-95	稲澤 譲治
ckit遺伝子変異解析 (GIST)	*2	Journal of Translation al Medicine 9	2011	75	Alessandra Maleddu, et al.
HLA-A, B, HLA-DR (血清タイピング)	*2	MHC 10 (1)	2003	21-31	吉川 枝里, 他
N-myc増幅	*2	臨床FISHプロトコール 阿部達生監修 (秀潤社)	1997	90-95	稲澤 譲治
RAS遺伝子変異解析	*2	大量がん患者におけるRAS遺伝子 (KRAS/NRAS遺伝子) 変異の測定に関するガイドライン第2版	2014		日本臨床腫瘍学会
T細胞レセプターβ鎖Cβ1再構成	*2	日本臨床 47 (増)	1989	113-123	村上 龍文, 他
T細胞レセプターβ鎖Jβ1再構成, T細胞レセプターβ鎖Jβ2再構成	*2	日本臨床 47 (増)	1989	113-123	村上 龍文, 他
T細胞レセプターγ鎖Jγ再構成	*2	日本臨床 47 (増)	1989	113-123	村上 龍文, 他
T細胞レセプターδ鎖Jδ1再構成	*2	日本臨床 47 (増)	1989	113-123	村上 龍文, 他
13染色体・18染色体・21染色体・X染色体・Y染色体	*2	臨床FISHプロトコール 阿部達生監修 (秀潤社)	1997	90-95	稲澤 譲治
15染色体 (ブタゲイリ症候群), 15染色体 (アソシエート症候群), 17染色体 (ミトラーカ症候群)	*2	臨床FISHプロトコール 阿部達生監修 (秀潤社)	1997	90-95	稲澤 譲治
8, 12, X, Y染色体 (血液疾患)	*2	臨床FISHプロトコール 阿部達生監修 (秀潤社)	1997	90-95	稲澤 譲治
7染色体 (ウイリアムス症候群)	*2	臨床FISHプロトコール 阿部達生監修 (秀潤社)	1997	90-95	稲澤 譲治

検査項目名	委託先終	参考文献名	発行年	頁	著者
血液学検査					
アンチトロンピン (AT) 《活性》	*0	機器・試薬 8	1985	949	山口 正人, 他
アンチトロンピン (AT) 《定量》	*0	検査と技術 16	1988	593	伊藤 忠一
アンチプラスミン (α ₂ PI) 《活性》	*1	機器・試薬 8	1985	811	坂東 史郎, 他
網状赤血球数 (Ret)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	248-249	金井 正光
活性化部分トロンボプラスチン (APTT)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	392-395	金井 正光
凝固抑制因子検査 (第Ⅷ因子)	*1	日本臨床 57 (増刊)	1999	604	高松 純樹
凝固抑制因子検査 (第Ⅸ因子)	*1	日本臨床 57 (増刊)	1999	611	日笠 聡
血小板数 (PLT)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	266-268	金井 正光
血小板第4因子 (PF-4)	*1	血管と脈管 18	1987	326	高橋 芳右, 他
血液・骨髓染色	*2	臨床検査技術全書 3血液検査 (三輪史朗編), 1版, 医学書院	1972	134-136	古平 新平
血色素量 (Hb)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	246	金井 正光
血沈 (赤血球沈降速度)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	349-351	金井 正光
好塩基斑点赤血球	*0	血液細胞アトラス第3版 文光堂	1988	29-30	
好酸球数	*0	臨床検査法提要 34版	2015	270	金井 正光
骨髓像	*2	日本人の正常血液像 南山堂	1962		
赤血球数 (RBC)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	230-231	金井 正光
赤血球抵抗試験	*0	臨床検査法提要 34版	2015	338-340	金井 正光
赤血球像	*0	血液細胞アトラス第3版 文光堂	1988		
		スカッタグラムとその臨床 ～末梢血液像・骨髓像の対比による～血液形態観察のすすめ方			
第Ⅱ因子活性	*1	Med.Technol.24	1996	629	安達 眞二, 他
第Ⅴ因子活性	*1	Med.Technol.24	1996	629	安達 眞二, 他
第Ⅶ因子活性	*1	Med.Technol.24	1996	629	安達 眞二, 他
第Ⅷ因子活性	*1	Med.Technol.24	1996	629	安達 眞二, 他
第Ⅸ因子様抗原 (フォン・ウィルブラント因子定量)	*1	Proceeding of X VI th Congress of the ISTH	1997	513	Peltier J.Y.et al.
第Ⅹ因子活性	*1	Medical Technology 24	1996	629	安達 眞二, 他
第Ⅺ因子活性	*1	Medical Technology 24	1996	629	安達 眞二, 他
第Ⅻ因子活性	*1	Medical Technology 24	1996	629	安達 眞二, 他
第Ⅻ因子定量	*1	Thromb.Haemost.65	1991	535	Filkenscher.K.et al.
トロンボテスト (TT)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	398	金井 正光
トロンボモジュリン (TM)	*1	臨床病理 39	1991	967	天野 景裕, 他
白血球数 (WBC)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	236-242	金井 正光
白血球像	*0	血液細胞アトラス第3版 文光堂	1988		
		スカッタグラムとその臨床 ～末梢血液像・骨髓像の対比による～血液形態観察のすすめ方			
鼻汁好酸球	*5	臨床検査 29	1985	267	
フィブリノーゲン (FIB)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	402-403	金井 正光
フィブリンモノマー複合体定量	*1	日本臨床 49	2001	813	和田 英夫, 他
フォン・ウィルブラント因子活性	*1	臨床検査機器・試薬 6	1983	321	杉原 卓朗
プラスミノゲン (PLG) 《活性》	*1	臨床検査機器・試薬 8	1985	811	坂東 史郎, 他
プレカリクレイン	*1	臨床検査 27	1983	854	加藤 正俊
プロテインC 《定量》	*2	検査と技術 12 (7)	1984	581-587	筒井 聡明, 他
プロテインC 《活性》	*1	臨床検査機器・試薬 15	1992	159	有村 国明, 木村 典子
プロテインS 《定量》	*2	臨床検査機器・試薬 13 (4)	1990	579-583	鬼沢 実
プロテインS 《活性》	*2	臨床検査機器・試薬 15 (2)	1992	166-171	鬼沢 実
プロテインS 《遊離型》	*2	医学と薬学 51 (1)	2004	167-172	坂田 敏幸, 他
プロトロンビン時間 (PT)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	395-398	金井 正光
プロトロンビンフラグメントF1+2 (F1+2)	*1	Journal of Thrombosis and Aemostasis 3 (Suppl)	2005	99	Eidam A, et al.
ヘマトクリット値 (Ht)	*0	臨床検査法提要 34版	2015	232	金井 正光
マラリア原虫	*1	臨床検査法提要 (第29版) 金原出版	1983	313	金井 正光 (編者)
ループスアンチコアグラント (LA)	*1	臨床病理 43	1995	263	佐藤 久美子, 他
D-ダイマー	*0	臨床検査法提要 34版	2015	432-435	金井 正光
FDP	*0	臨床検査法提要 34版	2015	432-435	金井 正光
FDP 《尿》	*1	臨床検査機器・試薬 14	1991	267	堀内 伸純, 他
MCV, MCH, MCHC	*0	臨床検査法提要 34版	2015	233	金井 正光
PIC	*1	機器・試薬 16	1993	1107	徐 吉夫, 他
PIVKA-II 《LA》	*1	医療と検査機器・試薬 35 (1)	2012	87	草野 正芳, 他
TAT	*1	機器・試薬 33	2010	525	木村 真波, 他
β-トロンボグロブリン (β-TG)	*1	血管と脈管 18	1987	326	高橋 芳右, 他
微生物学検査					
一般細菌 塗抹鏡検	*5	Medical Technology 別冊 染色法のすべて 新臨床検査技術講座	1988	286	成瀬 順
		細菌・真菌検査 (厚生省監修第3版)	1987		日本公衆衛生協会
一般細菌 培養・同定	*5	細菌・真菌検査 (厚生省監修第3版)	1987		日本公衆衛生協会
一般細菌 嫌気性培養・同定	*5	細菌学技術新書 3 嫌気性菌の分離と同定法 細菌・真菌検査 (厚生省監修第3版)	1987		厚生省監修 日本公衆衛生協会
		Medical Technology 別冊 染色法のすべて	1988		
		Manual of Clinical Microbiology 4th. Edition	1985		E.H.Lenette
真菌 塗抹鏡検	*5	細菌・真菌検査 (厚生省監修第3版)	1987		日本公衆衛生協会
真菌 培養・同定	*5	細菌・真菌検査 (厚生省監修第3版)	1987		日本公衆衛生協会
真菌 感受性試験	*5	臨床病理 44	1996	67-75	山根 誠久, 他
淋菌	*5	微生物学検査必携「細菌・真菌検査」第3版 各論5	1968	855	厚生省監修

検査項目名	最終委託	参考文献名	発行年	頁	著者
一般臨床検査					
アメーバ検査	* 1	検査と技術 16	1988	1269	宮原 道明, 真子 俊博
髄液検査	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	214-223	金井 正光
精液検査	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	223-228	金井 正光
穿刺液検査	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	214-223	金井 正光
虫体鑑別	* 5	臨床検査法提要 (30版) 金原出版	1993	192-196	
便虫卵《塗抹法》《集卵法》	* 5	臨床検査法提要 (33版) 金原出版	2010	1046	金井 正光
		臨床検査アトラス4 寄生虫 医歯薬出版	1982		金子 清俊
尿一般検査	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	124-160	金井 正光
尿蛋白定量	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	135-136	金井 正光
尿沈渣	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	165-184	金井 正光
		尿沈渣検査法 2010	2011		日本臨床衛生検査技師会
		尿沈渣検査症例アトラス	2000		
		MEDICAL TECHNOLOGY Vol.16 No.7 医歯薬出版株式会社	1988		
尿糖定量	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	139-142	金井 正光
ベンス・ジョーンズ蛋白定性	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	138-139	金井 正光
便中ヘモグロビン	* 0	臨床検査法提要 34版	2015	193-195	金井 正光
病理学検査					
病理組織	* 6	病理と臨床 6 (臨時増刊号)「免疫組織と化学」	1988		渡辺 慶一 編
		免疫病理診断 -基礎と実際-	1987		水口 國雄 編
		病理技術マニュアル (下)	1981		日本病理学会 編
細胞診	* 6	Corlor Atlas of Cancer Cytology	1981		Masayosi Takahasi
		細胞診教本	1988		田中 昇, 他
		細胞診を学ぶ人のために	1990		矢谷 隆一, 他
その他検査					
骨塩量測定	* 1	映像情報 27	1995	606	萩野 浩, 山本 吉蔵
ホルター心電図	* 5	不整脈の診かたと治療	1993		五十嵐 正男